

文書・記録類

番号	名称	材質形状	員数	年代	作成者	宛所	法量	料紙	丁数	備考	管理番号
1	[春水日記断片](大坂日記)	状	2枚	六月廿八日 ～七月廿日, 十一月十八 日～十二月 九日	(頼春水)		16.8×23.4	罫紙 (楮紙)	2	6月は小月, 11月は太月, 7月9日条に「友益訃病」との記載あり, 罫紙柱 題「書画略譜」, 紙背墨書あり	III-89
2	春水日記(天明元～2年)	横帳	1冊	天明 建 元 辛 丑抄冬, 壬寅	頼春水		12.4×34.9	半紙	54	共紙表紙, 外題直書「日記」, 表紙墨書「天明建元辛丑抄冬」「壬寅」, 慳食形筆筒(26.0×30.8×26.1)にてII-58-1～48まで一括, 蓋(頼古 椽筆)「春水日記」, 表紙付紙(頼古椽筆)「天明元年(山陽二才) 同二 年(山陽三才) 春水日記一」, 同・朱文長方印「松廬」, 裏表紙(頼古椽 筆)「春水翁日記 三十五冊 天明元年ヨリ文化十二年マデ」, 天部に付 箋複数	II-58-1
3	春水日記(天明3年)	横帳	1冊	天明 三年 癸 卯	頼春水		12.4×35.0	半紙	41	共紙表紙, 外題直書「日記」, 表紙墨書「天明三年癸卯」, 表紙付紙(頼 古椽筆)「天明三年(山陽四才) 春水日記二」, 同・朱文長方印「松 廬」, 天部に付箋複数	II-58-2
4	春水日記(天明4年)	横帳	1冊	天明 四年 甲 辰	頼春水		12.6×35.0	半紙	39	共紙表紙, 外題直書「日記」, 表紙墨書「天明四年甲辰」, 表紙付紙(頼 古椽筆)「天明四年(山陽五才) 春水日記三」, 同・朱文長方印「松 廬」, 天部に付箋複数	II-58-3
5	春水日記(天明5年)	横帳	1冊	天明 五年 乙 巳	頼春水		12.3×35.4	半紙	41	共紙表紙, 外題直書「日記」, 表紙墨書「天明五年乙巳」, 表紙付紙(頼 古椽筆)「天明五年(山陽六才) 春水日記四」, 同・朱文長方印「松 廬」, 天部に付箋複数	II-58-4
6	春水日記(天明6年)	横帳	1冊	天明 六年 丙 午	頼春水		12.5×17.5	半紙	74	共紙表紙, 外題直書「日記」, 表紙墨書「天明六年丙午」, 表紙付紙(頼 古椽筆)「天明六年(山陽七才) 春水日記五」, 同・朱文長方印「松 廬」, 9月8日条付紙(14.2×3.8, 諸口紙)「若殿様諸御稽古事, 此節先 延引候段達し有之 九月八日 小出 木村 仙石」, 末尾に「屋形へ出 勤百四十九」との記載あり, 天部に付箋複数, 5月16日条付箋「御参府 後講易是為始」, 6月11日条付箋「論語ニナリタルコト是時ヲ始メスルカ 未詳」, 虫損大	II-58-5
7	春水日記(天明7年)	横半帳	1冊	天明 七年 丁 未	頼春水		12.5×17.3	半紙	79	共紙表紙, 外題直書「日記」, 表紙墨書「天明七年丁未」, 表紙付紙(頼 古椽筆)「天明七年(山陽八才) 春水日記六」, 同・朱文長方印「松 廬」, 正月5日条付紙(14.3×7.8, 諸口紙)「熨斗目ハ同列着仕来候 事故(中略) 此後心得可有之候事」, 天部に付箋複数, 虫損大	II-58-6
8	春水日記(天明8年)	横半帳	1冊	天明 八年 戊 申	頼春水		12.5×17.3	半紙	76	共紙表紙, 外題直書「日記」, 表紙墨書「天明八年戊申」, 表紙付紙(頼 古椽筆)「天明八年(山陽九才) 春水日記七」, 同・朱文長方印「松 廬」, 天部に付箋複数	II-58-7
9	春水日記(寛政元年)	横半帳	1冊	寛政改元(天 明九年)己酉	頼春水		12.4×17.3	半紙	62	共紙表紙, 外題直書「日記」, 表紙墨書「寛政改元(天明九年)己酉 江 戸」, 表紙付紙(頼古椽筆)「寛政元年(山陽十才) 春水日記八」, 同・ 朱文長方印「松廬」, 天部に付箋複数	II-58-8
10	春水日記(寛政2年)	横半帳	1冊	寛政 二年 庚 戌	頼春水		12.4×17.5	半紙	35	共紙表紙, 外題直書「日記」, 表紙墨書「寛政二年庚戌」, 表紙付紙(頼 古椽筆)「寛政二年(山陽十一才) 春水日記九」, 同・朱文長方印「松 廬」, 天部に付箋複数	II-58-9
11	春水日記(寛政3年)	横半帳	1冊	寛政 三年 辛 亥	頼春水		12.5×17.4	半紙	40	共紙表紙, 外題直書「日記」, 表紙墨書「寛政三年辛亥」, 表紙付紙(頼 古椽筆)「寛政三年(山陽十二才) 春水日記十」, 同・朱文長方印「松 廬」, 天部に付箋複数, 虫損大	II-58-10
12	春水日記(寛政4年)	横半帳	1冊	寛政 四年 壬 子	頼春水		12.7×17.5	半紙	26	共紙表紙, 外題直書「日記」, 表紙墨書「寛政四年壬子九月出府」, 天 部に付箋複数	II-58-11

文書・記録類

番号	名称	材質形状	員数	年代	作成者	宛所	法量	料紙	丁数	備考	管理番号
13	春水日記(寛政5年)	横半帳	1冊	寛政五年癸丑	頼春水		12.5×17.2	半紙	31	共紙表紙, 外題直書「日記」, 表紙墨書「寛政五年癸丑」, 天部に付箋複数	II-58-12
14	春水日記(寛政6年)	横半帳	1冊	寛政六年甲寅	頼春水		12.5×17.4	半紙	30	共紙表紙, 外題直書「日記」, 表紙墨書「寛政六年甲寅」, 天部に付箋複数, 虫損大	II-58-13
15	春水日記(寛政7年)	横半帳	1冊	寛政七年乙卯	頼春水		12.5×17.4	半紙	29	共紙表紙, 外題直書「日記」, 表紙墨書「寛政七年乙卯」, 天部に付箋複数, 虫損大	II-58-14
16	春水日記(寛政8年)	横半帳	1冊	寛政八年丙辰	頼春水		12.5×17.5	半紙	28	共紙表紙, 外題直書「日記」, 表紙墨書「寛政八年丙辰」, 朱文方印5顆, 天部に付箋複数	II-58-15
17	春水日記(寛政9年)	袋綴装 大和綴	1冊	寛政九年	頼春水		25.1×17.7	半紙	28	共紙表紙, 外題直書(異筆)「春水翁日記」, 表紙墨書「寛政九年」, 半丁ごとに墨で枠線(2行4列)を設け, その中に日記を記載, 本文1丁目袋内に未記入の日記用紙半丁を綴込	II-58-16
18	春水日記(寛政10年)	横帳・ 袋綴装 四ツ目綴	1冊	寛政十年戊午	頼春水		12.0×17.5	楮紙	36	萌葱表紙, 表紙墨書「寛政十年戊午」, 表紙見返「寛政十戊午」, 日記用箋版心「梅里庵蔵」, 天部に付箋複数	II-58-17
19	春水日記(寛政11年)	横帳・ 袋綴装 四ツ目綴	1冊	寛政十一年己未	頼春水		11.5×16.5	楮紙	36	萌葱表紙, 表紙墨書「寛政十一年己未」, 表紙見返「寛政十一年己未」, 日記用箋版心「梅里庵蔵」, 天部に付箋複数, 小札(5.6×3.7)表・ペン書「春水日記老冊(寛政十一年) 東京 頼成一出品」, 同裏・ペン書「4」, 同・朱文方印「松雨山房」	II-58-18
20	春水日記(寛政12年)	横半帳	1冊	寛政十二年庚申	頼春水		12.4×17.3	半紙	41	共紙表紙, 外題直書「日記」, 表紙墨書「寛政十二年庚申」, 天部に付箋複数	II-58-19
21	春水日記(享和元年)	横帳・ 袋綴装 四ツ目綴	1冊	寛政十三年即享和元年辛酉	頼春水		11.8×16.4	楮紙	35	黄蘗表紙, 表紙墨書「寛政十三年 即享和元年 辛酉」, 表紙見返「寛政十三年」「享和元年」「辛酉」, 日記用箋版心「梅里庵蔵」, 天部に付箋複数	II-58-20
22	春水日記(享和2年・上)	横半帳	1冊	享和二年壬戌	頼春水		12.4×17.3	半紙	26	共紙表紙, 外題直書「日記 上」, 表紙墨書「享和二年壬戌」「二冊之内」, (記載月日)元日～8月27日, 天部に付箋複数	II-58-21
23	春水日記(享和2年・下)	袋綴装 大和綴	1冊	享和二年壬戌	頼春水		21.2×13.5	楮紙	10	共紙表紙, 外題直書「日記 下」, 表紙墨書「享和二年壬戌八月廿七日御発駕御供及家来」「二冊之内」, 朱文方印3顆, (記載月日)8月27日～12月29日, 天部に付箋複数	II-58-22
24	春水日記(享和3年)	横半帳	1冊	享和三年癸亥	頼春水		12.4×17.4	半紙	30	共紙表紙, 外題直書「日記」, 表紙墨書「享和三年癸亥」, 12月25日条の料紙を切り取り貼紙に日記を記載, 末尾に享和4年元日～5日の日記あり(II-58-24と異同あり), 天部に付箋複数	II-58-23
25	春水日記(文化元年)	横半帳	1冊	享和四年甲子即文化元年	頼春水		12.5×17.4	半紙	30	共紙表紙, 外題直書「日記」, 表紙墨書「享和四年甲子 即文化元年」, 天部に付箋複数	II-58-24
26	春水日記(文化2年)	横半帳	1冊	文化二年乙丑	頼春水		12.4×17.4	半紙	30	共紙表紙, 外題直書「日記」, 表紙墨書「文化二年乙丑」, 天部に付箋複数, 虫損大	II-58-25
27	春水日記(文化3年)	横半帳	1冊	文化三年丙寅	頼春水		14.3×23.3	諸口紙, 三桎紙	25	共紙表紙, 外題直書「日記」, 表紙墨書「文化三年丙寅」, 折山が下になるように反故紙を折り, 折山の上に紙の地部を糊付けして表紙とする, 反故紙「愛親」「忠君」「為新」「書序」「弟長」, 天部に付箋複数	II-58-26
28	春水日記(文化4年)	横半帳	1冊	文化四年丁卯	頼春水		12.7×17.5	半紙	23	共紙表紙, 外題直書「日記」, 表紙墨書「文化四年丁卯」, 天部に付箋複数	II-58-27
29	春水日記(文化5年)	横半帳	1冊	文化五年戊辰	頼春水		12.7×17.5	半紙	25	共紙表紙, 外題直書「日記」, 表紙墨書「文化五年戊辰正月」, 10月11～13日条の一部朱書(『十一日』『十二日』『十三日 晴 輪講 諸大夫聴講』)	II-58-28

文書・記録類

番号	名称	材質形状	員数	年代	作成者	宛所	法量	料紙	丁数	備考	管理番号
30	春水日記(文化6年)	横半帳	1冊	文化六年己巳	頼春水		12.7×17.5	半紙	25	共紙表紙, 外題直書「日記」, 表紙墨書「文化六年己巳正月」	II-58-29
31	春水日記(文化7年)	横半帳	1冊	文化七年庚午	頼春水		12.5×17.4	半紙	28	共紙表紙, 外題直書「日記」, 表紙墨書「文化七年庚午正月」	II-58-30
32	春水日記(文化8年)	横半帳	1冊	文化八年辛未	頼春水		12.4×17.3	半紙	34	共紙表紙, 外題直書「日記」, 表紙墨書「文化八年辛未正月」, 朱文方印6顆, 書簡包紙の反故紙を使用, 6丁目反故紙「頼弥太郎様」「要用」, 9丁目「頼弥太郎様 道工助□(十郎カ)」「十七日竹原」, 10丁目「頼弥太郎様 田中藤三郎」, 13丁目「芸州広島 頼弥太郎様 土州箕浦右源次 箕浦」「乙三郎」「六月廿八日」「従高知」, 15丁目「頼権次郎様」, 16丁目「頼弥太郎様 侍史下」「月廿五日」・封緘印, 18丁目「頼弥太郎様」「蒲生□五郎」, 20丁目「太郎様」, 21丁目「浦右源次」, 23丁目「州広島」[], 24丁目「頼弥太郎様 田中藤三郎」, 26丁目「頼弥太郎様」, 27丁目「□左衛門」, 28丁目「頼弥太郎様 此書□」「自阿州徳島」「上□□出 広島」, 31丁目「頼弥太郎様 若槻」□・封緘印, 32丁目「頼弥太郎様 貴下」「讃岐自□」「謹□」・封緘印, 33丁目「□造」	II-58-31
33	春水日記(文化9年)	横半帳	1冊	文化九年壬申	頼春水		12.8×17.3	半紙	31	共紙表紙, 外題直書「日記」, 表紙墨書「文化九年壬申正月」, 朱文方印1顆, 書簡包紙の反故紙を使用, 16丁目反故紙「□右衛門」, 17丁目「頼先生様 尊下 岡□」, 18丁目「馬」, 19丁目「頼弥太郎様 梧下 釜屋」, 20丁目「頼弥太郎様 中□(川カ)」「要用□」, 21丁目「□(中カ)川八郎」□□□, 22丁目「頼弥太郎様 中川」, 23丁目「□郎」, 24~25丁に和歌墨書, 26丁目「広島御家中 頼弥太郎様 平山甚□(左カ)」「銀子入用□」「月七日認」・封緘印, 27丁目に墨書, 28丁目「広島御屋敷御用 田中藤三郎様 □□」「銀子入」□□□□□, 29丁目「□(山カ)甚左衛門」, 30丁目「芸州広島御家中 頼弥太郎様 平山□(甚カ)」, 31丁目「□(甚カ)左衛門」	II-58-32
34	春水日記(文化10年)	横半帳	1冊	文化十年癸酉	頼春水		12.6×17.5	半紙	30	共紙表紙, 外題直書「日記」, 表紙墨書「文化十年癸酉」, (27丁目ウ)貼紙にて記事修正, 書簡包紙の反故紙を使用, 2丁目反故紙「頼弥太郎様 玉梧下 丸川□」, 4丁目「広島国泰寺町 頼弥太郎様御内 御支配人中様 □(要カ)」「要用□」, 5丁目「藤七」, 6丁目「頼弥太郎様 田中」「要用銀子入」「自大坂御□」「封」・封緘印, 7丁目に墨書, 8丁目「芸州広島御家中 頼弥太郎様 平山甚左衛門」「銀子入」□月五日□「自京」・封緘印, 9丁目「芸州 頼弥太郎□(様カ) 但□(州カ)」□(但カ)州 □(様カ)溝井「要用」, 11丁目「呈 春水先生 足下 □□□」, 13丁目に墨書, 14丁目「広島 頼方四郎様 []」内用「三居」□□「謹封」, 15丁目「頼弥太郎様 侍□(史カ) 月」, 17丁目「芸州広島 頼弥太郎様 三井」平安」, 18丁目「□(大カ)坂順慶町」□□横丁」□「拝」, 19丁目「御礼 山□(城カ)」, 20丁目「□(山カ)城屋 利兵衛」, 21丁目「□衛門」, 22丁目「大坂ニ而 頼弥太郎様 撰州 安達」用書」, 23丁目「広島 春水頼尊翁先生大人 □人々□ [] 従豊後 高□」馬場四郎」, 25丁目「広島 春水頼尊翁先生」馬場四郎」, 27丁目「頼弥太郎様 同人留□(守カ)」無事」四□(月カ)」月五日認」□□」, 裏表紙「頼弥太郎様 玉床下 □□」(包紙の表面を裏表紙とする)	II-58-33

文書・記録類

番号	名称	材質形状	員数	年代	作成者	宛所	法量	料紙	丁数	備考	管理番号
35	春水日記(文化11年)	横半帳	1冊	文化十一年甲戌	頼春水		12.6×17.3	半紙	43	共紙表紙, 外題直書「日記」, 表紙墨書「文化十一年甲戌」[「関逢 滝茂」(関逢滝茂は甲戌の異名), 表紙裏「石州邑智郡矢上村」, 31丁目(9月24日～30日条)は料紙を切断し紙を貼付・折り返しのうえ記載, 書簡包紙の反故紙を使用, 1丁目反故紙「□□」, 2丁目「芸広島 頼弥太郎様 備□」, 4丁目「芸州 頼弥太郎様 中村安衛門 中村」[□(村カ)文太]「用要書」, 6丁目「頼弥太郎様 丸川□」, 10丁目「頼弥太郎様 外ニ□々」[「従大坂」]「御届物□」[「田」]「封」・封緘印, 13丁目「確斎 拝」[□], 14丁目「芸藩 頼弥太郎様 参人々 御中 武」[平安□]「十二」[□(二カ)月十九日□], 15丁目「頼弥太郎様」, 16丁目「□長左衛門」, 18丁目に木版刷「広島 □川屋町 御染物 井筒屋□(佐カ)平」, 19丁目「州広島 頼」[「従予州川之江」], 21丁目「□(□カ)崎長左衛門」, 22丁目「頼弥太郎様 □」, 23丁目「芸州 頼弥太郎様 但州出石 □井」[「要□(用カ)」]「用」, 26丁目「頼弥太郎様 井」, 27丁目「石摺 壺枚」, 28丁目「進上 士徳様 御筆」, 30丁目「頼久太郎様 那須関□ 平安要用」[京□]「□御寓居□」[□(裏カ)]「備前八浜」, 32丁目「頼」[「弥太郎様」]「□」[□□□□]「久□」, 33丁目「七□□□」(反故紙の表面に日記を記載), 34～35丁目に算用書の反故紙使用, 38丁目「芸州広島 頼弥太郎様 大□」[予□(州カ)]「□□(予州カ)松山 □(令カ)然寺 叟虎□」[七月廿九日□光寺より]「届」・封緘印, 42丁目「頼弥太郎様 □」[要用□]「月廿一日発」, 43丁目「藤七」	II-58-34
36	春水日記(文化12年)	横半帳	1冊	文化十二年乙亥	頼春水		12.7×17.4	半紙	38	共紙表紙, 外題直書「日記」, 表紙墨書「文化十二年乙亥」[「旛蒙 大淵 猷」(旛蒙大淵猷は乙亥の異名), 6丁目才は白紙, 12丁目袋内に達書写(13.8×7.7, 色諸口紙, 頼春水筆, 差出: 山田図書・永原左源太・石原外記, 二月十七日付, 来ル廿二日大□□(齡院カ)殿二十五回忌につき)挟込, 同紙背(異筆)「相原猪平太 坂井貞之助 長谷川勇助 岡田□大夫 藤井留之助」, 書簡包紙の反故紙を多数使用, 7丁目反故紙「芸府 頼弥太郎様 長崎 檜林栄哲 尊答平安書」, 9丁目「頼弥太郎」[「発□□」]・封緘印, 10丁目「□村□之助」, 11丁目「頼弥太郎様 □」[「奉復 □」], 13丁目「頼春水先生 函丈 備後神辺塾 門田正三郎」[□月廿八日認]「緘」・封緘印, 15丁目「芸州広島国泰寺裏門前 頼弥太郎様 前輪□□」[京都清水 旅宿カ出ス]・封緘印, 18丁目「呈 春水老先生 函丈」, 21丁目(6月25日～7月4日条料紙)に竹本正純・七言律詩「新竹」(乙亥夏五月付, 校訂[朱]あり)及び和歌一首, 28丁目「野□□」[福山善兵衛], 30丁目「芸州 春水頼先生尊大翁 三好又□門」[「従川之江」], 33丁目「頼様 山□□」[□□□], 35丁目「入所」[□]「書」[□郎], 36丁目「□□」	II-58-35
37	壬子作遊日記	横半帳	1冊	壬子(寛政4年)	頼春水		12.4×17.8	半紙	67	素紙表紙, 外題直書「壬子作遊日記」, 『随筆百花苑 四』(中央公論社, 1981年)所収	II-58-36
38	壬子東下日程暦	横半帳	1冊	壬子(寛政4年)	頼春水		12.7×17.8	半紙	30	共紙表紙, 外題直書「壬子東下日程暦」, 『随筆百花苑 四』(中央公論社, 1981年)所収	II-58-37
39	壬子掌録	横半帳	1冊	壬子(寛政4年)	頼春水		12.7×17.5	半紙	30	共紙表紙, 外題直書「壬子掌録 東下」, 表紙墨書「自八月至十二月」, 8丁目白紙, 15丁目ウ～16丁目オに貼紙「胡荇溪叢話引」蔡氏詩話〔寛夫〕云(中略)浙東諸郡已少矣」, 15丁目ウの貼紙に「寄国寄所寄瀬祭 寄一条」を記載, 26丁目ウ～27丁目オの付紙に高田里結知識碑文(神龜三年丙寅二月廿九日付)を記載, 『随筆百花苑 四』(中央公論社, 1981年)所収	II-58-38

文書・記録類

番号	名称	材質形状	員数	年代	作成者	宛所	法量	料紙	丁数	備考	管理番号
40	癸丑掌録	横半帳	1冊	癸丑(寛政5年)	頼春水		12.5×17.1	半紙	27	共紙表紙, 外題直書「癸丑掌録」, 表紙墨書「自正月至八月」「在江戸」, 『随筆百花苑 四』(中央公論社, 1981年)所収	II-58-39
41	癸丑西上日程曆	横半帳	1冊	癸丑(寛政5年)	頼春水		12.4×17.4	半紙	19	共紙表紙, 外題直書「癸丑西上日程曆」, 『随筆百花苑 四』(中央公論社, 1981年)所収	II-58-40
42	甲寅年抄書	横半帳	1冊	甲寅(寛政6年)	頼春水		12.3×17.2	半紙	36	共紙表紙, 外題直書「甲寅年抄書」, 表紙墨書「雲巖略集 桂苑椎儲文会華記 広陵問槎 問槎崎賞」, 虫損大, 『随筆百花苑 四』(中央公論社, 1981年)所収	II-58-41
43	掌録(甲寅～庚申)	横半帳	1冊	甲寅～庚申(寛政6～12年)	頼春水		12.3×17.3	半紙	49	共紙表紙, 外題直書「掌録」, 表紙墨書「甲寅 乙卯 丙辰 丁巳 戊午 己未 庚申」, 朱文方印3顆, 表紙に書簡包紙の反故紙を使用, 表紙反故紙「口(弥カ)太郎様」, 2丁目袋断裂, 5丁目ウ付紙に「宋蔡襄万安橋記」と記載, 43丁目オ「七人 文化九年 壬申」, 中井積善(42丁オ)・合離・岡豹(42丁ウ)・清勲・斎藤孟翼(43丁オ)に頭点(朱), 47丁目ウ付紙に「晋傅元少傅箴曰(中略)儲幄」の記載あり, 『随筆百花苑 四』(中央公論社, 1981年)所収	II-58-42
44	掌録(庚申～辛酉)	横半帳	1冊	庚申～辛酉(寛政12～13年)	頼春水		12.5×17.4	半紙	44	共紙表紙, 外題直書「掌録」, 表紙墨書「庚申 江戸 辛酉 江戸ヨリ帰家」, 注記(付紙に墨), 24丁目袋中に断簡「本郷 駒込」(18.5×6.1, 楮紙)挟込, 26丁目ウに付紙「栗屋三郎」(12.4×6.8, 半紙, 糊離れ), 28丁目ウに付紙(21.9×14.0, 美濃紙)に梵字等の記載あり, 『随筆百花苑 四』(中央公論社, 1981年)所収	II-58-43
45	侍中イロハ寄屋敷帳	横半帳	1冊	天明二年 寅 正月 吉辰			12.5×17.2	半紙	65	共紙表紙, 外題直書「侍中イロハ寄屋敷帳」, 表紙墨書「天明三四年之比之事」, 奥書「天明二年寅正月吉辰」, 朱文方印「頼」1顆, 奥書と表紙墨書の年紀相違, 32丁目ウに「平塚肥後や町宅 御儒者 頼弥太郎」との記載あり	II-58-44
46	公私要用控	袋綴装 四ツ目綴	1通	江戸後期	(頼春水)		27.7×19.4	美濃紙	80	薄茶表紙, 外題直書「公私要用ひかへ」, 表紙墨書「天明元年辛丑より」, 注記(墨・朱, 付紙[14.3×8.0, 諸口紙]に墨), 小口書「公私要用」, (記載年代)天明元年12月16日～文化2年11月26日	II-58-45
47	江戸詰控	袋綴装 康熙綴	1冊	江戸後期	(頼春水)		27.8×19.5	美濃紙	67	薄茶表紙, 外題直書「江戸詰ひかへ」, 表紙墨書「卯年より丑年まで」, 朱文方印「頼」2顆, 紙四方帙あり, 紙四方帙「秘記 親属たりとも猥に披見不相成之事」, 小口書「江戸詰控」, 『広島県史 近世資料編VI』所収「春水遺響 二」の原本	II-58-46
48	御内用(江戸詰控内見につき)	状	1通	(文化3年)十二月廿八日	(山田図書)	(頼春水)	13.5×87.8	諸口紙		端裏書「御内用」, 同(頼春水筆)「文化三年丙午十二月二江戸詰ノ一冊 図書殿へ入内見候節之書通」, II-58-46に挟込, 『広島県史 近世資料編VI』・「春水遺響 二」所収	II-58-47
49	[堀江典膳書簡](江戸詰控熟覧につき)	状	1通	(文化4年)正月廿九日	典膳	図書様	14.1×44.8	諸口紙		端裏書「図書様 貴答 典膳」, II-58-46に挟込, 『広島県史 近世資料編VI』・「春水遺響 二」所収	II-58-48
50	[江戸詰控草稿]	横半帳	1冊	江戸後期	(頼春水)		14.5×23.4	諸口紙	22	校訂(墨), II-58-46のうち, 天明六年閏十月「杞憂」より寛政五年正月晦日までの草稿	III-120
51	[梅颯古日記]	横半帳	1冊	(天明4年7月21日)～(天明5年)五月十二日	(頼梅颯)		12.0×17.3	半紙	20	天明4年8月22～28日条の途中, 10月22日～天明5年2月27日条の途中, 4月19～29日条の途中まで欠失, 3月6～10日条と4月2～10日条の料紙破損甚, 4月29日～5月9日条は異筆カ, 綴じ跡あり	III-215

文書・記録類

番号	名称	材質形状	員数	年代	作成者	宛所	法量	料紙	丁数	備考	管理番号
52	梅颯日記(天明5年)	横半帳	1冊	(天明5年)五月十三日～(同6年)二月五日	頼梅颯		12.3×17.5	半紙	28	慳食形筆(23.0×30.8×29.7)にてVII-1-1～54まで一括、蓋(頼古楳筆)「梅颯日記 五十四冊」、表紙付札(頼古楳筆)「天明五年(山陽六才) 梅颯日記一」、同・朱文長方印「松廬」、28丁目ウに天明6年正月19～23日条を記した後、1丁目オに正月24～28日条、同ウに正月29日～2月5日条を記載(VII-1-2と字句に異同あり)	VII-1-1
53	梅颯日記(天明6～7年)	横半帳	1冊	天明六年丙午正月朔日～天明七年丁未正月廿日	頼梅颯		12.3×17.5	半紙	48	共紙表紙、外題直書「日記」、表紙付紙(頼古楳筆)「天明六年(山陽七才) 同七年(山陽八才) 梅颯日記二」、同・朱文長方印「松廬」、錯簡により天明6年5月13～17日条(15丁目ウ)と5月18日～11月19日条(26～48丁目)の間に11月21日～天明7年正月20日条(16～25丁目)を綴込(『頼山陽全書』[1931年]は錯簡のまま翻刻)、表紙右端(1丁目オ)に天明6年11月20日条を記載、16丁目オの冒頭に「霜月廿之後、此所ニ出ス」「廿一日、晴」の記載あり	VII-1-2
54	梅颯日記(天明8年)	横半帳	1冊	戊申(天明8年)正月朔～酉(寛政元年)正月朔	頼梅颯		12.3×17.8	半紙	66	共紙表紙、外題直書「日記」、表紙付紙(頼古楳筆)「天明八年(山陽九才) 梅颯日記三」、同・朱文長方印「松廬」、表紙見返「葉(カン) 仙人ノ道シルヘノコトナル由説文ニ見ヘタリ、枝折ノコト也」、64丁目オに寛政元年正月1日条を記載(VII-1-4と字句に異同あり)	VII-1-3
55	梅颯日記(寛政元年)	横半帳	1冊	己酉(寛政元年)正月朔～大晦日	頼梅颯		12.4×17.3	半紙	59	共紙表紙、外題直書「日記」、表紙墨書「甲子 辛丑 壬寅 癸卯 甲辰 乙巳 丙午 丁未 戊申 己酉 甲戌 亥」、紙帯(異筆)「寛政元年」、58～59丁目の水損大	VII-1-4
56	梅颯日記(寛政2年)	横半帳	1冊	庚戌(寛政2年)正月元旦～辛亥(寛政3年)正月	頼梅颯		12.5×17.8	半紙	49	共紙表紙、外題直書「日記」、表紙墨書「竹はら行日記アリ 又いたみのうた有」、表紙付札(頼古楳筆)「寛政二年(山陽十一才) 梅颯日記五」、同・朱文長方印「松廬」、47丁目の後より複数丁切り(切り跡は丁数に含まず)、47丁目ウに和歌4首と「辛亥正月」と記した後全体を墨抹、49丁目オに和歌2首あり	VII-1-5
57	梅颯日記(寛政3年)・大坂買物覚書(同4年)・草稿	横半帳	1冊	(寛政3～4、10年)	頼梅颯		12.5×17.7	半紙	54	共紙表紙、外題直書「日記(墨抹) 大坂買物覚書 草稿」、表紙墨書「寛政三辛亥年 実綿三ノ式百目代拾四匁二分五リ くり上る 上 七百八十匁 下 七十匁」、注記(付紙に墨)、表紙付札(頼古楳筆)「寛政三年及四年(山陽十二、十三才) 梅颯日記六」、16丁目ウまで寛政3年の日記、16丁目ウ「覚」、17丁目「壬子三月大坂書覚」、18丁目「大坂払覚」、19丁目「右、原氏乗菽之筆のよしうつし侍る」、20丁目「和歌3首等、26丁目「つねニ借覚」、28～29丁目オに算用書、29丁目ウ～34丁目オに和歌34首、34丁目ウ～41丁目「をさをさしからぬものからおさなくもおもひやるかたなく思フ遣ナリ」(大二郎の夭死及び三穂の疱瘡伝染につき、錯簡による混入カ)、45丁目ウ～46丁目オ「寛政四年壬子 旦那三月廿六日未明御乗船、竹原八兵へふね」、47～51丁目「御留守中小遣覚」、52丁目オ「九月廿三日はは初」、52丁目ウに算用書(墨抹)、33丁目「葉月中頃、雨打続、折しも白川の君まつりことり給ふ、やゆるされ給ふときこへけれハ 天か下何か心のまゝならん名高き月もくもりかなる」、35丁目オに「さ月末の七日かきりのさま見なしぬることり子のこといくよふる共ワするへしともおもほえず、ことしハ三ツになりけるとしのほとよりハ、さてもいみしくおやにてハいとつしくろうたけに又なきものニ見なしかしつきけるおのこゝにしあれは」(寛政8年5月27日に大二郎夭死)との記載あり	VII-1-6

文書・記録類

番号	名称	材質形状	員数	年代	作成者	宛所	法量	料紙	丁数	備考	管理番号
58	梅颯日記(寛政5~7年)	横半帳	1冊	寛政五年癸丑元旦~卯正月廿九日	頼梅颯		12.7×17.9	半紙	58	共紙表紙, 外題直書「日記」, 表紙墨書「癸丑」, 表紙付紙(頼古楳筆)「寛政五年及七年(山陽十四才、十六才) 梅颯日記七」, 2~48丁目は寛政5年の日記, 49丁目は同6年閏11月15~19日条(『頼山陽全書』[1931年]では同5年の記事として12月の前に配置・翻刻), 50~56丁目は同7年正月1~29日条	VII-1-7
59	梅颯日記(寛政6年)	横半帳	1冊	(寛政6年)元日~十一月七日	頼梅颯		12.5×17.3	半紙	39	表紙付紙(頼古楳筆)「寛政六年(山陽十五才) 梅颯日記八」	VII-1-8
60	梅颯日記(寛政8年)	横半帳	1冊	丙辰(寛政8年)元日~五月廿五日	頼梅颯		12.4×17.5	半紙	20	共紙表紙, 外題直書「日記」, 表紙墨書「丙辰」「おとを」, 表紙付紙(頼古楳筆)「寛政八年(山陽十七才) 梅颯日記九」	VII-1-9
61	梅颯日記(寛政9年)	横半帳	1冊	寛政九丁巳元日~十二月晦日	頼梅颯		12.3×17.4	半紙	44	共紙表紙, 外題直書「日記」, 表紙墨書「丁巳」, 表紙付紙(頼古楳筆)「寛政九年(山陽十八才) 梅颯日記十」, 43丁目ウ~44丁目オに和歌8首(「歳中立春」ほか)	VII-1-10
62	梅颯日記(寛政10年)	横半帳	1冊	寛政十戊午元日~十一月	頼梅颯		12.3×17.3	半紙	42	共紙表紙, 外題直書「日記」, 表紙墨書「午」, 表紙付紙(頼古楳筆)「寛政十年」	VII-1-11
63	梅颯日記(寛政11年)	横半帳	1冊	寛政十一年未ノ正月元日~十二月七日	頼梅颯		12.5×17.4	半紙	48	共紙表紙, 外題直書「日記」, 表紙墨書「未」, 表紙付紙(頼古楳筆)「梅颯日記 寛政十一年己未 四十才(山陽二十才)」, 同・朱文長方印「松廬」, 2丁分の未綴日記1点付属(中央で折り返し2丁とする, 12月8日~21日条, 『頼山陽全書』[1931年]未収), 未綴日記「八日, 晴, 御園来見九日, 晴 十日, 晴, 小紋御下着ハル, 居中翁来見, 石津追悼歌・勸進ノ題持参 十一日, 陰, 六丁目ノ者来り垣ゆふ, 御園セ話也, 築山来り酒出ス, はたおろす, 竹原方あなご来ル 十二日, 晴陰小雨, 寒ニ入, 二文字屋母来ル, かき仕舞, 京方染来ル, はた上ル, はセバ八尋 十三日, 晴, お十仙台紬着物成ル 十四日 十五日, 晴 十六日, 晴, 夜小雨, よる熊介来ル 十七日, 陰, すはらひ, 夜青木へ御出 十八日, 晴, 御多門へ行, お淳ふくハひ 十九日, 晴 廿日, 晴, 竹原方歳暮物来ル, 嘉六舟 廿一日, 陰, 小雨, 夕方晴, うすかう」	VII-1-12
64	梅颯日記(寛政12年)	横半帳	1冊	寛政十二年庚申正月元日~酉(享和元年)正月五月	頼梅颯		12.5×17.3	半紙	65	共紙表紙, 外題直書「日記」, 表紙墨書「寛十二申」, 表紙付紙(頼古楳筆)「梅颯日記 寛政十二年庚申 四十一才(山陽二十一才)」, 同・朱文長方印「松廬」, 61丁目に寛政13(享和元)年正月1~5条を記載(VII-1-14と字句に異同あり)	VII-1-13
65	梅颯日記(享和元年)	横半帳	1冊	寛十三(享和元年)酉元日~十二月九日	頼梅颯		12.5×17.3	半紙	50	共紙表紙, 外題直書「日記」, 表紙墨書「寛十三酉」	VII-1-14
66	梅颯日記(享和2年)	横半帳	1冊	享和二年戊申正月元旦~十二月廿九日	頼梅颯		12.4×17.3	半紙	50	共紙表紙, 表紙墨書「戊 享和二」, 49丁目オに歳末祝儀の記載あり	VII-1-15

文書・記録類

番号	名称	材質形状	員数	年代	作成者	宛所	法量	料紙	丁数	備考	管理番号
67	梅颯日記(享和3年)	横半帳	1冊	享和三年亥正月元日～十二月廿九日	頼梅颯		12.3×17.0	半紙	60	共紙表紙, 表紙墨書「亥 享三」, 黒文円印1顆	VII-1-16
68	梅颯日記(文化元年)	横半帳	1冊	文化元年甲子元日～十二月廿三日	頼梅颯		12.5×17.4	半紙	50	共紙表紙, 外題直書「日記」, 表紙墨書「甲子 文化元年」 「権次郎元服ノ事 十二月十一日ト記」	VII-1-17
69	梅颯日記(文化2年)	横半帳	1冊	文化二年乙丑元日～十二月廿九日	頼梅颯		12.5×17.2	半紙	50	共紙表紙, 外題直書「日記」, 表紙墨書「文化二年 乙丑」, 50丁目ウに「式分め□□三分□□た」との記載あり	VII-1-18
70	梅颯日記(丙寅日記・文化3年)	横帳	1冊	丙寅(文化3年)元日～十二月廿九日	頼梅颯		12.5×35.2	半紙	26	首題「丙寅日記」, 表紙付紙(頼古模筆)「文化三年」, 25丁目オの「(十二月)廿五日, 晴陰」と「餅つき」の間に「廿四日」の追記あり, 25丁目ウ(12月26～29日条)に地部から天部へ向けて「十九日」「廿日」「廿一日」「廿二日」「廿三日, 晴」「廿四日, 晴, 餅つき, 都具, 暁方吐度々, 牛尾申遣来菓二調丸」の記載あり(料紙の折目を上にして日付等を記載, 「廿四日, 晴, 餅つき」を墨抹, 折目を下にして25丁目オに19日条以下を書き直し)	VII-1-19
71	梅颯日記(文化4年)	横半帳	1冊	文化四丁卯元日～十二月晦日	頼梅颯		12.5×17.2	半紙	54	共紙表紙, 外題直書「日記」, 表紙墨書「文化四年丁卯」, 52丁目袋中に春着注文の覚書(23.4×16.8, 半紙, 綴じ穴なし)を挟込, 52丁目ウ～53丁目オに祝儀・到来物等の記載あり	VII-1-20
72	梅颯日記(文化5年)	横半帳	1冊	文化五戊辰元日～十二月廿九日	頼梅颯		12.2×17.3	半紙	50	共紙表紙, 外題直書「日記」, 表紙墨書「文化五年辰」	VII-1-21
73	梅颯日記(文化6年)	横半帳	1冊	文化六己巳元日～十二月廿九日	頼梅颯		12.6×17.4	半紙	47	共紙表紙, 外題直書「日記」, 表紙墨書「己巳 里方 預り銀ノコト記アリ」, 表紙袋中に断簡(12.3×5.0, 半紙)挟込, 断簡「式勿九分三リ 丸印 壹勿六分六リ たよ分 〆四勿五分九リ 内三勿相済 残壹勿五分九リ」	VII-1-22
74	梅颯日記(文化7年)	横半帳	1冊	文化七庚午元日～(文化8年正月)廿三日	頼梅颯		12.5×17.5	半紙	54	共紙表紙, 外題直書「日記」, 表紙墨書「文化七庚午」, 50丁目ウ～53丁目ウに文化8年正月1～23日条(VII-1-24と字句に異同あり), 54丁目ウに算用書の記載あり	VII-1-23
75	梅颯日記(文化8年)	横半帳	1冊	文化八辛未元日～文化九年壬申二月九日	頼梅颯		12.5×17.5	半紙	62	共紙表紙, 外題直書「日記」, 表紙墨書「文化八辛未」, 注記(付紙に墨), 57丁目オに付紙(12.5×19.7, 半紙)「文化八辛未二月七日方初」, 57丁目ウ～62丁目ウに文化9年正月1日～2月9日条(VII-1-25と字句に異同あり), 57丁目ウに「文化九壬申日記 帖不出来, かりニ記置」, 62丁目ウに「九日, 晴」「右, 付替相済」の記載あり, 吊下用の紙縫紐あり	VII-1-24
76	梅颯日記(文化9年)	横半帳	1冊	文化九年壬申正月元旦～十二月廿九日	頼梅颯		12.5×17.3	半紙	48	共紙表紙, 外題直書「日記」, 表紙墨書「文化九年 壬申正月」, 吊下用の紙縫紐あり	VII-1-25
77	梅颯日記(文化12年)	横半帳	1冊	文化十二年乙亥正月元日～十二月晦日	頼梅颯		12.5×17.3	半紙	54	共紙表紙, 外題直書「日記」, 表紙墨書「文化十二年乙亥正月」, 注記(付紙に墨), 裏表紙付紙(12.4×7.6, 半紙)に室屋と頼杏坪からの戌年の借銀と差紙払について記載あり	VII-1-26

文書・記録類

番号	名称	材質形状	員数	年代	作成者	宛所	法量	料紙	丁数	備考	管理番号
78	梅颯日記(文化13年)	横半帳	1冊	文化十三年 丙子正月元日 ～十二月 大三十日	頼梅颯		12.4×17.3	半紙	60	共紙表紙, 外題直書「日記」, 表紙墨書「文化十三年 丙子正月」, 紙帯(頼古楳筆)「梅颯日記 文化十三年丙子 五十七才(山陽三十七才) 此年春水没」, 同・朱文長方印「松廬」	VII-1-27
79	梅颯日記(文化14年)	横半帳	1冊	文化十四年 丁丑元日～ 十二月廿九 日	頼梅颯		12.3×17.1	半紙	50	共紙表紙, 外題直書「日記」, 表紙墨書「文化十四年 丁丑新春」	VII-1-28
80	梅颯日記(文化15年)	横半帳	1冊	文化十五年 戊寅元日～ 十二月晦日	頼梅颯		12.3×17.3	半紙	52	共紙表紙, 外題直書「日記」, 表紙墨書「文化十五年 戊寅正月」	VII-1-29
81	梅颯日記(文政2年)	横半帳	1冊	文政二年乙 卯正月元日 ～十二月廿 九日	頼梅颯		12.2×17.1	半紙	86	共紙表紙, 外題直書「日記」, 表紙墨書「文政二年 己卯正月」, 紙帯(頼古楳筆)「梅颯日記 文政二年己卯 六十才(山陽四十才)」, 同・朱文長方印「松廬」, 86丁目ウに書簡写・習書あり(異筆), 「頼万四郎様 頼彦次郎」「頼冬吉殿 頼万四郎」「十一月廿一日」「頼佐一郎様 頼餘一」「九月廿一日」	VII-1-30
82	梅颯日記(文政3年)	横半帳	1冊	文政三年庚 辰正月元日 ～臘月大晦 日	頼梅颯		12.5×17.5	半紙	56	共紙表紙, 外題直書「日記」, 表紙墨書「文政三年 庚辰正月」, 55丁目オに12月2～5日条(墨抹, 字句に異同あり), 55丁目ウ～56丁目オに「辰ノくれ」の算用書等あり	VII-1-31
83	梅颯日記(文政4年)	横半帳	1冊	文政四年辛 巳正月元日 ～十二月大 晦日	頼梅颯		12.5×17.2	半紙	54	共紙表紙, 外題直書「日記」, 表紙墨書「文政四年 辛巳正月」	VII-1-32
84	梅颯日記(文政5年)	横半帳	1冊	文政五年壬 午正月元日 ～十二月晦 日	頼梅颯		12.4×17.4	半紙	60	共紙表紙, 外題直書「日記」, 表紙墨書「文政五年 壬午正月元日」, 表紙見返「霜月十日頃 一, いよもめん羽折表 めうかや あいよし墨」	VII-1-33
85	梅颯日記(文政6年)	横半帳	1冊	文政六年癸 未正月元日 ～十二月大 晦日	頼梅颯		12.5×17.3	半紙	56	共紙表紙, 外題直書「日記」, 表紙墨書「文政六年 癸未正月」	VII-1-34
86	梅颯日記(文政7年)	横半帳	1冊	文政七年甲 申正月元日 ～十二月大 晦日	頼梅颯		12.5×17.3	半紙	68	共紙表紙, 外題直書「日記」, 表紙墨書「文政七年 甲申正月」, 紙帯(頼古楳筆)「梅颯日記 文政七年甲申 六十五才(山陽四十五才)」, 同・朱文長方印「松廬」	VII-1-35
87	梅颯日記(文政8年)	横半帳	1冊	文政八年乙 酉元日～十 二月晦日	頼梅颯		12.5×17.3	半紙	55	共紙表紙, 外題直書「日記」, 表紙墨書「文政八年 乙酉元旦」	VII-1-36
88	梅颯日記(文政9年)	横半帳	1冊	文政九年丙 戌正月元日 ～十二月二 十九日	頼梅颯		12.6×17.3	半紙	56	共紙表紙, 外題直書「日記」, 表紙墨書「文政九年 丙戌正月」	VII-1-37

文書・記録類

番号	名称	材質形状	員数	年代	作成者	宛所	法量	料紙	丁数	備考	管理番号
89	梅颺日記(文政10年)	横半帳	1冊	文政十年丁亥春正月元日～十二月廿九日	頼梅颺		12.7×17.5	半紙	73	共紙表紙, 外題直書「日記」, 表紙墨書「文政十年 丁亥春正月吉」, 紙帯(頼古楳筆)「梅颺日記 文政十年丁亥 六十八才(山陽四十八才)」, 同・朱文長方印「松廬」, 7月30日条(37丁目ウ)に付紙「寛」(12.3×19.0, 半紙, 「文政十丁亥七月晦日 進藤へ為持遣ス」, 菅野・伴・三雲・東馬宛の内容), 58丁目ウに12月29日条を誤記(墨抹のうえ57丁目ウに記載), 65～73丁目に京遊時の歌稿あり	VII-1-38
90	梅颺日記(文政11年)	横半帳	1冊	文政十一年戊子春正月元日～十二月廿九日	頼梅颺		12.6×17.5	半紙	52	共紙表紙, 外題直書「日記」, 表紙墨書「文政十一年 戊子春正月」	VII-1-39
91	梅颺日記(文政12年)	横半帳	1冊	文政十二年己丑正月元日～十二月晦日	頼梅颺		12.4×17.4	半紙	65	共紙表紙, 外題直書「日記」, 表紙墨書「文政十二年 亡(己)丑正月」	VII-1-40
92	梅颺日記(天保元年)	横半帳	1冊	文政十三年庚寅正月元日～辛卯(天保2年)正月十三日	頼梅颺		12.7×17.4	半紙	64	共紙表紙, 外題直書「日記」, 表紙墨書「文政十三年 庚寅正月」, 「表紙破レ付カへ」, 55丁目ウ～57丁目に天保2年正月1～13日条の記載あり(VII-1-42と字句に異同あり)	VII-1-41
93	梅颺日記(天保2年)	横半帳	1冊	文政十四年辛卯春王(正月)朔～十二月大三十日	頼梅颺		12.6×17.3	半紙	53	共紙表紙, 外題直書「日記」, 表紙墨書「文政十四年 辛卯春王」, 「旧冬より天保と改元」	VII-1-42
94	梅颺日記(天保3年)	横半帳	1冊	天保三年壬辰年吉春元日～十二月大三十日	頼梅颺		12.7×17.3	半紙	58	共紙表紙, 外題直書「日記」, 表紙墨書「天保三年 壬辰年吉春」	VII-1-43
95	梅颺日記(天保4年)	横半帳	1冊	天保四年癸巳春正月元日～十二月晦日	頼梅颺		12.4×17.4	半紙	52	共紙表紙, 外題直書「日記」, 表紙墨書「天保四年癸巳春正月吉」, 黒文方印1顆, 『雲か山か』第62～68号(2002～2003年, 財団法人頼山陽記念文化財団)に翻刻	VII-1-44
96	梅颺日記(天保5年)	横半帳	1冊	天保五年甲午正月元日～十二月大晦日	頼梅颺		12.5×17.3	半紙	50	共紙表紙, 外題直書「日記」, 表紙墨書「天保五年 甲午正月」, 注記(付箋に墨), 7月8日条付箋「御不快」, 7月18日条付箋「御不例」, 『雲か山か』第68～73号(2003～2005年)に翻刻	VII-1-45
97	梅颺日記(天保6年)	横半帳	1冊	天保六年乙未元日～十二月晦日	頼梅颺		12.5×17.2	半紙	50	共紙表紙, 外題直書「日記」, 表紙墨書「天保六年乙未」, 表紙見返しに7～12月の大小, 彼岸の入り, 小寒, 大寒, 節分, 立春等の記載あり, 49丁目左端切り, 『雲か山か』第73～77号(2005～2006年)に翻刻	VII-1-46
98	梅颺日記(天保7年)	横半帳	1冊	天保七年丙申春正月元日～十二月廿九日	頼梅颺		12.5×17.5	半紙	50	共紙表紙, 外題直書「日記」, 表紙墨書「天保七年 丙申春正」, 『雲か山か』第77～81号(2006～2007年)に翻刻	VII-1-47
99	梅颺日記(天保8年)	横半帳	1冊	天保八年丁酉春正月元日～十二月大三十日	頼梅颺		12.5×17.3	半紙	59	共紙表紙, 外題直書「日記」, 表紙墨書「天保八年 丁酉春正」, 32～33丁目に木版刷断簡「御旦那様 上 中村玉助 卯月吉日」(17.7×15.0, 楮紙)挟込, 『雲か山か』第81～85号(2007～2008年)に翻刻	VII-1-48

文書・記録類

番号	名称	材質形状	員数	年代	作成者	宛所	法量	料紙	丁数	備考	管理番号
100	梅颯日記(天保9年)	横半帳	1冊	天保 戊戌 九年 春正 元日 ～十二月 大 三十日	頼梅颯		12.5×17.0	半紙	66	共紙表紙, 外題直書「日記」, 表紙墨書「天保戊戌 九年春正」, 一部虫 損大, 『雲か山か』第85～90号(2008～2010年)に翻刻	VII-1-49
101	梅颯日記(天保10年)	横半帳	1冊	天保 十年 己 亥 春正 元日 ～十二月 廿 九日	頼梅颯		12.5×17.5	半紙	51	共紙表紙, 外題直書「日記」, 表紙墨書「天保十年 己亥春正」, 紙縫綴 じ直し, 『雲か山か』第91～95号(2010～2012年, 公益財団法人頼山陽 記念文化財団)に翻刻	VII-1-50
102	梅颯日記(天保11年)	横半帳	1冊	天保 十一年 庚 子 春正 元日 ～十二月 晦日	頼梅颯		12.6×17.5	半紙	56	共紙表紙, 外題直書「日記」, 表紙墨書「天保十一年 庚子春正」, 56丁 目ウに「仿(ハシタ)なき」「反毛鶏(シヤム) 行灯(アンドン) 挑灯(テウ チン) 燈毬(ユミハリ)」の記載あり, 綴じ紐切れ, 一部虫損大, 『雲か山 か』第96～99号(2012～2014年)に翻刻	VII-1-51
103	梅颯日記(天保12年)	横半帳	1冊	天保 十二年 辛 丑 正月 元日 ～十二月 廿 九日	頼梅颯		12.3×17.5	半紙	64	共紙表紙, 外題直書「日記」, 表紙墨書「天保十二年 辛丑正月」, 『雲 か山か』第100～104号(2015～2016年)に翻刻	VII-1-52
104	梅颯日記(天保13年12月)	横半帳	1冊	(天保13年) 十二 月 朔日 ～(天保14年 正月) 七日	頼梅颯		12.7×17.5	半紙	11	共紙表紙, 外題直書「日記」, 表紙墨書「興廢」, 表紙付紙(頼古榎筆) 「天保十三年十二月ヨリ 同十四年一月七日マテ」, 6丁目ウ～8丁目ウ に天保14年正月1～7日条を記載(VII-1-54と字句に異同あり), 9～11 丁目に歌稿あり, 『雲か山か』第104号(2016年)に翻刻	VII-1-53
105	梅颯日記(天保14年)	横半帳	1冊	天保 十四年 元 日～十月 三日	頼梅颯(聿庵 代筆)		12.5×17.4	半紙	64	共紙表紙, 外題直書「日記」, 表紙墨書「天保十四年」, 閏9月26日～10 月3日条(52丁目ウ～53丁目ウ)は頼聿庵が代筆, 64丁目オに歌稿あり , 『雲か山か』第104～105・107～108号(2016～2017年)に翻刻	VII-1-54
106	頼聿庵日記(天保13年)	横半帳	1冊	天保 十三年 壬 寅 盆後	(頼聿庵)		12.5×17.5	半紙	19	共紙表紙, 外題直書「日記」, 表紙墨書「天保十三年 壬寅盆後」	III-252
107	頼聿庵日記(梅颯京遊こつき)	横半帳	4丁	(文政2年) 二 月 廿三日～ 三月十三日	(頼聿庵)		12.2×17.1	半紙	4	共紙表紙, 外題直書「日記」, 表紙墨書「浪華御出立以後 二月廿三日 ろ」, 黒文円印1顆, 綴じ跡あり	III-250-8
108	[頼聿庵日記]	横半帳	2丁	(安政3年) 三 月 廿五日～ 四月朔	(頼聿庵)		12.4×17.2	半紙	2	注記(朱), 3月29日条に「学希宮様五十回忌ニ付, 学校廃業」との記載 あり, 3月は小月, 綴じ跡あり	III-250-9
109	[屋敷受取記録]	横帳	1冊	(寛政2年) 三 月 十日～八 月十二日	(頼杏坪)		12.4×34.6	半紙	6	共紙表紙	III-297
110	頼誠軒日記	縦帳	1冊	明治 十五年 七 月 一日～ 十二月 廿八 日	誠軒老人		19.1×13.6	小半紙	20	共紙表紙, 外題直書「日記」, 表紙墨書「明治十五年七月起 誠軒老 人」, 2丁目袋中に『記 十二月二日 一壺口(銭カ) 紅粉』と記載の一 紙(29.0×26.4, 楮紙)と朱文円印「頼」(割印)あり, 17丁目ウに山田養 吉書簡(16.5×30.2, 三桎紙, 十二月廿一日付, 頼誠軒宛)貼付, 反故 紙使用	III-386-6
111	頼誠軒日記	縦帳	1冊	明治 十六年 四 月 廿四日 ～十月十二 日	誠軒		16.6×11.7	半紙	18	共紙表紙, 外題直書「日記」, 表紙墨書「明治十六年四月 誠軒」, 最終 丁 錯簡カ	III-386-7

文書・記録類

番号	名称	材質形状	員数	年代	作成者	宛所	法量	料紙	丁数	備考	管理番号
112	掌録	袋綴装 四ツ目綴	1冊	(文久2年)十月 ～慶応三年 丁卯十月 廿五日	(頼誠軒)		13.1×19.5	雁皮紙	69	薄茶平絹表紙, 外題直書「掌録」, 黒文長方印「□□」1顆, 裏表紙「留 名録 人死留名」	III-386-67
113	掌録(藩風評林ほか)	仮綴	1綴	江戸後期	(頼誠軒)		21.0×13.0	楮紙	6	共紙表紙, 外題直書「掌録」, 句切点(朱), 傍点(朱)	III-386-68
114	南遊(石山・宇治周遊記)	横半帳	1冊	三月廿八日 ～四月朔	(頼誠軒)		12.4×17.0	半紙	4	共紙表紙, 外題直書「南遊」, 校訂(墨)	III-386-69
115	頼誠軒日記(明治3年)	横半帳	1冊	明治庚午(3 年)秋八月～	(頼誠軒)		12.1×16.0	半紙	10	綴じ穴あり	III-386-80
116	[頼景讓日記](享和3年)	状	1通	(享和3年正月) 四日～廿日	(頼景讓)		14.3×39.8	諸口紙		2枚に切断(接続)	III-184-2-1
117	[頼景讓日記](享和3年カ)	状	1通	廿一日～廿 四日	(頼景讓)		14.3×10.0	諸口紙		後欠	III-184-2-2
118	[頼景讓日記](享和3年カ)	状	1通	四日～八日	(頼景讓)		14.3×13.5	諸口紙		前欠	III-184-2-3
119	[頼景讓日記]	状	1通	廿七日～七 日	(頼景讓)		14.4×15.0	諸口紙		前後欠カ	III-378-3
120	頼達堂日記(頼聿庵江戸詰につ つき)	状	1通	(天保3年)九 月六日～十 九日	鉾押	聿庵大人座右	12.1×71.5	半紙		端書「日記」, 端裏書「平安」 「九月十九日出 十月十一日至」	III-185-2-1
121	頼達堂日記(聿庵江戸詰につ つき)	状	1通	(天保3年)霜 月六日～十 九日	三千三押	聿庵大人座右	12.2×48.5	半紙		端書「日記」	III-185-2-2
122	癸巳晩春遊備日記	横半帳	1冊	天保癸巳(4 年)三月九日 ～七月七日	(頼養堂カ)		11.7×16.5	罫紙, 半 紙	27	素紙表紙, 外題直書「癸巳晩春遊備日記」, 朱文方印「頼生」1顆	III-75
123	[頼小園日記]	状	1通	二日～五日	元彝(頼小園)		12.4×15.0	半紙		「元彝及豊前僧大含長崎僧日藏」との記載あり	III-290-107
124	澹寧筆乗	横半帳	1冊	江戸中期	澹寧(飯岡義 斎)		12.1×17.2	半紙	25	共紙表紙, 外題直書「澹寧筆乗」, 白文方印「孝欽之印」1顆, 校訂(墨・ 朱), 返点(墨), 仮名(墨), 見返「葬礼□□曆」「葬式次第曆」「葬礼当 用物曆」「吊客姓名曆」「賻禮祭奠曆」「財貨出入曆」「送葬親賓曆」, 11 丁目ウに「癸未春」, 17丁目ウに「神主栗ヲ用ヒスシテ檜ヲ用(後略)」と の記載あり	III-197
125	雑記	横半帳	1冊	江戸中期	澹翁(飯岡義 斎)		12.4×18.0	半紙	36	共紙表紙, 外題直書「雑記」, 校訂(墨), 返点(墨), 仮名(墨), 送り仮 名(墨), 懸点(朱), 見返「心にかふにまかせてよしなし事をかきつけ 侍る, 本より人に見すへきものにあらず, 子どもたらんものかかたミと見 てやミなんそあらまほし, 此記録のミならず, 外のもこれになすらへし るへし, みちたて世にもれなんはつもれなんはつ 澹翁識」, 4丁目ウに 「宝曆三癸酉三月九日」, 6丁目ウに「尊性堂及門諸士」, 22丁目オに 「土佐国諸儒堂」との記載あり	III-198
126	啓発録	横半帳	1冊	子十一月五 日夜	(飯岡義斎)		12.5×18.0	半紙	38	共紙表紙, 外題題簽「啓発録」, 校訂(墨), 注記(墨), 仮名(墨)	III-199

文書・記録類

番号	名称	材質形状	員数	年代	作成者	宛所	法量	料紙	丁数	備考	管理番号
127	掌記	横半帳	1冊	江戸中期	(飯岡義斎)		12.4×17.5	半紙	17	共紙表紙, 外題直書「掌記」, 校訂(墨), 2丁目目に「若冲居士号斗米庵, 当時唐画ノ達者也」との記載あり, 反故紙使用, 1丁目反故紙「大和屋 仁右衛門」, 3丁目「銀老封 近江や 喜兵衛」, 5丁目「銀老包 細や 伊兵衛」, 6丁目「□□門」, 8丁目「のし 御祝義 山家屋 新□」, 「小者持参」, 9丁目「御礼 白銀老包」, 「三川屋 □□左衛門」, 10丁目「銀数老つ」, 11丁目「白銀□□」, 12丁目「銀老包 □や 藤兵衛」, 14丁目「のし 白銀老封 三田屋 弥兵衛」, 15丁目「数老つ」, 16丁目「銀老包 中村屋 源兵衛」, 17丁目「かす□つ」	III-200
128	掌記 寅歳	横半帳	1冊	寅歳(明和7年)	徳安(飯岡義斎)		12.3×17.2	半紙	33	共紙表紙, 外題直書「掌記 寅歳」, 黒文長方印「孝欽」7顆, 校訂(墨・朱), 注記(墨・朱), 返点(墨), 仮名(墨), 送り仮名(墨), 見返「徳安」, 12丁目目に「明和寅歳」, 17丁目目に「明和ウ年」, 26丁目目に「壬辰御城番 安部撰津守」, 同ウに「江戸儒生 竹山所相接者」との記載あり	III-201
129	射場費用	横半帳	1冊	未(安永4年)	(飯岡義斎)		12.5×17.5	半紙	8	共紙表紙, 外題直書「射場費用」, 仮名(墨), 4丁目目に「未三月廿二日相見」との記載あり	III-202
130	懐中掌記	横半帳	1冊	未～丙(安永4～6年)	飯岡義斎		12.4×17.2	半紙	14	共紙表紙, 外題直書「懐中掌記」, 仮名(墨), 見返「飯岡孝欽, 字徳安, 号集義斎, 又号澹寧居士, 撰大阪之人」, 2丁目目に「未三月廿二日来見」, 9丁目目に「酉四月八日」との記載あり	III-203
131	壤狗筆乗	縦半帳	1冊	戊戌(安永7年)元日筆記	(飯岡義斎)		19.0×12.5	楮紙	9	共紙表紙, 外題直書「壤狗筆乗」, 校訂(墨), 注記(墨, 付紙に墨)	III-204
132	留書	縦半帳	1冊	甲辰(天明4年)	(飯岡義斎)		19.2×12.7	楮紙	36	共紙表紙, 外題直書「留書」, 校訂(墨), 注記(墨・朱), 返点(墨), 仮名(墨), 傍点(墨), 7丁目目に「閑際筆記抄」, 13丁目目に「甲辰十一月六日昨日読之, 今日抄写, □□実多遺漏焉」との記載あり	III-206
133	覚書(家ヲ持ツハ何ノ為ニスルモノノほか)	横半帳	1冊	江戸中期	(飯岡義斎)		12.4×17.1	半紙	28	共紙表紙, 外題直書「覚書」, 注記(墨), 仮名(墨)	III-207
134	覚書(義斎葬・墓所・蘭室墓ほか)	横半帳	1冊	天明丁未(7年)	(飯岡義斎)		12.8×18.9	楮紙	11	共紙表紙, 外題直書「覚書」, 仮名(墨), 2丁目目に「天明丁未五月日」, 4丁目目に「義斎葬ノト, 墓所ノト, 蘭室墓ノト」, 「上 義斎墓 中蘭室墓 下 温室墓」との記載あり, 反故紙使用, 1丁目反故紙「飯岡義斎様 生□屋 八市右衛門」, 4丁目「銀老封 平野屋 庄兵衛」, 7丁目「御祝儀 七五三重左衛門」, 9丁目「のし 白銀老封 平の屋 利右衛門」, 10丁目「白銀 老封」, 11丁目「銀四匁三分 数□□」	III-208
135	[掌記](語彙一覧, 道体・為学・致知ほか)	横半帳	1冊	江戸中期	(飯岡義斎)		12.4×17.0	半紙	24	校訂(墨), 返点(墨), 仮名(墨)	III-209-1
136	[掌記](又其者ノ兄ナル者ノ温ミヌルコトアリシヲ…)	横半帳	1冊	江戸中期	(飯岡義斎)		12.4×17.5	半紙	18	返点(墨), 仮名(墨), 前欠	III-209-2
137	[掌記](耳目ノ官ハ見聞シテ不能思…)	横半帳	1冊	江戸中期	(飯岡義斎)		12.0×17.1	半紙	6	校訂(墨), 仮名(墨), 綴跡, 背に切断あり, 反故紙使用, 紙背墨書「午六月廿八日」「午五月二十日」「午四月九日」「宝曆十二壬午歳正月朔旦」	III-209-3
138	[篠田氏家譜]	折紙	1通	江戸後期カ			12.0×16.8	半紙	9	校訂(墨), 注記(朱), 前欠, もとは横半帳カ	III-210
139	知音氏族(大坂連中及び氏族)	横半帳	1冊	江戸中期	(飯岡義斎)		12.2×17.3	半紙	25	厚紙表紙, 外題直書「知音氏族」, 校訂(墨), 注記(朱), 仮名(墨), 裏表紙・綴じ糸欠	III-211
140	處々記	横半帳	1冊	江戸中期	(飯岡義斎)		12.0×17.3	半紙	24	首題「處々記」, 注記(朱), 仮名(墨), 綴じ糸切れ	III-212
141	諸友名籍	横半帳	1冊	江戸中期	(飯岡義斎)		12.5×17.3	半紙	26	共紙表紙, 外題直書「諸友名籍」, 校訂(墨, 貼紙に墨), 8丁目目に「卯八月十一日(宝曆9年)」, 26丁目目に「子正月廿一日(安永9年)」との記載あり	III-213

文書・記録類

番号	名称	材質形状	員数	年代	作成者	宛所	法量	料紙	丁数	備考	管理番号
142	参宮記	横半帳	1冊	宝暦乙亥(5年), 宝暦庚辰歳(10年), 明和八年辛卯	(飯岡義斎)		12.4×17.4	半紙	25	共紙表紙, 外題直書「参宮記」, 校訂(墨), 注記(朱), 仮名(墨), ①宝暦5年3月12~17日, ②同10年4月6~19日, ③明和8年5月3~18日の記載あり, 虫損あり	III-216
143	文会筆録略抄	縦半帳	1冊	江戸中期	(飯岡義斎)		17.4×12.5	半紙	32	共紙表紙, 外題題簽「文会筆録略抄」, 校訂(墨), 注記(付紙に墨), 返点(墨), 仮名(墨), 送り仮名(墨), 合符(墨), 懸点(朱)	III-217
144	読書抄録	縦半帳	1冊	江戸中期	(飯岡義斎)		19.1×12.7	楮紙	32	共紙表紙, 外題直書「読書抄録」, 注記(付紙に墨), 返点(墨), 仮名(墨), 傍点(朱)	III-218
145	読書録抄	横半帳	1冊	江戸中期	(飯岡義斎)		12.1×17.1	半紙	18	共紙表紙, 外題直書「読書録抄」, 校訂(墨), 頭点(朱), 返点(墨), 傍点(墨)	III-219
146	澹寧録	袋綴装 大和綴	1冊	江戸中期	澹寧(飯岡義斎)		24.0×16.8	半紙	24	紺表紙, 外題直書「澹寧録」, 校訂(墨), 注記(付紙(糊離れ)に墨), 頭点(墨), 傍線(墨・朱), 傍点(朱), 綴じ糸外れ	III-220
147	大平記心覚	横半帳	1冊	江戸中期	(飯岡義斎)		12.3×17.7	半紙	34	共紙表紙, 外題直書「大平記心覚」, 校訂(墨), 仮名(墨), 綴じ糸切れ	III-222
148	日々草稿	横半帳	1冊	天明五乙巳年正月元日~十一月廿四日	(飯岡義斎)		12.0×17.0	半紙	40	共紙表紙, 外題直書「日々草稿 巳年」, 校訂(墨), 注記(朱), 11月17日条に「静書来, 久太郎表書, 御ちい殿, 久太郎」「久太郎表書来」との記載あり	III-214
149	善山漫録(明和4年)	横半列帖装	1冊	明和四年丁亥	社弟孝淑拝(善山)		14.8×21.5	楮紙	173	渋引表紙, 外題題簽「善山漫録」, 校訂(墨・朱), 頭点(朱), 返点(墨), 仮名(墨), 傍点(朱), 40丁目オに「右草稿ノマヽヲ写墨時明和四年丁亥秋九月廿五日夜 社弟孝淑拝」, 119丁目オに「明和四年丁亥閏九月廿六日謹録」との記載あり, 切取りあり, 丁上部隅に朱線及び小見出「天」「地」「人」「物」「事」「言」あり(天・地・人・物は胡粉で抹消)	III-226
150	善山筆記	横半帳	1冊	(明和3~4年)	善山		12.1×17.4	半紙	19	共紙表紙, 外題題簽「善山筆記」(一部糊離れ), 表紙題簽下墨書「近思筆記 明和丙戌初冬十六日始山子問正侍末席録」, 傍点(朱), 3丁目オに「山口氏近思録会読之時筆記」, 13丁目オに「丁亥二月四日」との記載あり	III-230
151	善山漫録(明和6~7年)	袋綴装 大和綴	1冊	明和六年己丑~明和庚寅(7年)	善山		24.5×17.0	半紙	20	共紙表紙, 外題直書「善山漫録」, 注記(朱, 付紙に墨), 返点(墨), 句切点(朱), 仮名(墨), 懸点(朱), 見返「天・地・人・物・事・言・字義」「篠田孝淑純吾蔵」, 2丁目オに「明和六年己丑仲夏」, 10丁目オに「巖君生日 正徳六年[此年享保元年也]二月七日」, 14丁目オに「明和庚寅七月二十八日」との記載あり	III-231
152	当用之巻	袋綴装 大和綴	1冊	明和四年丁亥三月八日	飯岡孝淑(善山)謹写		24.3×17.2	半紙	8	共紙表紙, 外題直書「当用之巻 全」, 奥書「明和四年丁亥三月八日飯岡孝淑謹写(花押)」, 「当用之目録」(差出:小笠原大膳大夫長時, 同右近大夫貞慶ほか4名, 宛所:井村十三郎殿, 享保十八年丑二月廿五日付)の写し, 虫損大	III-232
153	乙酉三月登京記	横半帳	1冊	明和乙酉(2年)三月十三日~廿三日	(善山カ)		12.4×17.2	半紙	12	共紙表紙, 外題直書「乙酉三月登京記」, 虫損大	III-227
154	己丑東行記	横半帳	1冊	明和己丑(6年)三月十五日~十九日	(善山カ)		12.2×17.0	半紙	12	共紙表紙, 外題直書「己丑東行記」, 校訂(墨), 注記(朱), 虫損大	III-228

文書・記録類

番号	名称	材質形状	員数	年代	作成者	宛所	法量	料紙	丁数	備考	管理番号
155	善山日記(明和4~5年)	横半帳	1冊	明和四年丁亥十月十五日~明和五年戊子之十二月廿一日	(善山)		12.1×17.3	半紙	38	共紙表紙, 外題直書「日記」, 表紙墨書「自明和四年丁亥十月十五日」, 綴じ糸外れ	III-229
156	懷中	袋綴装 三ツ目綴	1冊	江戸中期カ			7.4×16.3	楮紙	25	紺表紙, 外題直書「懷中」, 校訂(墨), 頭点(朱), 返点(墨), 仮名(墨), 送り仮名(墨), 見返「寂斎先生」, 最終丁ウより上下を逆にして「道中着服次第」を記載	III-234
157	東行手記巻	状	1通	(寛政9年)三月十二日~四月十一日	(頼山陽)		13.5×113.3	漉返紙 (墨染)		外箱: 杉台差箱(22.2×8.8×8.2), 側板貼紙「山陽先生東行手記巻 広島頼家蔵」, 同・朱文長方印「嶺松廬」1顆, 内箱: 桐印籠蓋箱(20.1×6.8×6.3), 蓋表「山陽先生東行手記巻」, 蓋裏「広島頼家蔵」, 底板貼紙「山陽先生東行手記巻 広島頼家蔵」, 同・朱文長方印「嶺松廬」1顆, I-62「和歌短冊」と共箱, 包裂「山陽先生東行日記 一卷 松雨山房蔵」, 同・朱文方印「松雨山房」1顆, 端書「日記 略々申上候 後便之節, くわしく書認上可申候」, 端裏書「日記」, 紙背墨書「おとお二御やり可被下候 書状もやりたく存候へ共 後便之事と存候」	I-61
158	〔御祠堂告文〕(頼杏坪の御納戸奉行上席格御城郡方役所詰拝命につぎ)	状	1通	文化八年歳次辛未八月丁未朔日	惟完		20.6×52.3	小半紙		「孝玄孫御側詰同格学問所教授惟完」	III-80
159	文筌小言	袋綴装 大和綴	1冊	宝暦辛巳(11年)秋八月	青珪(頼春水)		19.5×10.4	小半紙	13	首題「文筌小言」, 奥書「宝暦辛巳秋八月 青珪書」, 注記(墨), 返点(墨), 送り仮名(墨), 綴じ糸外れ	III-87
160	春水先生講義 大学章句序	状	7点	江戸後期			24.7×17.0	半紙	6	注記(墨), 3丁と切断紙4枚(うち2枚は接続), 水損甚	III-131-4
161	頼弥太郎惟完系図伝記(文化2年)	袋綴装 大和綴	1冊	文化二年乙丑九月	頼弥太郎惟完		28.4×21.5	楮紙	9	封筒(30.0×11.0)にてIII-100-1~2を一括, 封筒「頼弥太郎惟完系図伝記 ひかへ」, 共紙表紙, 外題直書「頼弥太郎惟完系図伝記」, 表紙朱書「△此処江』△」, 貼紙に墨書, 奥書「文化二年乙丑九月, 頼弥太郎惟完」, 校訂(墨・朱), 注記(貼紙に墨)	III-100-1
162	頼弥太郎惟完系図伝記(文化3年)	袋綴装 大和綴	1冊	文化三年丙寅九月	頼弥太郎		27.3×20.2	楮紙	14	共紙表紙, 外題直書「頼弥太郎惟完系図伝記」, 表紙墨書「草稿」, 奥書「文化三年丙寅九月, 頼弥太郎」, III-100-1の浄書控	III-100-2
163	頼様御勤書 写し	仮綴	1綴	天明元丑年十二月十七日~文化十二年四月六日			29.0×23.0	諸口紙	6	共紙表紙, 外題直書「頼様御勤書 写し」	III-101
164	〔覚書〕(飲食之事, 衣服頭髮之事ほか)	状	1通	江戸後期	頼春水		11.8×11.1	半紙			III-123-25
165	覚(堀大弥帰京之節, 名古屋表立寄墓参等願書写)	状	1通	江戸後期	(頼春水カ)	御小姓頭衆様	25.0×34.2	半紙		端裏書(頼春水筆)「江戸用 堀大弥帰京之節名古屋表立寄墓参等願書のうつし」	III-123-30-1
166	覚(堀大弥稽古他出并御上屋敷共夜通り願書写)	状	1通	江戸後期	(頼春水カ)		25.0×34.3	半紙		端裏書(頼春水筆)「堀大弥稽古他出并御上屋敷共夜通り願書のうつし」	III-123-30-2
167	〔学問所当番日割表〕	状	1通	江戸後期	(頼春水)		28.6×44.5	罫紙 (諸口紙)		「春水遺響 五」(『広島県史 近世資料編VI』No.7)所収のものとは内容が異なる	III-124-10
168	御家御家譜(浅野長政公~斉賢公)	状	1通	江戸後期	(頼春水)		60.2×24.2	竹紙		剥離(7.1×24.3, 竹紙・裏打有)あり, 題箋(18.7×7.1, 糊離れカ)「御家御家譜」	III-135-1

文書・記録類

番号	名称	材質形状	員数	年代	作成者	宛所	法量	料紙	丁数	備考	管理番号
169	〔御家御家譜〕(浅野頼隆～重晟公)	状	1通	江戸後期	(頼春水)		34.8×24.5	楮紙打紙			Ⅲ-135-2
170	御儒医	状	1通	(享保2～3年頃)	(頼春水)		12.3×92.0	半紙		端裏書『享和二三年之比之儒医』,「四千八百九十八石 四百六十六人ふち 〆五十人斗 右享保之比」との記載あり	Ⅲ-135-8
171	〔御祠堂告文〕(舜燾の学館訓導局助員就任につき)	状	1通	文化六年己巳十月十五日	孝玄孫惟完(頼春水)		21.0×48.8	小半紙			Ⅲ-137-1
172	〔御祠堂告文〕(元鼎の訓導助員就任につき)	状	1通	文化七年歲次庚午四月望	孝玄孫惟完(頼春水)		21.1×39.5	小半紙			Ⅲ-137-2
173	〔御祠堂告文〕(舜燾娶香川氏之女につき)	状	1通	文化十年歲次癸酉二月乙卯己亥朔越己未	孝玄孫御側詰同格国学教儒惟(完)		24.7×34.1	半紙			Ⅲ-137-3
174	〔御祠堂告文〕(惟柔の知行百拾石加増及び三次・恵蘇郡代官就任等につき)	状	1通	文化十年歲次癸酉十一月朔	孝玄孫惟完(頼春水)		16.2×39.5	三桮紙(薄藍色)			Ⅲ-137-4
175	〔御祠堂告文〕(惟完の御歩行頭次席就任・加増及び元鼎の学問所句読師本勤就任につき)	状	1通	文化十年歲次癸酉十一月十五日	孝玄孫惟完(頼春水)		16.3×48.2	三桮紙(黄染)			Ⅲ-137-5
176	〔家祭年中行事控〕	折本装	1冊	(文化五年頃)	(頼春水)		21.0×13.5	小半紙	24	校訂(貼紙に墨),小竹佐知子・大久保恵子「頼家家祭年中行事控」の翻刻と解説(『山梨県立女子短大紀要』第35号,2002年)に翻刻	Ⅲ-141
177	〔御祠堂御供控〕(甲子～乙丑)	折本装	1冊	甲子(文化元年)二月朔～乙丑(文化2年)十月廿八日	(頼春水)		21.1×13.2	小半紙	21	端裏書『文化元年 文化二年』	Ⅲ-142-1
178	〔御祠堂御供控〕(丙寅～丁卯)	折本装	1冊	丙寅(文化3年)二月一日～丁卯(文化4年)十月廿八日	(頼春水)		20.8×13.2	小半紙	21	端裏書『文化三年 文化四年』	Ⅲ-142-2
179	〔御祠堂御供控〕(戊辰～己巳)	折本装	1冊	戊辰(文化5年)二月朔日～己巳(文化6年)十月廿八日	(頼春水)		20.8×13.2	小半紙	21	端裏書『文化五年 文化六年』	Ⅲ-142-3
180	〔御祠堂御供控〕(庚午～辛未)	折本装	1冊	庚午(文化7年)二月朔～辛未(文化8年)十月廿八日	(頼春水)		20.8×13.2	小半紙	21	端裏書『文化七年 文化八年』	Ⅲ-142-4

文書・記録類

番号	名称	材質形状	員数	年代	作成者	宛所	法量	料紙	丁数	備考	管理番号
181	[御祠堂御供控] (壬申～癸酉)	仮綴	1 綴	壬申(文化9年)二月朔～癸酉(文化10年)十月廿四日	(頼春水)		20.8×13.2	小半紙	19	「同月(癸酉十月)廿八日ノ紛失」との記載あり	Ⅲ-142-5
182	逸史御写本一件控	横帳	1 冊	文化二年乙丑	(頼春水)		12.5×34.3	半紙	6	共紙表紙, 外題直書「逸史御写本一件控」, 表紙墨書「文化二年乙丑」, 注記(朱), 4丁目ウに書付(14.2×27.6, 色諸口紙, 差出: 築山嘉平, 宛所: 頼弥太郎様, 七月十三日付), 5丁目オに書付(14.0×27.0, 色諸口紙, 差出: 築山嘉平, 宛所: 頼弥太郎様, 七月十一日付), 6丁目オに書付(12.4×21.5, 半紙, 七月十四日付)を貼付	Ⅲ-156-1
183	逸史御写本写達万控	横帳	1 冊	乙丑(文化2年)正月廿一日	(頼春水)		12.3×34.0	半紙	7	共紙表紙, 外題直書「逸史御写本写達万控」, 表紙墨書「乙丑正月廿一日」, 校訂(墨), 注記(朱), 寛(12.4×29.9, 半紙)挟込	Ⅲ-156-2
184	逸史写渡控	横帳	1 冊	乙丑(文化2年)正月廿一日	(頼春水)		12.4×34.0	半紙	8	共紙表紙, 外題直書「逸史写渡控」, 表紙墨書「乙丑正月廿一日」, 校訂(墨)	Ⅲ-156-3
185	寛(逸史御写本御入用)	状	1 通	(文化2年)七月	(頼春水)		12.4×72.2	半紙		校訂(朱), 注記(付紙[糊離れあり]に墨)	Ⅲ-156-4
186	寛(逸史御写本御入用)	折紙	1 通	(文化2年)七月	(頼春水)		12.4×34.4	半紙		校訂(朱)	Ⅲ-156-5
187	[包紙]	状	1 通	江戸後期	(頼春水)		28.5×32.0	諸口紙		上書「逸史御写本一件」「逸史写本一件 此分古紙也」『尤見合候義も可有』いたし候欵	Ⅲ-156-6
	[御供物控] (寛政2～9年)	一紙貼継	1 巻							Ⅲ-170-1～64まで貼継	Ⅲ-170
188	1) [表紙]	状	1 通		(頼春水)		18.5×20.7	楮紙		外題直書「寛政二年庚戌卯九年丁巳マテ時祭忌祭食単」	Ⅲ-170-1
188	2) [頼惟清忌祭御献立] (寛政4年)	状	1 通	寛政四年壬子二月朔日	(頼春水)		15.7×17.5	杉原紙		端書「壬子二月朔」, 端裏書「寛政四年壬子」, 小竹佐知子・大久保恵子「「頼家忌祭献立」の翻刻と解説—その三 四代—」(お茶の水女子大学大学院人間文化研究科『人間文化論叢』第7巻, 2004年)に翻刻	Ⅲ-170-2
188	3) [妙意忌祭御献立] (寛政4年)	状	1 通	(寛政4年)壬子三月十五日, 十八日	(頼春水)		16.2×21.8	杉原紙		端裏書『三月十五日』『十八日』, 端裏書「壬子三月十五日 十八日 忌祭」, 妙意は三代善祐の妻, 大久保恵子・小竹佐知子「「頼家忌祭献立」の翻刻と解説—その二 三代およびその弟達—」(お茶の水女子大学大学院人間文化研究科『人間文化研究年報』第27号, 2004年)に翻刻	Ⅲ-170-3
188	4) [妙蓮忌祭御献立] (寛政4年)	状	1 通	(寛政4年)四月十七日	(頼春水)		16.3×25.5	杉原紙		端書「四月十七日」, 妙蓮は四代亨翁(惟清)の妻	Ⅲ-170-4
188	5) [妙同忌祭御献立] (寛政5年)	状	1 通	癸丑(寛政5年)五月十三日	(頼春水)		19.1×27.7	諸口紙		端書「癸丑五月十三日 御献立」, 注記(朱), 妙同は初代道円の妻, 小竹佐知子・大久保恵子「「頼家忌祭献立」の翻刻と解説—その一 初代・二代—」(お茶の水女子大学大学院人間文化研究科『人間文化研究年報』第26号, 2003年)に翻刻	Ⅲ-170-5
188	6) [妙同忌祭御献立] (寛政7年)	状	1 通	乙卯(寛政7年)五月十三日	(頼春水)		14.2×20.2	諸口紙		端書「乙卯五月十三日」, Ⅲ-170-5の上に貼付	Ⅲ-170-6
188	7) [妙喜忌祭御献立] (寛政5年)	状	1 通	癸丑(寛政5年)九月六日	(頼春水)		14.5×15.8	諸口紙		端書「癸丑九月六日」, 妙喜は二代道喜の妻	Ⅲ-170-7

文書・記録類

番号	名称	材質形状	員数	年代	作成者	宛所	法量	料紙	丁数	備考	管理番号
188	8)〔妙喜忌祭御献立〕(寛政6年)	状	1通	(寛政6年)九月六日	(頼春水)		14.4×24.0	諸口紙		端書「九月六日」, III-170-7の端に貼付	III-170-8
188	9)〔妙喜忌祭御献立〕(寛政7年)	状	1通	乙卯(寛政7年)九月六日	(頼春水)		14.5×18.4	諸口紙		端書「乙卯九月六日」, III-170-7の奥に貼付	III-170-9
188	10)〔善祐忌祭御献立〕(寛政5年)	状	1通	癸丑(寛政5年)十月五日	(頼春水)		16.5×24.6	杉原紙		端書「癸丑十月五日」	III-170-10
188	11)〔善祐忌祭御献立〕	状	1通	十月五日	(頼春水)		14.5×20.7	諸口紙		端書「十月五日」, III-170-10の上に貼付	III-170-11
188	12)〔道喜忌祭御献立〕	状	1通	十月廿四日	(頼春水)		14.2×18.8	諸口紙		校訂(墨), 端書「乙卯」を墨抹	III-170-12
188	13)〔善祐忌祭御献立〕(文化元年)	状	1通	甲子(文化元年)十月五日	(頼春水)		14.5×18.5	諸口紙		III-170-14の上に貼付	III-170-13
188	14)〔道喜忌祭御献立〕(文化元年)	状	1通	甲子(文化元年)十月廿四日	(頼春水)		14.5×18.9	諸口紙		III-170-12の上に貼付	III-170-14
188	15)〔御献立〕(寛政二年庚戌八月廿五日安置一祭)	状	1通	寛政二年庚戌八月廿五日	(頼春水)		14.5×32.5	諸口紙		端裏書「寛政二年庚戌八月廿五日安置一祭」, 注記(付紙に墨)	III-170-15
188	16)〔御献立〕(寛政三年帰自江戸辛亥十二月十五日祭礼食单)	状	1通	寛政三年辛亥十二月十五日	(頼春水)		15.8×20.7	杉原紙		端裏書「寛政三年帰自江戸辛亥十二月十五日祭礼 食单」	III-170-16
188	17)時祭十一月十日献立(寛政5年)	状	1通	寛政五年十一月十日	(頼春水)		16.2×36.8	杉原紙		端裏書「癸丑寛政五年」	III-170-17
188	18)〔御献立〕(寛政7年2月15日時祭)	状	1通	乙卯(寛政7年)二月十五日	(頼春水)		16.0×23.4	杉原紙		端裏書「乙卯時祭」, 校訂(貼紙に墨)	III-170-18
188	19)〔御献立〕(寛政七年乙卯八月廿五日叔父大人至自竹原)	状	1通	寛政七年乙卯八月廿五日	(頼春水)		15.6×30.2	杉原紙		端裏書「寛政七年乙卯八月廿五日叔父大人至自竹原」	III-170-19
188	20)〔御献立〕(寛政八年丙辰二月一日)	状	1通	丙辰(寛政8年)二月一日	(頼春水)		16.2×20.4	杉原紙			III-170-20
188	21)〔御献立〕(三月十五日, 十八日)	状	1通	三月十五日, 十八日	(頼春水)		15.9×24.3	杉原紙			III-170-21
188	22)〔御献立〕(四月十七日)	状	1通	四月十七日	(頼春水)		16.7×21.1	杉原紙			III-170-22
188	23)〔御献立〕(五月十三日)	状	1通	五月十三日	(頼春水)		16.5×21.4	杉原紙			III-170-23
188	24)〔御献立〕(九月六日)	状	1通	九月六日	(頼春水)		16.6×18.5	杉原紙			III-170-24
188	25)〔御献立〕(十月五日)	状	1通	十月五日	(頼春水)		16.6×22.3	杉原紙			III-170-25
188	26)〔御献立〕(寛政八年丙辰十月廿四日)	状	1通	丙辰(寛政8年)十月廿四日	(頼春水)		16.7×25.6	杉原紙		端裏書「寛政八年」	III-170-26
188	27)〔御献立〕(寛政八年丙辰八月廿五日)	状	1通	丙辰(寛政8年)八月廿五日	(頼春水)		16.6×29.0	杉原紙		端裏書「寛政八年」	III-170-27

文書・記録類

番号	名称	材質形状	員数	年代	作成者	宛所	法量	料紙	丁数	備考	管理番号
188	28)〔御献立〕(寛政六年甲寅二月二十日時祭)	状	1通	寛政六年春甲寅二月二十日	(頼春水)		16.3×28.5	杉原紙		端裏書「寛政六年春甲寅時祭」	Ⅲ-170-28
188	29)〔御献立〕(寛政六年甲寅十月廿日時祭)	状	1通	冬甲寅十月廿日	(頼春水)		16.1×19.5	杉原紙		端裏書「冬甲寅時祭」	Ⅲ-170-29
188	30)〔御献立〕(寛政九年丁巳二月一日)	状	1通	寛政九年丁巳二月一日	(頼春水)		16.2×25.0	杉原紙			Ⅲ-170-30
188	31)〔御献立〕(寛政九年丁巳二月廿五日)	状	1通	寛政九年丁巳二月廿五日	(頼春水)		16.4×26.0	杉原紙		端裏書「寛政九年」	Ⅲ-170-31
188	32)〔御献立〕(寛政九年丁巳三月十五日)	状	1通	丁巳(寛政9年)三月十五日	(頼春水)		16.9×26.5	杉原紙			Ⅲ-170-32
188	33)〔御献立〕(寛政九年丁巳四月十七日)	状	1通	丁巳(寛政9年)四月十七日	(頼春水)		16.4×25.0	杉原紙			Ⅲ-170-33
188	34)〔御献立〕(寛政九年巳四月晦日禪祭御献立)	状	1通	巳(寛政9年)四月晦日	(頼春水)		14.5×27.2	諸口紙		端裏書「巳四月晦日禪祭御献立」	Ⅲ-170-34
188	35)〔御献立〕(寛政九年丁巳五月十三日)	状	1通	丁巳(寛政9年)五月十三日	(頼春水)		16.5×21.9	杉原紙			Ⅲ-170-35
188	36)〔御献立〕(寛政九年丁巳八月廿五日)	状	1通	寛政九年丁巳八月廿五日	(頼春水)		16.4×31.3	杉原紙		端裏書「寛政九年」,校訂(貼紙に墨)	Ⅲ-170-36
188	37)〔御献立〕(寛政九年丁巳九月六日)	状	1通	丁巳(寛政9年)九月六日	(頼春水)		16.3×19.4	杉原紙			Ⅲ-170-37
188	38)〔御献立〕(寛政九年丁巳十月五日)	状	1通	丁巳(寛政9年)十月五日	(頼春水)		16.0×24.7	杉原紙			Ⅲ-170-38
188	39)〔御献立〕(寛政九年丁巳十月廿四日)	状	1通	寛政九丁巳十月廿四日	(頼春水)		16.0×22.1	杉原紙		端裏書「寛政九」	Ⅲ-170-39
188	40)〔御献立〕(寛政十年戊午二月廿日)	状	1通	寛政十年戊午二月廿日	(頼春水)		16.8×34.8	杉原紙		端裏書「寛政十年」	Ⅲ-170-40
188	41)〔御献立〕(寛政十年戊午八月十一日)	状	1通	寛政十年戊午八月十一日	(頼春水)		15.9×31.0	杉原紙		端裏書「寛政十年」	Ⅲ-170-41
188	42)〔御献立〕(寛政十年戊午二月一日)	状	1通	寛政十年戊午二月一日	(頼春水)		15.8×23.1	杉原紙		端裏書「寛政十年」	Ⅲ-170-42
188	43)〔御献立〕(寛政十年戊午三月十五日,十八日)	状	1通	(寛政10年)戊午三月十五日,十八日	(頼春水)		16.8×23.2	杉原紙			Ⅲ-170-43
188	44)〔御献立〕(寛政十年戊午四月十七日)	状	1通	(寛政10年)戊午四月十七日	(頼春水)		16.0×24.0	杉原紙			Ⅲ-170-44

文書・記録類

番号	名称	材質形状	員数	年代	作成者	宛所	法量	料紙	丁数	備考	管理番号
188	45)〔御献立〕(五月十三日)	状	1通	(江戸後期)五月十三日	(頼春水)		16.0×27.3	杉原紙			Ⅲ-170-45
188	46)〔御献立〕(寛政十年戊午七月十一日)	状	1通	(寛政10年)戊午七月十一日	(頼春水)		15.7×22.7	杉原紙			Ⅲ-170-46
188	47)〔御献立〕(寛政十年戊午九月六日)	状	1通	(寛政10年)戊午九月六日	(頼春水)		15.9×22.2	杉原紙			Ⅲ-170-47
188	48)〔御献立〕(寛政十年戊午十月五日)	状	1通	寛政十年戊午十月五日	(頼春水)		15.9×26.6	杉原紙		端裏書「寛政十年」	Ⅲ-170-48
188	49)〔御献立〕(寛政十年戊午十月廿四日)	状	1通	(寛政10年)戊午十月廿四日	(頼春水)		16.0×20.9	杉原紙			Ⅲ-170-49
188	50)〔御献立〕(寛政十年戊午十月廿八日)	状	1通	寛政十年戊午十月廿八日	(頼春水)		15.6×18.0	杉原紙		端裏書「寛政十年戊午 全」	Ⅲ-170-50
188	51)〔御献立〕(享和三年癸亥二月朔日)	状	1通	享和三年癸亥二月朔日	(頼春水)		14.1×17.2	諸口紙			Ⅲ-170-51
188	52)〔御献立〕(三月十八日)	状	1通	三月十八日	(頼春水)		14.1×17.7	諸口紙			Ⅲ-170-52
188	53)〔御献立〕(四月十七日)	状	1通	四月十七日	(頼春水)		14.1×18.1	諸口紙			Ⅲ-170-53
188	54)〔御献立〕(五月十三日)	状	1通	五月十三日	(頼春水)		14.2×18.0	諸口紙			Ⅲ-170-54
188	55)〔御献立〕(享和三年癸亥七月十八日)	状	1通	(享和3年)癸亥七月十八日	(頼春水)		16.6×19.6	杉原紙			Ⅲ-170-55
188	56)〔御献立〕(享和三年癸亥九月六日)	状	1通	(享和3年)癸亥九月六日	(頼春水)		16.6×23.2	杉原紙		端裏貼紙「寛政十年戊午 享和元年辛酉 享和三年癸亥 忌祭献立」	Ⅲ-170-56
188	57)〔御献立〕(三月廿五日)	状	1通	三月廿五日	(頼春水)		14.1×18.5	諸口紙		端裏書「享和元年辛酉五月十六日江戸ヨリ御供ニテ帰宅 未一年ノ分共二月一日ノ分紛失」	Ⅲ-170-57
188	58)〔御献立〕(三月十八日)	状	1通	三月十八日	(頼春水)		15.9×21.8	杉原紙			Ⅲ-170-58
188	59)〔御献立〕(四月十七日)	状	1通	四月十七日	(頼春水)		14.2×17.2	諸口紙			Ⅲ-170-59
188	60)〔御献立〕(五月十三日)	状	1通	五月十三日	(頼春水)		14.4×16.7	諸口紙			Ⅲ-170-60
188	61)〔御献立〕(享和元年辛酉九月六日)	状	1通	辛酉(享和元年)九月六日	(頼春水)		16.5×27.9	杉原紙			Ⅲ-170-61
188	62)〔御献立〕(享和元年辛酉十月五日)	状	1通	辛酉(享和元年)十月五日	(頼春水)		16.7×25.6	竹紙			Ⅲ-170-62
188	63)〔御献立〕(享和元年辛酉十月廿四日)	状	1通	辛酉(享和元年)十月廿四日	(頼春水)		16.8×25.6	竹紙			Ⅲ-170-63
188	64)〔御献立〕(十月廿八日)	状	1通	十月廿八日	(頼春水)		17.2×20.0	杉原紙		端裏書「享和元年辛酉二月一日ノ分 己未一年ノ分外書付共 外書付共紛失」	Ⅲ-170-64
	[時祭](寛政11～文化6年)	仮綴	1綴							紙縫にてⅢ-171-1～20まで一括	Ⅲ-171

文書・記録類

番号	名称	材質形状	員数	年代	作成者	宛所	法量	料紙	丁数	備考	管理番号
189	1)〔御献立〕(寛政十一年己未二月廿一日)	状	1通	寛政十一年己未二月廿一日	(頼春水)		15.6×29.2	杉原紙		端書「庚申春享食単紛失」, 端裏書「寛政十一年」, 小竹佐知子・大久保恵子「「頼家時祭献立」ならびに「その他の饗応献立」の翻刻と解説」(お茶の水女子大学大学院人間文化研究科『人間文化論叢』第10巻, 2008年)所収	Ⅲ-171-1
189	2)〔御献立〕(寛政十一年己未秋饗八月廿七日)	状	1通	寛政十一年己未秋饗八月廿七日	(頼春水)		17.0×35.5	杉原紙		端書「饗不見この三月江戸詰罷越」, 端裏書「寛政十一年」	Ⅲ-171-2
189	3)〔御献立〕(享和元年辛酉六月五日)	状	1通	享和元年六月五日	(頼春水)		16.5×34.7	杉原紙		端裏書「享和元年辛酉五月十六日御供二而帰家後, 御祭京より黒木具来初而相用」	Ⅲ-171-3
189	4)〔御献立〕(享和元年辛酉八月廿二日)	状	1通	享和元年辛酉八月廿二日	(頼春水)		17.4×33.7	杉原紙		端裏書「享和元年辛酉」	Ⅲ-171-4
189	5)〔御献立〕(享和二年壬戌二月廿九日)	状	1通	壬戌(享和2年)二月廿九日	(頼春水)		15.6×38.6	杉原紙			Ⅲ-171-5
189	6)〔御献立〕(享和二年壬戌秋饗八月四日)	状	1通	壬戌(享和2年)秋饗八月四日	(頼春水)		15.7×34.5	杉原紙			Ⅲ-171-6
189	7)〔御献立〕(享和三年癸亥六月廿一日江戸帰宅祭奠)	状	1通	享和三年癸亥六月廿一日	(頼春水)		16.7×29.8	杉原紙		端書「右江戸帰後五月十六日祭奠ハ時祭より手輕取計之事」	Ⅲ-171-7
189	8)〔御献立〕(享和三年癸亥八月廿四日秋饗)	状	1通	癸亥(享和3年)八月廿四日秋饗	(頼春水)		16.7×34.4	三桎紙(薄墨色)			Ⅲ-171-8
189	9)〔御献立〕(文化元年甲子二月廿二日)	状	1通	甲子(文化元年)二月廿二日	(頼春水)		15.5×35.7	杉原紙			Ⅲ-171-9
189	10)〔御献立〕(文化元年甲子八月五日)	状	1通	甲子(文化元年)八月五日	(頼春水)		15.4×30.1	杉原紙			Ⅲ-171-10
189	11)〔御献立〕(文化二年乙丑二月廿五日)	状	1通	乙丑(文化2年)二月廿五日	(頼春水)		15.5×32.1	杉原紙			Ⅲ-171-11
189	12)〔御献立〕(文化二年乙丑八月廿九日秋饗)	状	1通	乙丑(文化2年)八月廿九日	(頼春水)		16.4×36.0	杉原紙			Ⅲ-171-12
189	13)〔御献立〕(文化三年丙寅二月十六日奠)	状	1通	丙寅(文化3年)二月十六日奠	(頼春水)		16.7×39.6	杉原紙			Ⅲ-171-13
189	14)〔御献立〕(文化三年丙寅秋饗八月十一日)	状	1通	丙寅(文化3年)秋饗八月十一日	(頼春水)		17.0×34.4	杉原紙			Ⅲ-171-14
189	15)〔御献立〕(文化四年丁卯二月十又二日春饗)	状	1通	丁卯(文化4年)二月十又二日春饗	(頼春水)		15.5×36.7	杉原紙			Ⅲ-171-15

文書・記録類

番号	名称	材質形状	員数	年代	作成者	宛所	法量	料紙	丁数	備考	管理番号
189	16)〔御献立〕(文化四年丁卯秋饗八月十二日)	状	1通	丁卯(文化4年)秋饗八月十二日	(頼春水)		15.4×32.0	杉原紙			Ⅲ-171-16
189	17)〔御献立〕(文化五年戊辰春饗二月十四日)	状	1通	戊辰(文化5年)春饗二月十四日	(頼春水)		16.6×47.4	杉原紙			Ⅲ-171-17
189	18)〔御献立〕(文化五年戊辰八月廿一日)	状	1通	戊辰(文化5年)八月廿一日	(頼春水)		16.6×34.7	三桮紙(黄染)			Ⅲ-171-18
189	19)〔御献立〕(文化六年己巳二月廿二日)	状	1通	己巳(文化6年)二月廿二日	(頼春水)		16.4×38.1	杉原紙			Ⅲ-171-19
189	20)〔御献立〕(文化六年己巳秋饗八月廿二日)	状	1通	己巳(文化6年)秋饗八月廿二日	(頼春水)		16.3×45.6	杉原紙			Ⅲ-171-20
	[時祭](文化7～12年)	仮綴	1綴							紙繕にてⅢ-172-1～10まで一括	Ⅲ-172
190	1)〔御献立〕(文化八年辛未二月廿一日)	状	1通	辛未(文化8年)二月廿一日	(頼春水)		15.9×39.1	楮紙			Ⅲ-172-1
190	2)〔御献立〕(文化八年辛未秋享八月廿一日)	状	1通	辛未(文化8年)秋享八月廿一日	(頼春水)		15.4×41.0	杉原紙			Ⅲ-172-2
190	3)〔御献立〕(文化九年壬申二月廿一日春享)	状	1通	壬申(文化9年)二月廿一日春享	(頼春水)		16.2×45.0	三桮紙			Ⅲ-172-3
190	4)〔御献立〕(文化九年壬申秋饗八月廿二日)	状	1通	壬申(文化9年)秋饗八月廿二日	(頼春水)		16.6×43.5	雁皮紙			Ⅲ-172-4
190	5)〔御献立〕(文化十年癸酉春享)	状	1通	癸酉(文化10年)春享	(頼春水)		15.0×36.9	楮紙			Ⅲ-172-5
190	6)〔御献立〕(文化十年癸酉秋饗八月廿二日)	状	1通	癸酉(文化10年)秋饗八月廿二日	(頼春水)		15.0×39.0	楮紙			Ⅲ-172-6
190	7)〔御献立〕(文化十一年甲戌秋享八月廿九日)	状	1通	甲戌(文化11年)秋享八月廿九日	(頼春水)		16.5×53.0	雁皮紙			Ⅲ-172-7
190	8)〔御献立〕(文化七年庚午二月廿一日)	状	1通	庚午(文化7年)二月廿一日	(頼春水)		16.8×53.7	杉原紙			Ⅲ-172-8
190	9)〔御献立〕(文化七年庚午秋饗八月十日)	状	1通	庚午(文化7年)秋饗八月十日	(頼春水)		16.6×44.1	雁皮紙			Ⅲ-172-9

文書・記録類

番号	名称	材質形状	員数	年代	作成者	宛所	法量	料紙	丁数	備考	管理番号
190	10)〔御献立〕(文化十二年九月十一日秋享)	状	1通	乙亥(文化12年)九月十一日秋享	(頼春水)		16.0×49.2	三桮紙(萌黄色)			Ⅲ-172-10
191	壬申秋饗八月廿二日(文化九年)	状	1通	壬申(文化9年)八月廿二日	(頼春水)		16.4×42.2	雁皮紙			Ⅲ-173-1
192	〔道円忌祭御献立〕(文化12年)	状	1通	乙亥(文化12年)三月十五日	(頼春水)		20.9×26.7	小半紙		端書「乙亥三月十五日」	Ⅲ-174-38
193	〔覚書〕(歳暮～正月十六日までの献立)	状	1通	江戸後期	(頼春水)		14.3×70.0	楮紙(薄茶色)			Ⅲ-174-154
194	〔贈答品覚書〕	状	1通	江戸後期	(頼春水)		15.7×31.6	杉原紙		紙背墨書「御枝折」,反故紙使用	Ⅲ-174-155
195	〔覚書〕(献立および担当者)	状	1通	江戸後期	(頼春水)		15.5×29.7	杉原紙			Ⅲ-174-156
196	御悔帳	状	1通	江戸後期	(頼春水)		14.6×45.8	諸口紙		紙縫付属	Ⅲ-174-157
197	〔献立〕(可部屋保兵衛へ立寄り節之献立)	状	1通	丙辰(寛政8年)四月十日	(頼春水)		12.4×34.7	半紙		端書「丙辰四月十日与山口奥左衛門郊行,可部屋保兵衛へ立寄り節之献立」,書簡包紙の反故紙を使用,反故紙「頼弥太郎様 菅圭 御侍中」	Ⅲ-174-158
198	〔小片〕	状	1通	江戸後期	(頼春水)		14.5×5.5	諸口紙			Ⅲ-174-159
199	〔献立〕(戊午三月廿六日立石氏舟遊)	状	1通	戊午(寛政10年)三月廿六日	(頼春水)		14.1×33.6	諸口紙		端書「戊午三月廿六日立石氏舟遊」	Ⅲ-174-160
200	〔献立〕(戊午八月十六日坂井善夫宅賞月)	状	1通	戊午(寛政10年)八月十六日	(頼春水)		14.7×23.9	諸口紙		端書「戊午八月十六日坂井善夫宅賞月弟子禮助襄北川金五郎大久保塩次郎金子熊介」	Ⅲ-174-161
201	〔献立〕(己未三月九日,江田大人之御もてなし)	状	1通	己未(寛政11年)三月九日	(頼春水)		19.5×27.2	小半紙		端書「右江田大人之御もてなし」	Ⅲ-174-162
202	〔献立〕(己未十一月廿四日,多賀亭六合饗応)	状	1通	己未(寛政11年)十一月廿四日	(頼春水)		13.8×27.4	諸口紙			Ⅲ-174-163
203	〔献立〕(己巳二月三日,五日,十二日の宴献立)	状	1通	己巳(文化6年)二月三日,五日,十二日	(頼春水)		12.0×107.8	半紙		「己二月五日岩戸直次衛家内共打越」「二月十二日藤田新五郎宅,関蔵人有江戸饗宴」「己巳二月三日招梅園勝馬寺川庄助二子今春江戸行」	Ⅲ-174-164
204	〔献立〕(己巳二月廿七日養花園饗応)	状	1通	己巳(文化6年)二月廿七日	(頼春水)		12.2×23.7	半紙		後欠	Ⅲ-174-165
205	〔献立〕(文化六年十月植田正次郎宅)	状	1通	文化六年十月	(頼春水)		12.4×34.5	半紙		端裏書「文化六年十月植田正次郎宅」	Ⅲ-174-166
206	〔献立〕(壬申十月八日為春堂観菊,同十月十日来々園観菊)	状	1通	壬申(文化9年)十月八日,十日	(頼春水)		15.7×59.8	奉書紙		「為春堂観菊壬申十月八日」「来々園観菊同上十月十日」との記載あり	Ⅲ-174-167
207	〔献立〕(正善老僧春宴)	状	1通	江戸後期	(頼春水)		16.4×45.8	楮紙			Ⅲ-174-168

文書・記録類

番号	名称	材質形状	員数	年代	作成者	宛所	法量	料紙	丁数	備考	管理番号
208	[献立](極月九日生花楼)	状	1通	極月九日	(頼春水)		14.2×40.6	諸口紙			Ⅲ-174-169
209	献立	状	1通	江戸後期	(頼春水)		14.2×91.1	諸口紙		校訂(朱)	Ⅲ-174-170
210	[献立]	状	1通	江戸後期	(頼春水)		14.4×45.9	諸口紙		前欠	Ⅲ-174-171
211	[献立](栄次郎茶献立)	状	1通	江戸後期	(頼春水)		11.9×85.7	半紙		端裏書「栄次郎茶献立」「杏坪一采真一◎」	Ⅲ-174-172
212	御献立	状	1通	江戸後期	(頼春水)		14.2×12.6	諸口紙		端裏書「藤田 前崎 □□□守 杉田直□」	Ⅲ-174-173
213	[達書]	状	1通	四月六日, 十一日	(頼春水)		13.9×41.0	諸口紙			Ⅲ-175-1
214	[御献立](頼惟清奠供・文化十一年二月朔日)	状	1通	甲戌(文化11年)二月朔日	(頼春水)		20.7×26.1	小半紙			Ⅲ-176-2-1
215	[御献立](頼惟清奠供・文化十二年二月朔日)	状	1通	乙亥(文化12年)二月朔	(頼春水)		21.0×28.0	小半紙			Ⅲ-176-2-9
216	[御献立](妙意夫人奠供・文化十二年三月十八日)	状	1通	乙亥(文化12年)三月十八日	(頼春水)		20.9×26.7	小半紙			Ⅲ-176-4-2
217	[御献立](妙蓮夫人奠供・文化十二年四月十七日)	状	1通	乙亥(文化12年)四月十七日	(頼春水)		20.8×26.8	小半紙			Ⅲ-176-5-5
218	[御献立](妙喜夫人奠供・文化十二年九月六日)	状	1通	乙亥(文化12年)九月六日	(頼春水)		20.8×26.8	小半紙			Ⅲ-176-6-2
219	[御献立](善祐大人奠供・文化十二年十月五日)	状	1通	乙亥(文化12年)十月五日	(頼春水)		22.1×28.1	小半紙			Ⅲ-176-7-2
220	[御献立](道喜大人奠供・文化十二年十月廿四日)	状	1通	乙亥(文化12年)十月廿四日	(頼春水)		20.9×26.6	小半紙			Ⅲ-176-8-4
221	[御告文](襲封十世孝孫芸備両国守護従四位下侍従兼安藝守護致祭)	状	1通	文化七年庚午四月七日	(頼春水)		51.1×65.7	鳥の子紙		端裏貼紙(13.9×3.1, 色諸口紙)「此分ニ可被仰付候事」, 校訂(貼紙に墨)	Ⅲ-330-4
222	[覚書](行列の参列者に関する覚書一部分)	仮綴	1綴	江戸後期	(頼春水カ)		17.2×8.2	半紙	2	校訂(付紙に墨), 注記(朱)	Ⅲ-334-14
223	仙洞新御所遷幸御行列	仮綴	1綴	寛政二年庚戌十一月廿六日	(頼春水)		19.0×7.4	楮紙	26	共紙表紙, 外題直書「仙洞新御所遷幸御行列」, 表紙墨書「寛政二年庚戌十一月廿六日」	Ⅲ-334-31
224	[銘文写](浅野吉長護国奉納銘文)	状	1通	江戸後期	(頼春水)		38.6×28.2	諸口紙		端裏書「裏カエシアリ」	Ⅲ-336-27
225	草茅危言 卷之一 (頼春水書写)	状	54丁	(寛政年間カ)	(頼春水)		29.2×23.2	諸口紙	54	首題「草茅危言 卷之一」, 校訂(墨), 各丁オ右下に丁数記載(「五十四」~「五十八」まで落丁), 短冊1点同封	Ⅲ-360-1
226	[頼家邸宅の設えにつき書付]	仮綴	1綴	(寛政2年頃)	(頼春水カ)		29.2 × 11.5 (最大)	諸口紙	26	紙縫にて26紙を一括, 紙背上部に糊跡あり, 校訂(墨), I-148-1「屋敷引渡帖」と内容が一致	Ⅲ-145-3
227	[修業堂薬品ノ会につき天野伝吉持参の雛小判・甲金・花降銀拓本]	拓本 状	1通	文化九年壬申十月十日	(頼春水)		19.7×27.7	楮紙			Ⅲ-348-5

文書・記録類

番号	名称	材質形状	員数	年代	作成者	宛所	法量	料紙	丁数	備考	管理番号
228	椎田犬追物馬場略図	紙本墨書・朱書 状	1通	江戸後期	(頼春水カ)		44.3×31.0	美濃紙		端裏書「細川家犬追物馬場図」, 本紙上部に「椎田犬追物馬場略図」	III-348-24
229	[浦上玉堂琴銘拓本]	拓本 状	1通	文化十年癸酉五月十日	(頼春水, 浦上玉堂カ)		25.8×19.5	楮紙			III-348-28
230	通祭小記・葬礼考・家祭安為式	袋綴装 四ツ目綴	1冊	江戸中期	頼春水		22.3×16.5	楮紙	94	茶表紙, 外題直書「通祭小記 葬礼考 家祭安為式」, 朱文長方印「頼」1顆, 「通祭小記」57丁, 「葬礼考」12丁, 「家祭安為式」25丁を合冊の上, 「神祇道服忌令」4丁, 「神主ヲ作ル説」1丁を合綴, 表紙裏に墨書「神主尺度」, 貼紙「四十四」あり	IV-430
231	1) [通祭小記]			江戸中期	(頼春水)		22.3×16.5	楮紙	57	識「元禄辛未季夏之朔 浅見安正謹識」, 仮名(墨), 返点(墨), 注記(墨)	IV-430-1
232	2) 徂徠先生葬礼考			明和乙酉(2年)	頼珪写(春水)		22.3×16.5	罨紙	12	首題「徂徠先生葬礼考」, 書写奥書「明和乙酉夏六月四日頼珪写」, 句点(朱), 注記(朱), 校正(墨), 柱題「芝園蔵」	IV-430-2
233	3) 家祭安為式			江戸中期	(頼春水)		22.3×16.5	罨紙	25	首題「家祭安為式」, 識「延享三丙寅夏五月山縣子祺謹識」, 「延享三丙寅夏五月仲田基謹撰」, 句点(朱), 注記(朱), 校正(墨)	IV-430-3
234	親尊服義 一	袋綴装 四ツ目綴	1冊	(天明8年)	(頼春水)		26.7×19.0	美濃紙	44	板帙(後補)にてIV-612-1~5を一括, 浅葱布目表紙, 外題直書「親尊服義 首巻」, 朱文長方印「頼」1顆, 注記(墨, 貼紙に墨), 句切点(朱), 小口書「親尊服義 一」, 背墨書「全五」, 不審紙あり	IV-612-1
235	親尊服義 二	袋綴装 四ツ目綴	1冊	(天明8年)	(頼春水)		26.7×19.0	美濃紙	43	浅葱布目表紙, 外題直書「親尊服義 第一」, 表紙墨書「正親服」, 朱文長方印「頼」1顆, 校訂(墨), 注記(墨, 貼紙に墨), 句切点(朱), 小口書「親尊服義 二」, 背墨書「全五」, 不審紙あり	IV-612-2
236	親尊服義 三	袋綴装 四ツ目綴	1冊	(天明8年)	(頼春水)		26.7×19.0	美濃紙	46	浅葱布目表紙, 外題直書「親尊服義 第二 第三 第四」, 表紙墨書「旁親 外親 雜制」, 朱文長方印「頼」1顆, 校訂(墨, 貼紙に墨・朱), 注記(墨), 小口書「親尊服義 三」, 背墨書「全五」	IV-612-3
237	親尊服義 四	袋綴装 四ツ目綴	1冊	(天明8年)	(頼春水)		26.7×19.0	美濃紙	50	浅葱布目表紙, 外題直書「親尊服義 第五」, 表紙墨書「君臣上」, 朱文長方印「頼」1顆, 校訂(墨, 貼紙に朱), 傍点(朱), 小口書「親尊服義 四」, 背墨書「全五」	IV-612-4
238	親尊服義 五	袋綴装 四ツ目綴	1冊	(天明8年)	(頼春水)		26.7×19.0	美濃紙	46	浅葱布目表紙, 外題直書「親尊服義 第六」, 表紙墨書「君臣下 儀礼 喪服」, 朱文長方印「頼」1顆, 校訂(墨・朱), 傍点(朱), 小口書「親尊服義 五」, 背墨書「全五」	IV-612-5
239	家礼儀節考 一	袋綴装 四ツ目綴	1冊	(天明2年)	(頼春水カ)		27.5×18.9	美濃紙	67	縹布目表紙, 外題直書「家礼儀節考 一」, 朱文長方印「頼」1顆, 校訂(墨), 小口書「家礼儀節考 一」, 背墨書「全三本」, 綴糸切れ	IV-655-1
240	家礼儀節考 二	袋綴装 四ツ目綴	1冊	(天明2年)	(頼春水カ)		27.4×18.8	美濃紙	61	縹布目表紙, 外題直書「家礼儀節考 二」, 朱文長方印「頼」1顆, 校訂(墨), 小口書「家礼儀節考 二 三 四」, 背墨書「全三本」, 綴糸切れ	IV-655-2
241	家礼儀節考 三	袋綴装 四ツ目綴	1冊	天明二年三月			27.5×18.9	美濃紙	76	縹布目表紙, 外題直書「家礼儀節考 三」, 奥書「天明二年三月以土肥氏所蔵白石先生真跡原本校之」, 朱文長方印「頼」1顆, 校訂(墨), 小口書「家礼儀節考 五 六 七 八」, 背墨書「全三本」, IV-655-1・2と外題は同筆(頼春水筆), 本紙は異筆, 綴糸切れ	IV-655-3
242	[倉敷岡惣佐衛門宅二持居候証文写し]	状	1通	江戸後期	(頼春水)		14.2×16.0	諸口紙			III-177-26
243	[大日本史写本献上口上書写]	仮綴	1綴	江戸後期			23.4×33.4	半紙(罨紙)	2	校訂(墨), 綴じ跡あり, 紙片1点同封	III-295-20

文書・記録類

番号	名称	材質形状	員数	年代	作成者	宛所	法量	料紙	丁数	備考	管理番号
244	[少将様へ之御礼錢に付御触書写]	状	1通	癸亥(享和3年)十二月御ふれ	(頼春水)		14.3×7.5	諸口紙			Ⅲ-295-22-5
245	[書付](構学所亥年中逗留門人人名控)	状	1通	江戸後期	(頼春水)		16.1×11.0	三椏紙			Ⅲ-295-22-6
246	[春風頼先生行状]写	袋綴装 大和綴	1冊	江戸後期	(頼聿庵)		24.6×17.0	罫紙 (半紙)	3	素紙表紙, 外題直書「春風頼先生行實」, 首題「春風頼先生行状」, 朱文長方印「頼氏必正楼」1顆, 罫紙版心「牛田山園蔵」	Ⅲ-55-1
247	[春風頼先生行状]写	袋綴装 大和綴	1冊	江戸後期	(頼聿庵)		25.0×17.5	半紙		首題「春風頼先生行状」, 注記(墨), 紙縫外れ	Ⅲ-55-2
248	[覚書](大学・洗心堂記の書写)	袋綴装 大和綴	1冊	江戸後期	(頼聿庵)		24.5×17.0	半紙	3	首題「大学」「洗心堂記」	Ⅲ-261
249	朝夕奠御献立 上(梅颯への御供)	仮綴	1綴	天保癸卯(14年)十二月十一日～廿四日			25.2×17.5	半紙	18	共紙表紙, 外題直書「朝夕奠御献立 上」	I-150-1
250	朝夕奠御献立 中(梅颯への御供)	仮綴	1綴	(天保14年12月)廿五日～甲辰(正月)十二日			25.2×17.3	半紙	20	共紙表紙, 外題直書「朝夕奠御献立 中」, 校訂(墨)	I-150-2
251	朝夕奠御献立 下(梅颯への御供)	袋綴装 大和綴	1冊	(弘化元年正月)十三日～二十九日			25.3×17.5	半紙	20	共紙表紙, 外題直書「朝夕奠御献立 下」, 校訂(貼紙に墨), 18～19丁の間に癸卯三月十八日献立(19.6×27.2, 三椏紙カ, 妙意忌祭)を挟込, 19丁目に「天保十五載甲辰二月四日 復識」との記載あり	I-150-3
252	[覚書](朔日から晦日までの読書の列記)	状	1通	江戸後期	(頼聿庵カ)		14.0×43.8/ 14.0×8.0	色諸口紙	2		Ⅲ-123-28
253	殿様御手書控	状	1通	江戸後期			16.4×129.7	杉原紙		端裏書「殿様御手書控」, ①正月三日付, 松平安芸守御判, 上杉弾正大弼様, ②六月付, 松平安芸守, 松平加賀守様人々御中, ③十二月付, 松平大膳大夫様人々御中の御手書控のほか, 「世並屋兄弟御聞」, 漢詩草稿を記載	Ⅲ-133-10
254	[人名録](頼餘一ほか46名)	状	1通	江戸後期			13.7×66.2	諸口紙			Ⅲ-135-7
255	[御祠堂告文草稿](元協の家俸百五十石拝領及び儒員就任につき)	状	1通	文化十三年四月廿七日	元協(頼聿庵)		14.4×21.7	諸口紙		校訂(墨)	Ⅲ-137-6
256	[御祠堂告文](元協の娶京都御留守居寺川茂次馬妹につき)	状	1通	文政五年歳次壬午八月十日	孝玄孫元協(頼聿庵)		21.1×27.0	小半紙			Ⅲ-137-7
257	[御祠堂告文](舜燾の国郡志編集御用仰付につき)	状	1通	文政五年歳次壬午八月廿五日	孝玄孫元協(頼聿庵)		17.0×65.0	奉書紙			Ⅲ-137-8
258	[御祠堂告文草稿](舜燾の国郡志編集御用仰付につき)	状	1通	文政五年歳次壬午八月廿五日	孝玄孫(頼聿庵)		14.2×46.4	諸口紙		Ⅲ-137-8の草稿	Ⅲ-137-9
259	[御祠堂告文](元協の知行三十石加増につき)	状	1通	天保九年歳次戊戌春正月上元	孝玄孫元協(頼聿庵)		14.1×35.7	諸口紙			Ⅲ-137-10

文書・記録類

番号	名称	材質形状	員数	年代	作成者	宛所	法量	料紙	丁数	備考	管理番号
260	〔御祠堂告文〕(佐一郎の知行五拾石加増につき)	状	1通	天保十三年歳次壬寅三月望	孝玄孫元協(頼事庵)		15.7×62.3	三桮紙(薄藍色・黄染)			Ⅲ-137-11
261	文政元年八月廿八日秋饗	状	1通	文政元年八月廿八日	(頼事庵)		22.0×55.1	小半紙			Ⅲ-173-2
262	文政元年八月廿八日秋饗	状	1通	文政元年八月廿八日	(頼事庵)		22.0×27.9	小半紙			Ⅲ-173-3
263	文政己丑春饗二月廿四日(文政二年)	状	1通	文政己丑(12年)二月廿四日	(頼事庵)		19.8×27.5	小半紙			Ⅲ-173-4
264	文政二年八月廿五日秋饗	状	1通	文政二年八月廿五日	(頼事庵)		21.0×53.3	小半紙			Ⅲ-173-5
265	庚辰二月廿六日春饗(文政三年)	状	1通	庚辰(文政三年)二月廿六日	(頼事庵)		21.2×54.0	小半紙			Ⅲ-173-6
266	辛巳二月廿九日春饗(文政四年)	状	1通	辛巳(文政四年)二月廿九日	(頼事庵)		22.0×55.0	小半紙			Ⅲ-173-7
267	文政四年八月廿六日秋饗	状	1通	文政四年八月廿六日	(頼事庵)		22.0×55.6	小半紙			Ⅲ-173-8
268	辛巳秋饗八月廿六日(文政四年)	状	1通	辛巳(文政四年)八月廿六日	(頼事庵)		16.5×39.0	楮紙			Ⅲ-173-9
269	壬午二月廿九日春饗(文政五年)	状	1通	壬午(文政五年)二月廿九日	(頼事庵)		24.8×34.6	半紙			Ⅲ-173-10
270	文政五壬午八月廿五日秋饗	状	1通	文政五壬午八月廿五日	(頼事庵)		17.0×51.0	杉原紙			Ⅲ-173-11
271	癸未二月廿九日(文政六年)	状	1通	癸未(文政六年)二月廿九日	(頼事庵)		16.6×42.5	楮紙			Ⅲ-173-12
272	文政六年癸未春饗二月廿九日	状	1通	文政六年癸未二月廿九日	(頼事庵)		16.6×42.6	楮紙			Ⅲ-173-13
273	〔御献立〕(文政六年癸未八月廿五日)	状	1通	文政六年癸未八月廿五日	(頼事庵)		16.6×57.0	楮紙(濃萌黄色)		校訂(朱)	Ⅲ-173-14
274	文政六年癸未八月廿五日秋饗	状	1通	文政六年癸未八月廿五日	(頼事庵)		20.0×55.9	小半紙			Ⅲ-173-15
275	甲申二月望春享(文政七年)	状	1通	甲申(文政七年)二月望	(頼事庵)		15.5×66.3	杉原紙			Ⅲ-173-16

文書・記録類

番号	名称	材質形状	員数	年代	作成者	宛所	法量	料紙	丁数	備考	管理番号
276	文政甲申閏八月廿八日秋享 (文政七年)	状	1通	文政甲申(7年)閏八月廿八日	(頼聿庵)		16.6×77.8	楮紙 (薄藍, 薄赤色)			Ⅲ-173-17
277	文政七年甲申閏八月廿八日秋享	状	1通	文政七年甲申閏八月廿八日	(頼聿庵)		19.5×27.6	小半紙			Ⅲ-173-18
278	乙酉二月春饗(文政八年)	状	1通	乙酉(文政8年)二月	(頼聿庵)		14.4×67.7	諸口紙			Ⅲ-173-19
279	文政八年乙酉八月廿五日秋饗	状	1通	文政八年乙酉八月廿五日	(頼聿庵)		15.7×64.6	杉原紙			Ⅲ-173-20
280	丙戌冬饗十一月晦日(文政九年)	状	1通	丙戌(文政9年)十一月晦日	(頼聿庵)		19.7×54.8	小半紙			Ⅲ-173-21
281	文政九年丙戌冬饗霜月晦日	状	1通	文政九年丙戌霜月晦日	(頼聿庵)		16.5×48.1	楮紙			Ⅲ-173-22
282	文政十年丁亥春饗二月廿七日	状	1通	文政十年丁亥二月廿七日	(頼聿庵)		14.5×51.9	諸口紙			Ⅲ-173-23
283	文政十年丁亥八月廿五日秋饗	状	1通	文政十年丁亥八月廿五日	(頼聿庵)		15.7×49.0	杉原紙			Ⅲ-173-24
284	戊子九月朔日秋享(文政十一年)	状	1通	戊子(文政11年)九月朔日	(頼聿庵)		14.2×45.3	諸口紙		端書『八月晦日下丁学問所丁祭成』	Ⅲ-173-25
285	乙未春祭(天保六年)	状	1通	乙未(天保6年)	(頼聿庵)		13.7×32.8	諸口紙		端裏書「乙未春祭」	Ⅲ-173-26
286	丙申二月廿九日春饗(天保七年)	状	1通	丙申(天保7年)二月廿九日	(頼聿庵)		16.3×44.2	杉原紙			Ⅲ-173-27
287	天保七年丙申八月廿五日秋享	状	1通	天保七年丙申八月廿五日	(頼聿庵)		33.1×47.2	杉原紙			Ⅲ-173-28
288	丁酉春二月廿九日春享(天保八年)	状	1通	丁酉(天保8年)春二月廿九日	(頼聿庵)		18.6×45.5	楮紙			Ⅲ-173-29
289	秋饗天保丁酉八月卅日(天保八年)	状	1通	天保丁酉(8年)八月卅日	(頼聿庵)		15.6×45.0	杉原紙			Ⅲ-173-30
290	天保九年戊戌春饗廿八日	状	1通	天保九年戊戌八月廿八日	(頼聿庵)		15.6×86.4	杉原紙			Ⅲ-173-31
291	辛丑三月春享(天保十二年)	状	1通	辛丑(天保12年)三月	(頼聿庵)		17.0×94.8	杉原紙		端裏書「春享 天保十二年」	Ⅲ-173-32
292	辛丑三月春享(天保十二年)	状	1通	辛丑(天保12年)三月	(頼聿庵)		16.9×95.0	杉原紙			Ⅲ-173-33

文書・記録類

番号	名称	材質形状	員数	年代	作成者	宛所	法量	料紙	丁数	備考	管理番号
293	辛丑八月廿五日秋享(天保十二年)	状	1通	辛丑(天保12年)八月廿五日	(頼事庵)		17.0×90.2	杉原紙			Ⅲ-173-34
294	天保壬寅春享二月廿八日(天保十三年)	状	1通	天保壬寅(天保13年)二月廿八日	(頼事庵)		14.2×82.2	諸口紙			Ⅲ-173-35
295	天保癸卯二月望春享(天保十四年)	状	1通	天保癸卯(天保14年)二月望	(頼事庵)		16.9×47.9	杉原紙			Ⅲ-173-36
296	癸卯九月望時祭(天保十四年)	状	1通	癸卯(天保14年)九月望	(頼事庵)		16.8×46.2	杉原紙			Ⅲ-173-37
297	弘化丙午三月春饗(弘化三年)	状	1通	弘化丙午(3年)三月	(頼事庵)		16.5×69.5	楮紙			Ⅲ-173-38
298	戊申二月廿九日春饗(嘉永元年)	状	1通	戊申(嘉永元年)二月廿九日	(頼事庵)		16.2×33.1	楮紙(薄藍色)			Ⅲ-173-39
299	八月廿八日御献立	状	1通	八月廿八日	(頼事庵)		14.1×46.1	諸口紙			Ⅲ-173-40
300	[頼景讓忌祭御献立](文政4年)	状	1通	辛巳(文政4年)正月廿八日	(頼事庵)		21.2×27.1	小半紙		端書「辛巳正月廿八日」, 大久保恵子・小竹佐知子「[頼家忌祭献立]の翻刻と解説—その四 五代・六代—」(お茶の水女子大学大学院人間文化研究科『人間文化論叢』第9巻, 2007年)所収	Ⅲ-174-1
301	[御献立](文政5年)	状	1通	壬午(文政5年)正月廿八日	(頼事庵)		21.1×27.1	小半紙		端書「壬午正月廿八日」	Ⅲ-174-2
302	[御献立](天保7年)	状	1通	丙申正月廿八日天保7年	(頼事庵)		19.5×27.7	小半紙		端書「丙申正月廿八日 天保七年」	Ⅲ-174-3
303	[御献立](天保9年)	状	1通	戊戌(天保9年)正月廿八日	(頼事庵)		19.2×26.5	小半紙		端書「戊戌正月廿八日」	Ⅲ-174-4
304	[御献立](天保10年)	状	1通	己亥(天保10)正月廿八日	(頼事庵)		19.9×27.9	小半紙		端書「己亥正月廿八日」	Ⅲ-174-5
305	[御献立](安政元年)	状	1通	甲寅(安政元年)正月廿八日	(頼事庵)		14.3×26.5	諸口紙		端書「甲寅正月廿八日」	Ⅲ-174-6
306	[御献立](安政2年)	状	1通	安政乙卯(2年)正月廿八日	(頼事庵)		19.8×27.5	小半紙		端書「乙卯正月廿八日」	Ⅲ-174-7
307	[御献立]	状	1通	正月廿八日	(頼事庵)		14.6×28.6	諸口紙		端書「花 正月廿八日」	Ⅲ-174-8
308	[御献立](天保14年)	状	1通	正月廿八日癸卯(天保14年)	(頼事庵)		12.3×18.8	半紙		端書「正月廿八日癸卯」	Ⅲ-174-9
309	[御献立](正月廿八日)	状	1通	正月廿八日	(頼事庵)		16.4×24.4	半紙		端書「正月廿八日 花」	Ⅲ-174-10

文書・記録類

番号	名称	材質形状	員数	年代	作成者	宛所	法量	料紙	丁数	備考	管理番号
310	〔頼惟清忌祭御献立〕(文化14年)	状	1通	丁丑(文化14年)二月朔日	(頼事庵)		19.5×27.4	小半紙		端書「丁丑二月朔日」	Ⅲ-174-11
311	〔御献立〕(文政9年)	状	1通	二月朔日丙戌(文政9年)	(頼事庵)		19.7×27.7	小半紙		端書「二月朔日 丙戌」	Ⅲ-174-12
312	〔御献立〕(文政10年)	状	1通	二月朔日丁亥(文政10年)	(頼事庵)		19.8×27.5	小半紙		端書「二月朔日 丁亥」	Ⅲ-174-13
313	〔御献立〕(文政11年)	状	1通	戊子(文政11年)二月朔日	(頼事庵)		19.7×27.4	小半紙		端書「戊子二月朔日」	Ⅲ-174-14
314	〔御献立〕(文政11年)	状	1通	戊子(文政11年)二月朔日	(頼事庵)		19.7×27.6	小半紙		端書「戊子二月朔日」, Ⅲ-174-14の途中までしか記さず	Ⅲ-174-15
315	〔御献立〕(天保2年)	状	1通	天保辛卯(2年)二月朔	(頼事庵)		19.9×27.7	小半紙		端書「天保辛卯二月朔」	Ⅲ-174-16
316	〔御献立〕(天保3年)	状	1通	天保三壬辰二月朔	(頼事庵)		18.8×24.8	楮紙		端書「天保三壬辰二月朔」	Ⅲ-174-17
317	〔御献立〕(天保5年)	状	1通	甲午(天保5年)二月朔	(頼事庵)		19.5×27.3	小半紙		端書「甲午二月朔」	Ⅲ-174-18
318	〔御献立〕(天保5年)	状	1通	甲午(天保5年)二月朔	(頼事庵)		19.5×27.6	小半紙		端書「甲午二月朔」, Ⅲ-174-18と字句に異同あり	Ⅲ-174-19
319	〔御献立〕(天保8年)	状	1通	二月朔丁酉(天保8年)のとし	(頼事庵)		14.3×34.1	諸口紙		端書「二月朔 丁酉のとし」	Ⅲ-174-20
320	〔御献立〕(安政元年)	状	1通	甲寅(安政元年)二月朔	(頼事庵)		14.3×28.5	諸口紙		端書「甲寅二月朔」, 白紙(14.5×10.4, 諸口紙, 糊離れカ)付属	Ⅲ-174-21
321	1)〔御献立〕	状	1通	二月朔日	(頼事庵)		13.9×19.4	諸口紙		端書「二月朔日」, Ⅲ-174-22-2の上に貼付	Ⅲ-174-22-1
321	2)〔御献立〕	状	1通		(頼事庵)		12.6×25.7	半紙			Ⅲ-174-22-2
322	〔御献立〕	状	1通	二月朔	(頼事庵)		19.6×27.7	小半紙		端書「二月朔」	Ⅲ-174-23
323	〔御献立〕	状	1通	二月朔日	(頼事庵)		14.3×23.7	諸口紙		端書「二月朔日」	Ⅲ-174-24
324	〔御献立〕	状	1通	巳二月朔	(頼事庵)		14.2×31.1	諸口紙		端書「巳二月朔」	Ⅲ-174-25
325	〔頼春水忌祭御献立〕(文化14年)	状	1通	丁丑(文化14年)二月十九日	(頼事庵)		22.2×28.0	小半紙		端書「丁丑二月十九日」, Ⅲ-176-3-6と関連	Ⅲ-174-26
326	〔御献立〕(文政5年)	状	1通	壬午(文政5年)二月十九日	(頼事庵)		24.7×34.5	半紙		端書「壬午二月十九日」	Ⅲ-174-27
327	〔御献立〕(文政8年)	状	1通	乙酉(文政8年)二月十九日	(頼事庵)		19.6×27.0	小半紙		端書「乙酉二月十九日」, Ⅲ-176-□と関連, 後欠カ	Ⅲ-174-28
328	〔御献立〕(文政9年)	状	1通	丙戌(文政9年)二月十九日	(頼事庵)		19.8×27.8	小半紙		端書「丙戌二月十九日」, Ⅲ-177-□と関連	Ⅲ-174-29

文書・記録類

番号	名称	材質形状	員数	年代	作成者	宛所	法量	料紙	丁数	備考	管理番号
329	〔御献立〕(文政9年)	状	1通	丙戌(文政9年)二月十九日	(頼事庵)		19.7×27.7	小半紙		端書「丙戌二月十九日」, III-174-29と字句に異同あり	III-174-30
330	〔御献立〕(天保2年)	状	1通	天保(2年)辛卯二月十九日	(頼事庵)		19.6×27.3	小半紙		端書「天保辛卯二月十九日」	III-174-31
331	〔御献立〕(天保5年)	状	1通	甲午(天保5年)二月十九日	(頼事庵)		19.3×26.9	小半紙		端書「甲午二月十九日」	III-174-32
332	〔御献立〕(天保10年)	状	1通	天保己亥(天保10年)二月十九日	(頼事庵)		19.7×27.7	小半紙		端書「天保己亥二月十九日」	III-174-33
333	〔御献立〕(天保11年)	状	1通	庚子(天保11年2月)十九日	(頼事庵)		33.2×27.0	竹紙		端書「庚子十九日」	III-174-34
334	〔御献立〕(弘化元年)	状	1通	甲辰(弘化元年2月)十九日	(頼事庵)		16.0×42.3	杉原紙		端書「廿八日御口之事 甲辰十九日」	III-174-35
335	〔御献立〕	状	1通	二月十九日	(頼事庵)		14.1×17.3	諸口紙		端書「二月十九日」	III-174-36
336	1)〔御献立〕	状	1通	十九日	(頼事庵)		22.6×28.3	諸口紙		端書「十九日御祭奠 御花」, III-174-37-1の上に貼付	III-174-37-1
336	2)〔御献立〕	状	1通		(頼事庵)		24.8×34.5	半紙			III-174-37-2
337	〔御献立〕(文政元年)	状	1通	戊寅(文政元年)三月十五日	(頼事庵)		20.9×26.8	小半紙		端書「戊寅三月十五日」	III-174-39
338	〔御献立〕	状	1通	三月十五日	(頼事庵)		12.2×12.4	半紙		端書「三月十五日」	III-174-40
339	〔妙意忌祭御献立〕(文化14年)	状	1通	丁丑(文化14年)三月十八日	(頼事庵)		22.1×27.9	小半紙		端書「丁丑三月十八日」, III-□-□と関連, 奥に漢文の書込あり	III-174-41
340	〔御献立〕(文政4年)	状	1通	辛巳(文政4年)三月十八日	(頼事庵)		22.0×27.9	小半紙		端書「辛巳三月十八日」, III-□-□と関連	III-174-42
341	〔御献立〕(天保元年)	状	1通	庚寅(天保元年)三月十八日	(頼事庵)		19.6×27.3	小半紙		端書「庚寅三月十八日」	III-174-43
342	〔御献立〕(天保6年)	状	1通	乙未(天保6年)三月十八日	(頼事庵)		19.5×27.7	小半紙		端書「乙未三月十八日 曾祖母様」, 注記(朱), 「御酒」の下に朱点, 奥に『だし』『おこめより』の記載あり	III-174-44
343	〔御献立〕(天保6年)	状	1通	乙未(天保6年)三月十八日	(頼事庵)		19.7×28.0	小半紙		端書「乙未三月十八日 曾祖母様」, III-174-44の清書カ	III-174-45
344	〔御献立〕(天保7年)	状	1通	丙申(天保7年)三月十八日	(頼事庵)		19.8×27.4	小半紙		端書「丙申三月十八日」	III-174-46

文書・記録類

番号	名称	材質形状	員数	年代	作成者	宛所	法量	料紙	丁数	備考	管理番号
345	〔御献立〕(天保10年)	状	1通	己亥(天保10年)三月十八日	(頼事庵)		19.4×27.4	小半紙		端書「己亥三月十八日」	Ⅲ-174-47
346	〔御献立〕(天保11年)	状	1通	庚子(天保11年)三月十八日	(頼事庵)		19.4×27.5	小半紙		端書「庚子三月十八日」	Ⅲ-174-48
347	〔御献立〕(天保12年)	状	1通	辛丑(天保12年)三月十八日	(頼事庵)		20.0×27.3	小半紙		端書「辛丑三月十八日」	Ⅲ-174-49
348	〔御献立〕(天保13年)	状	1通	壬寅(天保13年)三月十八日	(頼事庵)		19.0×27.3	小半紙		端書「壬寅三月十八日」	Ⅲ-174-50
349	〔御献立〕(弘化4年)	状	1通	三月十八日 丁未(弘化4年)	(頼事庵)		19.8×27.3	小半紙		端書「三月十八日 丁未」	Ⅲ-174-51
350	〔御献立〕(嘉永元年)	状	1通	戊申(嘉永元年)三月十八日	(頼事庵)		19.9×27.5	小半紙		端書「戊申三月十八日」	Ⅲ-174-52
351	〔御献立〕(嘉永6年)	状	1通	癸丑(嘉永6年)三月十八日	(頼事庵)		20.0×27.5	小半紙		端書「癸丑三月十八日」	Ⅲ-174-53
352	〔御献立〕(安政元年)	状	1通	甲寅(安政元年)三月十八日	(頼事庵)		20.1×27.6	小半紙		端書「甲寅三月十八日」	Ⅲ-174-54
353	〔御献立〕	状	1通	巳(安政4年)三月十八日	(頼誠軒)		14.5×19.0	諸口紙		端書「巳三月十八日」	Ⅲ-174-55
354	〔御献立〕	状	1通	三月十八日	(頼事庵)		14.0×29.9	諸口紙		端書「三月十八日 曾祖母様」	Ⅲ-174-56
355	〔御献立〕	状	1通	十八日	(頼事庵)		19.6×27.9	小半紙		三つ折にして各面に御献立を記載,「祖母様 十八日」の記載,紙背墨書あり	Ⅲ-174-57
356	〔御献立〕	状	1通	三月十八日	(頼事庵)		19.4×27.1	小半紙		端書「三月十八日」	Ⅲ-174-58
357	〔御献立〕	状	1通	三月十八日	(頼事庵)		21.5×27.5	小半紙		端書「三月十八日」	Ⅲ-174-59
358	〔御献立〕	状	1通	十八日	(頼事庵)		12.3×10.9	半紙		端書「十八日」	Ⅲ-174-60
359	〔御献立〕	状	1通	十八日	(頼事庵)		12.3×15.7/ 12.5×19.1	半紙	2	端書「十八日」,2枚に剥離(継紙欠カ)	Ⅲ-174-61
360	〔良善忌祭御献立〕(天保7年)	状	1通	丙申(天保7年)三月廿六日	(頼事庵)		18.7×25.9	楮紙		端書「丙申三月廿六日 大祥」,良善は頼事庵の妻,大久保恵子・小竹佐知子「頼家忌祭献立」の翻刻と解説—その四 五代・六代—所収	Ⅲ-174-62
361	〔御献立〕(弘化4年)	状	1通	丁未(弘化4年)三月廿六日	(頼事庵)		19.8×27.3	小半紙		端書「丁未三月廿六日」	Ⅲ-174-63
362	〔御献立〕	状	1通	巳(弘化2年カ)三月廿六日	(頼事庵)		14.8×16.7	諸口紙		端書「巳三月廿六日」,校訂(朱)	Ⅲ-174-64

文書・記録類

番号	名称	材質形状	員数	年代	作成者	宛所	法量	料紙	丁数	備考	管理番号
363	〔妙蓮忌祭御献立〕(天保7年)	状	1通	丙申(天保7年)四月十七日	(頼事庵)		18.6×25.9	楮紙		端書「丙申四月十七日」	Ⅲ-174-65
364	〔御献立〕(天保9年)	状	1通	戊戌(天保9年)四月十七日	(頼事庵)		19.2×27.3	小半紙		端書「戊戌四月十七日」	Ⅲ-174-66
365	〔御献立〕(天保11年)	状	1通	庚子(天保11年)四月十七日	(頼事庵)		19.1×26.3	小半紙		端書「庚子四月十七日」	Ⅲ-174-67
366	〔御献立〕(天保14年)	状	1通	癸卯(天保14年)四月十七日	(頼事庵)		19.5×26.9	小半紙		端書「癸卯四月十七日」	Ⅲ-174-68
367	〔御献立〕(弘化2年)	状	1通	乙巳四月十八日弘化二年	(頼事庵)		14.4×35.4	諸口紙		端書「乙巳四月十八日 弘化二年」	Ⅲ-174-69
368	〔御献立〕(嘉永6年)	状	1通	癸丑(嘉永6年)四月十七日	(頼事庵)		20.0×27.4	小半紙		端書「癸丑四月十七日」	Ⅲ-174-70
369	〔御献立〕	状	1通	四月十七日	(頼事庵)		17.5×24.9	半紙		端書「四月十七日」	Ⅲ-174-71
370	〔妙問忌祭御献立〕(文化十二年乙亥五月十三日)	状	1通	乙亥(文化12年)五月十三日	(頼事庵)		20.9×26.8	小半紙		端書「乙亥五月十三日」	Ⅲ-174-72
371	〔御献立〕(文化13年)	状	1通	丙子(文化13年)五月十三日	(頼事庵)		19.8×28.7	小半紙		端書「丙子五月十三日」	Ⅲ-174-73
372	〔乗蓮忌祭御献立〕(文化12年)	状	1通	乙亥(文化12年)七月十一日	(頼事庵)		20.9×26.7	小半紙		端書「乙亥七月十一日」, 乗蓮は三代・善祐の弟, Ⅲ-□-□と関連	Ⅲ-174-74
373	〔妙喜忌祭御献立〕(文政5年)	状	1通	九月六日壬午(文政5年)	(頼事庵)		21.2×27.0	小半紙		端書「九月六日 壬午」, Ⅲ-□-□と関連	Ⅲ-174-75
374	〔御献立〕(天保4年)	状	1通	癸巳(天保4年)九月六日	(頼事庵)		19.6×27.1	小半紙		端書「癸巳九月六日」	Ⅲ-174-76
375	〔御献立〕(天保8年)	状	1通	丁酉(天保8年)九月六日	(頼事庵)		12.5×34.5	半紙		端書「丁酉九月六日」	Ⅲ-174-77
376	〔御献立〕(弘化2年)	状	1通	乙巳(弘化2年)九月六日	(頼事庵)		19.5×26.8	小半紙		端書「乙巳九月六日 弘化二年」	Ⅲ-174-78
377	御献立	状	1通	九月六日	(頼事庵)		16.4×33.9	杉原紙		端書「九月六日 御献立」, 注記(朱)	Ⅲ-174-79
378	〔御献立〕	状	1通	辰九月六日	(頼事庵)		19.6×27.3	小半紙		端書「辰九月六日」, 校訂(墨)	Ⅲ-174-80
379	〔御献立〕	状	1通	申九月六日	(頼事庵)		14.4×24.2	諸口紙		端書「」	Ⅲ-174-81
380	〔頼山陽忌祭御献立〕(天保5年)	状	1通	甲午(天保5年)九月廿三日	(頼事庵)		24.7×34.4	半紙		端書「甲午九月廿三日御大祥忌」	Ⅲ-174-82

文書・記録類

番号	名称	材質形状	員数	年代	作成者	宛所	法量	料紙	丁数	備考	管理番号
381	〔御献立〕(天保7年)	状	1通	丙申(天保7年)九月廿三日	(頼聿庵)		14.0×34.3	諸口紙		端書「丙申九月廿三日」, 校訂(墨)	Ⅲ-174-83
382	〔御献立〕(天保9年)	状	1通	戊戌(天保9年)九月廿三日	(頼聿庵)		19.6×27.4	小半紙		端書「戊戌九月廿三日」	Ⅲ-174-84
383	〔御献立〕(天保11年)	状	1通	庚子(天保11年)九月廿三日	(頼聿庵)		14.3×45.7	諸口紙		端書「庚子九月廿三日」, 端裏書「庚子天保十一年也 九月廿三日御献立」	Ⅲ-174-85
384	〔御献立〕(嘉永2年)	状	1通	己酉(嘉永2年)九月廿三日	(頼聿庵)		14.2×62.3	諸口紙		端書「己酉九月廿三日御献立」, 校訂(墨)	Ⅲ-174-86
385	〔御献立〕(安政2年)	状	1通	乙卯(安政2年)九月廿三日	(頼聿庵)		12.0×50.1	半紙		端書「乙卯九月廿三日御献立」	Ⅲ-174-87
386	〔御献立〕	状	1通	九月廿三日	(頼聿庵)		19.5×26.5	小半紙		端書「九月廿三日」, 御献立の記載が2点あり	Ⅲ-174-88
387	〔御献立〕	状	1通	九月廿三日	(頼聿庵)		14.3×23.4	諸口紙		端書「九月廿三日」	Ⅲ-174-89
388	〔御献立〕	状	1通	九月廿三日	(頼聿庵)		16.0×62.4	楮紙 (薄桃色)		端書「九月廿三日御献立」, 「俊成・定家・為家, 唐郭子儀ト同シ憂ナキ, 人長寿高官子ノ先死ナシ」等の記載あり	Ⅲ-174-90
389	〔御献立〕	状	1通	九月廿三日	(頼聿庵)		14.0×32.5	諸口紙		端書「九月廿三日 三宗ノ事□□」	Ⅲ-174-91
390	〔御献立〕	状	1通	九月廿三日	(頼聿庵)		19.6×27.6	小半紙		端書「九月廿三日」	Ⅲ-174-92
391	〔御献立〕	状	1通	九月廿三日	(頼聿庵)		19.4×25.7	小半紙		端書「九月廿三日」	Ⅲ-174-93
392	〔御献立〕	折紙	1通	廿三日	(頼聿庵)		12.3×34.3	半紙		端書「廿三日備物」, 折紙の両面に御献立の記載あり	Ⅲ-174-94
393	〔善祐忌祭御献立〕(文政11年)	状	1通	戊子(文政11年)十月五日	(頼聿庵)		19.6×26.7	小半紙		端書「戊子十月五日」	Ⅲ-174-95
394	〔御献立〕(天保9年)	状	1通	戊戌(天保9年)十月五日	(頼聿庵)		12.4×34.5	半紙		端書「戊戌十月五日 曾祖父様」	Ⅲ-174-96
395	〔御献立〕(弘化2年)	状	1通	乙巳(弘化2年)十月五日	(頼聿庵)		16.8×24.0	半紙		端書「乙巳十月五日」	Ⅲ-174-97
396	御献立(安政元年)	状	1通	甲寅(安政元年)十月五日	(頼聿庵)		14.4×25.6	諸口紙		端書「甲寅十月五日 御献立」	Ⅲ-174-98
397	〔御献立〕	状	1通	十月五日	(頼聿庵)		14.3×29.9	諸口紙		端書「善祐大祖父様十月五日」	Ⅲ-174-99
398	〔御献立〕	状	1通	十月五日	(頼聿庵)		13.7×24.0	諸口紙		端書「十月五日」	Ⅲ-174-100
399	〔道喜忌祭御献立〕(文化12年)	状	1通	乙亥(文化12年)十月廿四日	(頼聿庵)		21.0×26.7	小半紙		端書「乙亥十月廿四日」, Ⅲ-□-□と関連	Ⅲ-174-101
400	〔御献立〕(天保10年)	状	1通	己亥(天保10年)十月廿四日	(頼聿庵)		19.4×27.1	小半紙		端書「己亥十月廿四日」	Ⅲ-174-102
401	〔御献立〕(天保13年)	状	1通	壬寅(天保13年)十月廿四日	(頼聿庵)		17.2×24.6	半紙		端書「壬寅十月廿四日」	Ⅲ-174-103

文書・記録類

番号	名称	材質形状	員数	年代	作成者	宛所	法量	料紙	丁数	備考	管理番号
402	〔円乗忌祭御献立〕(文化12年)	状	1通	乙亥(文化12年)十月廿八日	(頼事庵)		21.0×26.7	小半紙		端書「乙亥十月廿八日」, 円乗は三代・善祐の弟	Ⅲ-174-104
403	〔御献立〕(文化13年)	状	1通	丙子(文化13年)十月廿八日	(頼事庵)		20.9×26.7	小半紙		端書「丙子十月廿八日」	Ⅲ-174-105
404	〔御献立〕(弘化4年)	状	1通	丁未(弘化4年)四月十八日	(頼事庵)		16.5×22.6	雁皮紙		端書「丁未四月十八日」, 「丁未四月十七日」カ	Ⅲ-174-106
405	〔御献立〕(8月3日)	状	1通	八月三日	(頼事庵)		12.1×28.0	半紙		端書「八月三日」, 2枚に剥離	Ⅲ-174-107
406	(頼梅颯忌祭)御献立(安政元年)	状	1通	甲寅(安政元年)十二月九日	(頼事庵)		14.2×46.0	諸口紙		端書「甲寅十二月九日 御献立」, 校訂(朱)	Ⅲ-174-108
407	〔御献立〕(12月27日)	状	1通	十二月廿七日	(頼事庵)		16.4×20.7	杉原紙		端書「十二月廿七日」	Ⅲ-174-109
408	〔御献立〕	状	1通	江戸後期	(頼事庵)		14.1×26.7	漉返紙(薄墨色)			Ⅲ-174-110
409	〔御献立〕	状	1通	江戸後期	(頼事庵)		12.3×34.5	半紙		紙背墨書あり	Ⅲ-174-111
410	〔御献立〕	状	1通	江戸後期	(頼事庵)		19.2×26.0	小半紙		反故紙使用, 反故紙「二月朔日」	Ⅲ-174-112
411	〔御献立〕	状	1通	江戸後期	(頼事庵)		12.5×20.8	半紙			Ⅲ-174-113
412	〔御献立〕	状	1通	江戸後期	(頼事庵)		12.0×20.9	半紙		紙背墨書「頼餘一」	Ⅲ-174-114
413	〔御献立〕	状	1通	江戸後期	(頼事庵)		25.0×63.9	半紙			Ⅲ-174-115
414	〔御献立〕	状	1通	江戸後期	(頼事庵)		12.4×22.3	半紙			Ⅲ-174-116
415	〔御献立〕	状	1通	江戸後期	(頼事庵)		13.7×31.7	諸口紙			Ⅲ-174-117
416	献立	状	1通	江戸後期	(頼事庵)		14.5×22.9	諸口紙		端書「献立」, 校訂(朱)	Ⅲ-174-118
417	〔御献立〕	状	1通	江戸後期	(頼事庵)		14.2×30.4	諸口紙			Ⅲ-174-119
418	〔御献立〕	状	1通	江戸後期	(頼事庵)		12.4×15.6	半紙			Ⅲ-174-120
419	〔御献立〕	状	1通	江戸後期	(頼事庵)		14.7×45.5	諸口紙			Ⅲ-174-121
420	〔御献立〕	状	1通	江戸後期	(頼事庵)		14.6×11.7	諸口紙			Ⅲ-174-122
421	〔御献立〕	状	1通	江戸後期	(頼事庵)		14.4×34.3	諸口紙			Ⅲ-174-123
422	〔御献立〕	状	1通	江戸後期	(頼事庵)		13.7×35.5	諸口紙			Ⅲ-174-124
423	〔御献立〕	状	1通	江戸後期	(頼事庵)		17.0×24.5	半紙		一部欠損	Ⅲ-174-125
424	御献立	状	1通	江戸後期	(頼事庵)		14.0×32.5	諸口紙		端書「御献立」	Ⅲ-174-126
425	〔御献立〕	状	1通	江戸後期	(頼事庵)		14.1×35.3	諸口紙			Ⅲ-174-127
426	〔御献立〕	状	1通	江戸後期	(頼事庵)		14.3×24.3	諸口紙			Ⅲ-174-128
427	〔御献立〕	状	1通	江戸後期	(頼事庵)		14.4×21.2	諸口紙			Ⅲ-174-129
428	〔御献立〕	状	1通	江戸後期	(頼事庵)		13.6×27.9	諸口紙			Ⅲ-174-130
429	〔御献立〕	状	1通	江戸後期	(頼事庵)		12.4×18.6	半紙			Ⅲ-174-131
430	〔御献立〕	状	1通	江戸後期	(頼事庵)		14.0×32.5	諸口紙		前欠	Ⅲ-174-132

文書・記録類

番号	名称	材質形状	員数	年代	作成者	宛所	法量	料紙	丁数	備考	管理番号
431	〔御献立〕	状	1通	江戸後期	(頼事庵)		14.4×22.2	諸口紙			Ⅲ-174-133
432	〔御献立〕	状	1通	江戸後期	(頼事庵)		14.6×21.2	諸口紙			Ⅲ-174-134
433	献立	状	1通	江戸後期	(頼事庵)		14.7×31.2	諸口紙		端書「献立」	Ⅲ-174-135
434	〔御献立〕	状	1通	江戸後期	(頼事庵)		14.0×47.0	諸口紙		書簡の反故紙を使用	Ⅲ-174-136
435	〔御献立〕	状	1通	江戸後期	(頼事庵)		14.6×46.1	諸口紙			Ⅲ-174-137
436	〔御献立〕	状	1通	江戸後期	(頼事庵)		14.4×12.7	諸口紙		全て朱字で記載	Ⅲ-174-138
437	〔御献立〕	状	1通	江戸後期	(頼事庵)		13.7×18.0	諸口紙		反故紙使用	Ⅲ-174-139
438	〔御献立〕	状	1通	江戸後期	(頼事庵)		14.2×26.9	諸口紙			Ⅲ-174-140
439	〔御献立〕	状	1通	江戸後期	(頼事庵)		14.3×17.6	諸口紙		2枚に剥離	Ⅲ-174-141
440	〔御献立〕	状	1通	江戸後期	(頼事庵)		16.2×19.7	杉原紙			Ⅲ-174-142
441	〔御献立〕	状	1通	江戸後期	(頼事庵)		14.2×11.7	諸口紙		後欠	Ⅲ-174-143
442	〔御献立〕	状	1通	江戸後期	(頼事庵)		12.2×14.0	半紙		前欠	Ⅲ-174-144
443	〔御献立〕	状	1通	江戸後期	(頼事庵)		14.5×27.8	諸口紙		校訂(墨), 前欠	Ⅲ-174-145
444	〔御献立〕	状	1通	江戸後期	(頼事庵)		13.7×33.5	諸口紙		校訂(墨)	Ⅲ-174-146
445	御献立	状	1通	江戸後期	(頼事庵)		13.7×17.1	諸口紙		端書「御献立」	Ⅲ-174-147
446	〔御献立〕	状	1通	江戸後期	(頼事庵)		17.0×24.7	半紙			Ⅲ-174-148
447	〔御献立〕	状	1通	江戸後期	(頼事庵)		14.1×25.1	諸口紙		端書「戊午三月廿四日夜山崎与一郎宅御用談集会として招膳」	Ⅲ-174-149
448	〔御献立〕	状	1通	江戸後期	(頼事庵)		29.3×46.4	諸口紙		料紙を折紙状にして同内容の献立を記載(字句に異同あり)	Ⅲ-174-150
449	献立	状	1通	江戸後期	(頼事庵)		17.2×29.0	諸口紙		端書「献立」	Ⅲ-174-151
450	献立	状	1通	江戸後期	(頼事庵)		16.1×25.9	杉原紙		端書「献立」	Ⅲ-174-152
451	献立	状	1通	江戸後期	(頼事庵)		13.8×46.0	諸口紙		端書「献立」	Ⅲ-174-153
452	〔御献立〕(頼景譲奠供・文政五年壬午正月廿八日)	状	1通	壬午(文政5年)正月廿八日	(頼事庵)		14.1×17.0	諸口紙			Ⅲ-176-1-1
453	〔御献立〕(頼景譲奠供・正月廿八日)	状	1通	正月廿八日	(頼事庵)		14.2×12.0	諸口紙			Ⅲ-176-1-2
454	〔御献立〕(頼景譲奠供・正月廿八日)	横折紙	1通	正月廿八日	(頼事庵)		14.5×19.0	諸口紙			Ⅲ-176-1-3
455	〔御献立〕(頼景譲奠供・正月廿八日)	状	1通	正月廿八日	(頼事庵)		14.1×23.2	諸口紙			Ⅲ-176-1-4
456	〔御献立〕(頼景譲奠供・文政四年辛巳正月廿八日七廻)	状	1通	七廻辛巳(文政4年)正月廿八日	(頼事庵)		21.2×25.6	小半紙			Ⅲ-176-1-5
457	〔御献立〕(頼景譲奠供・文政五年壬午正月廿八日)	状	1通	壬午(文政5年)正月廿八日	(頼事庵)		21.1×26.9	小半紙			Ⅲ-176-1-6
458	〔御献立〕(頼景譲奠供・文化十四年丁丑正月廿八日)	状	1通	丁丑(文化14年)正月廿八日	(頼事庵)		19.5×27.0	小半紙			Ⅲ-176-1-7

文書・記録類

番号	名称	材質形状	員数	年代	作成者	宛所	法量	料紙	丁数	備考	管理番号
459	〔御献立〕(頼惟清奠供・文政八年二月朔日)	状	1通	二月朔日乙酉(文政8年)	(頼聿庵)		21.1×27.1	小半紙			Ⅲ-176-2-2
460	〔御献立〕(頼惟清奠供・文政七年二月朔日)	状	1通	甲申(文政7年)二月朔	(頼聿庵)		19.8×27.7	小半紙			Ⅲ-176-2-3
461	〔御献立〕(頼惟清奠供・文政六年二月朔日)	状	1通	癸未(文政6年)二月朔	(頼聿庵)		21.0×27.0	小半紙			Ⅲ-176-2-4
462	〔御献立〕(頼惟清奠供・文政五年二月朔日)	状	1通	壬午(文政5年)二月朔	(頼聿庵)		21.1×27.1	小半紙			Ⅲ-176-2-5
463	〔御献立〕(頼惟清奠供・文政四年二月朔日)	状	1通	辛巳(文政4年)二月朔	(頼聿庵)		21.2×27.2	小半紙			Ⅲ-176-2-6
464	〔御献立〕(頼惟清奠供・文政二年二月朔日)	状	1通	己卯(文政2年)二月朔	(頼聿庵)		22.0×27.7	小半紙			Ⅲ-176-2-7
465	〔御献立〕(頼惟清奠供・文政元年二月朔日)	状	1通	戊寅(文政元年)二月朔	(頼聿庵)		22.1×27.9	小半紙			Ⅲ-176-2-8
466	〔御献立〕(頼惟清奠供・文化十三年二月朔日)	状	1通	丙子(文化13年)二月朔	(頼聿庵)		20.9×25.5	小半紙			Ⅲ-176-2-10
467	〔御献立〕(頼春水奠供・文政六年二月十九日)	状	1通	癸未(文政6年)二月十九日	(頼聿庵)		21.2×27.1	小半紙			Ⅲ-176-3-1
468	〔御献立〕(頼春水奠供・文政八年二月十九日)	状	1通	乙酉(文政8年)二月十九日	(頼聿庵)		19.7×27.0	小半紙			Ⅲ-176-3-2
469	〔御献立〕(頼春水奠供・文政七年二月十九日)	状	1通	甲申(文政7年)二月十九日	(頼聿庵)		20.0×27.7	小半紙		端書「文政七年」	Ⅲ-176-3-3
470	〔御献立〕(奠供・文化十三年二月朔)	状	1通	丙子(文化13年)二月朔	(頼聿庵)		21.0×26.7	小半紙			Ⅲ-176-3-4
471	〔御献立〕(頼春水奠供・文政九年二月十九日)	状	1通	丙戌(文政9年)二月十九日	(頼聿庵)		19.8×27.8	小半紙			Ⅲ-176-3-5
472	〔御献立〕(頼春水奠供・文化十四年二月十九日)	状	1通	丁丑(文化14年)二月十九日	(頼聿庵)		22.2×28.0	小半紙		Ⅲ-174-26と関連	Ⅲ-176-3-6
473	〔御献立〕(頼春水奠供・文政元年二月十九日)	状	1通	戊寅(文政元年)二月十九日	(頼聿庵)		21.0×26.7	小半紙			Ⅲ-176-3-7
474	〔御献立〕(頼春水奠供・文政二年二月十九日)	状	1通	己卯(文政2年)二月十九日	(頼聿庵)		22.0×27.8	小半紙			Ⅲ-176-3-8
475	〔御献立〕(頼春水奠供・文政三年二月十九日)	状	1通	庚辰(文政3年)二月十九日	(頼聿庵)		21.0×26.9	小半紙			Ⅲ-176-3-9

文書・記録類

番号	名称	材質形状	員数	年代	作成者	宛所	法量	料紙	丁数	備考	管理番号
476	〔御献立〕(妙意夫人奠供・文化十四年三月十八日)	状	1通	丁丑(文化14年)三月十八日	(頼事庵)		22.0×27.6	小半紙			Ⅲ-176-4-1
477	〔御献立〕(妙意夫人奠供・文政八年三月十八日)	状	1通	乙酉(文政8年)三月十八日	(頼事庵)		19.7×26.8	小半紙			Ⅲ-176-4-3
478	〔御献立〕(妙意夫人奠供・文政七年三月十八日)	状	1通	甲申(文政7年)三月十八日	(頼事庵)		19.8×27.7	小半紙			Ⅲ-176-4-4
479	〔御献立〕(妙意夫人奠供・文政五年三月十八日)	状	1通	壬午(文政5年)三月十八日	(頼事庵)		19.8×27.4	小半紙			Ⅲ-176-4-5
480	〔御献立〕(妙意夫人奠供・文政四年三月十八日)	状	1通	辛巳(文政4年)三月十八日	(頼事庵)		22.0×27.9	小半紙			Ⅲ-176-4-6
481	〔御献立〕(妙意夫人奠供・文政三年三月十八日)	状	1通	庚辰(文政3年)三月十八日	(頼事庵)		21.1×27.0	小半紙			Ⅲ-176-4-7
482	〔御献立〕(妙蓮夫人奠供・文政八年四月十七日)	状	1通	乙酉(文政8年)四月十七日	(頼事庵)		19.7×26.7	小半紙			Ⅲ-176-5-1
483	〔御献立〕(妙蓮夫人奠供・文政二年閏四月十七日)	状	1通	己卯(文政2年)四月十七日	(頼事庵)		22.0×27.9	小半紙			Ⅲ-176-5-2
484	〔御献立〕(妙蓮夫人奠供・文化十四年四月十七日)	状	1通	丁丑(文化14年)四月十七日	(頼事庵)		22.1×28.0	小半紙			Ⅲ-176-5-3
485	〔御献立〕(妙蓮夫人奠供・文政九年四月十七日)	状	1通	丙戌(文政9年)四月十七日	(頼事庵)		19.8×27.8	小半紙			Ⅲ-176-5-4
486	〔御献立〕(妙蓮夫人奠供・文政元年四月十七日)	状	1通	戊寅(文政元年)四月十七日	(頼事庵)		20.9×26.7	小半紙			Ⅲ-176-5-6
487	〔御献立〕(妙蓮夫人奠供・文政二年閏四月十七日)	状	1通	己卯(文政2年)四月十七日	(頼事庵)		22.0×27.9	小半紙			Ⅲ-176-5-7
488	〔御献立〕(妙蓮夫人奠供・文政三年四月十七日)	状	1通	庚辰(文政3年)四月十七日	(頼事庵)		21.1×27.0	小半紙			Ⅲ-176-5-8
489	〔御献立〕(妙蓮夫人奠供・文政四年四月十七日)	状	1通	辛巳(文政4年)四月十七日	(頼事庵)		22.0×28.0	小半紙			Ⅲ-176-5-9

文書・記録類

番号	名称	材質形状	員数	年代	作成者	宛所	法量	料紙	丁数	備考	管理番号
490	〔御献立〕(妙蓮夫人奠供・文政五年四月十七日)	状	1通	壬午(文政5年)四月十七日	(頼聿庵)		21.2×27.0	小半紙			Ⅲ-176-5-10
491	〔御献立〕(妙喜夫人奠供・文政九年九月六日)	状	1通	九月六日丙戌(文政9年)	(頼聿庵)		19.7×27.8	小半紙			Ⅲ-176-6-1
492	〔御献立〕(妙喜夫人奠供・文化十三年九月六日)	状	1通	丙子(文化13年)九月六日	(頼聿庵)		19.7×27.7	小半紙			Ⅲ-176-6-3
493	〔御献立〕(妙喜夫人奠供・文化十四年九月六日)	状	1通	丁丑(文化14年)九月六日	(頼聿庵)		22.1×28.0	小半紙			Ⅲ-176-6-4
494	〔御献立〕(妙喜夫人奠供・文政元年九月六日)	状	1通	九月六日戊寅(文政元年)	(頼聿庵)		22.0×27.9	小半紙			Ⅲ-176-6-5
495	〔御献立〕(妙喜夫人奠供・文政二年九月六日)	状	1通	九月六日己卯(文政2年)	(頼聿庵)		21.0×26.8	小半紙			Ⅲ-176-6-6
496	〔御献立〕(妙喜夫人奠供・文政四年九月六日)	状	1通	九月六日辛巳(文政4年)	(頼聿庵)		22.0×28.1	小半紙			Ⅲ-176-6-7
497	〔御献立〕(妙喜夫人奠供・文政五年九月六日)	状	1通	九月六日壬午(文政5年)	(頼聿庵)		21.0×27.0	小半紙			Ⅲ-176-6-8
498	〔御献立〕(妙喜夫人奠供・文政六年九月六日)	状	1通	九月六日癸未(文政6年)	(頼聿庵)		20.0×27.6	小半紙			Ⅲ-176-6-9
499	〔御献立〕(妙喜夫人奠供・文政七年九月六日)	状	1通	九月六日甲申(文政7年)	(頼聿庵)		20.9×26.7	小半紙			Ⅲ-176-6-10
500	〔御献立〕(善祐大人奠供・文政七年十月五日)	状	1通	甲申(文政7年)十月五日	(頼聿庵)		21.1×27.0	小半紙			Ⅲ-176-7-1
501	〔御献立〕(善祐大人奠供・文化十三年十月五日)	状	1通	丙子(文化13年)十月五日	(頼聿庵)		19.7×27.7	小半紙			Ⅲ-176-7-3
502	〔御献立〕(善祐大人奠供・文化十四年十月五日)	状	1通	丁丑(文化14年)十月五日	(頼聿庵)		22.1×28.0	小半紙			Ⅲ-176-7-4
503	〔御献立〕(善祐大人奠供・文政三年十月五日)	状	1通	庚辰(文政3年)十月五日	(頼聿庵)		21.2×27.1	小半紙			Ⅲ-176-7-5
504	〔御献立〕(善祐大人奠供・文政五年十月五日)	状	1通	壬午(文政5年)十月五日	(頼聿庵)		21.1×27.0	小半紙			Ⅲ-176-7-6
505	〔御献立〕(道喜大人奠供・文政二年十月廿四日)	状	1通	己卯(文政2年)十月廿四日	(頼聿庵)		220.×27.8	小半紙			Ⅲ-176-8-1
506	〔御献立〕(道喜大人奠供・文政三年十月廿四日)	状	1通	庚辰(文政3年)十月廿四日	(頼聿庵)		21.1×27.0	小半紙			Ⅲ-176-8-2
507	〔御献立〕(道喜大人奠供・文化十四年十月廿四日)	状	1通	丁丑(文化14年)十月廿四日	(頼聿庵)		22.2×28.0	小半紙			Ⅲ-176-8-3

文書・記録類

番号	名称	材質形状	員数	年代	作成者	宛所	法量	料紙	丁数	備考	管理番号
508	〔御献立〕(道喜大人奠供・文化十三年十月廿四日)	状	1通	丙子(文化13年)十月廿四日	(頼聿庵)		19.8×27.5	小半紙			Ⅲ-176-8-5
509	〔御祠堂告文〕(元協旧臘十八日を以て御奥詰被仰付候事)	状	1通	天保十三年壬寅正月十五日	孝玄孫元協(頼聿庵)		20.7×51.2	小半紙			Ⅲ-247-1
510	秘録	袋綴装大和綴	1冊	江戸後期	頼聿庵		24.7×17.2	楮紙	21	共紙表紙, 外題直書「秘録」	Ⅳ-497
511	〔御祠堂御供控〕	状	1通	江戸後期	(頼聿庵カ)		14.6×13.9	竹紙		後欠, 反故紙使用	Ⅲ-168-23
512	〔春水送栴文〕	状	1通	(文化13年2月)	元協(頼聿庵)		14.3×48.8	諸口紙		頼杏坪批正(朱)	Ⅲ-191-2
513	〔春水死去ニ付, 弔問客一覧〕	状	1通	(文化13年2月)			12.4×362.7	半紙		校訂(朱), 頭点(墨・朱)	Ⅲ-191-3
514	〔春水死去ニ付, 供物控一覧〕	状	1通	(文化13年2月)			15.5×38.1/ 15.5×82.1	杉原紙		2枚で1通, 間に欠損あり, 供物の一部に合点と○印が付されている	Ⅲ-191-4
515	〔御祠堂告文〕(元協娶寺川茂次馬第二妹)	状	1通	文政五年歲次壬午八月十日	孝玄孫元協(頼聿庵)		16.7×43.0	杉原紙		校訂(墨)	Ⅲ-240-3
516	稽古人名(ノ八拾式人)	状	1通	江戸後期	(頼聿庵)		13.7×127.0	諸口紙			Ⅲ-243-12
517	〔覚書〕(于江都霞関藩邸謹録ほか)	状	1通	癸巳(天保4年)春正月	児協勤録(頼聿庵)		15.4×32.0	三桮紙(薄藍色)		校訂(墨)	Ⅲ-243-13-1
518	「遊上田家園林賦此呈主人」	状	1通	江戸後期	頼春水(頼聿庵摸)		16.5×45.5	三桮紙		批正(朱)	Ⅲ-250-25
519	〔殿様御容躰ニ付廻達写〕	状	1通	十一月十九日	(頼聿庵)		14.5×20.5	諸口紙			Ⅲ-251-6
520	〔御省略ニ付諸紙相用い方口達写〕	状	1通	十月九日	(頼聿庵)		14.4×11.5	諸口紙			Ⅲ-251-7
521	〔覚書〕(聿庵跡目相統より御奥詰拝命までの履歴控)	状	1通	江戸後期	(頼聿庵)		14.0×14.5	諸口紙		校訂(墨), 文化13年～天保12年の職歴, 反故紙使用, 左端破損	Ⅲ-290-116
522	〔覚書〕(女院崩御ニ付, 公儀より鳴物停止の触写ほか)	状	1通	八月十一日, 八月十二日	(頼聿庵カ)		14.2×50.6	諸口紙		黒染み甚	Ⅲ-295-5
523	「中島君墓誌銘」写	状	1通	江戸後期	(頼聿庵)		24.1×33.8	半紙		首題「中島君墓誌銘」, 跋「文政二年己卯秋八月 頼惟柔撰」, 校訂(墨), 奥に「頼彦十郎様 中村元亮様 頼弥太郎」の書込あり	Ⅲ-71-1
524	〔覚書〕(十八学士贅磨滅之所書抜)	状	1通	江戸後期	(頼杏坪カ)		14.0×25.8	諸口紙		端裏書「十八学士贅磨滅之所書抜」	Ⅲ-334-15
525	〔書付〕(祭奠告文下書)	状	1通	文化十三年歳以丙子二月廿一日	(頼杏坪カ)		14.0×7.4	諸口紙			Ⅲ-373-3
526	「上菅茶山先生書」	仮綴	1綴	(文化7年カ)七月二十三日			28.3×20.4	罫紙(楮紙)	2	「辱愛生頼襄再拝謹白」「襄再拝 茶山先生座下 七月二十三日」との記載あり	Ⅱ-5
527	頼三樹三郎詩稿(「棗萼分山海萱堂」)	状	1通	江戸後期	頼三樹三郎		25.1×14.5	楮紙		棗萼分山海萱堂 三樹問八, 批正(墨), No.498-1「唐詩選解 卷下」の巻末に挟込	Ⅳ-498-2

文書・記録類

番号	名称	材質形状	員数	年代	作成者	宛所	法量	料紙	丁数	備考	管理番号
528	大槻磐溪・後藤松陰両先生詩文稿	袋綴装 大和綴	1冊	明治時代カ	(頼誠軒カ)		22.8×15.7	罫紙 (楮紙)	19	共紙表紙, 外題直書(頼古楳筆)「山陽翁評 磐溪・松陰両先生詩文稿」, 朱文長方印「頼氏必正楼」1顆, 校訂(墨), 注記(墨), 傍線(墨), 4丁目袋中に『寅夜三時, 辰朝八時, 申午四時, 酉午六時』と記載の一紙あり	III-32
529	朝夕奠御献立(聿庵への御供)	仮綴	1綴	安政丙辰九月二日発引 ～廿九日奠			24.8×17.5	半紙	29	共紙表紙, 外題直書「朝夕奠御献立」, 校訂(墨)	I-161
530	[覚書](御用有之京都へ即刻出船)	状	1通	九月十五日 ～廿四日	頼東三郎(頼誠軒)		13.4×222.5	色諸口紙		端裏書「写」, 校訂(付札に墨, 朱)	III-123-19
531	日課(漢籍通読記録)	縦帳	1冊	天保壬寅(13年)春王十七日 ～六月二十九日	阿東(頼誠軒)		25.1×17.3	半紙	17	共紙表紙, 外題直書「日課」, 表紙墨書「起 天保壬寅春王十七日阿東」, 「日課」, 朱文方印「書足以記名姓而已」1顆, 白文長方印「頼東」2顆, 校訂(墨, 貼紙に墨), 紙札「詩歌帖二冊 全」付属	III-386-3
532	日課	横半帳	1冊	嘉永壬子(5年)六月八日起 ～嘉永癸丑(6年)六月廿九日廃業	杲謹記(頼誠軒)		11.6×17.1	半紙	16	共紙表紙, 外題直書「日課」, 表紙墨書「嘉永壬子 杲謹記」, 校訂(墨・朱)	III-386-4
533	子明日課	横半帳	1冊	嘉永癸丑(6年)秋七月小尽 ～嘉永甲寅冬十二月小晦日記	子明(頼誠軒)		12.3×17.3	半紙	20	共紙表紙, 外題直書「子明日課」, 表紙墨書「嘉永癸丑秋七月起」, 校訂(墨・朱), 注記(朱), 頭点(朱)	III-386-5
534	大光院様御逝去之節書付	縦帳	1冊	(安政5年)十一月十一日 ～十二月二十九日	(頼誠軒)		25.0×17.4	罫紙 (半紙)	24	白紙表紙, 外題直書「大光院様御逝去之節書付」, 1丁目に九月十二日付書簡(11.9×28.6, 色半紙, 端裏書「本家江上候分」), 8丁目ウに付紙(13.9×40.7, 諸口紙)「御意之荒増」あり	III-386-9
535	[生徒出席簿](十一月, 十二月)	仮綴	1綴	(明治時代)十一月小尽, 十二月大尽	(頼誠軒カ)		28.0×19.8	楮紙	2		III-386-81
536	竹原贈金控帖	袋綴装 大和綴	1冊	明治廿二年四月廿七日 ～廿六年十月	誠軒老人		22.6×14.2	楮紙	13	共紙表紙, 外題直書「竹原贈金控帖」, 表紙墨書「明治廿二年」「誠軒老人」, 朱文方印9顆, 4丁目オに廿五年度(8月～12月分)と廿六年度(1～4月分)贈金内訳書を貼付, 4・5丁目間に3～10月分(年不詳)贈金内訳書3枚あり	III-386-82
537	[生徒出席簿](七月～十月)	仮綴	1綴	(明治時代)七月～十月	(頼誠軒)		23.0×16.1	罫紙	10		III-386-83
538	[御祠堂告文](男東三郎元服二付, 奉供謹告)	状	1通	弘化二年乙巳十二月十七日	(頼聿庵)		16.4×43.6	杉原紙			III-290-7
539	[御祠堂告文](杲以本月朔命為教授見習)	状	1通	嘉永七年甲寅十月十五日	玄孫杲(頼誠軒)		20.0×27.5	小半紙			III-290-18
540	続書(頼誠軒親族一覧)	状	1通	三月	頼東三郎(誠軒)		14.4×103.8	諸口紙			III-290-19

文書・記録類

番号	名称	材質形状	員数	年代	作成者	宛所	法量	料紙	丁数	備考	管理番号
541	[覚書] (紀州頼宣卿御初入園之節示し給ふ御文)	状	1通	江戸後期	(頼誠軒)		14.4×33.0	諸口紙		端裏書『香雪記』]	III-290-72
542	[漢文] (安政大地震次第)	状	1通	甲寅十一月, 丙午刻下申 (安政元年)	(頼誠軒)		14.4×26.6	諸口紙		校訂(墨), 左端一部破損, 裏面にも墨書あり	III-290-119
543	[上杉弾正弼様之御前様御安産之事ほか]	状	1通	四月卅日 御触有之	(頼誠軒カ)		14.3×8.6	諸口紙		七月廿九日の日付も記される	III-295-36
544	東遊紀行	状	1通	(天保13年) 三月廿日	鉉再拜(頼達堂)	(頼聿庵)	各 19.8×27.4	小半紙		端書「一」「二」「三」	III-185-1
545	春水先生・聿庵先生略年譜	袋綴装 大和綴	1冊	明治時代	(頼古樸)		24.3×16.5	罫紙 (半紙)	19	共紙表紙, 外題直書「春水先生 聿庵先生 略年譜」, 校訂(墨)	III-52
546	春水頼先生年譜	仮綴	1綴	明治時代	(頼古樸)		16.5×12.0	楮紙 (匡郭)	21	共紙表紙, 外題直書「春水頼先生年譜」, 首題「春水頼先生年譜」, 校訂(朱), 注記(朱)	III-54
547	聿庵翁伝・誠軒翁伝	袋綴装 大和綴	1冊	明治後期	(頼古樸)		24.5×17.0	罫紙 (半紙)	49	共紙表紙, 首題「聿庵翁伝」「誠軒翁伝」, 校訂(墨), 注記(墨)	III-59
548	嶺松廬書録・春草堂蔵書目録	袋綴装 大和綴	1冊	明治時代	(頼古樸)		24.4×16.8	罫紙 (半紙)	32	素紙表紙, 外題直書「嶺松廬書録 春草堂蔵書目録」, 頭点(朱)	III-60
549	聿庵詩鈔 上・下	袋綴装 大和綴	1冊	明治時代	(頼古樸)		24.0×16.5	半紙	62	共紙表紙, 外題直書「聿庵詩鈔 上下」, 頭点(朱), 句切点(朱), 注記(朱, 墨), 山陽批正写(朱)	III-61
550	聿庵遺稿	袋綴装 大和綴	1冊	明治壬寅(35年)初秋	孫元緒(頼古樸)謹編		23.5×16.5	半紙, 罫紙 (楮紙)	93	共紙表紙, 校訂(朱・墨), 注記(付紙に墨), 5丁目ウに「明治壬寅初秋孫元緒謹編」との記載あり	III-62
551	聿庵遺稿拾遺	袋綴装 大和綴	1冊	明治後期	頼元協承緒著 (古樸)		24.2×16.7	半紙	16	共紙表紙, 外題直書「聿庵遺稿拾遺」, 首題「聿庵遺稿拾遺」, 頭点(墨), 校訂(墨), 注記(墨)	III-63
552	聿庵詩集 初稿	袋綴装 大和綴	1冊	明治時代カ	(頼古樸)		24.5×16.8	原稿用紙	72	共紙表紙, 外題直書「聿庵詩集 初稿」	III-254
553	控・日記	袋綴装 三ツ目綴	1冊	明治十三年十月十九日～明治廿二年七月	(頼古樸)		7.8×15.8	罫紙 (楮紙)	36	紺表紙, 校訂(朱・墨)	III-385-2
554	春水遺稿・春風館詩鈔・春草堂詩鈔索引	紙本 ペン書 袋綴装 康熙綴	1冊	昭和初期カ	頼古樸		23.7×16.1	原稿用紙	80	浅葱表紙, 外題題簽「春水遺稿 春風館詩鈔 春草堂詩鈔 索引 古樸先生編 全」, 朱文方印「松雨山房」3顆, 校訂(ペン書), 注記(朱), 小口書「三頼先生詩索引 全」	IV-198
555	山陽詩鈔・遺稿索引	紙本 ペン書 袋綴装 康熙綴	1冊	昭和初期カ	頼古樸		23.8×16.1	原稿用紙	70	浅葱表紙, 外題題簽「山陽詩鈔 遺稿 索引 古樸先生編 全」, 朱文方印「松雨山房」2顆, 校訂(ペン書), 注記(朱・ペン書), 小口書「山陽先生詩索引 全」, 原稿用紙の一部版心に「文稿」「修道中学校」とあり	IV-199

文書・記録類

番号	名称	材質形状	員数	年代	作成者	宛所	法量	料紙	丁数	備考	管理番号
556	春草堂詩鈔 一	袋綴装 四ツ目綴	1冊	大正四年歳次乙卯十月十日～十一月廿五日	頼元緒(古樸) 謄写		24.5×17.1	罨紙 (三桮紙)	96	洋紙厚紙, 外題直書「春草堂詩抄 七言古詩 一」, 朱文長方印「頼氏必正樓」1顆, 頼山陽批正『癸未正月念日 襄僭批』, 菅茶山批正「辛巳肩両日 晋師識」, 頼山陽批正『襄賛』, 頼山陽批正『庚寅三月既望再閱了 襄』, 1丁目ウ頼杏坪貼紙「先往ノ七古トツニシテ請正也, コレモ神辺ヨリ返リタル分也, 今一冊ハ公へ上ケオキタル也」, 「春草堂詩抄古體 己卯庚辰 七言古詩第二卷」「春草堂抄二卷七言古詩一」「春草堂詩稿卷三七言古詩二 庚午至丁卯ハケ年」「春草堂詩抄卷四七言古詩三」に分かれる, 小口(地)墨書「春草堂詩鈔 一」, 罨紙端に「森製」とあり	IV-337-1
557	春草堂詩鈔 二	袋綴装 四ツ目綴	1冊	大正四年歳次乙卯十月十日～十一月廿五日	頼元緒(古樸) 謄写		24.5×17.1	罨紙 (三桮紙)	72	洋紙厚紙, 外題直書「春草堂詩抄 七言絶律古詩 二」, 朱文長方印「頼氏必正樓」1顆, 頼山陽批正『襄僭評』, 「春草堂詩集卷之 三次」「春草堂詩卷 三次附録 三休堂雜詠」「附録 春草堂詩 辛卯壬辰」「春草堂詩鈔 三次前稿選餘七言律四十四首」に分かれる, 小口(地)墨書「春草堂詩鈔 二」, 罨紙端に「森製」とあり	IV-337-2
558	春草堂詩鈔 三	袋綴装 四ツ目綴	1冊	大正四年歳次乙卯十月十日～十一月廿五日	頼元緒(古樸) 謄写		24.5×17.1	罨紙 (三桮紙)	72	洋紙厚紙, 外題直書「春草堂詩抄 七言律 三」, 朱文長方印「頼氏必正樓」1顆, 頼山陽批正『庚寅三月 襄僭評』, 『庚寅三月 襄僭評(中略) 襄又贅言』, 「春草堂詩抄卷六 七言律詩一」「春草堂詩抄卷七 七言律 二 十三年戊辰己巳庚午辛未壬申癸酉甲戌乙亥丙子丁丑戊寅己卯庚辰」に分かれる, 小口(地)墨書「春草堂詩鈔 三」, 罨紙端に「森製」とあり	IV-337-3
559	春草堂詩鈔 四	袋綴装 四ツ目綴	1冊	大正四年歳次乙卯十月十日～十一月廿五日	頼元緒(古樸) 謄写		24.5×17.1	罨紙 (三桮紙)	87	洋紙厚紙, 外題直書「春草堂詩抄 七言律 四」, 書写奥書「大正四歳次乙卯十月十日始業, 同十一月廿五日卒業 頼元緒謄写」, 朱文長方印「頼氏必正樓」1顆, 菅茶山批正『庚辰五月十八日時梅雨作寄 晋師謹批 午天濛々』, 頼山陽批正『国家不得不為此苦語 襄死罪頓首』, 頼山陽批正『庚寅三月 襄僭評』, 1丁目ウ頼杏坪貼紙「此一巻絶非精選抄録(中略) 正茶山耳茶山指摘(中略) 辛巳十月 杏坪」, この他もう一枚頼杏坪の貼紙と思われるものあり, 「丙子丁丑 春草堂詩抄卷八近體 七言律詩三」「春草堂詩抄卷九 七言律四」「春草堂詩 七言律」に分かれる, 小口(地)墨書「春草堂詩鈔 四」, 罨紙端に「森製」とあり	IV-337-4
560	霞関掌録	袋綴装 康熙綴	1冊	大正時代カ	(頼古樸)		23.4×16.2	罨紙 (機械漉紙)	69	浅葱表紙, 外題題簽「霞関掌録 全」, 首題「掌録」, 扉題「霞関掌録 全」, 注記(墨), 小口書「霞関掌録 全」	IV-475
561	葛子琴詩抄 上	袋綴装 康熙綴	1冊	大正時代カ			23.4×15.9	機械漉紙	37	紺地無双帙にてIV-476-1～3を一括, 浅葱表紙, 外題題簽「葛子琴詩抄 上」, 首題「葛子琴詩抄 卷之一」, 扉題「葛子琴詩抄 上」, 小口書「葛子琴詩抄 上」, 『原本在春風館』との記載あり, IV-166-1「蘭蕙集 卷一」に「春風館ニモト葛子琴詩一巻ヲ蔵ム(中略) 春風館ニヒテ此一巻ヲ写シ取り(中略) 別ニ葛子琴詩抄二巻アリ, コレハ板本トナサントシテ果サズ, 写本ヲ以テ伝ハリシモノ, 頗ル珍ナレバコレモ写シ取レリ」との記載あり(版心記載番号五十七オ, 頼成一筆), IV-682-18～25「春水遺響 十八～二十五」と同筆カ	IV-476-1
562	葛子琴詩抄 下	袋綴装 康熙綴	1冊	大正時代カ			23.4×15.9	機械漉紙	51	浅葱表紙, 外題題簽「葛子琴詩抄 下」, 首題「葛子琴詩抄 卷之五」, 扉題「葛子琴詩抄 下」, 小口書「葛子琴詩抄 下」, IV-682-18～25「春水遺響 十八～二十五」と同筆カ	IV-476-2

文書・記録類

番号	名称	材質形状	員数	年代	作成者	宛所	法量	料紙	丁数	備考	管理番号
563	葛子琴詩	袋綴装 康熙綴	1冊	大正時代カ			23.4×15.9	機械漉紙	41	浅葱表紙, 外題題簽「葛子琴詩 全」, 扉題「葛子琴詩」, 校訂(墨), 『原本在春風館 三島・葛子琴ノ詩草局末之文, 蓋先大人録目三島遺文者春風館本所無』との記載あり, IV-682-18~25「春水遺響 十八~二十五」と同筆カ	IV-476-3
564	山陽先生脱藩始末	袋綴装 康熙綴	1冊	昭和時代	(頼古楳)		23.5×16.0	罫紙 (機械漉紙)	50	浅葱表紙, 外題題簽「山陽先生脱藩始末 古楳先生写」, 校訂(朱・墨), 小口書「山陽先生脱藩始末 全」	IV-613
565	山陽先生凶変始末	袋綴装 康熙綴	1冊	昭和時代	(頼古楳)		23.5×16.0	罫紙 (機械漉紙)	58	浅葱表紙, 外題題簽「山陽先生凶変始末 古楳先生写」, 校訂・注記(墨・朱), 小口書「山陽先生凶変始末 全」	IV-614
566	梅颯歌集 一	袋綴装 康熙綴	1冊	昭和時代	(頼古楳)		23.9×16.0	原稿用紙 (機械漉紙)	50	浅葱表紙, 外題題簽「梅颯歌集 一」, 校訂(墨), 小口書「梅颯歌集 一」	IV-615-1
567	梅颯歌集 二	袋綴装 康熙綴	1冊	昭和時代	(頼古楳)		23.9×16.0	原稿用紙 (機械漉紙)	73	浅葱表紙, 外題題簽「梅颯歌集 二」, 校訂・注記(墨), 小口書「梅颯歌集 二」	IV-615-2
568	梅颯歌集 三	袋綴装 康熙綴	1冊	昭和時代	(頼古楳)		23.9×16.0	原稿用紙 (機械漉紙)	52	浅葱表紙, 外題題簽「梅颯歌集 三」, 校訂(墨), 小口書「梅颯歌集 三」	IV-615-3
569	梅颯歌集 四	袋綴装 康熙綴	1冊	昭和時代	(頼古楳)		23.9×16.0	原稿用紙 (機械漉紙)	68	浅葱表紙, 外題題簽「梅颯歌集 四」, 校訂(墨), 小口書「梅颯歌集 四」	IV-615-4
570	梅颯歌集 五	袋綴装 康熙綴	1冊	昭和時代	(頼古楳)		23.9×16.0	原稿用紙 (機械漉紙)	66	浅葱表紙, 外題題簽「梅颯歌集 五」, 校訂(墨), 小口書「梅颯歌集 五」	IV-615-5
571	梅颯歌集 六	袋綴装 康熙綴	1冊	昭和時代	(頼古楳)		23.9×16.0	原稿用紙 (機械漉紙)	61	浅葱表紙, 外題題簽「梅颯歌集 六」, 校訂(墨), 小口書「梅颯歌集 六」	IV-615-6
572	梅颯歌集 七	袋綴装 康熙綴	1冊	昭和時代	(頼古楳)		23.9×16.0	原稿用紙 (機械漉紙)	74	浅葱表紙, 外題題簽「梅颯歌集 七」, 校訂(墨), 小口書「梅颯歌集 七」	IV-615-7
573	梅颯歌集 八	袋綴装 康熙綴	1冊	昭和時代	(頼古楳)		23.9×16.0	原稿用紙 (機械漉紙)	68	浅葱表紙, 外題題簽「梅颯歌集 八」, 校訂(墨), 小口書「梅颯歌集 八」	IV-615-8
574	梅颯歌集 九	袋綴装 康熙綴	1冊	昭和時代	(頼古楳)		23.9×16.0	原稿用紙 (機械漉紙)	71	浅葱表紙, 外題題簽「梅颯歌集 九」, 校訂(墨), 小口書「梅颯歌集 九」	IV-615-9
575	梅颯歌集 十	袋綴装 康熙綴	1冊	昭和時代	(頼古楳)		23.9×16.0	原稿用紙 (機械漉紙)	69	浅葱表紙, 外題題簽「梅颯歌集 十」, 校訂(墨), 小口書「梅颯歌集 十」	IV-615-10
576	梅颯歌集 十一	袋綴装 康熙綴	1冊	昭和時代	(頼古楳)		23.9×16.0	原稿用紙 (機械漉紙)	73	浅葱表紙, 外題題簽「梅颯歌集 十一」, 校訂(墨), 小口書「梅颯歌集 十一」	IV-615-11

文書・記録類

番号	名称	材質形状	員数	年代	作成者	宛所	法量	料紙	丁数	備考	管理番号
577	梅颯歌集 十二	袋綴装 康熙綴	1冊	昭和時代	(頼古樸)		23.9×16.0	原稿用紙 (機械漉紙)	57	浅葱表紙, 外題題簽「梅颯歌集 十二 止」, 校訂(墨), 小口書「梅颯歌集 十二止」	IV-615-12
578	春風所寄 上	袋綴装 康熙綴	1冊	(昭和5年)	(頼古樸)		23.7×16.0	罨紙 (機械漉紙)	84	浅葱表紙, 外題題簽「春風所寄 上」, 校訂, 注記(墨), 小口書「春風所寄 上」	IV-616-1
579	春風所寄 中	袋綴装 康熙綴	1冊	(昭和5年)	(頼古樸)		23.7×16.0	罨紙 (機械漉紙)	74	浅葱表紙, 外題題簽「春風所寄 中」, 注記(朱・墨), 小口書「春風所寄 中」, 70・71丁目の間に世界東極図(36.2×47.2, 薄様)1枚挟込	IV-616-2
580	春風所寄 下	袋綴装 康熙綴	1冊	昭和五歳次 庚午五月念 七日了	元緒(頼古樸)		23.7×16.0	罨紙 (機械漉紙)	98	浅葱表紙, 外題題簽「春風所寄 下」, 奥書「昭和五歳次庚午五月念七日了 元緒」, 校訂, 注記(墨・朱), 小口書「春風所寄 下」	IV-616-3
581	春水先生叢書目次	袋綴装 康熙綴	1冊	昭和時代	(頼古樸)		23.7×16.3	罨紙 (機械漉紙)	9	浅葱表紙, 外題題簽「春水先生叢書目次」, 首題「春水先生叢書目次」, 扉題「春水先生叢書目次」, 校訂(墨・朱), 裏表紙見返に紙片「二一一 丁祭日ノ心得」, 綴じ糸切れ	IV-617
582	引翼編・引翼餘編	袋綴装 康熙綴	1冊	昭和時代	(頼古樸)		23.5×16.0	機械漉紙	46	浅葱表紙, 外題題簽「引翼編 引翼餘編 全」, 扉題「引翼編・引翼餘編」, 朱文長方印「頼氏必正楼」1顆, 校正(墨・朱), 小口書「引翼編 餘編 全」	IV-618
583	東遊負劍録	袋綴装 康熙綴	1冊	昭和時代	(頼古樸)		23.5×16.1	機械漉紙	57	浅葱表紙, 外題題簽「東遊負劍録 全」, 首題「東遊負劍録」, 扉題「東遊負劍録」, 朱文長方印「頼氏必正楼」1顆, 注記(付紙に墨), 小口書「東遊負劍録 全」	IV-619
584	春水翁詳伝 一	袋綴装 康熙綴	1冊	昭和時代	(頼古樸)		23.6×16.2	機械漉紙	103	浅葱表紙, 外題題簽「春水翁詳伝」, 首題「春水翁詳伝卷之」, 小口書「春水翁詳伝」	IV-620-1
585	春水翁詳伝 二	袋綴装 康熙綴	1冊	昭和時代	(頼古樸)		23.6×16.2	機械漉紙	73	浅葱表紙, 外題題簽「春水翁詳伝」, 首題「春水翁詳伝卷之」, 小口書「春水翁詳伝」	IV-620-2
586	春水翁詳伝 三	袋綴装 康熙綴	1冊	昭和時代	(頼古樸)		23.6×16.2	機械漉紙	97	浅葱表紙, 外題題簽「春水翁詳伝」, 首題「春水翁詳伝卷之」, 小口書「春水翁詳伝」	IV-620-3
587	春水翁詳伝 四	袋綴装 康熙綴	1冊	昭和時代	(頼古樸)		23.6×16.2	機械漉紙	58	浅葱表紙, 外題題簽「春水翁詳伝」, 首題「春水翁詳伝卷之」, 小口書「春水翁詳伝」	IV-620-4
588	春水遺響 一	袋綴装 康熙綴	1冊	大正時代カ	頼古樸		23.5×16.2	罨紙 (機械漉紙)	50	浅葱表紙, 外題題簽「春水遺響 補導篇 乾 一」, 扉題「古樸先生編 春水遺響 補導篇 乾」, 小口書「春水遺響 輔導上 一」	IV-682-1
589	春水遺響 二	袋綴装 康熙綴	1冊	大正時代カ	頼古樸		23.5×16.2	罨紙 (機械漉紙)	69	浅葱表紙, 外題題簽「春水遺響 補導篇 坤 二」, 扉題「古樸先生編 春水遺響 補導篇 坤」, 小口書「春水遺響 輔導下 二」	IV-682-2
590	春水遺響 三	袋綴装 康熙綴	1冊	大正時代カ	頼古樸		23.5×16.2	罨紙 (機械漉紙)	66	浅葱表紙, 外題題簽「春水遺響 献言応問篇 三」, 扉題「古樸先生編 春水遺響 献言応問篇」, 小口書「春水遺響 献言応問 三」	IV-682-3
591	春水遺響 四	袋綴装 康熙綴	1冊	大正時代カ	頼古樸		23.5×16.2	罨紙 (機械漉紙)	47	浅葱表紙, 外題題簽「春水遺響 藩学篇上 四」, 扉題「古樸先生編 春水遺響 藩学篇上」, 小口書「春水遺響 藩学上 四」	IV-682-4

文書・記録類

番号	名称	材質形状	員数	年代	作成者	宛所	法量	料紙	丁数	備考	管理番号
592	春水遺響 五	袋綴装 康熙綴	1冊	大正時代カ	頼古樸		23.5×16.2	罫紙 (機械漉紙)	53	浅葱表紙, 外題題簽「春水遺響 藩学篇中 五」, 扉題「古樸先生編 春水遺響 藩学篇中」, 小口書「春水遺響 藩学中 五」	IV-682-5
593	春水遺響 六	袋綴装 康熙綴	1冊	大正時代カ	頼古樸		23.5×16.2	罫紙 (機械漉紙)	62	浅葱表紙, 外題題簽「春水遺響 藩学篇下 六」, 扉題「古樸先生編 春水遺響 藩学篇下」, 小口書「春水遺響 藩学下 六」	IV-682-6
594	春水遺響 七	袋綴装 康熙綴	1冊	大正時代カ	頼古樸		23.5×16.2	罫紙 (機械漉紙)	62	浅葱表紙, 外題題簽「春水遺響 推薦篇上 七」, 扉題「古樸先生編 春水遺響 推薦篇上」, 小口書「春水遺響 推薦上 七」	IV-682-7
595	春水遺響 八	袋綴装 康熙綴	1冊	大正時代カ	頼古樸		23.5×16.2	罫紙 (機械漉紙)	62	浅葱表紙, 外題題簽「春水遺響 推薦篇中 八」, 扉題「古樸先生編 春水遺響 推薦篇中」, 小口書「春水遺響 推薦中 八」	IV-682-8
596	春水遺響 九	袋綴装 康熙綴	1冊	大正時代カ	頼古樸		23.5×16.2	罫紙 (機械漉紙)	45	浅葱表紙, 外題題簽「春水遺響 推薦篇下 九」, 扉題「古樸先生編 春水遺響 推薦篇下」, 小口書「春水遺響 推薦下 九」	IV-682-9
597	春水遺響 十	袋綴装 康熙綴	1冊	大正時代カ	頼古樸		23.5×16.2	罫紙 (機械漉紙)	90	浅葱表紙, 外題題簽「春水遺響 行遊篇上 十」, 首題「東遊負劍録」 「引翼編」 「引翼余編」, 扉題「古樸先生編 春水遺響 行遊篇上」, 小口書「春水遺響 行遊上 十」, 扉題「東遊負劍録」に『扱春風館所蔵本』との記載あり	IV-682-10
598	春水遺響 十一	袋綴装 康熙綴	1冊	大正時代カ	頼古樸		23.5×16.2	罫紙 (機械漉紙)	89	浅葱表紙, 外題題簽「春水遺響 行遊篇中 十一」, 首題「壬子作遊日記」, 扉題「古樸先生編 春水遺響 行遊篇中」 「壬子作遊日記」, 校訂(墨), 小口書「春水遺響 行遊中 十一」, 1丁目オに『原本存』との記載あり	IV-682-11
599	春水遺響 十二	袋綴装 康熙綴	1冊	大正時代カ	頼古樸		23.5×16.2	罫紙 (機械漉紙)	91	浅葱表紙, 外題題簽「春水遺響 行遊篇下 十二」, 首題「壬子東下日程曆」 「癸丑西上日程歴」, 扉題「古樸先生編 春水遺響 行遊篇下」 「壬子東下日程曆」, 小口書「春水遺響 行遊下 十二」, 扉題「春水遺響」に『原本存』との記載あり	IV-682-12
600	春水遺響 十三	袋綴装 康熙綴	1冊	大正時代カ	頼古樸		23.5×16.2	罫紙 (機械漉紙)	69	浅葱表紙, 外題題簽「春水遺響 著述篇乾 十三」, 首題「學術ノ弁」 「やしなひ草」 「竹館小録」 「間ものかたり」, 扉題「古樸先生編 春水遺響 著述篇乾」 「學術ノ弁」 「やしなひ草」 「竹館小録」 「間物語」 「鑑古録」, 注記(墨), 小口書「春水遺響 著述上 十三」	IV-682-13
601	春水遺響 十四	袋綴装 康熙綴	1冊	大正時代カ	頼古樸		23.5×16.2	罫紙 (機械漉紙)	91	浅葱表紙, 外題題簽「春水遺響 著述篇坤 十四」, 首題「御祭祀考」 「旁親班耐祭殤説」 「趙陶斎逸寺」 「原古編之事」, 扉題「古樸先生編 春水遺響 著述篇坤」 「御祭祀考」 「旁親班耐祭殤説」 「趙陶斎逸寺」 「原古編ノ事」, 校訂(墨), 小口書「春水遺響 著述下 十四」	IV-682-14
602	春水遺響 十五	袋綴装 康熙綴	1冊	大正時代カ	頼古樸		23.5×16.2	罫紙 (機械漉紙)	78	浅葱表紙, 外題題簽「春水遺響 掌録篇一 十五」, 首題「壬子掌録」 「癸丑掌録」, 扉題「古樸先生編 春水遺響 掌録篇」 「壬子掌録 四十七歳」 「癸丑掌録 四十八歳」, 小口書「春水遺響 掌録一 十五」, 扉題「春水遺響」に『原本存』との記載あり	IV-682-15
603	春水遺響 十六	袋綴装 康熙綴	1冊	大正時代カ	頼古樸		23.5×16.2	罫紙 (機械漉紙)	49	浅葱表紙, 外題題簽「春水遺響 掌録篇二 十六」, 首題「掌録 甲寅乙卯 丙辰 丁巳 戊午 己未 庚申」, 扉題「古樸先生編 春水遺響 掌録篇」 「掌録 甲寅 乙卯 丙辰 丁巳 戊午 己未 庚申 自四十九歳至五十五歳」, 校訂(墨), 小口書「春水遺響 掌録二 十六」, 扉題「春水遺響」に『原本存』との記載あり	IV-682-16

文書・記録類

番号	名称	材質形状	員数	年代	作成者	宛所	法量	料紙	丁数	備考	管理番号
604	春水遺響 十七	袋綴装 康熙綴	1冊	大正時代カ	頼古樸		23.5×16.2	罫紙 (機械漉紙)	79	浅葱表紙, 外題題簽「春水遺響 掌録篇三十七」, 首題「掌録 庚申辛酉」, 扉題「古樸先生編 春水遺響 掌録篇」, 「掌録 庚申辛酉 自五十五歳至五十六歳」, 小口書「春水遺響 掌録三十七」, 扉題「春水遺響」に『原本存』との記載あり	IV-682-17
605	春水遺響 十八	袋綴装 康熙綴	1冊	大正時代カ			23.5×16.2	機械漉紙	64	浅葱表紙, 外題題簽「春水遺響 掌録篇四十八」, 首題「掌録」, 扉題「霞関掌録 在江戸四冊之内『一』~『二』」, 「享和二年壬戌八月五十七歳」, 小口書「春水遺響 掌録四十八」, 扉題「霞関掌録」に『以下掌録皆帰春風館』との記載あり, IV-682-1~17と18~25は異筆	IV-682-18
606	春水遺響 十九	袋綴装 康熙綴	1冊	大正時代カ			23.5×16.2	機械漉紙	48	浅葱表紙, 外題題簽「春水遺響 掌録篇五十九」, 扉題「霞関掌録 在江戸四冊之内『三』~『四』」, 小口書「春水遺響 掌録五十九」	IV-682-19
607	春水遺響 二十	袋綴装 康熙綴	1冊	大正時代カ			23.5×16.2	機械漉紙	56	浅葱表紙, 外題題簽「春水遺響 掌録篇六廿」, 扉題「掌録 享和三年癸亥四月至十二月『五』五十八歳」, 「掌録 甲子乙丑丙寅『六』自五十九歳至六十一歳」, 小口書「春水遺響 掌録六廿」, 巻頭扉題に『掌録五トハ霞関掌録カラノ冊数, 春風館本ニソノウニ作ル, 壬子掌録等ハコレニ入ラズ, 以下之ニ倣フ』との記載あり	IV-682-20
608	春水遺響 二十一	袋綴装 康熙綴	1冊	大正時代カ			23.5×16.2	機械漉紙	48	浅葱表紙, 外題題簽「春水遺響 掌録篇七廿一」, 扉題「掌録 丁卯正月至戊辰十二月『七』自六十二歳至六十三歳」, 「掌録 己巳正月至庚午十二月『八』自六十四歳至六十五歳」, 小口書「春水遺響 掌録七廿一」	IV-682-21
609	春水遺響 二十二	袋綴装 康熙綴	1冊	大正時代カ			23.5×16.2	機械漉紙	51	浅葱表紙, 外題題簽「春水遺響 掌録篇八廿二」, 扉題「掌録 辛未正月『九』六十六歳」, 「掌録 壬申正月『十』西湖志抄書付六十七歳」, 小口書「春水遺響 掌録八廿二」	IV-682-22
610	春水遺響 二十三	袋綴装 康熙綴	1冊	大正時代カ			23.5×16.2	機械漉紙	44	浅葱表紙, 外題題簽「春水遺響 掌録篇九廿三」, 扉題「掌録 癸酉正月至六月『十一』六十八歳」, 小口書「春水遺響 掌録九廿三」	IV-682-23
611	春水遺響 二十四	袋綴装 康熙綴	1冊	大正時代カ			23.5×16.2	機械漉紙	58	浅葱表紙, 外題題簽「春水遺響 掌録篇十廿四」, 扉題「掌録 癸酉七月至八月『十二』六十八歳」, 「掌録 癸酉九月至十二月上書目著述姓名 上梓年月『十三上』『十三下』六十八歳」, 小口書「春水遺響 掌録十廿四」	IV-682-24
612	春水遺響 二十五	袋綴装 康熙綴	1冊	大正時代カ			23.5×16.2	機械漉紙	51	浅葱表紙, 外題題簽「春水遺響 掌録篇十一廿五」, 扉題「掌録 癸酉十二月下甲戌正月乙亥『十四』自六十八歳至六十九歳」, 「掌録 甲戌乙亥『十五』自六十九歳至七十歳」, 小口書「春水遺響 掌録十一廿五」	IV-682-25
613	春水遺響 二十六	袋綴装 康熙綴	1冊	大正時代カ			23.5×16.2	機械漉紙	75	浅葱表紙, 外題題簽「春水遺響 詩鈔篇 廿六」, 首題「北遊吟草」「戊申西上稿」「庚戌西上詩」「庚戌東下詩草」「辛亥」, 「薰風詩卷」「秋色詩卷」, 扉題「北遊吟草 安永元年己亥 三十四歳」「戊申西上稿 天明八年戊申 四十三歳」「庚戌西上詩 寛政二年庚戌 四十五歳」「庚戌東下詩草 寛政二年庚戌 四十五歳」「辛亥 在江戸 四十六歳」「薰風詩卷 享和元年辛酉 五十六歳」「秋色詩卷 享和二年壬戌 五十七歳」, 句切点(朱), 小口書「春水遺響 詩鈔 廿六」, 「薰風詩卷」最終丁オに「右, 文化紀元甲子四月写 霞崖先生自書写」との記載あり	IV-682-26
614	嶺松廬詩鈔	袋綴装 康熙綴	1冊	大正四歳乙卯九月尽月	元緒謹写(頼古樸)		23.5×16.2	機械漉紙	30	浅葱表紙, 外題題簽「嶺松廬詩鈔 全」, 首題「嶺松廬詩鈔」, 扉題「春水大人 嶺松廬詩鈔」, 奥書「右, 家春水大人詩鈔 大正四歳乙卯九月尽日卒業 元緒謹写」, 注記(朱), 句切点(朱), 小口書「嶺松廬詩鈔 全」	IV-683

文書・記録類

番号	名称	材質形状	員数	年代	作成者	宛所	法量	料紙	丁数	備考	管理番号
615	聿庵詩鈔 上	袋綴装 四ツ目綴	1冊	昭和時代カ	頼棟厓(成一)		23.6×16.0	罨紙 (楮紙)	49	赤茶表紙	Ⅲ-253
616	[頼山陽関係詩文・書簡写]	袋綴装 四ツ目綴	1冊	(昭和前期カ)	頼成一筆カ		23.2×15.7	罨紙 (青)	139	縹表紙, 校正(墨), 頭註(墨), 題箋(白紙)あり	Ⅳ-266-1
617	[頼山陽関係詩文・書簡写]	袋綴装 四ツ目綴	1冊	(昭和前期カ)	頼成一筆カ		23.2×15.7	罨紙 (青)	132	縹表紙, 校正(墨), 頭註(墨), 題箋(白紙)あり	Ⅳ-266-2
618	山陽翁詳伝 卷之一	袋綴装 四ツ目綴	1冊	大正～昭和 時代カ	曾孫元緒(頼 古棟)謹編		23.3×16.1	三桎紙カ	107	丹表紙, 外題題簽「山陽翁詳伝 一」, 首題「山陽翁詳伝 卷之一 曾孫元緒謹編」, 第1丁才に朱文長方印「頼氏必正楼」1顆, 校訂(朱), 注記(墨), 句切点(朱), 小口書「山陽翁詳伝 一」, 不審紙あり	Ⅳ-472-1
619	山陽翁詳伝 卷之二	袋綴装 四ツ目綴	1冊	大正～昭和 時代カ	曾孫元緒(頼 古棟)謹編		23.3×16.1	三桎紙カ	81	丹表紙, 外題題簽「山陽翁詳伝 二」, 首題「山陽翁詳伝 卷之二」, 第1丁才に朱文長方印「頼氏必正楼」1顆, 注記(墨), 句切点(朱), 小口書「山陽翁詳伝 二」, 不審紙あり	Ⅳ-472-2
620	山陽翁詳伝 卷之三	袋綴装 四ツ目綴	1冊	大正～昭和 時代カ	曾孫元緒(頼 古棟)謹編		23.3×16.1	三桎紙カ	101	丹表紙, 外題題簽「山陽翁詳伝 三」, 首題「山陽翁詳伝 卷之三」, 第1丁才に朱文長方印「頼氏必正楼」1顆, 校訂(墨・朱), 句切点(朱), 小口書「山陽翁詳伝 三」, 不審紙あり	Ⅳ-472-3
621	山陽翁詳伝 卷之四	袋綴装 四ツ目綴	1冊	大正～昭和 時代カ	曾孫元緒(頼 古棟)謹編		23.3×16.1	三桎紙カ	110	丹表紙, 外題題簽「山陽翁詳伝 四」, 首題「山陽翁詳伝 卷之四」, 第1丁才に朱文長方印「頼氏必正楼」1顆, 校訂(朱), 注記(墨), 句切点(朱), 小口書「山陽翁詳伝 四」, 不審紙あり	Ⅳ-472-4
622	山陽翁詳伝 卷之五	袋綴装 四ツ目綴	1冊	大正～昭和 時代カ	曾孫元緒(頼 古棟)謹編		23.3×16.1	三桎紙カ	104	丹表紙, 外題題簽「山陽翁詳伝 五」, 首題「山陽翁詳伝 卷之五」, 第1丁才に朱文長方印「頼氏必正楼」1顆, 校訂(墨), 句切点(朱), 小口書「山陽翁詳伝 五」, 不審紙あり	Ⅳ-472-5
623	印影「頼元孚印」「子儀」	状	1通	昭和時代	頼成一(楳厓)		17.4×11.3	竹紙	1	白文方印「頼元孚印」1顆, 朱文方印「子儀」1顆, 墨書「以下雙石刻」「(全十五)一」, 裏面鉛筆書「11」	Ⅲ-17-1
624	印影「頼孚」「楳厓」	状	1通	昭和時代	頼成一(楳厓)		17.2×11.2	竹紙	1	白文方印「頼孚」1顆, 朱文方印「楳厓」1顆, 墨書「二」, 裏面鉛筆書「7」	Ⅲ-17-2
625	印影「不憂不懼」	状	1通	昭和時代	頼成一(楳厓)		17.3×11.3	竹紙	1	白文長方印「不憂不懼」1顆, 墨書「三」, 裏面鉛筆書「5」	Ⅲ-17-3
626	印影「頼元孚印」「子儀」	状	1通	昭和時代	頼成一(楳厓)		17.0×11.3	竹紙	1	白文方印「頼元孚印」1顆, 朱文方印「子儀」1顆, 墨書「四」, 裏面鉛筆書「10」	Ⅲ-17-4
627	印影「清白」	状	1通	昭和時代	頼成一(楳厓)		17.3×11.2	竹紙	1	白文長方印「清白」1顆, 墨書「五」, 裏面鉛筆書「16」	Ⅲ-17-5
628	印影「頼孚」「子儀」	状	1通	昭和時代	頼成一(楳厓)		17.2×11.2	竹紙	1	白文方印「頼孚」1顆, 朱文方印「子儀」1顆, 墨書「六」, 裏面鉛筆書「4」	Ⅲ-17-6
629	印影「囂々」	状	1通	昭和時代	頼成一(楳厓)		17.2×11.3	竹紙	1	白文長方印「囂々」1顆, 墨書「七」, 裏面鉛筆書「12」	Ⅲ-17-7
630	印影「清白傳家」	状	1通	昭和時代	頼成一(楳厓)		17.2×11.2	竹紙	1	白文長方印「清白傳家」1顆, 墨書「八」, 裏面鉛筆書「13」	Ⅲ-17-8
631	印影「頼氏元孚」「楳厓」	状	1通	昭和時代	頼成一(楳厓)		17.2×11.2	竹紙	1	白文方印「頼氏元孚」1顆, 朱文方印「楳厓」1顆, 墨書「以上雙石刻」「九」, 裏面鉛筆書「2」	Ⅲ-17-9
632	印影「頼」「孚」	状	1通	昭和時代	頼成一(楳厓)		17.3×11.2	竹紙	1	白文方印「頼」・朱文方印「孚」(連印), 墨書「松居刻」「十」, 裏面鉛筆書「6」	Ⅲ-17-10
633	印影「松雨山房」	状	1通	昭和時代	頼成一(楳厓)		17.3×11.2	竹紙	1	朱文方印「松雨山房」1顆, 墨書「松居刻」「十一」, 裏面鉛筆書「9」	Ⅲ-17-11
634	印影「頼孚」「楳厓」	状	1通	昭和時代	頼成一(楳厓)		17.2×11.2	竹紙	1	白文方印「頼孚」1顆, 朱文方印「楳厓」1顆, 墨書「惇(吾)刻」「十二」, 裏面鉛筆書「3」	Ⅲ-17-12
635	印影「孚印」「子儀」	状	1通	昭和時代	頼成一(楳厓)		17.2×11.2	竹紙	1	白文方印「孚印」1顆, 朱文方印「子儀」1顆, 墨書「以下無銘」「十三」, 裏面鉛筆書「1」	Ⅲ-17-13
636	印影「楳厓」	状	1通	昭和時代	頼成一(楳厓)		17.2×11.2	竹紙	1	朱文方印「楳厓」1顆, 墨書「十四」, 裏面鉛筆書「8」	Ⅲ-17-14
637	印影「口筆」	状	1通	昭和時代	頼成一(楳厓)		17.4×11.2	竹紙	1	朱文方印「口筆」1顆, 墨書「十五」, 裏面鉛筆書「15」	Ⅲ-17-15

文書・記録類

番号	名称	材質形状	員数	年代	作成者	宛所	法量	料紙	丁数	備考	管理番号
638	「歳事 毎月朔望拝供」木札	木製 木札	1点	昭和時代	頼氏		15.0 × 33.2 × 0.9			端書「歳事 毎月朔望拝供」, 木札全面に洋紙貼付のうえ墨書, 「妙敬夫人」「榎厓大人」を追記	III-380
639	〔覚書〕(学問所中不残□□覚)	状	1通	江戸後期			14.2×46.2	諸口紙			III-123-29
640	〔写し〕(楽翁公外史序文写し)	状	1通				24.3×34.2	半紙		書簡の反故紙を使用	III-167-5
641	〔御奥詰連名〕(嶋本甚内ほか二十六名)	状	1通	江戸後期			14.1×82.8	諸口紙		端裏書「御奥詰連名」	III-329-11-1
642	〔御家訓写〕(十五箇条)	状	1通	江戸後期			14.1×93.0	諸口紙			III-329-11-2
643	覚(御切米高拾石二付七石渡之事, ほか)	状	1通	四月九日			14.3×63.3	諸口紙			III-329-11-3
644	〔備中鍾乳洞図〕	状	1通	江戸後期			27.7×40.2	楮紙		端裏書「備中鍾乳洞図」, 訂正(墨抹)	III-330-13
645	〔柴野栗山・菅茶山画賛写〕	状	1通	江戸後期			18.4×22.5	楮紙		校訂(墨), 柴野栗山の鉄拐仙人画賛, 菅茶山の太閤像賛の写し	III-333-8-6
646	〔藩士住所録〕	状	1通	江戸後期カ	頼家		14.4×23.0	諸口紙			III-185-13
647	頼杏坪印影	状	1通	江戸後期			40.4×9.0	竹紙	1	封筒(21.3×8.0)にてIII-103-1~11まで「一括, 封筒「杏坪印影 紙片三葉 頼弥次郎」, 白文方印「四郡税務」1顆, 白文方印「奴可三上三次 恵蘇四郡支配」2顆, 白文方印「頼惟柔印」1顆	III-103-1
648	頼杏坪印影	状	1通	江戸後期			23.3×16.3	竹紙	1	白文方印「頼惟柔印」1顆, 白文方印「頼氏千祺」1顆, 朱文方印「杏」「坪」(連印)1顆, 白文長方印「四郡支配兼編地志」1顆, 朱文長方印「愛吾廬」1顆, 白文方印「牛田耕叟」「青山埋骨」(連印)1顆, 印面積文あり, 「右, 一石六面, 螻堂刻所贈 文政癸未冬」との記載あり	III-103-2
649	頼杏坪印影	状	1通	江戸後期			12.5×9.0	竹紙	1	白文方印「頼惟柔印」1顆, 印面積文あり, 「回文」「漢方寸印 即效筑前所獲漢委奴国王印」「単姓二名古式」との記載あり	III-103-3
650	頼杏坪印影	状	1通	江戸後期			12.5×9.3	竹紙	1	白文方印「牛田耕叟」1顆, 印面積文あり, 「今體」との記載あり	III-103-4
651	頼杏坪印影	状	1通	江戸後期			14.9×9.0	竹紙	1	朱文長方印「春草」1顆, 印面積文あり, 「獅子鈕磁印 豫洲人弧舟製贈」との記載あり	III-103-5
652	頼杏坪印影	状	1通	江戸後期			14.7×9.0	竹紙	1	白文方印「頼惟柔印」1顆, 白文方印「頼氏千祺」1顆, 「漢製六面印法 其一」「肥後人号螻堂」「靱鱗」との記載あり	III-103-6
653	頼杏坪印影	状	1通	江戸後期			14.7×9.0	竹紙	1	白文長方印「四郡支配兼編地志」1顆, 白文方印「牛田耕叟」「青山埋骨」(連印)1顆, 「其二」との記載あり	III-103-7
654	印影「頼玄之印」「君拳氏」「故達」	状	1通	江戸後期			14.3×22.0	竹紙	1	包紙(29.3×8.9, 竹紙)「山陽大人御印紙」, 白文方印「頼玄之印」1顆, 白文方印「君拳氏」1顆, 白文長方印「故達」1顆, 端裏書「印紙」, 奥に「辛卯孟冬七日期于聿庵雨窓 山陽外史」との記載あり	III-103-8
655	印影「頼」「餘一」「竹原老樵」「頼惟彊印」	状	1通	江戸後期～明治時代カ			6.5×16.5	竹紙	1	白文方印「頼」「餘一」(連印)2顆, 白文方印「竹原老樵」1顆, 白文方印「頼惟彊印」1顆	III-103-9
656	頼聿庵印影	状	1通	明治時代カ			20.7×27.7	機械漉紙	1	白文方印「頼協之印」1顆, 朱文橢円印[]1顆, 白文方印「頼」「協」(連印)1顆, 白文方印「頼協之印」1顆, 白文方印「頼」「協」(連印)1顆, 朱文方印「頼協之印」1顆	III-103-10
657	今制昌化石連印一枚「頼協之印」「聿庵」	状	1通	戊戌(明治31年)冬日	□□□源養拝		20.0×13.4	機械漉紙	1	白文方印「頼協之印」・朱文方印「聿庵」(連印)1顆, 朱文長方印「□農」1顆, 裏書「十五日」, 同・黒文円印1顆	III-103-11
658	頼春水印影	状	1通	江戸後期			20.1×26.0	竹紙	1	白文方印「頼」「惟完」(連印)1顆, 朱文双円印「惟」「完」1顆, 白文長方印「頼惟完印」「頼氏千秋」(連印)1顆, 白文方印「頼惟完印」1顆, 朱文長方印「春水」1顆, 朱文長方印「春水」1顆, 白文方印「頼惟完」1顆, 朱文方印「春水」1顆, 本紙両端破損	III-109

文書・記録類

番号	名称	材質形状	員数	年代	作成者	宛所	法量	料紙	丁数	備考	管理番号
659	頼杏坪印影	状	1通	昭和時代カ			17.1×22.1	機械漉紙	1	朱文橢円印「山弼」1顆	Ⅲ-110-1
660	頼杏坪印影	状	1通	昭和時代カ			17.5×22.7	機械漉紙	1	朱文長方形印「惟」「柔」(連印)1顆	Ⅲ-110-2
661	頼杏坪印影	状	1通	昭和時代カ			17.4×22.7	機械漉紙	1	朱文長方形印「残夜水明書樓」1顆	Ⅲ-110-3
662	印影「翼翼」	状	1通	昭和時代カ			17.4×22.3	機械漉紙	1	朱文長方形印「翼翼」1顆	Ⅲ-110-4
663	頼杏坪印影	状	1通	昭和時代カ			34.2×24.0	機械漉紙	1	白文方印「頼柔私印」2顆	Ⅲ-395
664	頼秋蘭印影	状	1通	昭和時代			16.0×18.6	機械漉紙	1	白文方印「鹽谷季緯」1顆, 朱文方印「秋蘭」1顆, 白文長方形「思無邪」1顆, I-190-1~3の印影	Ⅲ-394
665	[常陸国茨城郡香積寺鰐口, 九曜紋石灯籠ほか・拓本]	拓本 状	1通	江戸後期			25.8×117.6	楮紙	7	裏打ちあり	Ⅲ-348-23
666	姓林全書	袋綴装 四ツ目綴	1冊	江戸中期			13.3×19.7	楮紙	147	紺表紙, 外題題簽「姓林全書」, 奥書「正徳四年甲午二月廿三日 伊藤長胤書」, 注記(墨・朱・藍), 仮名(墨), 頼家メモ紙「モトカラ飯岡文書ト共ニアリ」	Ⅲ-233
667	浅野齊賢印影	仮綴	1綴	江戸後期			19.0×15.2	竹紙	5	白文方印「齊」「賢」(連印)1顆, 白文方印「羽林次将」1顆, 白文方印「齊賢印信」1顆, (付紙)白文長方形印「與楽」2顆, 朱文方印「省齋」1顆, 朱文方印「民之父母」1顆, 印面積文あり, 「扶桑木材 亀鈕 齊賢」「黄蠟石 羽林次将」「黄蠟石 省齋」との記載あり	Ⅲ-300-1
668	紅葉山御掛ヶ札并柳営夜話 附頼先生訓戒書ほか	袋綴装 大和綴	1冊	万延元申年 五月十四日	岩佐図三郎写之		25.0×17.3	半紙	27	共紙表紙, 外題直書「紅葉山御掛ヶ札并柳営夜話 附頼先生訓戒書(後略)」, 表紙墨書「岩佐蔵書」, 奥書「万延元申年五月十四日 岩佐図三郎写之」, 異筆あり	Ⅳ-631
669	春秋遼豕録 天	写本 袋綴装 仮綴(包背装)	1冊	(安政6年)	後藤松陰カ		24.4×16.4	半紙	57	板帙(後補)にて I-120-1~3を一括, 共紙表紙, 外題直書「春秋遼豕録 天」, 首題「山陽先生春秋講義筆記」, 表紙墨書「丙寅嘉平月贈成一君 潔」, 白文方印「頼潔」1顆, 句点(墨), 注記(墨), 校訂(墨)	I-120-1
670	春秋遼豕録 地	写本 袋綴装 仮綴(包背装)	1冊	(安政6年)	後藤松陰カ		24.5×16.6	半紙	45	共紙表紙, 外題直書「春秋遼豕録 地」, 表紙朱書「○」, 句点(朱), 返点(朱), 注記(朱), 校訂(朱)	I-120-2
671	春秋遼豕録 人	写本 袋綴装 仮綴(包背装)	1冊	安政己未(6年)仲秋十又九日	後藤松陰カ		24.3×16.4	半紙	62	共紙表紙, 外題直書「春秋遼豕録 人」, 識語「遼豕録三卷先師 山陽先生説春秋而其門人聴者筆録之, 機下江寓坂後 先生之子又次郎兄午膳見寄之, 唐山春秋之伝雖多々矣, 除元趙汭金鎖匙外恐莫, 若此録簡明直捷者, 阿所好之譏機固所不辞, 安政己未仲秋十又九日 後藤機識(黒文方印影)」『此跋ハ御認御見合申度事』, 句点(朱), 返点(朱), 注記(朱), 校訂(朱)	I-120-3
672	義士定論	袋綴装 大和綴	1冊	江戸中後期	山口剛斎		23.4×16.8	楮紙	32	共紙表紙, 外題直書「義士定論」, 首題「義士定論」, 巻頭「后学山口景徳謹識」, 朱文長方形印「頼氏必正婁」1顆	Ⅳ-495
673	外史草稿 写本	袋綴装 大和綴	1冊	大正十一年十一月	生長小十郎		25.8×19.2	機械漉紙	48	厚紙表紙, 外題直書「外史草稿 写本」, 奥書「外史自筆草稿 余珍藏其一部写茲也 大正十一年十一月 泰幸拜具 岡山県笠岡 生長小十郎 非売品 不許復写」, 朱文方印「生長氏図書」1顆, 朱文方印「碧雲觀主」1顆, 白文方印「□□」1顆, 朱文橢円印(訂正印)「生長」多数あり, 校訂(朱・青・墨), 注記(貼紙・付紙に墨), 紙3枚(①15.9×4.3, ②10.2×4.4, ③12.2×4.3, すべて機械漉紙)を糊付けのうえ1丁目の袋に挟込, 挟込紙①「外史 三」, 同②『表紙題字 用紙二入』, 同③『甚恐入候得共, 此表紙題字代書御願申上度候 本 高戸様 小十郎』, 厚紙裏表紙見返に青ペン書・鉛筆書(頼惟勤筆)多数, 不審紙あり	Ⅳ-538

文書・記録類

番号	名称	材質形状	員数	年代	作成者	宛所	法量	料紙	丁数	備考	管理番号
674	三次因幡守様御墓所図	状	1通	江戸時代	誠斎製		28.4×42.6	諸口紙		端裏書「三次因幡守様御墓所図 誠斎製」	Ⅲ-348-25
675	享保六年丑九月廿六日御譜代被為召上意之写	横半帳	1冊	(安政3年)	辻(辻将曹)	頼先生(聿庵カ)	14.4×23.0	諸口紙	9	共紙表紙, 外題直書「享保六年丑九月廿六日 御譜代被為召上意之写」, 首題「享保六年丑九月廿六日 上意」, 包紙(26.3×14.8, 諸口紙, 裏に朱文方印「□□□」3顆)付属, 包紙「江戸御本丸図 上意御書付写 享保六年 御目見以上以下共御役順 秘書三冊 奉呈 頼先生 足下 辻邁拜」, 内容物は「上意御書付写 享保六年」のみ	Ⅲ-348-16-1
676	辰四月朔日被仰渡書付写し(公方様御病身につき右大将様へ政務御譲りのこと)	状	1通	(安政3年)	(辻将曹)		14.1×35.4	諸口紙		Ⅲ-348-16-1に挟込, 徳川家定の將軍継嗣問題に関して, 井伊掃部頭, 堀田相模守へ申渡しの手紙	Ⅲ-348-16-2
677	漂流記(文化元・4年)	袋綴装 大和綴	1冊	(文化年間)			23.9×16.7/ 23.3×16.6	半紙	43	共紙表紙, 外題直書「漂流記」, 表紙墨書「奥州人四人 文化元年甲子 フロシヤ人ツレ来ル 芸州一人 文化四年丁卯紅毛人ツレ来ル」, 朱文長方印「頼」2顆, 注記(朱), 見返付紙「五十六」, 小口書「漂流記」	Ⅲ-64-1
678	漂流記(文化6~7年)	袋綴装 大和綴	1冊	(文化年間)			24.6×17.5	半紙	41	共紙表紙, 外題直書「漂流記」, 表紙墨書「文化六年十一月漂流 同七年十二月長崎帰着」, 朱文長方印「頼」1顆, 校訂(墨)	Ⅲ-64-2
679	浦賀記行	袋綴装 大和綴	1冊	嘉永六丑之年六月五日~十日	煥		22.7×15.0	楮紙	19	共紙表紙, 外題直書「浦賀記行」, 跋「煥識」, Ⅲ-283「嘉永外夷視察報告」と関連カ, 不審紙あり	Ⅲ-65
680	謹請校読	仮綴	1綴	三月七日~十一月二十二日			14.0×26.0	諸口紙	34		Ⅲ-82
681	[浦賀紀行写]	袋綴装 大和綴	1冊	(嘉永6年~安政年間カ)			23.9×16.7	半紙	19	共紙表紙, 校訂(朱・貼紙に墨書), 包紙(クラフト紙)「嘉永外夷視察報告」, Ⅲ-65「浦賀記行」と同内容	Ⅲ-283
682	応接始末	袋綴装 大和綴	1冊	(嘉永6年~安政年間カ)			23.0×14.9	罫紙 (楮紙)	21	素紙表紙, 外題直書「応接始末」, 読此録而不忤慨痛哭其人必非志士(中略)平大星跋, 不審紙あり	Ⅲ-284
683	書拔(城下諸職人名および受取扶持)	状	1通	江戸後期			14.3×195.4	色諸口紙			Ⅲ-123-2-1
684	慶長拾六年幸長様於紀州躍被仰付候次第置	状	1通	江戸後期			14.3×249.4	諸口紙		端裏に朱文長方印「頼」1顆, 端裏書「紀州和歌山ニテ躍ノ行列(印)」, 注記(付紙に墨)	Ⅲ-135-3
685	[常州真壁伝正寺ニ有之御家中之石碑につき人名録]	状	1通	江戸後期			15.6×54.3	杉原紙			Ⅲ-135-6
686	[覚書](講読会の担当者および書物の控)	一紙貼継	1巻	五月十二日~十二月廿二日			14.4×871.4	諸口紙	43		Ⅲ-138-1
687	[覚書](講読会の担当者および書物の控)	仮綴	1綴	正月廿七日~三月二日			14.0×28.5	諸口紙	8		Ⅲ-138-2
688	[小片](築山, 蔵)	状	1通	江戸後期			15.0×13.8	楮紙			Ⅲ-175-2
689	[覚書](関所通行手形書式)	状	1通	寛政五丑年三月廿七日			30.4×20.0	杉原紙		端書「文字紙如此ニ御座候」	Ⅲ-334-21
690	東武雲気考(江戸藩邸の様子)	状	1通	江戸後期			14.5×16.0	諸口紙		端裏書「秘」	Ⅲ-336-16
691	慎(水戸光圀公御示し九ヶ条)	状	1通	明治時代カ			29.1×77.3	竹紙			Ⅲ-358-6
692	[字指・角筆図]	状	1通	江戸時代			45.9×29.0	楮紙		明経道侍読字指(大小二本)及び角筆の図	Ⅲ-345-1
693	[字指・角筆図]	状	1通	江戸時代			45.9×29.0	楮紙		明経道侍読字指(大小二本)及び角筆の図	Ⅲ-345-2

文書・記録類

番号	名称	材質形状	員数	年代	作成者	宛所	法量	料紙	丁数	備考	管理番号
694	[角樽結図]	紙本墨書・朱書 状	1通	江戸時代			25.0×19.5	楮紙	2		III-348-1
695	[樽結図]	紙本墨書・朱書 状	1通	江戸時代			24.9×16.7	楮紙	1		III-348-2
696	江戸天地丸御舟之図(飾付之図)	紙本著色 状	2通	江戸時代			32.9×48.2	楮紙	2	外題直書(端裏書)「江戸天地丸御舟之図」, 端裏書「江戸天地丸御舟之図」, 「天地丸御船図」(32.9×48.2)と「天地丸御船飾付之図」(25.0×48.2)の2枚貼合せ	III-348-3
697	駒岳(拙斎蔵, 拓本)	拓本 状	1通	江戸時代			16.0×18.7	杉原紙		首題「駒岳」, 端書「駒岳 拙斎蔵」	III-348-6
698	東廬山米山寺門楼鐘(拓本)	拓本 状	1通	江戸時代			24.6×34.6	楮紙		首題「東廬山米山寺門楼鐘」, 端書「東廬山米山寺門楼鐘」	III-348-7
699	竹原照蓮寺鐘文(拓本)	拓本 状	1通	江戸時代			25.8×35.7	杉原紙		外題直書(端裏書)「竹原照蓮寺鐘文」, 端裏書「竹原照蓮寺鐘文」	III-348-8
700	[石州浜田に出現した龍の図]	紙本墨画 淡彩 状	1通	江戸時代			34.2×24.3	楮紙			III-348-10
701	[軒平瓦拓本](天福元年五月造銘)	拓本 状	1通	江戸時代			28.9×39.6	楮紙		裏打ちあり	III-348-19
702	[一貫道印信土碑拓本]	拓本 状	1通	江戸時代			76.2×30.0	楮紙		貼紙「此佐藤先生之墓碑と承及候」, 裏貼紙(後補)「元禄五壬申曆六月六日 一貫道印信土 右, 佐藤五郎左衛門碑ト云フコト難儀候, 佐藤ハ享保四年ニ卒去ト聞ク, 彼四十七人復讐ハ元禄十四年ナリ, 佐藤コノ議論アリシコトナレハ十四年後ニ卒去ナリ, 此法名ナルモノ道学ノ人ニ似寄タルヨリ佐藤ト云伝フルヤ, 此碑ノ在所イカハ審ナラス, 佐藤ハ西久保瑠口光寺ニ在ト云, 同寺ナルヨリトニヤ」	III-348-20
703	帝釈唐門之図	紙本墨画 淡彩 状	1通	江戸後期			27.5×40.2	楮紙		端裏書「備後帝釈ノ洞ノ図」, 本紙左に画題「帝釈唐門之図」	III-348-22
704	[水上異生物之図]	状	1通	江戸時代			25.2×34.7	薄様		端書「此辺りの□□の海中□□」	III-348-27
705	備中国下道郡南山古墳ノ図	紙本墨画 淡彩 状	1通	江戸後期			21.0×26.4	楮紙		首題「備中国下道郡南山古墳ノ図」	III-348-30
706	口中経験并取針法	袋綴装 大和綴	1冊	江戸時代			24.5×17.1	楮紙	19	共紙表紙, 首題「口中経験并取針法」, (見返)口中図書込, 綴じ糸切れ	IV-494
707	大極図説講義	袋綴装 大和綴	1冊	辛酉八月二十六日			14.8×17.0	楮紙	37	共紙表紙, 外題直書「大極図説講義」, 首題「大極図説浅見先生筆記」, 奥書「辛酉八月二十六日書之 大極図説講義畢」, 白文円印「頼」1顆, 傍線・句点・注記・合点・合符(朱), 綴じ糸切れ	IV-496
708	「白鶴堂草稿」(頼三樹三郎詩稿写)	袋綴装 四ツ目綴	1冊	江戸後期～明治時代			20.0×13.6	罫紙	32	鼠表紙, 扉題「白鶴堂草稿」, 奥書「鴨涯先生之書 本平野」, 朱文方印「事□□可□□」1顆, 朱文長円印「西條文庫」1顆, 批正(朱), 注記(朱), 傍点(朱)	IV-503
709	秘密御用向	袋綴装 四ツ目綴	1冊	江戸後期カ			27.4×20.3	楮紙	8	茶表紙, 扉題「秘密御用向 不許傍観」, 扉題冒頭に鉛筆書「日本外史に関する」の追記あり, 追啓(七月廿一日付, 差出: 村山法橋善応弘庸, 宛所: 松波大炊頭様, 北小路撰津守様, 津幡陸奥守様 参人々御中)の写し, 安政4年の二条家による川越版『日本外史』への抗議と関連	IV-537
710	[書付](町村別人名録)	状	1通	江戸後期カ			13.9×11.0	諸口紙			III-290-77-1
711	[書付](町村別人名録)	状	1通	江戸後期カ			13.9×12.0	諸口紙			III-290-77-2
712	[覚書](家中人名録)	状	1通	江戸後期			14.4×9.6	諸口紙		前欠カ	III-290-86
713	宝歴八年戊寅廣嶋大火事	状	1通	江戸後期			12.4×34.0	半紙	2		III-295-41

文書・記録類

番号	名称	材質形状	員数	年代	作成者	宛所	法量	料紙	丁数	備考	管理番号
	山陽脱藩始末									巻紙4点, 封筒(31.5×11.7) 付属, 封筒付紙「山陽翁脱藩ヨリ十年間ノ諸書類」	II-8
714	1) 覚(久太郎の病氣療養, 学問修行につき)	状	1通	(寛政12年)十月九日	頼弥太郎惟完	山田図書様	28.4×20.4	諸口紙(竪紙)		II-8-1-1~9まで貼継, 一紙(II-8-1-10)巻込	II-8-1-1
714	2) 口上之覚(久太郎, 行方不相知相成候につき)	状	1通	(寛政12年)十月十日	頼弥太郎		13.8×30.7	諸口紙		端裏書「江戸第一番ニ□ニ申出候書付写」	II-8-1-2
714	3) 口上之覚(久太郎を京・大坂ほか西国筋へ遍歴させたきこと)	状	1通	(寛政12年)十月	頼弥太郎		13.8×58.8	諸口紙			II-8-1-3
714	4) 口上之覚(養子の儀につき)	状	1通	(寛政12年)	(頼春水)		13.8×26.1	諸口紙		端裏書「図書殿より内々差図文案有之, 此通り十月十六日ニ差出ス」	II-8-1-4
714	5) 口上之覚(久太郎を囲へ入れ相慎せ置申候事)	状	1通	(寛政12年)十一月廿五日	(頼春水)		14.4×7.9	諸口紙		端裏書「囲へ入候申上書付」	II-8-1-5
714	6) 口上之覚(久太郎出奔につき京都へ迎人差上せ申候事)	状	1通	(寛政12年)十月廿六日	頼万四郎		14.3×57.8	諸口紙		端裏書(頼杏坪筆)「最初之申出 申出書付ひかへ」, 同(頼春水筆)「御国留守一番申出」, 校訂(墨)	II-8-1-6
714	7) 口上之覚(久太郎を囲へ入れ相慎せ置申候事)	状	1通	(寛政12年)十一月五日	頼万四郎		14.4×50.4	諸口紙		端裏書「此書付, 私煩ニ付, 五日ニ三平へ頼ミ持参ニ而外衛殿月番受取被申候所, 六日御城ニ而嘉平殿を呼候而囲へ入ルト云事例文故ニ直シ差出候様ニ外衛殿被申候由ニ而嘉平殿来り被申聞候故, 朱書之所直シ, 七日ニ又出シ申候」○ ひかへ」, 校訂(墨・朱)	II-8-1-7
714	8) [頼春水書簡](書付差出につき私義恐入相伺候筋ニハ無御座候哉)	状	1通	(寛政12年)十一月廿八日	頼弥太郎	図書様	13.8×27.3	諸口紙		封上書「図書様 御内用 頼弥太郎」	II-8-1-8
714	9) [達書](差控伺書被指出ニハ不及儀と存候)	状	1通	(寛政12年)十一月廿八日	(山田図書)	(頼春水)	13.9×8.8	諸口紙			II-8-1-9
714	10) [達書](昨日被差出候別紙願書口上書者令返戻)	状	1通	(寛政12年)十月十一日	山田図書	頼弥太郎殿	13.8×43.4	諸口紙		封上書「廃息之事 頼弥太郎殿 山田図書」, メモ(頼古樸筆)「他ニ1枚, ツナギソコナヒ-2トス, コニ巻込ム」あり	II-8-1-10
715	1) 口上之覚(私倅久太郎妻不縁につき)	状	1通	(享和元年)二月廿六日	頼弥太郎		14.4×15.8	諸口紙		端裏書「江戸ニ而不縁書付下書 寛政十二年庚申ノ翌辛酉(即享和元年)二月廿六日」, II-8-2-1~11まで貼継	II-8-2-1
715	2) [覚](八百屋喜三郎より借銀につき)	状	1通	申(寛政12年)	(頼春水)		14.5×10.6	諸口紙			II-8-2-2
715	3) 覚(金子借用証文)	状	1通	申(寛政12年)十月廿五日	広しま 手島伊助, 石井儀右衛門	高砂 塩屋仲右衛門殿	15.9×22.8	楮紙		端書「翌二月菅野より返ス」, 端裏書「菅野」	II-8-2-3
715	4) 覚(手島・石井へ貸金につき)	状	1通	申(寛政12年)十月廿五日	しほや仲右衛門	芸州頼万四郎様	15.8×27.6	楮紙		黒文円印1顆, 端裏書「菅野」	II-8-2-4
715	5) 覚(銀札貸付につき)	状	1通	四月十二日	義況(八百屋喜三郎カ)		12.4×8.8	半紙			II-8-2-5
715	6) 覚(銀払受取につき)	状	1通	子(文化元年)六月十六日	義況(八百屋喜三郎カ)	梶山六市様	24.6×22.3	半紙		端裏書(頼春水筆)「八百屋義況銀払受取」	II-8-2-6

文書・記録類

番号	名称	材質形状	員数	年代	作成者	宛所	法量	料紙	丁数	備考	管理番号
715	7) 覚(銀札受取につき)	状	1通	子(文化元年)七月十二日	八百屋保右衛門	手島伊助様	14.3×17.6	諸口紙		黒文円印1顆	II-8-2-7
715	8) 覚(廃息出亡之節物入大要)	状	1通	庚申(寛政12年)九月より霜月三日迄	(頼春水)		14.5×51.3	諸口紙			II-8-2-8
715	9) 金子出之覚	折紙	1通	(寛政12年)	(頼春水)		14.4×45.9	諸口紙		注記(付紙に墨)	II-8-2-9
715	10) 口上之覚(養子願)	状	1通	(寛政12年)	(頼春水)		13.9×35.8	諸口紙		端裏書「内伺書試 村越殿掛紙 十月廿四日ニ図書殿へ出ス」, 後欠(左端下部切取, II-8-3-1に内容接続)	II-8-2-10
715	11) 口上之覚(千齡男子につき養子願)	状	1通	(寛政12年)十月廿二日	頼弥太郎		13.9×37.8	諸口紙		校訂(墨), II-8-2-10の紙背中程にII-8-2-11の端を貼付	II-8-2-11
716	1) [口上之覚](養子願)	状	1通	(寛政12年)	(頼春水)		14.0×14.8	諸口紙		II-8-3-1~23まで貼継, 前欠(II-8-2-10に内容接続)	II-8-3-1
716	2) [書付](千齡男子の御自分方引取につき)	状	1通	(寛政12年)		頼弥太郎	13.7×24.7	諸口紙			II-8-3-2
716	3) 口上之覚(千齡男子につき養子願)	状	1通	(寛政12年)十月廿四日	頼弥太郎		13.8×48.7	諸口紙			II-8-3-3
716	4) 口上之覚(私実弟千齡倅熊吉, 学問修行のため昨日引越につき)	状	1通	(享和元年)八月廿一日	頼弥太郎		13.9×14.4	諸口紙		端裏書「ひかへ 堀江典膳殿へ差出ス」	II-8-3-4
716	5) [書付](熊吉引越の申出承知につき)	状	1通	(享和元年)八月廿一日	図書	弥太郎様	14.2×31.8	色諸口紙		封上書「弥太郎様 内用御報 図書」, 端裏書(頼春水筆)「熊吉引越申出書付」	II-8-3-5
716	6) 口上之覚(熊吉につき養子願)	状	1通	(享和2年)八月	頼弥太郎		11.8×38.2	色半紙		端裏書「熊吉事 仮養子書付ニ不及候而此書付ニ而済候事 享和二年壬戌八月 御年寄寺西司馬殿へ出ス 横山平三へ内談案紙」	II-8-3-6
716	7) [手島伊助・梶山六一書簡](都具男様御義につき)	状	1通	(享和3年カ)八月	伊助, 六一	隣二様	12.3×61.3	半紙			II-8-3-7
716	8) 口上之覚(此間差出し候書付につき)	状	1通	(享和3年カ)九月五日	隣二	六一様, 伊助様	12.3×56.9	半紙			II-8-3-8
716	9) 口上之覚(私倅につき此以後は私を父と不仕候様御計被下度事)	状	1通	(享和3年カ)八月廿一日	隣二	六一様, 伊助様	24.7×34.1	半紙			II-8-3-9
716	10) [幽居中の陳情]	状	1通	(享和2~3年)	隣二頓首シテ謹テ啓ス		24.3×137.0	半紙		校訂(墨), 返点(墨), 送り仮名(墨)	II-8-3-10
716	11) [頼杏坪書簡](檻より沢山ニ書物ヲ見せくれよと申すにつき)	状	1通	(享和2~3年)	(頼杏坪)	(頼春水)	12.1×50.3	半紙			II-8-3-11
716	12) [頼山陽書簡](私宅助教之義承知仕候)	状	1通	(享和3年カ)二月十八日	隣二	六一様	24.5×34.2	半紙			II-8-3-12
716	13) 檻中之御義ニ付愚考奉申上候	状	1通	(享和2年カ)七月廿九日	(梶山六一)	(頼春水カ)	12.4×77.2	半紙			II-8-3-13
716	14) 口上之覚(困ヲ出申度との事)	状	1通	享和癸亥(3年)八月	頼弥太郎		14.6×22.4	諸口紙		端裏書「享和癸亥八月廿二日差出候書付ひかへ 困ヲ出申度との事」	II-8-3-14

文書・記録類

番号	名称	材質形状	員数	年代	作成者	宛所	法量	料紙	丁数	備考	管理番号
716	15) [達書] (久太郎を囲より差出, 家内対面仕, 猶療養相加申度事)	状	1通	享和三年辛亥(癸亥)のとし十二月六日		頼弥太郎	13.8×34.3	色諸口紙		端裏書「頼弥太郎」, 同(頼春水筆)「享和三年辛亥のとし極月六日月番寺西司馬殿より返し」	II-8-3-15
716	16) [手島伊助書簡] (仁室一件御裁許後につき)	状	1通	(享和3年)十一月十日	手島伊助	(頼春水)	12.2×110.1	半紙			II-8-3-16
716	17) 口上之覚(久太郎に門弟への教導筋手伝仕らせ度奉存候事)	状	1通	(文化2年)三月	頼弥太郎		14.3×32.3	諸口紙		注記(付紙に墨), 端裏付紙「頼弥太郎」	II-8-3-17
716	18) [達書] (久太郎につき御恩免の達し)	状	1通	(文化二年乙丑五月九日)		頼弥太郎	13.8×15.1	色諸口紙		端書(頼春水筆)「文化二年乙丑五月九日, 月番山田図書殿より達し」	II-8-3-18
716	19) 御内々申上試候書付(久太郎を在方江遣候而も可然哉)	状	1通	文化二年乙丑八月	(頼春水)		14.2×34.2	諸口紙		端裏書「御内々申上試候書付」「文化二年乙丑八月典膳殿へ持参出し置 岡田嘉助より横山辺まで承合候書試之事ニ候」	II-8-3-19
717	20) [達書] (久太郎を囲より差出, 家内対面仕, 猶療養相加申度事)	状	1通	享和三年辛亥(癸亥)十二月六日		(頼弥太郎)	14.6 × 62.1 (3点合計)	諸口紙		端裏書「写シ 司馬殿方達し 久太郎事」, 諸口紙の半切紙2枚を貼継のうえ, II-8-3-15・17・18を筆写	II-8-3-20-1
717	21) [口上之覚写] (久太郎に門弟への教導筋手伝仕らせ度奉存候事)	状	1通	(文化2年)三月	頼弥太郎		—	諸口紙		II-8-20-2・3で1紙	II-8-3-20-2
717	22) [達書] (久太郎につき御恩免の達し)	状	1通	(文化二年乙丑五月九日)		頼弥太郎	—	諸口紙		II-8-3-20-1と2の間に「文化二年乙丑五月九日」と誤写	II-8-3-20-3
718	23) 内要用(憐二, 来十五日に旧名に復す, 熊吉の改名につき)	状	1通	(文化2年)五月十日	(頼春水)	(頼春風)	12.3×57.2	半紙		端裏書「丑五月十二日三永便 憐願濟之事」	II-8-3-21
718	24) [菅茶山書簡] (久太郎を私方へ申請申度奉存候)	折紙	1通	(文化6年)九月十六日	菅太中晋帥	頼弥太郎様侍史	30.6×43.9	杉原紙			II-8-3-22
718	25) 口上之覚(菅太中, 久太郎へ神辺の学問稽古場教授相讓申度趣につき)	状	1通	(文化6年)十月	頼弥太郎		14.4×30.1	諸口紙		注記(付紙に墨), II-8-3-22の後に, II-8-3-23の包紙(24.8×13.2, 半紙)・本紙の順に貼継, 包紙「書付壺通 頼弥太郎」, 本紙端に「文化六年己極月廿一日御裁許」, 奥に付紙(12.5×4.5, 半紙)あり, 付紙「此義相調候様仕度奉存候ニ付, 別紙願書差出申候, 此段申上候, 以上十二月六日」	II-8-3-23
719	1) [付札] (此義表立願書差出被試可然候)	状	1通	(文化6年)		頼弥太郎	14.0×7.2	色諸口紙		II-8-4-1~6まで貼継	II-8-4-1
719	2) 覚(久太郎を備後神辺駅学問所へ差遣度事)	状	1通	(文化6年)十二月八日	(頼春水)		12.4×18.1	半紙		端裏書「久太郎事 己巳十二月八日願書」, 注記(付紙[色半紙]に墨)	II-8-4-2
719	3) [達書] (久太郎を菅太中方江差遣申度旨願之通被仰出候)	状	1通	(文化6年)十二月廿一日	堀江典膳, 浅野縫殿, 仙石隼人, 石井内膳	頼弥太郎殿	13.8×73.4	色諸口紙		封上書「頼弥太郎殿 △ 堀江典膳, 浅野縫殿, 仙石隼人, 石井内膳」	II-8-4-3
719	4) [頼春水書簡] (久太郎の儀, 遊学旁差上申候につき)	状	1通	(文化6年)極月五日	(頼春水)	(菅茶山)	12.6×19.7	半紙			II-8-4-4
719	5) [菅塾へ罷越候につき六ヶ条]	状	1通	文化六年己巳十二月	(頼春水)	久太郎	16.6×34.4	漉返紙		端裏付紙「文化六年己巳十二月, 久太郎義備後神辺菅太中へ遣候節申渡候ひかへ」, 校訂(墨), 注記(付紙に墨)	II-8-4-5

文書・記録類

番号	名称	材質形状	員数	年代	作成者	宛所	法量	料紙	丁数	備考	管理番号
719	6)〔御祠堂告文〕	状	1通	文化六年歳次己巳十二月廿六日	孝玄孫惟完		20.9×52.8	楮紙			II-8-4-6
	山陽凶変始末 上	卷子装	1巻	(天保3年)						桐印籠蓋箱(27.8×23.4×10.3)にてI-116-1~3まで一括、蓋表「京大変始末 松廬」、蓋裏「広島宗家 頼氏蔵」、同・朱文長方印「嶺松廬」1顆、薄茶地牡丹唐草文金襴、外題題簽(金地)「京大変始末 上」、扉題内題「京御凶変一件」、朱文長方印「松廬」1顆、見返金砂子散、紫檀印可軸	I-116-1
720	1)〔小野田簡斎書簡〕(山陽先生近況報知願)	状	1通	(天保3年)七月十六日	彦根家中小野田小一郎使		15.7×38.5	楮紙			I-116-1-1
720	2)〔小野田簡斎書簡〕(山陽先生の近況未だ御存なき御様子につき)	状	1通	(天保3年)七月十七日	小野田小一郎使		16.1×41.2	楮紙			I-116-1-2
720	3)〔頼梨影書簡〕(三樹三郎の見舞い及び山陽の近況につき)	状	1通	(天保3年)八月七日	梨影方	餘一様まいる	16.0×55.0	楮紙		端書「八月七日認」、端裏書あり	I-116-1-3
720	4)〔村瀬藤城書簡〕(山陽の病容につき報知の礼、牧善助来書写など)	状	1通	(天保3年)八月十日	村瀬平次郎	頼餘一様	16.2×170.7	楮紙		封上書「頼餘一様 村瀬平次郎」、牧善助来書写あり(先月十二日以来の頼翁の病容、寄懐之詩・患咳血戯作歌につき)	I-116-1-4
720	5)〔頼山陽詩歌「寄懐土錦在江門」「患咳血戯作歌」〕	状	1通	(天保3年)七月廿又八日	(牧善輔)		16.0×55.2	楮紙		奥書「右山陽先生病中作録寄似土錦老盟台在江門 輒拜上」	I-116-1-5
720	6)〔児玉旗山・牧百峰書簡〕(前月二十五日以後の山陽の病状、蘭法・漢法医薬の使用につき)	状	1通	(天保3年)八月廿一夕作	児玉三郎、牧善輔	頼餘一様	15.4×198.4	楮紙			I-116-1-6
720	7)〔頼山陽書簡〕(病状報告、広島藩侍医・中村元亮の見舞いにつき)	状	1通	(天保3年)八月廿四日	襄	餘一との	16.1×96.5	楮紙(墨染)		封上書「餘一との 襄」	I-116-1-7
720	8)〔小石元瑞書簡〕(一昨日までの山陽病状につき)	状	1通	(天保3年)八月念七	小石元瑞	頼餘一様	16.2×187.6	楮紙(薄茶色)		端書「御容体書塾生ニ為写申候 略儀御免可被下候」、尚々書に「御自分ニも大抵者御覚悟ニ而御肖像も出来、自賛も出来申候」との記載あり	I-116-1-8
720	9)〔中村敬次郎書簡〕(山陽の病状、小石元瑞との申談内容につき)	状	1通	(天保3年)八月廿八日認	中村敬次郎	頼餘一様函丈	12.2×170.7	楮紙			I-116-1-9
720	10)〔牧百峰書簡〕(山陽の病状につき)	状	1通	(天保3年)九月十九日	輒拜(牧善輔)	聿庵先生	15.9×54.2	楮紙		端裏書「九月廿七日至」	I-116-1-10
720	11)〔児玉旗山・牧百峰・宮原節庵書簡〕(山陽先生御辞世、葬式の義は一社相談のうえ取計につき)	状	1通	(天保3年)九月廿三日六半	児玉三郎、牧善助、宮原謙蔵	頼餘一様	16.2×60.1	楮紙(墨染)			I-116-1-11
	山陽凶変始末 中	卷子装	1巻	(天保3年)						薄茶地牡丹唐草文金襴、朱文長方印「松廬」1顆、見返金砂子散、紫檀印可軸	I-116-2
721	1)〔児玉旗山・宮原節庵・牧百峰書簡〕(山陽の葬式・墓地の選定につき)	状	1通	(天保3年)九月廿六	児玉三郎、宮原謙蔵、牧善助	頼餘一様	16.1×82.3	楮紙			I-116-2-1

文書・記録類

番号	名称	材質形状	員数	年代	作成者	宛所	法量	料紙	丁数	備考	管理番号
721	2) 葬式行列	状	1通	(天保3年9月25日)			16.1×117.2	楮紙			I-116-2-2
721	3) 焼香列	状	1通	(天保3年9月25日)			12.3×96.0	楮紙			I-116-2-3
721	4) [牧百峰・児玉旗山・宮原節庵書簡](葬式・埋葬の経過につき)	状	1通	(天保3年)9月廿六日	牧善助, 児玉三郎, 宮原謙三	頼三千三様	16.1×105.5	楮紙			I-116-2-4
721	5) [頼梨影・支峰・三樹三郎書簡](山陽臨終の様子につき)	状	1通	(天保3年)十月二日	里枝, 頼又二郎, 頼三木三郎	餘一様(兄様)	16.3×352.1	楮紙		頼支峰・三樹三郎の署名・宛所(「兄様」)は自筆	I-116-2-5
721	6) [頼梨影書簡](山陽の遺言に係る意見対立につき)	状	1通	(天保3年)十月三日	(頼梨影)	(頼餘一)	16.2×325.8	楮紙			I-116-2-6
721	7) [宮原節庵・関五郎書簡](聿庵の帰国時に万事諸物お預けするのは当然のこと)	状	1通	(天保3年)十月三日	謙三, 五郎	餘一様 御喪次	16.2×121.4	楮紙			I-116-2-7
721	8) [小野田簡斎書簡](貴兄御在府中ニ通議校正致し度候事)	状	1通	(天保3年)十月三日	小一郎	餘一様	16.2×82.1	楮紙			I-116-2-8
	山陽凶変始末 下	卷子装	1卷	(天保3年)						薄茶地牡丹唐草文金欄, 朱文長方印「松廬」1顆, 見返金砂子散, 紫檀印可軸	I-116-3
722	1) [関藤藤陰書簡](山陽の臨終, 葬儀・墓所, 『日本政記』浄録につき)	状	1通	(天保3年)十月廿七日	関五郎	頼餘一様 御喪次	12.4×1060.4	楮紙		「先生御肖像ノ儀承知仕候, 画人ハ先生ノ門人, 東山双林寺ニテ義亮ト申僧, 非以画為業者也, 仏絵杯能写候故, 先生御申付ノ事ト存候, 義亮実父曰月峰大雅堂, 六如・皆川・村瀬栲亭等文士ノ間ニ遊候人ナリ」との記載あり	I-116-3-1
722	2) [小石元瑞書簡](山陽の病中治療, 後室と聿庵の対談につき)	状	1通	(天保3年)十月念八日	小石元瑞	頼餘一様	16.2×219.3	楮紙(薄茶色)			I-116-3-2
722	3) 別紙(梨影と子供三人の国元引取につき)	状	1通	(天保4年)正月廿四日	餘一	(頼梅颯)	12.0×121.6	楮紙		端裏書(頼梅颯筆)「二月十五日入手, 正月廿四日出」, 追記の一部に朱書あり	I-116-3-3
723	1) [差紙](御用の儀につき登城の事)	状	1通	寛政十一年己未七月廿四日	山本屯, 松村平馬, 青木佐祐	頼弥太郎殿	13.7×33.0	色諸口紙		Ⅲ-81-1~6まで貼継, 封上書「頼弥太郎殿 山本屯 松村平馬 青木佐祐」, 端に「寛政十一年己未七月廿五日, 知行拝領 御側詰同格被仰付」と記載の一紙(13.9×3.9)貼継	Ⅲ-81-1
723	2) [知行高百五拾石下賜目録]	状	1通	(寛政11年7月25日)		頼弥太郎	33.1×11.5	杉原紙			Ⅲ-81-2
723	3) [御側詰同格拝任目録]	状	1通	(寛政11年7月25日)		頼弥太郎	16.4×23.4	杉原紙			Ⅲ-81-3
723	4) [達書](勤向唯今迄之通りニ候事, 取来御扶持方ハ上リ候事)	状	1通	(寛政11年7月25日)		頼弥太郎	13.9×16.8	色諸口紙			Ⅲ-81-4
723	5) [書付](知行拝領及び御側詰同格拝任の礼状受取りにつき)	状	1通	(寛政11年)九月四日	浅野縫殿, 山田図書, 堀江典膳	頼弥太郎殿	14.5×46.2	諸口紙		端裏書「御年寄衆」	Ⅲ-81-5

文書・記録類

番号	名称	材質形状	員数	年代	作成者	宛所	法量	料紙	丁数	備考	管理番号
723	6) [差紙] (鳥目五拾疋用意のう え明後日に御屋形へ参るべき こと)	状	1通	(寛政11年) 九月四日	山田図書	頼弥太郎殿	14.0×42.5	諸口紙		封上書「頼弥太郎殿 山田図書」, 端裏書「知行拝領御札為受候事」	Ⅲ-81-6
	藩学関係資料	一紙貼継	1巻							I-142-1~38まで貼継, 袋(32.7×35.5, 楮紙, 裂け, 一部欠失) 付属, 袋表(頼古模筆)「春水翁 昌平校 藩学ニ関スル書類」, 同紙背「粗品 二 済美学校」	I-142
724	1) 大成至聖文宣王ヲ改メ至聖 先師孔子神位	状	1通	(天明3年)	(頼春水)		16.6×18.9	杉原紙		虫損大, 「春水遺響 四」(『広島県史 近世資料編VI』No.2) 所収	I-142-1
724	2) 覚(聖像として木主を備える べきこと)	状	1通	(天明3年)七 月廿九日	(頼春水)		14.0×9.2	諸口紙		校訂(墨), 「春水遺響 四」(『広島県史 近世資料編VI』No.2) 所収	I-142-2
724	3) 御内話(新聖堂の間取りのこ とにつき書付)	状	1通	文化十二年 乙亥二月	(頼春水)		14.2×35.1	諸口紙		I-142-2の奥とI-142-3の端の間に一紙(15.9×7.6, 楮紙) 貼継, 同 墨書(頼春水筆)「学問所聖位之間御修造も可有御座候哉ニ付書試 文化十二年二月 学問所引受 牧野勝之進所望ニ付」, 虫損大, 「春水 遺響 四」(『広島県史 近世資料編VI』No.3) 所収	I-142-3
724	4) 聖堂南面ニ新御建テ之事 (新聖堂の間取りのことにつき 書付)	状	1通	(文化12年)	(頼春水)		12.3×18.5	半紙		校訂(墨), 「春水遺響 四」(『広島県史 近世資料編VI』No.3) 所収	I-142-4
724	5) [聖堂南面絵図面] (新聖堂 の間取りのことにつき書付)	状	2通	(文化12年)	(頼春水)		15.4×17.3, 13.5×7.9	楮紙	2	「春水遺響 四」(『広島県史 近世資料編VI』No.3) 所収	I-142-5
724	6) [学問所新築につき申し上げ る書付]	状	1通	文化乙亥十 一月廿六日	(頼) 春水		12.0×25.4	半紙		校訂(墨), 「春水遺響 四」(『広島県史 近世資料編VI』No.4) 所収	I-142-6
724	7) [学問所聖像並に間取り等の ことにつき書付]	状	1通	(天明3年)	(頼春水)		13.9×89.1	諸口紙		校訂(墨), I-142-8の草稿の一部	I-142-7
724	8) [学問所聖像ならびに間取り 等のことにつき書付]	状	1通	(天明3年)	(頼春水)		13.6×116.1	諸口紙		校訂(墨), 虫損大, 「春水遺響 四」(『広島県史 近世資料編VI』No.5) 所収	I-142-8
724	9) 口上之覚(丁祭の祭器調達 のことにつき書付)	状	1通	戊辰(文化5 年)八月	(頼春水)		12.7×33.9	半紙		端裏書「戊辰八月 御祭器ニ付申出書付ひかへ」, 校訂(墨), 「春水遺 響 四」(『広島県史 近世資料編VI』No.6) 所収	I-142-9
724	10) 書試(聖像寄贈者褒賞につ き書付)	状	1通	(天明3年カ) 七月	(頼春水)		13.7×41.2	諸口紙		校訂(墨, 付紙に墨), 虫損大, 「春水遺響 四」(『広島県史 近世資料 編VI』No.7) 所収	I-142-10
724	11) 学問所御造立之事	状	1通	江戸後期	(頼春水)		13.9×80.3	色諸口紙		端裏書「寺西監物殿へ所望ニ付荒々書キ進候ひかへ」, 「春水遺響 四」(『広島県史 近世資料編VI』No.8) 所収	I-142-11
724	12) 学制草稿	状, 折紙	1通	天明二年正 月七日	(頼春水)		12.6×770.1	半紙		校訂(墨), I-142-11の奥とI-142-12の端の間に一紙(19.5×28.4, 楮紙, 「本千辺御三ツ橋」の反故紙使用) 貼継, 同墨書(頼春水筆)「天 明二年正月七日起草, 一昼夜ニシテ卒業 学制草稿 尾道培根堂之事 □□有之」, 一部に折紙や記事の重複(推敲のうえ墨抹, 県史未収) あり, 折紙表「定」(『県史 資料編VI』P.714), 同裏「弟子入門之式」 (同), 「儒者之心得」「聴衆」(ともに墨抹), 折紙表に役付人別(墨抹), 同裏に入用道具(墨抹), 「入学居寮ノ者」「儒者老人年ニ二度宛御領内 ヲ廻リ候事」(ともに『県史 資料編VI』P.717), 「入門ノ式」「入門ノ定 日」, 儒者勤方(ともに墨抹), 資料末尾に「講釈承候者」の記載あり(県 史未収), 虫損大, 「春水遺響 四」(『広島県史 近世資料編VI』No.9) 所収	I-142-12

文書・記録類

番号	名称	材質形状	員数	年代	作成者	宛所	法量	料紙	丁数	備考	管理番号
724	13) [帖元より会読の木札]	状	1通	天明二年壬寅正月十一日	(頼春水)		24.4×10.9	半紙		校訂(墨),「十五日」の「五」を「一」に修正	I-142-13
724	14) 上学初諭	状	1通	(天明2年)	(頼春水)		14.4×19.8	諸口紙		校訂(墨),「芸学教授」の印面朱書,「春水遺響 四」(『広島県史 近世資料編VI』No.10)所収	I-142-14
724	15) 入学之札	状	1通	(天明2年)	(頼春水)		14.0×33.7	諸口紙		「春水遺響 四」(『広島県史 近世資料編VI』No.11)所収	I-142-15
724	16) [学問所用掛役人名書付]	状	1通	(天明2年頃)	(頼春水)		14.4×71.2	諸口紙		校訂(墨),「春水遺響 四」(『広島県史 近世資料編VI』No.12)所収	I-142-16
724	17) 教授局規条・講説書目・教授局壁書	状	1通	(天明6年)	(頼春水)		26.7×109.7	楮紙(罫紙)		端書「未定」,句切点(墨),校訂(墨,付紙に墨),罫紙枠外に墨書多数(県史未収),「春水遺響 五」(『広島県史 近世資料編VI』No.1)所収	I-142-17
724	18) [詩文会,月朔式・入学式・不次講等の表記につき書付]	状	1通	江戸後期	加藤(三平), (植田)周助		14.4×12.7	諸口紙		裏書(頼春水筆)「申合会業」「二ノ日ノ外」「不時詩会」「定日」	I-142-18
724	19) 句読師席壁書	状	1通	江戸後期	(頼春水)		24.7×45.3	色半紙		端裏書「句読師席壁書 文会ニかきり惣出,詩会の事無之ハ如何」,「春水遺響 五」(『広島県史 近世資料編VI』No.2)所収	I-142-19
724	20) [学問所勤ノ次第,諸生の出方,学館を東西に分つ弊害につき書付]	状	1通	江戸後期	(頼春水)		12.5×411.2	半紙		校訂(墨),「春水遺響 五」(『広島県史 近世資料編VI』No.3~5)所収	I-142-20
724	21) [学問所の師弟分けを命ずる書付]	状	1通	寛政元年十一月十七日	(頼春水)		14.0×133.0	諸口紙		端裏書「寛政元年十一月十七日学問所被仰出うつし,同十二月十日届」「江戸残ノ分」,注記(付紙に墨),「春水遺響 五」(『広島県史 近世資料編VI』No.6)所収	I-142-21
724	22) 口上之覚(私共同士の儀につき学問所にて一統申し合わせのうえ教授したきこと)	状	1通	(寛政元年)十一月廿一日	金子源内,植田守衛,加藤三平,植田周助,頼万四郎		14.4×8.5	諸口紙			I-142-22
724	23) [学問所当番日割表]	状	1通	江戸後期	(頼春水)		24.2×33.4	半紙		「春水遺響 五」(『広島県史 近世資料編VI』No.7)所収	I-142-23
724	24) [講釈・講習・素読・会読の節の図面]	状	1通	(天明2年)	(頼春水)		24.0×33.0	半紙		「春水遺響 五」(『広島県史 近世資料編VI』No.8)所収	I-142-24
724	25) 申合セ書試(師弟の統紀緩みを戒める申合せ書試)	状	1通	江戸後期	(頼春水)		14.0×119.9	色諸口紙		「春水遺響 五」(『広島県史 近世資料編VI』No.9)所収	I-142-25
724	26) [暑中における学問所勤向に関する書付]	状	1通	(天明2年)三月三日	香川修蔵,頼弥太郎	林甚左衛門, 吉川禎蔵	13.9×36.4	諸口紙		端裏書「三月三日夕参着書付出し候」「書付老通」「頼弥太郎 香川修蔵」,「春水遺響 五」(『広島県史 近世資料編VI』No.10)所収	I-142-26
724	27) 月次一人講説ニ成候事	状	1通	(天明8年頃)四月三日	(頼春水)		14.0×21.8	諸口紙		端裏付紙「天明八年比之日記」「月次一人講説ニ成候事」,「春水遺響 五」(『広島県史 近世資料編VI』No.11)所収	I-142-27
724	28) 申出試候覚(学問所と修業堂統合につき意見書)	状	1通	(寛政9年)三月	金子源内,頼弥太郎,加藤三平,植田周助,頼万四郎		14.6×314.8	諸口紙		端裏付紙(13.3×3.6,三桮紙[黄色])「寛政九年丁巳四月差出書付ひかへ 学制意見 同僚連名」,「春水遺響 五」(『広島県史 近世資料編VI』No.12)所収	I-142-28
724	29) 密諭(会読の節主講の圖につき書付)	状	1通	(寛政10年)五月十四日	(頼春水)		14.2×17.3	諸口紙		端裏書「戊午年五月 片山貞蔵へ内々さとし,夫方坂井孫三郎へ廻り,同人方差戻し候事 是時吉田勝馬未被転頭ニ候節」,端裏書に返点(墨),「春水遺響 五」(『広島県史 近世資料編VI』No.13)所収	I-142-29
724	30) 頭書(学問のことにつき藩主御直書)	状	1通	壬戌(享和2年)二月三日	(浅野齐賢)		13.8×11.1	諸口紙		端裏書「壬戌二月三日,中島栄次伝候ニ御下ケ 御直書写」,I-142-29の奥とI-142-30の端の間に包紙(17.5×11.9,色半紙)貼継,包紙「少将様 御直筆之写 此時五津口口差上候事」,「春水遺響 五」(『広島県史 近世資料編VI』No.14)所収	I-142-30

文書・記録類

番号	名称	材質形状	員数	年代	作成者	宛所	法量	料紙	丁数	備考	管理番号
724	31) [学問のことにつき藩主御直書]	状	1通	壬戌(享和2年)二月四日	(浅野齐賢)		13.9×20.5	諸口紙		端裏書「壬戌二月四日、中島栄次伝御下ケ 御直書写」、 「春水遺響 五」(『広島県史 近世資料編VI』No.14)所収	I-142-31
724	32) 書試(看書・訓導別席につき書付)	状	1通	(文化3年)十月	教授方		12.5×76.1	色半紙		仮名(墨)、端裏付紙(11.9×3.0、色半紙)「此書付之通示談相済、十一月六日より此通二相成 文化三年寅之冬」「看書訓導之事」、 「春水遺響 五」(『広島県史 近世資料編VI』No.15)所収	I-142-32
724	33) 書試(看書・訓導別席につき書付)	状	1通	(文化3年)	教授	句読師中様	13.9×45.0	色諸口紙		端書『句読師中へ』、校訂(墨)、「春水遺響 五」(『広島県史 近世資料編VI』No.15)所収	I-142-33
724	34) 書添(学館学筋一統のことにつき意見書)	状	1通	(寛政9年)二月	(頼春水)		12.4×61.3	半紙		端裏書「丁巳二月」「学制意見之書付ニ付ケ出候ひかへ 清水弁之助へ内々取計」、 「春水遺響 六」(『広島県史 近世資料編VI』No.1)所収	I-142-34
724	35) 口上之覚(年始一会は学規講説をなすべき旨口上の覚)	状	1通	(文化6年)	(頼春水)		12.3×22.4	半紙		端裏書「己巳十二月 明春学規講説之事申出」「并□□□事」、 「春水遺響 六」(『広島県史 近世資料編VI』No.2)所収	I-142-35
724	36) [年始一会は学規講説をなすべき旨口上の覚]	状	1通	(文化6年)	(頼春水)		12.0×18.8	色半紙		校訂(墨)、「春水遺響 六」(『広島県史 近世資料編VI』No.2)所収	I-142-36
724	37) [月次講の講説振りにつき書付]	状	1通	文化十癸西九月	(頼春水)		15.0×40.0	楮紙		端裏書「右京様々 謙遜之辞可然との御直書ニ付書試 文化十年癸西九月」「(七)を「十」に訂正)、「并示諭両通」、校訂(付紙[色半紙]に墨)、 「春水遺響 六」(『広島県史 近世資料編VI』No.3)所収	I-142-37
724	38) [学問所出席方につき書付]	状	1通	文化八年辛未閏二月廿九日	(頼春水)		11.9×44.9	色半紙		端裏書「文化八年辛未閏二月廿九日申合 牧野 竹本へ差出候書付ひかへ」、 「春水遺響 六」(『広島県史 近世資料編VI』No.4)所収	I-142-38
	昌平学関係資料	一紙貼継	1巻							I-143-1~14まで貼継	I-143
725	1) [差紙](相達御用之義候につき)	状	1通	(寛政12年)九月廿一日	山田図書	頼弥太郎殿	14.2×29.5	諸口紙		封上書「頼弥太郎殿 山田図書」、端裏貼紙(頼春水筆)「庚申辛酉江戸詰之節 昌平学之事」、 「春水遺響 八」所収	I-143-1
725	2) 口達(公儀御学問所へ罷出致講釈候事)	状	1通	(寛政12年)9月21日)			14.2×32.2	諸口紙		端裏書「口達」、 「春水遺響 八」所収	I-143-2
725	3) [達書](頼弥太郎、学問所へ罷出講釈致候様可申付候)	状	1通	(寛政12年)		松平安芸守江	14.2×27.0	諸口紙		端裏書「写 松平安芸守江」、 「春水遺響 八」所収	I-143-3
725	4) [達書](公儀御学問所へ被罷出候義につき)	状	1通	(寛政12年)九月廿八日	山田図書	頼弥太郎殿	14.0×58.5	諸口紙		封上書「頼弥太郎殿 山田図書」、 「春水遺響 八」所収	I-143-4
725	5) [達書](来十月七日九時、昌平坂学問所へ可罷出候)	状	1通	(寛政12年)		頼弥太郎	14.2×42.8	諸口紙		端裏書「写」、 「春水遺響 八」所収	I-143-5
725	6) [覚](十月七日の付添・申渡・御仕度・講釈につき)	状	1通	(寛政12年)10月7日)	(頼春水)		15.9×72.0	諸口紙、三桎紙		注記(付紙に墨)、「春水遺響 八」所収	I-143-6
725	7) 伊豆守殿御渡候御書付写(銀五枚下賜につき)	状	1通	(享和元年)4月6日)		松平安芸守家来 頼弥太郎	18.0×25.5	楮紙		端裏付紙「伊豆守殿御渡候御書付写」	I-143-7
725	8) [包紙](銀子壹枚)	紙本墨摺状	4通	(享和元年)4月6日)	(松平伊豆守)	(頼春水)	各28.8×16.2	杉原紙	4	包紙4枚貼継	I-143-8
725	9) [書付](明六日の儀につき)	状	1通	(享和元年)四月五日	増田平八郎	頼弥太郎様	14.0×25.1	諸口紙		封上書「頼弥太郎様 増田平八郎」	I-143-9
725	10) [達書](明六日御学問所へ被罷出候事)	状	1通	(享和元年)四月五日	山田図書	頼弥太郎殿	14.2×65.3	諸口紙		封上書「頼弥太郎殿 山田図書」	I-143-10
725	11) 口上之覚(御学問所講釈及び御銀下賜につき)	状	1通	(享和元年)四月六日	(頼春水)		14.0×21.0	諸口紙			I-143-11

文書・記録類

番号	名称	材質形状	員数	年代	作成者	宛所	法量	料紙	丁数	備考	管理番号
725	12) [差紙] (御用之儀候間, 拙者御長屋へ可被相越候)	状	1通	享和二年壬戌十二月廿日	堀江典膳	頼弥太郎殿	14.0×28.5	諸口紙		封上書「頼弥太郎殿 堀江典膳, 端裏書(頼春水筆)「公儀学問所江[]達し」「享和二年壬戌ノ冬」	I-143-12
725	13) 口達(公儀御学問所へ罷出致講釈候様被仰渡候事)	状	1通	(享和2年)			14.0×40.4	諸口紙		端裏書「口達」	I-143-13
725	14) [覚] (今度弥太郎・源助両人へ被仰付候儀につぎ)	状	1通	十一月			14.4×38.0	諸口紙		「春水遺響 八」所収, 虫損大	I-143-14
726	学統弁	仮綴	1綴	天明六年丙午春正月	安芸教授臣頼惟完撰(春水)		27.0×18.0	罫紙(楮紙)	2	首題「学統弁」, 跋「天明六年丙午春正月安芸教授臣頼惟完撰」, 句切点(墨), 校訂(付紙に墨書), 切断あり	I-144
727	上学初論	状	1通	(天明年間)	(頼春水)		14.5×19.9	諸口紙(匡郭)		首題「上学初論」, 朱文方印「頼惟完」1顆, 朱文方印「芸藩教授」1顆	I-145
728	教授局壁書	仮綴	1綴	(天明6年)	(頼春水)		24.5×17.0	半紙	3	首題「教授局壁書」, 頼杏坪批正(墨), 注記(朱), 錯簡あり	I-146
729	條約	状	1通	寛政六年歳次甲寅正月	(頼春水)		24.5×34.0	罫紙(半紙)	2	首題「條約」, 跋「寛政六年歳次甲寅正月 教授」, 句切点(墨)校訂(墨)	I-147
730	屋敷引渡帖	袋綴装大和綴	1冊	寛政二庚戌年三月十四日	森弥八郎, 清水九右衛門, 井上弥次兵衛	頼弥太郎殿	28.5×23.0	色諸口紙	9	共紙表紙, 外題直書「屋敷引渡帖」, 黒文長方印(割印)3顆, 黒文円印3顆, 黒文方印1顆, 袋2点(①36.0×11.6, 包紙[色諸口紙]を反故紙として使用, ②31.5×11.5[柿渋染])あり, 袋①表「屋敷帖 木石帖并小札紙面 御作事奉行 井上弥次兵衛 御普請奉行 清水九右衛門 森弥八郎」, 同裏「頼弥太郎拝領」, 旧包紙「屋鋪帖入 頼弥太郎様」御作事奉行 井上弥次兵衛 御普請奉行 清水九右衛門 森弥八郎 連印「寛政二年庚戌五月廿四日ニ来ル」, 袋②(頼古椽筆)「春水翁 屋敷拝領ノ諸書類 附普請願書共」	I-148-1
731	木石帳	袋綴装大和綴	1冊	寛政二年戊三月	今村平次郎/森弥八郎, 清水九右衛門	清水九右衛門殿, 森弥八郎殿/頼弥太郎殿	28.8×22.5	諸口紙, 色諸口紙	3	共紙表紙, 外題直書「木石帳」, 黒文方印(割印)3顆, 黒文円印4顆(割印1), 黒文長方印1顆, 今村平次郎の「覚」(諸口紙)に御普請奉行森弥八郎・清水九右衛門の奥書(色諸口紙)を貼付, 奥書「右之通相違無御座候, 以上 寛政二年戊三月 森弥八郎 清水九右衛門 頼弥太郎殿」	I-148-2
732	白河侯和歌の記	状	1通	文化十年癸酉二月	頼惟完		16.4×85.0	杉原紙	1	奥書「文化十年癸酉二月 頼惟完しるす」, 包紙(28.5×38.2, 頼春水筆)「白河侯和歌の記」	II-24
733	別紙(林都賀夫より学政示談につぎ申遣す控)	状	1通	寛政五年癸丑十一月初旬	(頼春水)		16.3×91.3	杉原紙		端裏書「癸丑十一月林都賀夫殿学政示談ニ付申遣候控」, 「春水遺響一」(『広島県史 近世資料編VI』No.3)所収, 虫損大	III-113-1
	[世子斉賢名乗り一件]									III-113-2-1~7まで貼継, 「春水遺響 一」(『広島県史 近世資料編VI』No.15)所収	III-113-2
734	1) [差紙] (面上申談度候につぎ)	状	1通	(天明8年)十二月十五日	沢茂太夫, 沢井正八郎	頼弥太郎殿	14.0×23.1	諸口紙		封上書「頼弥太郎殿 沢茂太夫 沢井正八郎」, 端裏書(頼春水筆)「御実名 御元服一件」	III-113-2-1
734	2) [覚書] (若殿様御元服御名乗御一字につぎ)	状	1通	(天明8年12月)	(頼春水)		14.5×33.1	諸口紙		校訂(墨), [紙背]仮名(墨), 返点(墨), 送り仮名(墨), 御名乗一字につぎ, 紙背に「斉賢(セイケン, ナリマサ, [ナリ]カタ, 典拠は論語)」, 「斉佑([セイ]イウ, [ナリ]スケ, 典拠は尚書)」, 「斉敏([セイ]ヒン, [ナリ]トシ, [ナリ]ハヤ, 典拠は論語)」の記載あり(墨抹のうえ裏に[覚書]を記載)	III-113-2-2
734	3) [書付] (林大学頭殿へ御使者可相勤候事)	状	1通	(天明8年)十二月十五日	(沢茂太夫)	頼弥太郎	14.0×17.0	諸口紙		端裏書「頼弥太郎江申談」, 本資料の料紙折目にIII-113-2-2を貼継	III-113-2-3

文書・記録類

番号	名称	材質形状	員数	年代	作成者	宛所	法量	料紙	丁数	備考	管理番号
734	4)〔書付〕(若殿様御実名御母字「賢」)	状	1通	(天明8年12月)	(頼春水)		14.5×13.0	杉原紙		端裏書「奉書ニツ折ニして又三ツ折、ふくさ包、上ニ書付と二字也」	Ⅲ-113-2-4
734	5)御口上書キ(善次郎来春元服の儀につき名乗下字のこと)	状	1通	(天明8年12月)			14.1×55.0	諸口紙			Ⅲ-113-2-5
734	6)覚(御口上書の趣につき)	状	1通	(天明8年)十二月十六日	頼弥太郎	林大学頭殿	14.5×23.0	諸口紙			Ⅲ-113-2-6
734	7)覚(学頭安原へ少々之目録等被下置候様仕度事)	状	1通	(寛政元年)二月八日	頼弥太郎	御用人衆	14.5×13.1	諸口紙		端裏書「御印判御文字判形ニいたし書試、沢氏へ此書付一緒ニ差出し置、二月八日の事也」	Ⅲ-113-2-7
735	〔藩主重晟より下間につき申上る書付断簡〕	状	1通	享和壬戌(2年)冬十月	(頼春水)		13.7×21.0	諸口紙		端裏書「享和壬戌冬十月 御不例之節御用人山田猪右衛門殿ヲ以テ少将様より御尋ニ付申出候書付草案断簡也 十二月猪右衛門殿被申聞候、此書付御留被遊、御年寄へ御前より御見せ可被遊との事」、校訂(墨)、付紙(13.7×7.0、諸口紙)あり(糊離れカ)、「春水遺響 一」(『広島県史 近世資料編VI』No.1)所収	Ⅲ-113-3
736	愚考(御上の御様子につき申上る書付)	状	1通	(享和2年)十一月	頼弥太郎		13.7×69.3	諸口紙		校訂(墨)、「春水遺響 一」(『広島県史 近世資料編VI』No.2)所収	Ⅲ-113-4
737	極密内用事(御舎弟学事出精につき書付)	状	1通	三月廿五日認置	(頼春水)		12.0×83.5	半紙		「春水遺響 一」(『広島県史 近世資料編VI』No.4)所収	Ⅲ-113-5
738	〔傳役の心得につき書付〕	状	1通	丁巳(寛政9年)八月十四日	(頼春水)		12.4×104.7	半紙		端裏書「丁巳八月十四日藤田新右衛門殿へ出ス もと所望之事有之」、校訂(墨・朱)、「春水遺響 一」(『広島県史 近世資料編VI』No.6)所収、もとはⅢ-122付属紙帯一括のうちカ(紙帯「丁巳八月」「傳役之事藤田殿へ」)	Ⅲ-113-6
739	御内々御咄仕候事(世子斉賢入国につき申上る書付)	状	1通	戊午(寛政10年)早春	(頼春水)		14.4×21.4	諸口紙		端裏書「戊午早春 江戸御奥小姓柴田群助へ遣候所、御付御用人藤田新右衛門殿へ出し、同方カ被入御覽候様取計之事 群助カ申来候事」、校訂(墨)、「春水遺響 一」(『広島県史 近世資料編VI』No.7)所収	Ⅲ-113-7
740	〔世子斉賢学事につき申上る書付〕	状	1通	寛政十一月己未二月	頼弥太郎		12.0×62.5	半紙		紙縫にてⅢ-113-8-1～6まで一括、端裏書「寛政十一年己未二月 若殿様御発駕前被仰付候ニ付書付七通差出ス、此義中島栄次ヲ以テ御内々被仰付候事」、校訂(墨)、朱筆で番号(○に漢数字で一・二・三)の記載あり、「春水遺響 一」(『広島県史 近世資料編VI』No.8)所収	Ⅲ-113-8-1
741	〔学事につき世子斉賢直書写并申上る答書〕	状	1通	寛政十一月己未二月七日	(頼春水)		12.5×38.8	半紙		端裏書「寛政十一年己未二月七日 若殿様より中島栄次へ御直書御下ケ弥太郎へ致持参、一々付紙ニ而申上候様被仰付候 御直書写し 付紙之ひかへ」、校訂(墨)、奥に付紙「付言」貼継(13.9×4.5、諸口紙)、「春水遺響 一」(『広島県史 近世資料編VI』No.9前半)所収	Ⅲ-113-8-2
742	課業之事(世子斉賢直書写)	状	1通	寛政十一月己未二月	中島栄次		14.1×49.0	諸口紙		端裏書(頼春水筆)「寛政十一年己未二月 御直書写 中島栄次書取」	Ⅲ-113-8-3
743	極密申上候覚	状	1通	(寛政11年)二月	(頼春水)		12.0×19.2	半紙		校訂(墨)、朱筆で番号(○に漢数字で五)の記載あり、「春水遺響 一」(『広島県史 近世資料編VI』No.9後半)所収	Ⅲ-113-8-4
744	副啓(津和野藩儒山口剛三郎来書写)	状	1通	(寛政11年カ)	(頼春水)		16.9×22.1	楮紙		端裏書『六』(○に漢数字)、同「石州山口剛三郎来書之写」、春水遺響 一」(『広島県史 近世資料編VI』No.10前半)所収	Ⅲ-113-8-5
745	日課	状	1通	(寛政11年カ)	(頼春水)		13.9×35.3	諸口紙		端裏書『七』(○に漢数字)、同「私塾課目 私方平日寄宿之門弟へ示合迄乍序書付奉入尊覧候」、春水遺響 一」(『広島県史 近世資料編VI』No.10後半)所収	Ⅲ-113-8-6

文書・記録類

番号	名称	材質形状	員数	年代	作成者	宛所	法量	料紙	丁数	備考	管理番号
746	極御内々申上候事(世子斉賢養生筋につき申上る書付)	状	1通	己未(寛政11年)十一月	頼弥太郎		14.5×28.6	諸口紙		紙帯にてⅢ-113-9-1～5まで一括, 端裏書「己未十一月廿七日江戸表へ申上候覚へ ひかへ 御養生之事 頼弥太郎」, 「春水遺響 一」(『広島県史 近世資料編VI』No.11)所収	Ⅲ-113-9-1
747	御内々申上候覚(世子斉賢入国期に関し内付書付)	状	1通	戊午(寛政10年)正月五日	頼弥太郎		14.4×19.5	諸口紙		端裏書「戊午正月五日 村越孫六殿へ申出ひかへ 二通之内」, 「春水遺響 一」(『広島県史 近世資料編VI』No.12前)所収	Ⅲ-113-9-2
748	〔世子斉賢入国期に関し内付書付〕	状	1通	戊午(寛政10年)正月七日	頼弥太郎		14.4×21.4	諸口紙		端裏書「戊午正月七日 村越孫六殿へ申出ひかへ 二通之内」, 「春水遺響 一」(『広島県史 近世資料編VI』No.12中)所収	Ⅲ-113-9-3
749	〔世子斉賢入国期に関し内付書付〕	状	1通	(寛政10年正月)	(頼春水)		14.3×16.7	諸口紙		「春水遺響 一」(『広島県史 近世資料編VI』No.12後)所収	Ⅲ-113-9-4
750	〔村越孫六書簡〕(御城にて御面談の儀につき)	状	1通	(寛政10年)正月八日	村越孫六	頼弥太郎様	14.0×44.5	諸口紙		封上書「頼弥太郎様 村越孫六 内用」	Ⅲ-113-9-5
751	私考一篇(世子斉賢養生筋につき書付)	状	1通	寛政十二庚申閏四月	(頼春水)		14.0×268.8	諸口紙		端裏書「私考一篇 寛政十二庚申閏四月中島栄次内話ニ付此書付同人へ出ス, 此前御国より書通往反ニ付候事も有之, 無用捨申出候様御内々被仰付候付書認候事 下ニ所々付紙有之 本文も少々□も入点削有之」, 校訂(墨), 「春水遺響 一」(『広島県史 近世資料編VI』No.13)所収	Ⅲ-113-10
752	〔人君學術の心得につき書付〕	状	1通	庚申(寛政12年)七月	頼弥太郎		14.2×46.6	諸口紙		端裏書「江戸 庚申七月上旬申出之ひかへ」, 同「十八日ニ成, 中島伝へ」, 別紙(14.1×7.7, 諸口紙, 注記[朱])あり, 春水遺響 一」(『広島県史 近世資料編VI』No.14)所収	Ⅲ-113-11
753	1)〔達書〕(丁祭議節, 御年寄中へ入披見候事)	状	1通	(寛政9年)極月廿六日	澤鞆貞	頼弥太郎様	13.9×32.0	色諸口紙		Ⅲ-114-1-1～7まで貼継, 端書「上ニ頭書付紙関氏方澤鞆貞方被相渡候頭書ナリ十二月廿六日」, 付紙「丁祭議節土藩箕浦右源次方所望ニ付申出候所, 一通り頭書ニ而尋問有之(中略)裁許有之書類ナリ」	Ⅲ-114-1-1
753	2)〔伺書〕(本藩国学および学問所の関係について)	状	1通	丁巳(寛政9年)十二月	頼春水		14.4×22.8	諸口紙		端裏書「丁巳十二月ノ事」	Ⅲ-114-1-2
753	3)演説(丁祭と相唱候事, 国学之事, 他)	状	1通	(寛政9年)十二月	頼春水		12.4×34.0	半紙		校訂(墨)	Ⅲ-114-1-3
753	4)〔達書〕(丁祭議節之儀ニ付他所江被見候儀差支無之事)	状	1通	(寛政10年)三月八日	澤鞆貞, 林都賀夫, 山田猪右衛門		13.8×44.2	色諸口紙			Ⅲ-114-1-4
753	5)〔達書〕(此義演説被申聞候通可被申遣候)	状	1通	己未(寛政11年)八月廿一日	(山田)猪右衛門	頼弥太郎	13.8×7.3	色諸口紙		端書「己未八月十八日ニ申出同廿一日付紙猪右衛門殿方来」	Ⅲ-114-1-5
753	6)口上之覚(丁祭儀式土州表へ相達挨拶申来, 返書仕度事)	状	1通	己未(寛政11年)八月	頼弥太郎		13.9×16.9	諸口紙		端裏書「己未八月申出」	Ⅲ-114-1-6
753	7)〔書簡〕(土州箕浦右源次来書)	状	1通	(己未)五月廿六日	箕浦右源次	頼弥太郎様	14.4×18.8	諸口紙		端裏書「土州箕浦右源次来書之写」	Ⅲ-114-1-7
754	要用御内談之事(教諭之人おもとめニ付伯方事存出し今度内談仕候事)	状	1通	丁巳(寛政9年)八月			14.2×105.4	諸口紙		Ⅲ-122-29-1と料紙・筆跡・虫損穴が一致	Ⅲ-114-2
755	教導之事(町方一統の教化について)	状	1通	丁巳(寛政9年)十月廿五日	頼春水		12.5×123.0	半紙		端裏書「丁巳十月廿五日町御奉行寺西六之丞へ及答書候別紙」, 校訂(墨), 断簡あり	Ⅲ-114-3

文書・記録類

番号	名称	材質形状	員数	年代	作成者	宛所	法量	料紙	丁数	備考	管理番号
756	演説(城下造酒家、町方重役相勤候者難儀の事)	状	1通	九月	頼春水		14.0×43.5	諸口紙			Ⅲ-114-4-1
757	書試(当地酒家共申出候儀、新一株取立候事)	状	1通	九月	頼春水		14.0×43.0	諸口紙			Ⅲ-114-4-2
758	書試(当地酒造之事、農を重んじ国本を手堅く仕候事)	状	1通	九月	頼春水		14.4×66.5	諸口紙		校訂(墨)、Ⅲ-141-4-2と同内容(校訂あり)、右端に別に一条記載あり	Ⅲ-114-4-3
759	建言(御当地において濕瘡を病み候人多く有之候ニ付)	状	1通	文化二年乙丑五月	頼春水		14.3×154.9	諸口紙		端裏書「文化二年乙丑五月ニ出ス」、校訂(墨・朱)、注記(朱)	Ⅲ-114-5
760	[草稿](水野侯へ上ル節ノ草稿ノ内、立教ほか)	状	1通	江戸後期	頼春水		12.5×157.5	半紙		端裏書「水野侯へ上ル節ノ草稿ノ内」、校訂(墨)、2枚に剥離	Ⅲ-114-6
761	1)[覚書](社倉法ニ付吉川氏へ書試差遣し候控)	状	1通	(寛政9年)七月	頼春水		13.3×24.0	諸口紙		Ⅲ-114-7-1～2まで貼継、校訂(墨)	Ⅲ-114-7-1
761	2)[草稿](社倉法弊害に関し、仙石殿へ出す草稿)	状	1通	丁巳(寛政9年)八月十四日	頼春水		12.5×170.4	半紙		端裏書「丁巳八月十四日仙石殿へ出す草稿」、校訂(墨・朱)、別稿(12.5×21.5、前後欠か)あり	Ⅲ-114-7-2
762	[達書](二月十三日丁祭晝七時揃但始り時刻朝六時)	状	1通	二月九日		教授方	14.2×32.9	諸口紙		端裏書「教授方」、注記(付紙に墨)	Ⅲ-114-8
763	1)口上之覚(月次講釈之節肩衣相用候儀につき)	状	1通	十一月十一日	教授方		14.0×25.8	諸口紙		Ⅲ-114-9-1～6まで貼継、端裏書「講席肩衣着用之事」、校訂(墨)	Ⅲ-114-9-1
763	2)[書簡](学事において八時節到来仕不申候事)	状	1通	江戸後期			13.8×42.1	楮紙(薄黄染)			Ⅲ-114-9-2
763	3)[草稿](助教頭取中へ学業相励候心得)	状	1通	七月	教授(春水か)	助教頭取中様	14.6×120.3	諸口紙		端裏書「草稿」	Ⅲ-114-9-3
763	4)[草稿](此度助教を句読師と改申度儀につき)	状	1通	正月	頼春水		14.5×32.8	諸口紙			Ⅲ-114-9-4
763	5)[草稿](御歩行組よりも学識ある者を召出し度候事)	状	1通	江戸後期	頼春水		14.2×48.4	諸口紙		端書「輪講 人数、士列、御歩行組三人宛ニても忒人ニても關取候而それを以テ前役次第ヲ付ヶ仕申度事」、校訂(墨)	Ⅲ-114-9-5
763	6)[草稿](句読師中、御自分学事ハ第二ニ成り候事)	状	1通	江戸後期	頼春水		14.8×55.5	諸口紙		校訂(墨・朱)、注記(貼紙に墨)	Ⅲ-114-9-6
764	[伺書](学問所助教、以後句読師と相改度事)	状	1通	正月	金子源内、頼弥太郎、加藤三平、植田周助、頼万四郎		14.0×18.3	諸口紙			Ⅲ-114-10
765	[覚書](学問所、東西諸生の習学日振合いの事)	状	1通	三月	頼春水か		14.6×51.7	諸口紙		端裏書「林甚左衛門、吉川禎蔵」	Ⅲ-114-11
766	書試(学問所懸りを今一人付けて欲しい事)	状	1通	江戸後期	頼春水か(杏坪か)		12.4×75.2	色半紙		端裏書「与一郎代之事」、校訂(墨)	Ⅲ-114-12
767	[草稿](学問所の根本ニ付儒師共と内談仕候事)	状	1通	江戸後期	頼春水		12.0×42.2	半紙		校訂(墨)	Ⅲ-114-13
768	1)[達書](儒者中一統ニ程朱学、集註相用ヒ授ヶ申候事)	状	1通	天明五年巳十二月廿一日	頼春水		13.9×52.3	諸口紙		Ⅲ-114-14-1～5まで貼継、付紙(14.4×3.7)「天明五年巳十二月廿一日学問所へ達シノ写 在江戸ニ而請取 在江戸御年寄 稻生要人、御勘定奉行 小出次右衛門」	Ⅲ-114-14-1

文書・記録類

番号	名称	材質形状	員数	年代	作成者	宛所	法量	料紙	丁数	備考	管理番号
768	2)〔達書〕(松舎、竹舎の学事名目につき)	状	1通	巳(天明5年)十二月	頼春水		13.9×55.5	諸口紙		端裏書「弐」	Ⅲ-114-14-2
768	3)〔達書〕(歴史并経書音義相正シ候事につき)	状	1通	(天明5年12月)	頼春水		13.9×17.8	諸口紙		端裏書「三」	Ⅲ-114-14-3
768	4)〔達書〕(詩文等之義につき)	状	1通	(天明5年12月)	頼春水		13.9×18.7	諸口紙		端裏書「四」	Ⅲ-114-14-4
768	5)〔達書〕(学問所人事)	状	1通	巳(天明5年)十二月廿一日	頼春水		13.9×86.6	諸口紙		端裏書「五」	Ⅲ-114-14-5
769	口上之覚(寺尾弥祐薦挙之草稿)	状	1通	戊辰(文化5年)九月	(頼春水)		12.0×86.9	色半紙		端裏書「寺尾弥祐薦挙之草稿 戊辰九月之事」,校訂(墨),「春水遺響七」所収	Ⅲ-115-1
770	〔内々申上置候覚〕(尾道町儒橋本栄蔵の学舎設置につき)	状	1通	(七月)	(頼春水)	(尾道町奉行カ)	14.1×38.8	諸口紙		虫損大,「春水遺響 七」と同文(ただし日付・差出の記載なし)	Ⅲ-115-2-1
771	内々申上候覚(尾道町儒橋本栄蔵の学舎設置につき)	状	1通	七月廿七日	頼弥太郎	(尾道町奉行カ)	13.6×46.5	諸口紙		校訂(墨),虫損大,「春水遺響 七」と日付・差出は一致,文章は異なる	Ⅲ-115-2-2
772	内々申上置候覚(尾道町儒橋本栄蔵の学舎設置につき)	状	1通	七月廿八日	(頼春水)	(尾道町奉行カ)	14.1×30.1	諸口紙		校訂(墨)	Ⅲ-115-2-3
773	〔内々申上置候覚〕(尾道町儒橋本栄蔵の学舎設置につき)	状	1通	(七月)	(頼春水)	(尾道町奉行カ)	14.2×23.3	諸口紙			Ⅲ-115-2-4
774	覚(黒瀬登内御取立願)	状	1通	十二月	頼弥太郎		14.6×26.1	諸口紙		端裏書「己酉極月 藤田へ内談之上書認同人へ遣し候ひかへ」,「春水遺響 七」所収	Ⅲ-115-3
775	1)覚(黒瀬登内御取立願)	状	1通	戊(寛政2年)十二月	(頼春水)		14.5×34.2	諸口紙		Ⅲ-115-4-1～2まで貼継,端裏書「戌十二月 沢靱貞殿へ申出置候書付ひかへ」,「春水遺響 七」所収(ただし同書記載の付紙なし)	Ⅲ-115-4-1
775	2)口上之覚(黒瀬登内御取立願)	状	1通	亥(寛政3年)十二月	(頼春水)		11.7×33.0	半紙		端裏書「亥十二月 沢へ出候書付ひかへ」,校訂(墨),「春水遺響 七」所収	Ⅲ-115-4-2
776	覚(黒瀬登内御取立願)	状	1通	子(寛政4年)三月	(頼春水)		14.6×38.9	諸口紙		端裏書「子三月六日高野内次へ差出候書付写」,校訂(墨),「春水遺響 七」所収	Ⅲ-115-5
777	御内々御咄申候覚(加藤三平御取立願)	状	1通	壬子(寛政4年)三月	(頼春水)		14.6×79.3	諸口紙		端裏書「壬子三月廿五日 築山嘉平 山県勘六兩人へ書試遣候書付下書」,校訂(墨),「春水遺響 七」所収	Ⅲ-115-6
778	覚(吉川武助につき新御居間へ召し仕わされたきこと)	状	1通	甲寅(寛政6年)閏十一月	(頼春水)		14.5×89.9	諸口紙		端裏書「甲寅閏十一月二委細演説いたし置,同極月八日二靱貞殿へ面上差出置」,同「此書付写取候而丙辰九月廿四日,御留守居水野市允へ内々申置」,校訂(付紙に朱),日付の後に朱書但書あり,「春水遺響 七」所収	Ⅲ-115-8
779	口上之覚(吉川武助の病気回復後の復職につき)	状	1通	丁巳(寛政9年)八月	頼弥太郎		14.2×46.1	諸口紙		端裏書「吉川武助事 丁巳八月廿一日,沢靱貞殿へ差出書付写」,校訂(墨),虫損大,「春水遺響 七」所収	Ⅲ-115-9
780	口上之覚(清水弁之助の持病による学問所御役退隠願につき)	状	1通	戊午正月	金子,頼,加藤,植田		11.9×48.3	半紙		端裏書「戊午二月 沢靱貞殿へ持参」,校訂(墨),「春水遺響 七」所収	Ⅲ-115-10
781	御内話之覚(清水弁之助・民司父子病死につき)	状	1通	文化五年戊辰九月	頼弥太郎		11.9×45.3	半紙		端裏書「文化五年戊辰九月之事」,同「草稿ひかへ」,「春水遺響 七」所収	Ⅲ-115-11-1
782	〔関蔵人書簡〕(民司事,痛敷惜事ニ奉存候)	状	1通	(文化5年)九月廿日	蔵人	弥太郎様	14.0×37.6	諸口紙		封上書「弥太郎様 蔵人 御内用申上候」,端裏書(頼春水筆)「大御小姓頭」『九月二関氏へ清水事申入候ひかへ』	Ⅲ-115-11-2

文書・記録類

番号	名称	材質形状	員数	年代	作成者	宛所	法量	料紙	丁数	備考	管理番号
783	1) 口上之覚(金子熊介, 学術修行のため頼弥太郎と江戸へ罷越度事)	状	1通	(寛政12年)正月	頼弥太郎, 加藤三平, 頼万四郎, 植田周助		14.0×18.1	諸口紙		Ⅲ-115-12-1の紙背にⅢ-115-12-2の端裏を貼付, 注記(付紙に墨), 端裏付紙(14.0×3.0)「寛政十二年庚申 此通り相調申候間宜御申談可被下候 熊介江戸行ニ付」, 「春水遺響 七」所収	Ⅲ-115-12-1
783	2) 口上之覚(金子熊介の在江戸中の句読師につき)	状	1通	(寛政12年)正月	頼弥太郎, 加藤三平, 頼万四郎, 植田周助		14.0×24.7	諸口紙		端裏書「金子熊介江戸へ罷越候ニ付書付 教授方方」, 「春水遺響七」所収	Ⅲ-115-12-2
783	3) 口上之覚(私儀, 在江戸中の学問所句読師につき)	状	1通	(寛政12年)正月廿三日	金子熊介		14.4×33.6	諸口紙		Ⅲ-115-12-2の紙背にⅢ-115-12-3を貼付	Ⅲ-115-12-3
784	1) 口上之覚(三上為次郎, 句読師加り申談候事)	状	1通	(寛政11年)十月	頼弥太郎, 金子源内, 加藤三平, 頼万四郎, 植田周助, 金子平馬		14.0×24.2	諸口紙		Ⅲ-115-13-1～2まで貼継, 注記(付紙に墨), 端裏左下に付紙(4.9×1.9, 墨書「頼弥太郎 金子平馬」), 同上部に付紙(14.0×4.8, 墨書「教授方中 此通り御申談可被成候事 寛政十二年庚申ノ正月ノコト」)あり, 「春水遺響 七」所収	Ⅲ-115-13-1
784	2) 口上之覚(三上為次郎へ句読師加り仰付につき)	状	1通	(寛政11年)九月	吉田勝馬		14.0×25.1	諸口紙		「春水遺響 七」所収	Ⅲ-115-13-2
785	口上之覚(梶山六一御取立願)	状	1通	享和三年癸亥三月	頼弥太郎		13.8×24.9	諸口紙		端裏書「享和三年癸亥三月江戸ニ而御用人山田猪右衛門殿へ申出候ひかへ 梶山六一事」, 校訂(墨), 「春水遺響 七」所収	Ⅲ-115-14
786	口上之覚(梶山六一御歩行組御取立願)	状	1通	(文化11年)七月	(頼春水)		14.4×97.6	諸口紙		端裏書「六一事 文化十一戊辰八月牧野勝之進同意ニ而出スひかへ」, 校訂(墨), 「春水遺響 七」所収	Ⅲ-115-15
787	覚(梶山六一御歩行組御取立願)	状	1通	乙亥(文化12年)十月	(頼春水)		14.1×46.7	諸口紙		端裏書「六一書試 文化十二年乙亥十月申出ひかへ」, 校訂(墨), 「春水遺響 七」所収	Ⅲ-115-16
788	覚(竹本出衛, 若殿様御奥小姓御取立願)	状	1通	戊午(寛政10年)三月	頼弥太郎		14.0×36.5	諸口紙		端裏書「竹本出衛之事 戊午」, 校訂(墨), 「春水遺響 七」所収	Ⅲ-115-18
789	口上之覚(竹本出衛御取立願)	状	1通	己未(寛政11年)八月	頼弥太郎		13.9×29.3	諸口紙		端裏書「竹本出衛之事 己未」, 校訂(墨), 「春水遺響 七」所収	Ⅲ-115-19
790	口上之覚(大谷犀次につき御側詰同格にて学問所に引受推挙のこと)	状	1通	文化十二年乙亥十月	(頼春水)		11.8×42.7	半紙		端裏書「大谷犀次之事 文化十二年乙亥十月申出ひかへ」, 校訂(墨), 「春水遺響 七」所収	Ⅲ-115-20
791	[書付](黒瀬欽二, 奇特之義につき)	状	1通	未(天明7年)十一月	(頼春水)		14.3×70.0	諸口紙		端裏書「申二月 此義横山平三へ内談ニ而当時詰合御勘定奉行三上弥大夫へ申談置候書付ひかへ」, 「右欽二儀, 十五才ニ相成り申候」との記載あり, 「春水遺響 七」所収	Ⅲ-115-21
792	[坂井孫三郎御取立願]	状	1通	己巳(文化6年)十二月			12.0×24.0	色半紙		端裏書「己巳十二月か」, 校訂(墨), 「春水遺響 七」所収	Ⅲ-115-22
793	[坂井孫三郎御小姓組御取立願]	状	1通	(文化12年)十月	(頼春水)		13.5×34.6, 11.8×18.6	色 諸口紙, 半紙		端裏書「不急之事 学舎之しらへ書下地白人故, 甚不都束之書法と覚へ申候, 諸役所へしらへ書ハ大概此通之書法ニ御座候, 序ニ上ケ置候」, 校訂(墨), 色諸口紙に半紙を貼り継ぎ, 御取立願を記す, 「此趣度々申出候故か去春ハ御書翰方列被仰付候」, 「凡ソ四代共学事引続相勤候儀ニ御座候, ケ様成家柄も稀成儀ニ奉存候」との記載あり, 「春水遺響 七」所収	Ⅲ-115-23
794	[坂井孫三郎勤書]	状	1通	(文化12年)	坂井孫三郎		14.5×27.7	諸口紙			Ⅲ-115-24
795	口演(植村彦太郎御取立願)	状	1通	江戸後期	(頼春水)		14.5×15.1	諸口紙		紙背「九十六 四口」, 「春水遺響 七」所収	Ⅲ-115-25

文書・記録類

番号	名称	材質形状	員数	年代	作成者	宛所	法量	料紙	丁数	備考	管理番号
796	申合せ(浪人儒者高橋太吉・湯川吉次郎, 学問所にて出精につき)	状	1通	三月	教授		14.2×19.1	諸口紙		端裏付紙「教授方申合せ」, 注記(付紙に墨), 付紙「殿宛ニ而連名直達候事」, 「春水遺響 七」所収	III-115-26
797	申達(浪人儒者高橋太吉・湯川吉次郎, 当人心得之事)	状	1通	三月			14.2×33.7	諸口紙		端裏付紙「当人心得之事」, 注記(付紙に墨), 「春水遺響 七」所収	III-115-27
798	覚(曾根新十郎・三上主税, 句読師頭等御取立願)	状	1通	正月	頼弥太郎, 加藤三平, 頼万四郎, 植田太郎一, 金子平馬, 梅園勝馬		14.3×45.7	色諸口紙		端裏付札(11.7×4.0, 色半紙)「教授方中 此通り御申談可被成候 句読師頭之事」, 「春水遺響 七」所収	III-115-28
799	口上之覚(金子徳之助に御切米被下候様被下度事)	状	1通	十月	(頼春水)		12.6×20.4	半紙		校訂(墨), 「春水遺響 七」所収	III-115-29
800	[金子平馬・坂井孫三郎・賀屋貞蔵・坂井貞之助, 句読師頭等御取立願]	状	1通	正月	金子, 頼, 加藤, 植田, 頼		12.3×27.8	半紙		III-115-30-2-の草稿	III-115-30-1
801	[金子平馬・坂井孫三郎・賀屋貞蔵・坂井貞之助, 句読師頭等御取立願]	状	1通	正月	金子源内, 頼弥太郎, 加藤三平, 植田周助, 頼万四郎		14.0×50.8	諸口紙		付紙(14.0×2.4)「句読師頭ハ是迄之助授頭取ニ而御座候事」(糊離れ), 「春水遺響 七」所収	III-115-30-2
802	[達書](右句読師頭, 助教名目以来改句読師と相唱候事)	状	1通	江戸後期		金子平馬, 坂井孫三郎, 賀屋貞蔵	14.5×23.0	諸口紙			III-115-31
803	口上之覚(加藤太郎三・梅園立介, 句読師御取立願)	状	1通	八月	頼弥太郎, 加藤三平, 梅園勝馬, 植田太郎一, 金子希三, 金子徳之助		11.9×48.0	色半紙		「春水遺響 七」所収	III-115-32
804	口上之覚(梅園立介, 句読師本勤出精につき御褒美を下賜されたきこと)	状	1通	十月	築山左太夫		13.8×39.8	色諸口紙		「句読師被仰付候以来, 当年迄九ヶ年ニも相成候へハ」との記載あり	III-115-33
805	1) 口上之覚(大藤内外, 句読師本勤御取立願)	状	1通	八月	頼弥太郎, 加藤三平, 梅園勝馬, 植田太郎一, 金子希三, 金子徳之助		11.9×29.8	色半紙		色半紙の紙帯にてIII-115-34-2と紙背貼継	III-115-34-1
805	2) 口上之覚(加藤太郎三・梅園立介, 句読師加り御取立願)	状	1通	八月	頼弥太郎, 加藤三平, 梅園勝馬, 植田太郎一, 金子希三, 金子徳之助		11.9×43.4	色半紙			III-115-34-2

文書・記録類

番号	名称	材質形状	員数	年代	作成者	宛所	法量	料紙	丁数	備考	管理番号
806	口上之覚(植田太郎一, 家督仕候ニ付句読師名目被差除候様仕度事)	状	1通	十月	頼弥太郎, 金子源内, 加藤三平, 植田周助, 金子平馬		11.7×29.9	色半紙		端裏付札(11.6×3.9, 色半紙)「教授方中 此通り御申談可被成候」, 虫損大, 「春水遺響 七」所収	Ⅲ-115-35
807	1) 口上之覚(成川東馬句読師加り御取立願)	状	1通	丁巳(寛政9年)ノ年九月廿七日	金子源内, 頼弥太郎, 加藤三平, 植田周助		14.2×22.8	諸口紙		Ⅲ-115-36-1～2まで貼継, Ⅲ-115-36-1の端裏にⅢ-115-36-3の端裏を貼付, 端裏付札(14.0×3.0, 諸口紙)「教授方中 此通り御申談可被成候 丁巳ノ年」, 「春水遺響 七」所収	Ⅲ-115-36-1
807	2) 口上之覚(成川東馬句読師加り推薦状)	状	1通	(寛政9年)九月	金子平馬	金子源内様, 頼弥太郎様, 加藤三平様, 植田周助様	14.5×46.0	諸口紙		「春水遺響 七」所収	Ⅲ-115-36-2
807	3) 口上之覚(尾上太郎八・勝屋大蔵・谷口愛蔵, 句読師加り御取立願)	状	1通	(寛政9年)九月廿七日	金子源内, 頼弥太郎, 加藤三平, 植田周助		14.1×25.4	諸口紙		Ⅲ-115-36-3～4まで貼継, 「春水遺響 七」所収	Ⅲ-115-36-3
807	4) 口上之覚(尾上太郎八・勝屋大蔵・谷口愛蔵, 句読師見習推薦状)	状	1通	(寛政9年)九月	片山貞蔵, 坂井孫三郎		12.1×23.4	半紙		「春水遺響 七」所収	Ⅲ-115-36-4
808	口上之覚(菅喜蔵・落合敬助, 私方修学稽古につき伺い)	状	1通	文化十一甲戌十二月七日	頼弥太郎		14.1×31.5	諸口紙		端裏付札(14.0×4.6, 色諸口紙)「頼弥太郎 申出之通可被仕候」, 同(頼春水筆)「文化十一甲戌十二月十二日達 月番浅野縫殿殿」, 「春水遺響 七」所収	Ⅲ-115-37
809	書試(築山為蔵・関東見勇三郎・岡村茂助御取立願)	状	1通	江戸後期	(頼春水)		12.2×50.2	半紙			Ⅲ-115-38
810	口上之覚(渡部英蔵, 此已後句読師相除申度奉存候)	状	1通	九月	金子源内, 頼弥太郎, 加藤三平, 頼万四郎		14.3×14.9	諸口紙			Ⅲ-115-39
811	〔伺書〕(別紙申出之趣につき句読師被差除候様仕度奉存候)	状	1通	二月	頼弥太郎, 加藤三平, 頼万四郎, 植田太郎一, 金子平馬, 梅園勝馬		12.3×17.0	色半紙		注記(付紙に墨), 紙縑にてⅢ-115-40～41まで一括(もとは封筒にて一括), 封筒(頼古楳筆)「除きしもの」, 封筒裏に「広島陸軍地方幼年学校用紙」の押印あり, 端裏左下端に付紙(3.8×1.9, 色半紙, 「頼弥太郎梅園勝馬」), 同上部に付札(11.9×3.6, 色半紙)「教授方中 此通り御申談可被成候 飯田久五郎歎キ之事」あり	Ⅲ-115-40-1
812	口上之覚(持病療養につき句読師御免被成下度事)	状	1通	二月十一日	飯田久五郎		12.5×19.9	半紙			Ⅲ-115-40-2
813	〔伺書〕(別紙申出之趣につき宜敷被仰談候之様仕度奉存候)	状	1通	八月	頼弥太郎, 金子源内, 加藤三平, 植田周助, 金子平馬, 頼万四郎		12.0×19.8	色半紙		注記(付紙に墨), 端裏左下端に付紙(5.0×1.2, 「頼弥太郎」), 同上部に付札(11.9×3.7, 色半紙)「教授方中 此通り御申談可被成候」あり	Ⅲ-115-41-1
814	口上之覚(躰養子罷越につき句読師加りの名目を差し除かれたきこと)	状	1通	八月四日	大谷三兵衛		14.5×22.1	諸口紙			Ⅲ-115-41-2

文書・記録類

番号	名称	材質形状	員数	年代	作成者	宛所	法量	料紙	丁数	備考	管理番号
815	覚(勤メ書銘々差出候様との儀ニ書試出スひかへ)	状	1通	卯(文化4年)七月	頼弥太郎		14.4×220.2	諸口紙		端裏書(頼春水筆)「文化四年丁卯六月, 御騎馬頭坂本弥門より大席不残勤メ書銘々差出候様との儀ニ書試出スひかへ」, 校訂(墨), 懸点(墨), 紙帯にてⅢ-116-1-1~2まで一括, 「春水遺響 八」所収	Ⅲ-116-1-1
816	[若殿様御学事年月之控]	状	1通	江戸後期	(頼春水)		12.5×155.9	半紙		注記(付紙に墨), 端裏付紙(12.3×3.8, 諸口紙)・頼春水筆「天明三年癸卯ヨリ寛政五年癸丑マテ『斉賢公』, 同(頼春水筆)「若殿様御学事年月之控」「御読書 講釈 御会業之御書名等」, 「春水遺響 一」所収, ただし「春水遺響 一」に, 「癸丑同十九日」(寛政5年6月)より「同十月十五日」についての記載なし	Ⅲ-116-1-2
817	口上之覚(江戸留守中他所人従学願出之事)	状	1通	申ノとし(寛政12年)二月廿一日	頼弥太郎		14.0×20.8	諸口紙		紙帯にてⅢ-116-2-1~4まで一括, 紙帯(頼春水筆)「学談受引之事他所門人願之事 江戸留守引受学生之事」, 付札(14.1×4.2, 色諸口紙)「頼弥太郎 申出之通可被仕候」, 同(頼春水筆)「江戸留守中他所人従学願出之事 申ノとし」, 「春水遺響 八」所収	Ⅲ-116-2-1
817	1) 口上之覚(他所御家中并浪人の止宿につき)	状	1通	寅とし(寛政6年)三月廿一日	頼弥太郎		14.0×20.5	諸口紙		Ⅲ-116-2-2-1~2まで貼継, 端裏付札(13.9×4.4, 色諸口紙)「此儀夫々附決之通可被相心得候」, 同(頼春水筆)「御用人村越孫六殿方寅とし」, 付札(14.0×5.8, 色諸口紙)「一, 弟子之外ハ止宿不相成候事一, 外宿逗留之者度々罷越候分ハ最初申出限りニ而相除候事」, 「春水遺響 八」所収	Ⅲ-116-2-1
817	2) 口上之覚(他所御家中・旅僧との面談につき)	状	1通	寅とし(寛政6年)四月二日	頼弥太郎		14.5×14.7	諸口紙		付札(13.8×8.0, 色諸口紙)「一, 他所御家中御供ニ而通行之者, 於宅之面会不相成候事 一, 外宿ニ罷在候他所僧侶面会者申出ニ不及候事, 但格別之訳合有之分ハ趣次第ニ而申出候事」, 「春水遺響 八」所収	Ⅲ-116-2-2
817	1) 口上之覚(御打通り之御供之内方罷越候者との面談につき)	状	1通	(寛政7年)十月	頼弥太郎		14.0×26.5	諸口紙		Ⅲ-116-2-3-1~2まで貼継, 注記(付紙に墨), 端裏付札(13.9×16.5, 色諸口紙)「頼弥太郎 此義, 主人御当地江止宿有之候節, 或者下地面会之義申越候類者兼而相達候通り出浮出会勿論ニ候得共, 下地案内等も無之, 主人供掛りニ而前後之繰合を以推良いたし候分者其居宅ニ而之面会不苦候」, 付札端裏書・墨書(頼春水筆)「御用人松村平馬殿方」, 付札貼紙(10.3×1.2, 頼春水筆)「乙卯十一月十二日申来松村へノ申出也」, 「春水遺響 八」所収	Ⅲ-116-2-3-1
817	2) 演説	状	1通	(寛政7年)十月	頼弥太郎		14.0×20.6	諸口紙		「春水遺響 八」所収	Ⅲ-116-2-3-2
818	口上之覚(留守内弟子之事申出ひかへ)	状	1通	享和二年壬戌八月	頼弥太郎		14.8×24.5	諸口紙		端裏書(頼春水筆)「享和二年壬戌八月末 御発駕御供出立前留守内弟子之事申出ひかへ」, 校訂(墨), 「春水遺響 八」所収	Ⅲ-116-2-4
819	[御役料高百式拾石加増目録]	状	1通	(寛政11年7月25日)		頼弥太郎	16.7×23.8	杉原紙			Ⅲ-116-3-1
820	[模相銀内談ニ付持参候書付]	状	1通	文化五年戊辰			11.8×34.8	色半紙		端裏書(頼春水筆)「文化四年丁卯十二月, 模相銀ニ付 御勘定所蔵田百太郎」「文化五年戊辰之内談ニ付持参之書付」	Ⅲ-116-3-2
821	[書付](百九拾五匁 頼弥太郎 模相懸ヶ辰暮)	状	1通	戊辰(文化5年)九月廿四日		頼弥太郎	13.8×6.0	色諸口紙		端書(頼春水筆)「戊辰九月廿四日, 木村齋方申来ル」「四ヶ年, 年ニ六石宛」	Ⅲ-116-3-3
822	[松本丈四郎見せ候内々書付]	状	1通	文化五年戊辰春			12.2×14.3	半紙		端書(頼春水筆)『文化五年戊辰春 松本丈四郎見せ候内々書付』, 注記(付紙に墨), 付紙(12.3×4.3, 半紙, 糊離れ)あり	Ⅲ-116-3-4

文書・記録類

番号	名称	材質形状	員数	年代	作成者	宛所	法量	料紙	丁数	備考	管理番号
822	1)〔覚〕(御役料渡過, 模相掛銀取立過につき)	状	1通	(文化5年)	(頼春水)		12.4×16.8	半紙		Ⅲ-116-3-5-1~7まで貼継, 端裏書(頼春水筆)「文化五年戊辰正月ヨリ文通 御役料渡過之事」, 「御側詰同格ニ付, 御役料有之候所, 御勘定所ニて不斗候渡過出来, 其後又模相掛銀之取立過有之, 松本丈四郎より渡過之事, 蔵田百太郎より模相取立過之事かけ合有之節之書面」との記載あり	Ⅲ-116-3-5-1
822	2)〔書付〕(御役料渡過につき明日迄も御書面御認内駈合御座候事)	状	1通	(文化5年)正月十二日		(頼春水)	15.7×48.1	楮紙		端裏書「内用奉申上」	Ⅲ-116-3-5-2
822	3)〔書付〕(私御役料渡過につき)	状	1通	(文化5年)	(頼春水)	木村斎様, 青木半之丞様, 深井加右衛門様, 足立義八郎様, 植木三郎右衛門様	12.0×59.7	色半紙		封上書「木村斎様 青木半之丞様 深井加右衛門様 足立義八郎様 植木三郎右衛門様 御名 内用」	Ⅲ-116-3-5-3
822	4)〔書付〕(御役料渡過につき)	状	1通	(文化5年)孟春十二日	(岡田)嘉祐拜	春水先生函丈	14.5×46.4	諸口紙		封上書「春水先生函丈 嘉祐拜」	Ⅲ-116-3-5-4
822	5)〔書付〕(先生之御事, 御着服と評候ものも有御座間敷と存候事)	状	1通	(文化5年)三月十三日	木村斎	頼弥太郎様	14.1×55.3	諸口紙		封上書「頼弥太郎様 木村斎 内用貴答」, 端裏書(頼春水筆)「渡過之事」	Ⅲ-116-3-5-5
822	6)〔書付〕(御掛模相事につき)	状	1通	(文化5年)三月廿七日	木村斎	頼弥太郎様	14.1×65.1	諸口紙		封上書「頼弥太郎様 木村斎 内用貴答」, 端裏書(頼春水筆)「文化五年戊辰, 去暮掛模相過ニ付之手紙」	Ⅲ-116-3-5-6
822	7)〔御役料渡過返納始末一件〕	状	1通	文化五年十二月記	惟完(頼春水)		12.3×68.2	半紙		端書(頼春水筆)「文化五年」	Ⅲ-116-3-5-7
823	御内々申上置候覚(沼田高宮二郡名実に係る吉川武助の書付につき)	状	1通	乙卯(寛政7年)三月十四日	(頼春水)		14.3×20.7	諸口紙		端裏書(頼春水筆)「乙卯三月, 靱貞殿へ出ス」	Ⅲ-116-4
824	〔達書〕(傳正院様御位牌堂の石灯笼・手水鉢の銘文草稿につき)	状	1通	文化九年壬申六月廿四日		頼弥太郎	13.9×82.2	色諸口紙		端裏書「頼弥太郎」, 同(頼春水筆)「文化九年壬申六月, 御用人築山嘉平殿達シ 明星院石碑并新廟記文之事」, 「春水遺響 八」所収	Ⅲ-116-5-1
825	演説(明星院石碑出来ニ付石摺ニ添差出し候書付之下書)	状	1通	文化九年壬申十二月	頼弥太郎		14.5×60.5	諸口紙		端裏書(頼春水筆)「文化九年壬申, 明星院石碑出来ニ付, 石摺ニ添差出し候書付之下書 奉行御用人築山嘉平殿へ 頼弥太郎」, 校訂(墨), 「演説」に続けて「別紙」(十二月付)の記載あり, 「春水遺響 八」所収	Ⅲ-116-5-2
826	口上之覚(恭昭院様御墓誌之文章及び御法事につき)	状	1通	八月	(頼春水)		14.4×28.8	諸口紙		端書「二通ニ成」, 端裏書「仙石殿へ」, 校訂(墨), 注記(付紙に墨), 「演説」として一つ書を2つ記した後, 各一つ書を「口上之覚」に訂正して「二通ニ成」とする, 端裏付紙(14.3×4.0, 諸口紙, 頼春水筆)「此両条之内, 御法事御取越之事ハ出来申間敷儀と奉存候, 外ニ御先靈様方之御儀も有之候へハ出来かね可申儀と奉存候」, 「春水遺響 八」所収	Ⅲ-116-6
827	〔書付〕(新御屋敷御仏殿唱御替につき)	状	1通	(天明8年)八月三日	築山嘉平	梅園文平様, 金子源内様, 頼弥太郎様	14.1×57.8	諸口紙		封上書「梅園文平様 金子源内様 頼弥太郎様 築山嘉平」	Ⅲ-116-7

文書・記録類

番号	名称	材質形状	員数	年代	作成者	宛所	法量	料紙	丁数	備考	管理番号
828	1) 口上之覚(御役料渡過につき三石宛奉返上年数御延へ御取立願)	状	1通	(文化5年)十月三日	頼弥太郎		14.5×132.5	諸口紙		Ⅲ-116-8-1～7まで貼継, 端裏付札(14.0×15.7, 色諸口紙)「頼弥太郎 此儀無余儀事ニ候得共, 都而返納物等御口メ筋之儀者素々不容易義候得共, 段々被申開候趣ニ付, 格別を以歎出之趣御勘定奉行中へ申談置候」, 付紙端裏書(頼春水筆)「文化五年戊辰十月申出, 十一月四日 堀江典膳・石井内膳連名ニて達し」, 「春水遺響 八」所収	Ⅲ-116-8-1
828	2) [書付](御役料渡過につき御手元より書付等被差出候ニハ及ひ不申候)	状	1通	(文化6年)正月十四日	木村斎	頼弥太郎様	13.9×43.9	諸口紙		封上書「頼弥太郎様 木村斎 内用御報」, 端裏書『一』	Ⅲ-116-8-2-1
828	3) [別紙](御役料渡過につき)	状	1通	(文化6年カ)	松本丈四郎		15.5×23.9	楮紙		端書(頼春水筆)『丈四郎』	Ⅲ-116-8-2-2
828	4) [書付](御役料渡過につき被仰上候趣委細承知仕候)	状	1通	(文化5年)九月廿四日	(木村)斎	弥太郎様	13.5×31.1	諸口紙		封上書「弥太郎様 斎 内用遣し候」, 端裏書『二』「→」	Ⅲ-116-8-3
828	5) [書付](去年来模相と差紙之事につき)	状	1通	(文化5年)九月廿三日		(頼春水)	11.9×82.1	色半紙			Ⅲ-116-8-4
828	6) [書付](別紙御書試につき御年寄衆御思召次第御取計可被成与奉存候)	状	1通	(文化5年)九月廿六日	木村斎	頼弥太郎様	14.6×43.7	諸口紙		封上書「頼弥太郎様 木村斎」, 端裏書『三』	Ⅲ-116-8-5-1
828	7) 口上之覚(御役料渡過につき三石宛奉返上年数御延へ御取立願)	状	1通	(文化5年)十月	(頼春水)		12.4×118.1	半紙		校訂(墨), Ⅲ-116-8-1の草稿	Ⅲ-116-8-5-2
828	8) [書付](御役料返上米につき)	状	1通	戊辰(文化5年)十月廿七日	植村直次	(頼春水)	12.2×73.8	半紙		端裏書(頼春水筆)「戊辰十月廿八日ニ来 植村直次返書 蔵田百太郎 たるミ事有之」	Ⅲ-116-8-6
828	9) [書付](ハヶ年程ニシテ年々三石宛返納被成候而も可相済義哉と奉存候)	状	1通	(文化5年)十月	松本丈四郎	(頼春水)	13.8×41.1	諸口紙		端裏書(頼春水筆)「戊辰十一月十四日ニ来 返上米之事, 丈四郎考にて三石宛之達し有之候上ハ, 此書付ハ無用之事ニ候へ共, 下地之所是にて分明ニ成候事と申候」	Ⅲ-116-8-7
829	口上之覚(江戸万象楼の時の事)	状	1通	丑のとし(寛政5年)二月十日	頼弥太郎		14.3×31.3	諸口紙		端裏書(頼春水筆)「江戸万象楼の時の事 丑のとし」, 校訂(墨), 注記(朱), 「春水遺響 八」所収	Ⅲ-116-9
830	口上(銀臺遺事之節)	状	1通	寛政三年子(4年壬子)二月六日	(頼春水)		14.7×20.3	諸口紙		端裏書(頼春水筆)「寛政三年子二月六日, 靱貞殿へ持参面談ニ差出申置 銀臺遺事之節」, 後欠, 「春水遺響 八」所収	Ⅲ-116-10
831	1) [達書](御書付類しらへ御用手伝仰付)	状	1通	(寛政7年)十二月五日	山本屯, 仙石隼人, 進藤次郎四郎, 松村平馬	頼弥太郎殿	14.0×64.3	色諸口紙		Ⅲ-116-11-1～5まで貼継, 封上書「頼弥太郎殿 山本屯 仙石隼人 進藤次郎四郎 松村平馬」, 端裏書(頼春水筆)「御書付御しらへ御用」, 「春水遺響 八」所収	Ⅲ-116-11-1
831	2) [達書](御書付類しらへ御用手伝仰付につき誓詞のこと)	状	1通	(寛政7年)十二月五日	山本屯, 仙石隼人, 進藤次郎四郎, 松村平馬	頼弥太郎殿	14.0×77.0	色諸口紙		封上書「頼弥太郎殿 山本屯 仙石隼人 進藤次郎四郎 松村平馬」, 「春水遺響 八」所収	Ⅲ-116-11-2

文書・記録類

番号	名称	材質形状	員数	年代	作成者	宛所	法量	料紙	丁数	備考	管理番号
831	3) 誓詞(御書付類しらへ御用手伝仰付につき)	状	1通	寛政七年乙卯十二月九日	頼弥太郎血書判	山本屯殿, 仙石隼人殿, 進藤次郎四郎殿, 松村平馬殿	14.1×29.9	諸口紙		端裏書(頼春水筆)「乙卯のとし 藤田新右衛門殿へ手伝被仰付候ニ付, 誓詞草案」, 注記(朱), 校訂(朱・墨), 『諸口堅紙ニ』『誓詞』の記載あり, 「春水遺響 八」所収	Ⅲ-116-11-3
831	4) [差紙](御用之儀候間, 明九日四時可有登城候)	状	1通	(寛政10年)七月八日	山本屯, 村越孫六, 進藤舍人	頼弥太郎殿	14.0×36.7	色諸口紙		封上書「頼弥太郎殿 山本屯 村越孫六 進藤舍人」, 「春水遺響 八」所収	Ⅲ-116-11-4
831	5) [銀式枚下賜目録]	状	1通	(寛政10年7月9日)		頼弥太郎	33.7×11.5	杉原紙		「春水遺響 八」所収	Ⅲ-116-11-5
832	1) [達書](国泰寺御請疏之写・後住職実勇和尚由緒書の清書・下書につき)	状	1通	寛政九年丁巳十月廿四日		頼弥太郎	13.4×66.8	色諸口紙		Ⅲ-116-12-1~20まで貼継, 注記(付紙に墨), 端裏付紙(11.9×3.4, 半紙, 頼春水筆)「寛政九年丁巳十月廿四日, 於御城沢靱貞殿被申達書付 此書付二月日なし」, 「当寺新命和尚由緒書」(八月付, 差出: 国泰寺, 宛所: 寺西六之丞殿・築山嘉平殿)の付紙(14.1×15.1, 諸口紙, 頼春水写)あり, 付紙に「堅紙」の記載あり, 「春水遺響 八」所収	Ⅲ-116-12-1-1
832	2) 覚(御請疏の紙, 内箱・外箱等につき)	状	1通	(寛政9年)	(頼春水)		14.1×32.3	諸口紙		頼春水による「覚」(巳八月付, 差出: 国泰寺, 宛所: 寺西六之丞殿・築山嘉平殿)の写し, 「春水遺響 八」所収	Ⅲ-116-12-1-2
832	3) [達書](先年之御請疏写見合相済候ハ、早々可被差戻候事)	状	1通	(寛政9年)十一月廿九日	林都賀夫	頼弥太郎様	13.5×37.5	色諸口紙		封上書「頼弥太郎様 林都賀夫」	Ⅲ-116-12-2
832	4) 「請鳳来山国泰禅寺進山開堂演法疏」写	状	1通	(寛政9年)	(頼春水)		14.4×126.2	諸口紙		①宝暦三年癸酉二月穀旦(差出: 芸備二州牧從四位下侍從, 逸群和尚宛), ②延享三年三月穀旦(差出: 芸備二州刺史羽林次将源吉長, 笑堂和尚宛), ③心宗和尚宛, ④寛政元年春三月穀旦(差出: 芸備二州太守從四位下侍從源重晟, 呈津梁和尚宛)の御請疏の写し	Ⅲ-116-12-3
832	5) 覚(御請疏書調并仕立入用)	状	1通	(寛政9年)霜月			12.2×21.5	色半紙			Ⅲ-116-12-4
832	6) [書付](御書調物入用之品受方先例につき)	状	1通	(寛政9年)霜月十七日	(瀧)嘉平次	弥太郎様	12.0×42.1	色半紙		封上書「弥太郎様 嘉平次」	Ⅲ-116-12-5
832	7) [書付](御調物入用の唐墨・唐筆の御内談につき)	状	1通	み(寛政9年)十二月廿一日	瀧嘉平次	頼弥太郎様	12.0×31.1	色半紙		封上書「頼弥太郎様 瀧嘉平次 貴報」	Ⅲ-116-12-6
832	8) [御内話口](寛政元年御請疏御用一件)	状	1通	巳(寛政9年)霜月十一日		(頼春水)	13.5×150.8	色諸口紙		端裏書「御内話口」, 下袋・上袋の図あり	Ⅲ-116-12-7
832	9) [達書](別紙御請疏下書此通り清書二月初旬迄ニ出来之事)	状	1通	(寛政10年)正月	澤(靱貞), 林(都賀夫), 山田(猪右衛門)	頼弥太郎様	14.0×26.6	色諸口紙		端裏書「頼弥太郎様 口達」, 同(頼春水筆)「正月廿一日, 沢 林 山田連名達し」, 「春水遺響 八」所収	Ⅲ-116-12-8
832	10) [書付](御請疏下書七通入披見候事)	状	1通	(寛政10年)正月廿八日	澤靱貞, 林都賀夫, 山田猪右衛門	頼弥太郎様	13.9×25.0	色諸口紙		封上書「頼弥太郎様 澤靱貞 林都賀夫 山田猪右衛門」	Ⅲ-116-12-9
832	11) [書付](唐紙・鳥子紙・美濃紙につき右之通ニ御計候)	状	1通	(寛政10年)二月		(頼春水)	12.4×18.4	色半紙			Ⅲ-116-12-10
832	12) [書付](御請疏ニ付別紙返上仕候料紙につき)	状	1通	(寛政10年)二月三日	(頼春水)		14.1×29.2	諸口紙		「春水遺響 八」所収	Ⅲ-116-12-11

文書・記録類

番号	名称	材質形状	員数	年代	作成者	宛所	法量	料紙	丁数	備考	管理番号
832	13)〔書付〕(御請疏之義ニ付申上候料紙并箱等之儀につき)	状	1通	(寛政10年)二月六日		(頼春水)	14.3×66.1	諸口紙		端裏書(頼春水筆)「九日 於御城澤殿右書付被相渡, 此方々御勘定所へ申候而仕立候事ニ本が相成居候段申聞, 仍之詰合薄田十郎右衛門へ申置, 金砂子ニ仕立候事」十一日 料紙も得斗出来不申候ニ付, 来上句と仰聞候へ共, 学館丁祭後ニ認候様仕度候段申達し置, 「右御請疏, 当月上旬迄ニ書立候様御達しニ付, 凡ソ来八日頃ニ料紙出来候様ニ下地右細工人へ申聞置申候」との記載あり	Ⅲ-116-12-12
832	14)〔書付〕(御請疏下書につき御手元へ直ニ及御示談候事)	状	1通	(寛政10年)二月十六日	寺西六之丞, 築山嘉平	頼弥太郎様	14.0×45.7	諸口紙		封上書「頼弥太郎様 寺西六之丞 築山嘉平」	Ⅲ-116-12-13
832	15)〔書付〕(御請疏草案御越被下致落手候)	状	1通	(寛政10年)二月十八日	寺西六之丞, 築山嘉平	頼弥太郎様	14.0×22.4	諸口紙		封上書「頼弥太郎様 寺西六之丞 築山嘉平」	Ⅲ-116-12-14
832	16)〔書付〕(御請疏之義ニ付被申越候趣につき)	状	1通	(寛政10年)二月廿一日	澤鞞貞	頼弥太郎様	14.0×25.1	色諸口紙		封上書「頼弥太郎様 澤鞞貞」	Ⅲ-116-12-15
832	17)〔達書〕(進山開堂之式の日付を穀旦とすべきこと)	状	1通	(寛政10年)二月廿二日	澤鞞貞	頼弥太郎殿	14.3×51.4	色諸口紙		封上書「頼弥太郎殿 澤鞞貞」, 「進山開堂之式」につき, 「此度も来ル廿七日右法式有之候得共」との記載あり	Ⅲ-116-12-16
832	18)〔達書〕(御請疏控につき不残此人江被差越候事)	状	1通	(寛政10年)二月廿三日	澤鞞貞	頼弥太郎様	14.3×31.8	色諸口紙		封上書「頼弥太郎様 澤鞞貞 差向」	Ⅲ-116-12-17
832	19)〔書付〕(穀旦の二字につき)	状	1通	(寛政10年)二月廿三日	澤鞞貞	頼弥太郎様	14.1×46.7	色諸口紙		封上書「頼弥太郎様 澤鞞貞」	Ⅲ-116-12-18
832	20)〔達書〕(御請疏の月付下の書入につき)	状	1通	(寛政10年)二月廿四日	澤鞞貞	頼弥太郎殿	14.3×32.8	色諸口紙		封上書「頼弥太郎殿 澤鞞貞」, 「春水遺響 八」所収	Ⅲ-116-12-19
832	21)請鳳来山国泰禅寺進山開堂演法疏	状	1通	寛政十年戊午春二月廿七日	(頼春水)		12.3×41.7	半紙		差出は「芸備二州刺史羽林次将源一」, 宛所は「呈実勇和尚猊座」	Ⅲ-116-12-20
833	口上之覚(当年先祖年回御座候ニ付, 賀茂郡竹原照蓮寺へ墓参仕度奉存候)	状	1通	(文化2年)六月	頼弥太郎		14.1×28.8	諸口紙		端裏付札(14.0×4.9, 色諸口紙)「頼弥太郎 此儀, 願書可被差出候」, 「春水遺響 八」所収	Ⅲ-116-13
834	覚(竹原照蓮寺へ墓参につき願書)	状	1通	(文化2年7月17日カ)	(頼春水)		11.9×14.8	半紙		校訂(墨)	Ⅲ-116-14
835	覚(乙丑九月帰郷之節進物ひかへ)	状	1通	乙丑(文化2年)九月	(頼春水)		13.8×94.0	諸口紙		端裏書(頼春水筆)『乙丑九月帰郷之節進物ひかへ』, 同(頼春水筆)「竹原へ墓参且養病之時也」, 注記(墨・朱)	Ⅲ-116-15
836	口上之覚(為学談御上屋敷へ罷越, 夜ニ入候節ハ両御屋敷御門夜通り仕度奉存候)	状	1通	(寛政12年)閏四月廿六日	頼弥太郎		13.9×13.7	諸口紙		端裏付札(13.9×12.2, 諸口紙)「頼弥太郎 此義申出之通可被仕候, 尤夜通之義ハ兼而被仰出候趣も有之候へハ, 可成たけ夜通無之様被仕并夜通被仕候ハハ, 其度ニ以書付可被申聞候」, 「春水遺響 八」所収	Ⅲ-116-16-1
837	口上之覚(御上屋敷へは御目付中へ案内不仕罷越候義相成候様仕度奉存候)	状	1通	(寛政12年)閏四月廿六日	頼弥太郎		14.0×21.6	諸口紙		端裏付札(14.0×3.8, 諸口紙)「頼弥太郎 申出之通可被仕候」, 同(頼春水筆)「御向屋敷ニ而御上屋敷夜通之事」	Ⅲ-116-16-2
838	口上之覚(赤崎源助・志村東蔵と公儀御学問所相勤居申候につき)	状	1通	(享和元年)三月	頼弥太郎		14.4×31.1	諸口紙		端裏付札(13.7×12.9, 諸口紙)「頼弥太郎 此義, 素より公儀御用向之義ニ候へハ, 御先方ハ兎も角も於此御方ハ御構無之候間, 出会等之振合ハ猶御留守居中被承候様ニと存候」, 「春水遺響 八」所収	Ⅲ-116-17
839	〔達書〕(若殿様より遺老物語御写本直シ写替被仰付候につき)	状	1通	寛政十一年未三月朔日		頼弥太郎	13.8×30.0	色諸口紙		端裏書「口達」, 同(頼春水筆)「寛政十一年未三月朔日, 於御城山田猪右衛門殿口達」「遺老物語写直ノ筋金五百疋拜領」, 「春水遺響 八」所収	Ⅲ-116-18

文書・記録類

番号	名称	材質形状	員数	年代	作成者	宛所	法量	料紙	丁数	備考	管理番号
840	口上之覚(屋根瓦葺ニ仕, 建継 玄閣式台附申度奉存候)	状	1通	十一月廿六日	頼弥太郎		14.3×13.3	諸口紙		端裏付札(14.0×4.1, 色諸口紙)「頼弥太郎 申出之通可被仕候」, 「春水遺響 八」所収	III-116-19
	御仏殿御唱替									III-117-1~34まで貼継	III-117
841	1) [口上之覚控](新屋敷御仏 殿御唱替につき三名連名)	状	1通	戊申(天明8年)八月四日	梅園文平, 金子源内, 頼弥太郎		14.5×47.5	杉原紙		端裏書「戊申八月四日 新屋敷御仏殿御唱替之儀ニ付申出候書付ひかへ 此儀曲折有之事」, 「二 致愨堂」, 「一 春雨館」, 「三 著存堂」との記載あり	III-117-1
841	2) [書付](御敬礼所の御唱替 につき)	状	1通	八月九日の事也	(頼春水)		14.5×23.0	諸口紙			III-117-2
841	3) 書試(少将様の御石塔・御石 碑につき)	状	1通	(文化10年閏11月)	弥太郎, 万四郎		12.5×74.5	半紙		端付紙「文化十年癸酉閏十一月 少将様御逝去ニ付, 御石碑之事 申出之ひかへ 二通 弥太郎 万四郎」, 端裏書「一 書試」, 校訂(墨・朱), 紙背に御霊屋の墨画略図あり	III-117-3
841	4) 書試(御墓所の儀を正礼に 叶うようにするべきこと)	状	1通	(文化10年閏11月)	(頼春水)		14.2×107.0	諸口紙		端裏書「二 御墓石之考 書きおろしにて御座候」, 校訂(墨), 返点(墨), 送り仮名(墨)	III-117-4
841	5) 御霊屋略図		1枚	(文化10年閏11月)			28.8×45.0	諸口紙 (縦紙)		端書「御霊屋略図」	III-117-5
841	6) 御霊座・御霊主ノ寸法		1枚	(文化10年閏11月)			27.0×21.5	諸口紙		端書「御霊座 御霊主ノ寸法」	III-117-6
841	7) [伺書](竹之御丸に御霊座 を構えるべきこと)	状	1通	(文化10年)閏十一月	兩人(頼春水, 杏坪)	竹之御丸御側頭之一人 沢左中様	14.6×105.0	諸口紙		端裏書「文化十年癸酉閏十一月〔御披露日ナリ〕少将様〔御九代重晟公〕御逝去ニ付申出之草稿, 此外御埋葬之地方及御諡号之儀与御年寄仙石隼人殿面談 多端有之 頼弥太郎 頼万四郎」, 校訂(墨), 仮名(墨), 「春水遺響 八」所収	III-117-7
841	8) [書付](明日の竹之御丸で の相談につき)	状	1通	(文化10年)閏霜月十五日	さ中	弥太郎様	12.0×44.0	色半紙		封上書「弥太郎様 さ中 内用」, 「春水遺響 八」所収	III-117-8
841	9) [書付](御屋敷之事, 此間 御内々申上候義ハ相止候)	状	1通	(文化10年)閏霜月十七日	池田直一	頼弥太郎様	14.0×38.0	色諸口紙		封上書「頼弥太郎様 池田直一 差向義」, 端裏書「御用達御小姓組国泰寺境内ニ可相成哉之所, 新庄山ニ成候事」, 「春水遺響 八」所収	III-117-9
841	10) [書付](御霊座の礼式につ き)	状	1通	(文化10年)閏霜月十八日	さ中	弥太郎様	12.0×42.5	色半紙		封上書「弥太郎様 さ中」, 「春水遺響 八」所収	III-117-10
841	11) [達書](御石槨江納り候御 墓誌考合相調可被差出候)	状	1通	(文化10年閏11月)		頼弥太郎	14.0×43.5	色諸口紙		端付紙紙背裏書「文化十年癸酉閏十一月十三日 恭昭院様御逝去ニ付被仰付候御墓誌ニ付一件文通等ひかへ 其外共継立至 文化十一年甲戌六月迄 御誌石之事」, 端裏宛書「頼弥太郎」, 「春水遺響 八」所収	III-117-11
841	12) 體国院様御墓誌	状	1通	(文化10年)			14.0×31.0	色諸口紙		端裏書「體国院様御墓誌 天津源之進作」	III-117-12
841	13) 鶴阜院様御墓誌	状	1通	(文化10年)			14.0×97.0	色諸口紙		端裏書「鶴阜院様御墓誌 梅園文平作」, 「春水遺響 八」所収(部分)	III-117-13
841	14) [書付](此通り継立候へハ 美濃紙七枚入用御坐候)	状	1通	(文化10年)			13.2×6.0	色半紙			III-117-14
841	15) [書付](此義, 別紙書試 夫々遂披見候)	状	1通	(文化10~11年)		頼弥太郎	14.1×12.4	色諸口紙			III-117-15
841	16) 口上之覚(御誌石の寸法及 び石面への書認につき)	状	1通	(文化11年)三月七日	頼弥太郎		14.2×17.2	諸口紙		「春水遺響 八」所収	III-117-16

文書・記録類

番号	名称	材質形状	員数	年代	作成者	宛所	法量	料紙	丁数	備考	管理番号
841	17)〔墓誌石図〕		1枚	(文化11年)	(頼春水)		24.4×34.5	半紙		「右ハ慎終疏節ノ節ナリ」「此図ハ家礼又ハ通祭小記, 二礼儀略等ミナ如此ニスキズ」との記載あり, Ⅲ-117-16とⅢ-117-17の間に色諸口紙(13.8×3.5)を貼継	Ⅲ-117-17
841	18)御誌石之事	状	1通	(文化11年)二月	頼弥太郎		15.0×36.5	楮紙		「春水遺響 八」所収	Ⅲ-117-18
841	19)石面寸法	状	1通	(文化11年)			12.0×25.0	色半紙		端裏書「大三分」	Ⅲ-117-19
841	20)覚(石面寸法・文字数・坪数につき)	状	1通	(文化11年)	(頼春水)		14.5×23.5	諸口紙	3		Ⅲ-117-20
841	21)〔書付〕(御誌石拝書につき)	状	1通	(文化11年)三月四日	直一	弥太郎様	13.6×27.0	色諸口紙		封上書「弥太郎様 直一」	Ⅲ-117-21
841	22)口上之覚(御墓誌草稿差出申候)	状	1通	(文化11年)正月十三日	頼弥太郎		14.0×30.5	諸口紙		端裏書「仙石大夫へ出候ひかへ」, 校訂(墨), 「春水遺響 八」所収	Ⅲ-117-22
841	23)〔書付〕(御墓誌申出之通御下ゲにつき)	状	1通	(文化11年)二月十三日	直一	弥太郎様	13.8×63.5	色諸口紙		封上書「弥太郎様 直一」	Ⅲ-117-23
841	24)〔達書〕(恭昭院様御五輪塔文字書調之義につき)	状	1通	(文化11年)二月十六日	仙石隼人	頼弥太郎殿	13.9×34.0	色諸口紙		封上書「頼弥太郎殿 仙石隼人」	Ⅲ-117-24
841	25)〔書付〕(仙石大夫より御五輪塔之書認事達し御座候)	状	1通	(文化11年)二月十六日	(頼春水)	(池田直一カ)	14.0×67.5	諸口紙		端裏書「御内々」, 「以切紙御内々得貴意候, 昨日ハ於殿中乍鳥渡拝顔大慶仕候」との記載あり, 糊離れ甚, 「春水遺響 八」所収	Ⅲ-117-25
841	26)〔書付〕(御内願之趣御尤存候付, 御達替取斗申候)	状	1通	(文化11年)二月十九日	池田直一	頼弥太郎様	13.8×47.0	色諸口紙		封上書「頼弥太郎様 池田直一 申」, 「春水遺響 八」所収(部分)	Ⅲ-117-26
841	27)〔書付〕(御誌石寸法につき)	状	1通	(文化11年)二月廿一日	(池田直一)	(頼春水)	13.8×25.0	色諸口紙		端裏書「内密御口し」, Ⅲ-117-26と同筆	Ⅲ-117-27
841	28)〔書付〕(御誌石之御下書出来につき)	状	1通	(文化11年)三月八日	仙石隼人	頼弥太郎様	13.8×77.0	諸口紙		封上書「頼弥太郎様 仙石隼人 内用御坐候」, 奥に「昨冬御印紙」の記載と黒文円印1顆捺印の付紙(7.1×2.5, 楮紙)あり	Ⅲ-117-28
841	29)〔書付〕(御墓誌御書試仙石大夫へ御出につき)	状	1通	(文化11年)三月八日	池田直一	頼弥太郎様	13.6×28.0	色諸口紙		封上書「頼弥太郎様 池田直一 申」	Ⅲ-117-29
841	30)〔書付〕(御法号及び御山へ御出被成候義につき)	状	1通	(文化11年)三月十九日	直一	弥太郎様	11.8×37.0	色半紙		封上書「弥太郎様 直一 申」	Ⅲ-117-30
841	31)〔書付〕(「墓」と「逝」字の切替につき)	状	1通	(文化11年)三月十九日	直一	弥太郎様	11.8×56.0	色半紙		封上書「弥太郎様 直一」, 糊離れあり	Ⅲ-117-31
841	32)〔書付〕(御山へも明日を御出可被成につき)	状	1通	(文化11年)三月廿四日	池田直一	頼弥太郎様	13.8×31.0	色諸口紙		封上書「頼弥太郎様 池田直一 申」	Ⅲ-117-32
841	33)〔書付〕(昨日ハ御山へ被成御出, 御墓誌不残御書調につき)	状	1通	(文化11年)三月廿六日	池田直一	頼弥太郎様	13.8×26.0	色諸口紙		封上書「頼弥太郎様 貴報 池田直一」	Ⅲ-117-33
841	34)〔書付〕(恭昭院様御墓誌につき)	状	1通	文化十一年甲戌六月	頼弥太郎惟完識		16.5×48.0	三桎紙(薄墨色)		「春水遺響 八」所収	Ⅲ-117-34
	康済録旁訓之事									Ⅲ-118-1-1~10まで貼継, 冒頭に表紙(13.6×15.0, 色諸口紙, 反故紙使用)あり, 色諸口紙表紙, 外題直書(頼春水筆)「康済録旁訓之事」, 表紙墨書「丙辰三月 御発駕前御直書ニ而被仰付候康済録旁訓, 同極月迄差出, 翌丁巳三月九日於御城御内々拝領物有之」, 「春水遺響 九」所収	Ⅲ-118-1

文書・記録類

番号	名称	材質形状	員数	年代	作成者	宛所	法量	料紙	丁数	備考	管理番号
842	1)〔差紙〕(面上申談度儀につき)	状	1通	(寛政8年)三月三日	林都賀夫, 山田猪右衛門	頼弥太郎様	14.0×23.5	色諸口紙		封上書「頼弥太郎様 林都賀夫 山田猪右衛門」, 端裏書(頼春水筆)「康済録旁訓被仰付候節之達 丙辰三月十日 御発駕前」	Ⅲ-118-1-1
842	2)〔書付〕(御兄弟のうち御出勤次第面談につき)	状	1通	(寛政8年)三月六日	林都賀夫	頼弥太郎様	13.7×46.6	諸口紙		封上書「頼弥太郎様 林都賀夫 御報」, 端裏書(頼春水筆)「康済録旁訓の達し」	Ⅲ-118-1-2
842	3)〔差紙〕(面上申達儀につき)	状	1通	(寛政8年)三月八日	林都賀夫, 山田猪右衛門	頼弥太郎様	13.9×19.9	色諸口紙		封上書「頼弥太郎様 林都賀夫 山田猪右衛門」	Ⅲ-118-1-3
842	4)〔書付〕(此書物へ傍訓類之義いたし解やすき様ニ致度候事)	状	1通	(寛政8年)三月	林都賀夫, 山田猪右衛門		13.6×25.2	色諸口紙		端裏書「御上封ニ 林都賀夫 山田猪右衛門江」	Ⅲ-118-1-4
842	5)〔書付〕(康済録傍訓其以来いかゞ候哉)	状	1通	(寛政8年)四月廿三日	林都賀夫	頼弥太郎様	14.3×65.0	色諸口紙		封上書「頼弥太郎様 林都賀夫」, 「当時東都辺流行ものにて自然御並様方御咄し合も被為在候ハ限不取合せニも被為在候而者少々口惜も存候ニ付旁如此且頼家之御方角にてハツイ出来ソウナ事と奉存候」との記載あり	Ⅲ-118-1-5
842	6)〔書付〕(御傍訓御草稿の有無御書入, 御一方様ヲ被仰下度につき)	状	1通	(寛政8年)七月廿四日	林都賀夫	頼弥太郎様, 同万四郎様	14.1×36.8	諸口紙		封上書「頼弥太郎様 同万四郎様 林都賀夫」, 仮名(墨)	Ⅲ-118-1-6
842	7)〔書付〕(御書物一冊先差出申候につき)	状	1通	(寛政8年)十一月九日	弥太郎/都賀夫	都賀夫様/弥太郎様	14.0×45.1	諸口紙		本封上書「都賀夫様 弥太郎」, 封上書「下 都賀夫 上 弥太郎様」(林都賀夫により修正), 校訂(墨), 付札(14.0×15.9, 色諸口紙)あり, 付札「御紙面之通致承知候, ケ様ニ被入御念候事ニ候得者, 今便ニも限り不申候間, 得斗御志らへ合を相済候上, 重而之御便りニ被差上候而可然と存候, 右ニ付御本式冊共致返戻候 十一月九日」, 林都賀夫が頼春水の書付の封上書の一部を書き換え, 付札貼付のうえ春水に書付を戻して返答したもの	Ⅲ-118-1-7
842	8)〔書付〕(康済録二冊御添書之趣につき)	状	1通	(寛政8年)霜月初九	大頼先生 君几下	林愚叟	14.3×156.8	諸口紙		封上書「大頼先生君 几下 林愚叟 不及御書答」, 仮名(墨)	Ⅲ-118-1-8
842	9)〔書付〕(旁訓物二冊出来候につき)	状	1通	(寛政8年)十二月十一日	林都賀夫	頼弥太郎様	14.4×32.4	諸口紙		封上書「頼弥太郎様 林都賀夫」	Ⅲ-118-1-9
842	10)〔達書〕(康済録旁訓差上につき下賜金)	状	1通	寛政九年丁巳		頼弥太郎, 頼万四郎	13.9×33.3	色諸口紙		端裏書(頼春水筆)「康済録旁訓ニ付 寛政九年丁巳於御城林都賀夫殿被申渡」, 注記(付紙〔色諸口紙〕に墨)	Ⅲ-118-1-10
843	書試(御領分之詩老人老首と申様集録仕度につき)	状	1通	(文化年間)七月	(頼春水)		14.5×71.1	諸口紙		端裏付紙(頼春水筆)「御領分之詩老人老首と申様集録仕度申出, 其節竹本伝左衛門取持試候所, 其儀出来候由にて此書付取戻し置 四五ヶ年前之事ニても可有之 文化十二年乙亥八月」, 校訂(付紙に墨), 書名につき, 付紙(14.5×1.7, 諸口紙)「芸城詩纂ナド可然とも奉存候」あり, 「春水遺響 九」所収	Ⅲ-118-2
844	〔書付〕(御書付写本御仕立, 今日嘉平殿へ御出可被成由につき)	状	1通	十月四日	長尾新七	弥太郎様	11.8×29.1	色半紙		封上書「弥太郎様 長尾新七」, 2枚に剥離	Ⅲ-118-3
845	〔梶山六一御歩行組御取立願草稿〕	状	1通	(文化年間)	(頼春水)		14.0×42.5	諸口紙		校訂(墨), Ⅲ-115-15以前の作成カ, 端裏に墨書あり(取立願とは無関係)	Ⅲ-118-4
846	〔北村庄助書簡〕(孝義伝貳拾部被仰付此度出来差上申候につき)	状	1通	七月廿六日	北村庄助(花押)	弥太郎様	16.2×116.9	楮紙		端裏書(頼春水筆)「京書肆北村 来書 七月廿六日出 八月十七日来」, 紙帯にてⅢ-118-5-1~2を一括, 紙帯「孝義伝二編廿部ノコト」, Ⅲ-312-26に北村庄助の花押あり	Ⅲ-118-5-1

文書・記録類

番号	名称	材質形状	員数	年代	作成者	宛所	法量	料紙	丁数	備考	管理番号
847	〔書付〕(京北村方へ孝義伝新本廿部代料につき)	状	1通	八月廿四日	頼弥太郎	山田猪右衛門様, 築山嘉平様	13.8×29.0	色諸口紙		封上書「山田猪右衛門様 築山嘉平様 頼弥太郎」, 付札(14.2×10.9, 色諸口紙)あり, 付札「御紙面之通致承知候分, 御勘定口口江相達置, 尤御自分ニ示合候様申談候間, 宜御申談可有之候, 別紙来状致返戻候」	Ⅲ-118-5-2
848	〔達書〕(御先靈様方御祭祀につき御規則相建候様被仰出候につき)	状	1通	文化元年甲子四月六日	(奥数衛)	頼弥太郎	14.1×115.0	色諸口紙		端裏書「頼弥太郎」, 同(頼春水筆)『文化元年甲子四月六日御用人並奥数衛於御城達し』, 「近年公儀并細川侯杯ニ而も御しらへ之上御定有之様ニ承及候」との記載あり	Ⅲ-119-1
849	〔達書〕	状	1通	文化元年四月六日	(頼春水)		12.1×68.7	半紙		端裏書(頼春水筆)「御祭祀ニ付第一ノ達し 文化元年四月六日」, Ⅲ-119-1の写し	Ⅲ-119-2
850	頭書(別冊之御祭祀之形ヲ御法事ニ換候而御執行有之様ニ有之度事)	状	1通	(文化年間)		(頼春水)	13.8×153.1	色諸口紙		端裏書「頭書」, 同(頼春水筆)「御祭祀之事」	Ⅲ-119-3
851	原古編之事	状	1通	(寛政2年以前)	(頼春水)		15.0×60.2	楮紙		端裏書(頼春水筆)「原古編之事」, 同『文整』, 「春水遺響 一四」所収	Ⅲ-119-4
	齊賢公御元服之節御触諸達し写	仮綴	1綴					諸口紙	8	紙縫にてⅢ-121-1～8を一括, 包紙(14.2×4.6, 諸口紙)「齊賢公御元服之節御触諸達し写」	Ⅲ-121
852	1)〔若殿様御元服日の詰合人数につき達書写〕	状	1通	(寛政元年)二月	(頼春水)		14.5×24.0	諸口紙	1	注記(朱)	Ⅲ-121-1
852	2)〔書付取り集めにつき所々役方一覽〕	状	1通	(寛政元年二月)	(頼春水)		14.6×27.8	諸口紙	1		Ⅲ-121-2
852	3)〔御元服日の人配及び御吸物・御酒等頂戴につき達書写〕	状	1通	(寛政元年)二月十五日 ／二月	(頼春水)		14.4×51.0	諸口紙	1	達書2通を筆写	Ⅲ-121-3
852	4)〔御元服日に御屋形詰合の面々へ御吸物・御酒等頂戴につき達書写〕	状	1通	(寛政元年)二月	(頼春水)		14.5×26.9	諸口紙	1	訂正(墨)	Ⅲ-121-4
852	5)〔御元服の式次第につき達書写及び鹵簿図〕	状	1通	(寛政元年)二月	(頼春水)		14.5×154.9	諸口紙	1	達書3通と鹵簿図, 御目付小札(二月十七日付)を筆写	Ⅲ-121-5
852	6)〔御元服日の両殿様御登城及び御献上物につき達書写〕	状	1通	(寛政元年)二月廿二日	(頼春水)		14.4×36.0	諸口紙	1	達書4通と御目付小札(二月廿二日付)を筆写	Ⅲ-121-6
852	7)〔御意控〕	状	1通	(寛政元年)二月廿三日	(頼春水)		14.5×29.7	諸口紙	1		Ⅲ-121-7
852	8)〔若殿様御前髪被為執事につき達書写〕	状	1通	(寛政元年)三月廿七日	(頼春水)		14.5×29.4	諸口紙	1	奥に「此御触ニテ御元服一儀畢」の記載あり	Ⅲ-121-8
	学問所関係文書										Ⅲ-122
853	頭書(考之趣承度候間, 無伏蔵処内々栄次迄可申候事)	状	1通	享和元年辛酉六月	(浅野齐賢)		14.5×39.2	諸口紙		端裏書(頼春水筆)「享和元年辛酉六月十四日 中島栄次へ御下ヶ御直書写」	Ⅲ-122-1-1
854	頭書(近思録之内, 存養之修ニ付)	状	1通	乙丑(文化2年)六月八日 之夕	(中島栄次カ)		12.2×17.8	色半紙		端書「御筆写し」, 端裏書(頼春水筆)「乙丑六月八日之夕中嶋栄次へ御下ヶ御請申上候御筆写し」	Ⅲ-122-1-2

文書・記録類

番号	名称	材質形状	員数	年代	作成者	宛所	法量	料紙	丁数	備考	管理番号
855	包紙	状	1通	丁丑(文化14年)秋月詩之事	頼万四郎	金子徳之助様, 坂井孫三郎様, 加藤太郎三様	24.0×17.0	色半紙		封上書「金子徳之助様 坂井孫三郎様 加藤太郎三様 頼万四郎」, 頼杏坪筆『丁丑秋月詩之事』	Ⅲ-122-1-3
856	□□類談(側向之事前々方仰山ニ有之候ニ付, 家中へ戒め候事)	状	1通	五月	(浅野宗恒)	奥頼母, 浅野新四郎江	14.4×52.4	諸口紙		端裏書(頼春水筆)「鶴阜院様被仰出のうつし」	Ⅲ-122-2
857	[達書](柔弱成風俗無之様事, 及び御用談集會之儀ニ付達)	状	1通	文化六年己巳八月			12.4×73.1	半紙		端裏書(頼春水筆)「八月席通し式通之写 文化六年己巳八月」	Ⅲ-122-3-1
858	[達書](柔弱成風俗無之様事, 及び御用談集會之儀ニ付達)	状	1通	文化六年己巳八月			12.4×46.1	半紙		端裏書(頼春水筆)「文化六年己巳八月席通し二通うつし」, Ⅲ-122-3-1と同内容	Ⅲ-122-3-2
859	[達書](御屋形江御出勤之儀は月番私共へ御案内ニ及不申候事)	状	1通	江戸後期		(頼春水)	25.1×34.6	半紙		端裏書(頼春水筆)「月番御目付より案内致方申来候うつし」	Ⅲ-122-3-3
860	[達書](家中城下での馬上・下馬作法ニ付達)	状	1通	文化八年辛未	御目付		12.0×49.4	色半紙		端裏書(頼春水筆)「馬上の事 文化八年辛未被仰出」	Ⅲ-122-3-4
861	席通し写し(家中城下での馬上・下馬作法ニ付達)	状	1通	文化十年癸酉	御目付		12.4×28.3	半紙		端裏書(頼春水筆)「文化十年癸酉御ふれ写し」	Ⅲ-122-3-5
862	[覚書](寺尾弥祐より軍学談上の五ヶ条)	状	1通	江戸後期	(頼春水)		16.7×44.0	楮紙		端書(頼春水筆)「右五ヶ条ハ寺尾弥祐書付ニ而尚私へ演説御座候分」, 校訂(墨)	Ⅲ-122-3-6
863	口上之覚(学流相違ニ付, 御門下より御除被下置度に付伺書)	状	1通	(壬子・寛政4年)二月廿日	岡井郡大夫	片瀬作右衛門様, 犬塚唯介助様, 安井直蔵様	14.1×109.5	諸口紙		端裏書(頼春水筆)「壬子 岡井郡大夫林[]出書付」	Ⅲ-122-4
864	[書簡](頼先生ノ書極内密御見せ被下, 扱々忝奉存候)	状	1通	十月六日	屈維□(惣カ) 拜	大兄山田君	13.8×116.2	諸口紙		封上書「大兄山田君 奉復 屈維□拜」	Ⅲ-122-5
865	[書付抄出](體國公御尋ニ付, 韋編啓端ニ書目ヲ附上ス書付)	状	1通	卯月廿五日	(頼春水, 堀正蔵)		14.1×100.5	諸口紙		朱文長方印「頼」1顆, 端裏書(頼春水筆)『體國公御直書ニテ堀正蔵御尋ニ付韋編啓端一冊ヲ著シテ上ル方ニ書目ヲ附上ス 尊齡六十後ノ時ナリ』「文化甲子十一月抄出」	Ⅲ-122-6
866	[書付](昨日詩会相済候, 今日は殊外疲労仕候ニ付)	状	1通	六月廿四日	頼弥太郎	学問所同勤中様	12.2×24.3	半紙		封上書「学問所 同勤中様 頼弥太郎」	Ⅲ-122-7
867	[覚書](正月三ヶ日心得)	状	1通	江戸後期	(頼春水カ)		12.0×31.3	半紙			Ⅲ-122-8
868	[達書](学問所神位拝礼之事)	状	1通	三月廿六日			13.9×55.7	諸口紙		端裏書「神位拝礼之事」, 注記(付紙に墨)	Ⅲ-122-9
869	[草稿](正当忌日, 忌祭ノ実情ニ付)	状	1通	江戸後期	(頼春水)		12.2×58.3	半紙		端裏書(頼春水筆)『七』, 校訂(墨)	Ⅲ-122-10
870	[書付](別冊并小冊共御廻し被下忝奉存候)	状	1通	江戸後期	□夫		14.0×24.9	諸口紙		封上書「付紙□□ □夫」	Ⅲ-122-11
871	1) [金五両下賜目録](毎年ノ書物料こつき)	状	1通	(天明8年5月25日)		頼弥太郎	16.7×23.6	奉書紙		Ⅲ-122-12-1~6まで貼継, 端裏書(頼春水筆)「書物料被下候書付」	Ⅲ-122-12-1
871	2) [覚書](御納戸拂ニ付, 御召古し御品八色被下候)	状	1通	(天明8年12月8日)	頼弥太郎		14.5×23.0	諸口紙		端書(頼春水筆)『二ノ上一』白	Ⅲ-122-12-2

文書・記録類

番号	名称	材質形状	員数	年代	作成者	宛所	法量	料紙	丁数	備考	管理番号
871	3) [下賜目録] (服紗御袷, 白御袷御襟袖晒, 綿入御肌召, 服紗御単物, 夏御袴)	状	1通	(寛政4年9月16日カ)		頼弥太郎	16.8×23.7	奉書紙			Ⅲ-122-12-3
871	4) [下賜目録] (服紗御袷袖裏, 嶋御帷子, 袷御肌召, 御帯)	状	1通	(寛政8年12月15日カ)		(頼春水)	17.0×23.9	奉書紙			Ⅲ-122-12-4
871	5) [下賜目録] (服紗御袷, 晒御肌召)	状	1通	(寛政11年11月22日カ)		頼弥太郎	16.7×24.0	奉書紙		端裏貼紙(9.4×2.9, 色諸口紙)「頼弥太郎」	Ⅲ-122-12-5
871	6) [下賜目録] (服紗御袷, 晒御肌召)	状	1通	(享和4年2月21日カ)		頼弥太郎	16.7×23.7	奉書紙		端裏貼紙(8.3×1.8, 色半紙)「頼弥太郎」	Ⅲ-122-12-6
872	[書付] (近々御会読御初可被遊思召候ニ付)	状	1通	七月十一日		(頼春水)	12.0×35.3	半紙		端裏書「御内密用」	Ⅲ-122-13
873	[包紙]	状	1通	江戸後期	積 拝(坂井東派カ)	春水先生様	14.5×7.7	諸口紙		封上書「春水先生様 積 拝」, Ⅲ-122-14-1~4と一緒に白紙紙片(14.0×1.7, 諸口紙)一枚あり	Ⅲ-122-14-1
874	[紙帯]	筒状	5点	丁巳(寛政9年)八月	(頼春水)		10.0×5.2	楮紙		紙帯①(頼春水筆)「酒屋之事 内密書付てふ祭 丁巳八月」, ②「社倉之事 仙石殿へ」, ③「傳役之事 藤田殿へ」, ④「教諭人之事 築山寺西へ」, ⑤「吉川武助事 澤殿へ」, ③はⅢ-113-6, ④はⅢ-114-2とⅢ-122-29-1, ②はⅢ-114-7-2, ⑤はⅢ-115-9と対応	Ⅲ-122-14-2
875	[紙片] (近火之節御手当之由, 可申談候ニ付)	状	1通	江戸後期	(頼春水カ)		14.2×2.7	諸口紙			Ⅲ-122-14-3
876	[紙片] (御箱之蓋之うらニ書付御心得ニ而書試)	状	1通	江戸後期	(頼春水カ)		16.5×2.0	三桮紙			Ⅲ-122-14-4
877	[達書] (足痛ニ付敵嶋石風呂江入治仕度旨, 願之通被仰出候事)	状	1通	二月晦日		(頼春水)	14.2×25.5	諸口紙			Ⅲ-122-15-1
878	[届出] (私義風痛ニ付今夕出席仕不申候事)	状	1通	五月四日	(頼春水)		14.3×21.5	諸口紙		前欠カ	Ⅲ-122-15-2
879	[届出] (風痛煩中ニ付明端午之御帖登城得致不申候)	状	1通	五月四日	(頼春水)		14.5×24.3	諸口紙			Ⅲ-122-15-3
880	[書付] (式拾石御差紙御受取書, 御名前御入可被下候事)	状	1通	霜月十九日		(頼春水カ)	14.5×33.8	諸口紙			Ⅲ-122-15-4
881	[書目録] (鎌倉実記, 慶長軍記, 唐太宗軍鑑, 他)	状	1通	江戸後期			14.1×88.8	色諸口紙			Ⅲ-122-16
882	越中公壁	状	1通	江戸後期			13.7×28.3	諸口紙			Ⅲ-122-17
883	[伺書] (学問所御役方教学仕候心得)	状	1通	十一月	(頼春水カ)		14.0×143.8	諸口紙		校訂(墨)	Ⅲ-122-18
884	[書付] (句読師座列之事)	状	1通	丁巳(寛政9年)三月朔日	(頼春水)		13.8×29.5	諸口紙		端裏書(頼春水筆)「句読師座列之事 丁巳三月朔日之事」	Ⅲ-122-19
885	[伺書] (学問所, 朔日休日ニ成可然之書付ひかへ)	状	1通	巳年(寛政9年カ)	(頼春水)		11.9×62.6	色半紙		端裏書(頼春水筆)「朔日休日ニ成可然之書付ひかへ」	Ⅲ-122-20
886	[書付] (学問所儒師中, 助授中勤方ニ付)	状	1通	六月		儒師中	14.0×64.3	諸口紙		端裏書「儒師中 此儀助授頭取中并かりなとへも別ニ不相知候間, 各様方宜御示合之事」, 校訂(墨)	Ⅲ-122-21

文書・記録類

番号	名称	材質形状	員数	年代	作成者	宛所	法量	料紙	丁数	備考	管理番号
887	1)〔書付〕(学問所儒師中, 助授中勤方二付)	状	1通	六月		儒師中	14.0×60.5	諸口紙		紙縫にてⅢ-122-22-1~2を一括, 端裏書「儒師中 此儀助授頭取中并かりなどへも別ニ不相知候間, 各様方宜御示合之事」, 注記(付紙に墨)	Ⅲ-122-22-1
887	2)〔書付〕(助授之儀ニ付諸注意)	状	1通	江戸後期		儒師中へ	14.0×28.5	諸口紙		端裏書「儒師中へ 御内談いたし置口達書」	Ⅲ-122-22-2
888	〔伺書〕(御家中之面々, 其間隙有之節講釈音読出席ハ勝手次第之事)	状	1通	文化八年辛未閏二月廿九日	(頼春水)	牧野, 竹本	11.9×63.4	色半紙		端裏書(頼春水筆)「文化八年辛未閏二月廿九日申合 牧野 竹本へ指出候書付控」	Ⅲ-122-23
889	〔伺書〕(稽古所御座敷へ上り候節衣服帯刀心得)	状	1通	十月	(頼春水カ)		14.6×52.1	諸口紙			Ⅲ-122-24
890	〔伺書〕(看書之間において諸生質問・相談仕度奉存候事)	状	1通	江戸後期	(頼春水)		12.3×34.5	半紙		校訂(墨), 包紙に反故紙使用, 反故紙「頼弥太郎様 橋本宗藏 玉案下」	Ⅲ-122-25-1
891	〔伺書〕(看書之間において諸生質問・相談仕度奉存候事)	状	1通	江戸後期	(頼春水)		12.3×34.6	半紙		校訂(墨), 紙背に間取り図(看書之間カ)あり, 包紙に反故紙使用, 反故紙「頼弥太郎様 川崎や関之助 尊下」「従尾道」	Ⅲ-122-25-2
892	〔書付〕(学問所諸建物ニ付八項)	状	1通	(天明年間カ)			13.9×24.4	色諸口紙		前欠	Ⅲ-122-26-1
893	〔書付〕(御本仕立方相勤ニ付, 御内々御褒美申談可仕哉)	状	1通	江戸後期			11.6×5.6	色半紙			Ⅲ-122-26-2
894	書試(修学堂之事, 唱へ替りなど二十一ヶ条)	状	1通	(寛政9年カ)	(頼春水)		12.4×101.6	半紙		端裏書(頼春水筆)「修学堂之事 口通之内」, 校訂(墨・朱), 注記(朱), 虫損大	Ⅲ-122-27
895	口上之覚(金子平馬事, 儒師差問之節講釈相勤仕度奉存候)	状	1通	三月	金子源内, 頼弥太郎, 加藤口(欠)平, 植田周助, 頼万四郎		14.0×17.2	諸口紙		付紙①(13.9×4.2, 諸口紙)「教授方 此通り御申談候事」, 同②(13.9×30.7, 諸口紙)「忌日用捨之事 六月 町野勘平・清水竹之助 教授方」	Ⅲ-122-28-1
896	〔伺書〕(学問所勤めへ推挙申上る書付)	状	1通	正月	加藤三平, 梅園勝馬, 金子徳之助, 坂井孫三郎, 加藤太郎三		14.0×25.2	色諸口紙			Ⅲ-122-28-2
897	〔書付〕(石津甚作, 岡山尽蔵事学問所江出学ニ付御引請可被成候事)	状	1通	十月八日	梅園文平, 増田来次	学問所諸先生中	12.0×24.1	色半紙		封上書「学問所諸先生中 梅園文平 増田来次」	Ⅲ-122-28-3
898	〔達書〕(年始学規講釈被仰付候事)	状	1通	十二月			11.9×16.5	色半紙			Ⅲ-122-28-4
899	〔達書〕(泉水庭之気色之詩作ニ付, 此段頼弥太郎へ可申談候)	状	1通	正月		頭取江	12.0×13.8	色半紙			Ⅲ-122-28-5
900	〔書付〕(学問所神位安置所カ, 内部仕様書付)	状	1通	(天明年間カ)			24.0×8.6	半紙			Ⅲ-122-28-6
901	〔達書〕(受方之者四半時迄ニハ必出席仕, 申合せ度事)	状	1通	三月七日			13.8×11.6	色諸口紙			Ⅲ-122-28-7
902	〔達書〕(講釈始り候前, 撃板・出席・覆講など諸規則)	状	1通	九月			13.9×36.6	色諸口紙		端裏書「下夕書し」, 校訂(墨)	Ⅲ-122-28-8

文書・記録類

番号	名称	材質形状	員数	年代	作成者	宛所	法量	料紙	丁数	備考	管理番号
903	〔伺書〕(別紙申出之通之者、学問所附被仰付候様仕度奉存候)	状	1通	(文政2年カ)	(頼聿庵カ)		14.2×61.7	色諸口紙		校訂(墨)	Ⅲ-122-28-9
904	口上之覚(奥村柳蔵事、学問所附被仰付候様仕度奉存候)	状	1通	(文政2年)閏四月	藤井修太郎		11.9×53.2	色半紙			Ⅲ-122-28-10
905	〔達書〕(申談儀候間、明朔日四時御城可被出候)	状	1通	正月廿九日	築山嘉平	頼弥太郎様	13.6×29.5	色諸口紙		封上書「頼弥太郎様 築山嘉平」、端裏書(頼春水筆)「正献官之事」	Ⅲ-122-28-11
906	〔伺書〕(御官名、御先例通りに書拔候書付)	状	1通	江戸後期	(頼春水カ)		29.3×12.8	竹紙		包紙(24.4×17.2, 色半紙)「御官名御先例之通書拔」、付札(13.8×4.0, 色諸口紙)「教授方中 此通り御取計可被成候」	Ⅲ-122-28-12
907	十家月(学館八月分詩題)	状	1通	江戸後期			14.0×37.6	色諸口紙		付紙(13.4×5.9, 諸口紙, 頼春水筆)「十家月 八月分詩題 此通ニテ作ラセ候様ニとの御事 十家菊 九月分詩題 右之分於学問所別ニ十家ヲ選ビ詩題ニ出来候様ニとの御事」	Ⅲ-122-28-13
908	口上之覚(御買入申出控)	状	1通	二月十八日	(頼春水カ)		13.6×10.8	色諸口紙			Ⅲ-122-28-14
909	〔達書〕(丁祭之節正献官被仰付候事)	状	1通	(寛政7年8月9日カ)		(頼春水)	13.6×20.1	色諸口紙		端裏書「口達控」	Ⅲ-122-28-15
910	〔達書〕(孔子聖像御安置所修造之事)	状	1通	卯(寛政7年)八月			24.2×26.0	半紙			Ⅲ-122-28-16
911	〔下書〕(毎月宿題之詩唐紙横紙・楷行にて御認候事)	状	1通	江戸後期	(頼春水カ)		14.0×30.7	諸口紙			Ⅲ-122-28-17
912	教諭人之事(中井善太取立之者、中川元吾ニ付申上る書付)	状	1通	八月	頼弥太郎	(寺西六之丞、築山嘉平)	14.2×39.0	諸口紙		端裏書(頼春水筆)「町御奉行 寺西六之丞 築山嘉平兩人申談御座候書付式通」	Ⅲ-122-29-1
913	教諭人之事(中井善太取立之者、中川元吾ニ付申上る書付)	状	1通	八月	(頼春水)	寺西六之丞様、築山嘉平様	12.4×22.2	半紙		校訂(墨), Ⅲ-122-29-1の下書	Ⅲ-122-29-2
914	〔達書〕(御帰国ニ付、若殿様御学事之節黒瀬登内罷出候様相達候事)	状	1通	辛亥(寛政3年)之秋 九月廿五日		頼弥太郎	14.6×24.6	諸口紙		封上書「頼弥太郎」、端裏書(頼春水筆)「辛亥之秋」「黒瀬事、加藤事、吉川事、取持申出候書付共」	Ⅲ-122-29-3
915	教導之事(町方一統の教化について)	状	1通	(寛政9年 丁巳十月廿五日頃)	(頼春水)		12.3×47.4	半紙		校訂(墨)	Ⅲ-122-29-4
916	〔伺書〕(町方教諭と申候義ニ付)	状	1通	(寛政9年 丁巳十月廿五日頃)	(頼春水)		12.4×16.8	半紙		校訂(墨), Ⅲ-114-3と関連カ	Ⅲ-122-29-5
917	〔伺書〕(学問所儒師・助教勤め方、教導ニ付申上る書付)	状	1通	六月十三日	加藤三平	築山嘉平様	13.8×66.1	諸口紙		端裏書(頼春水筆)「三平カ 築山江及内談候所築山書添ヲ以テ及伺仍之築山より両通之達有之 三平内談之書付うつし」	Ⅲ-122-29-6
918	〔達書〕(助授之儀ニ付諸注意)	状	1通	江戸後期		儒師中江	14.4×26.9	諸口紙		端裏書(頼春水筆カ)「儒師中江 内談いたし置口達書」	Ⅲ-122-29-7
919	〔達書〕(学問所教授方諸規則)	状	1通	正月		教授方	14.0×49.7	諸口紙			Ⅲ-122-29-8
920	覚(法林院廣盈、御国之産之由縁ヲ以テ楽器献上仕候口上書之内)	状	1通	文化七年庚午二月	(頼春水カ)		14.0×55.8	色諸口紙		端裏書(頼春水筆)『学館御下々楽器之事』『文化七年庚午二月 御用達所詰 市川野右衛門校正付帛」、付紙①(12.0×7.0, 色半紙), ②(12.0×3.0, 色半紙), ③(12.0×10.2, 色半紙), ④(12.0×5.6, 色半紙)	Ⅲ-122-30-1

文書・記録類

番号	名称	材質形状	員数	年代	作成者	宛所	法量	料紙	丁数	備考	管理番号
921	[覚書](法林院縁故者由緒)	状	1通	(文化7年2月頃)	(頼春水カ)		11.9×46.0	色半紙		端裏書(頼春水筆)「学問御楽器ニ付候書付」	III-122-30-2
922	[伺書](多節之笙作りニ付)	状	1通	天明六巳年三月	法林院廣盈(頼春水筆写カ)	堀田政之進様伏見御屋敷番	12.0×19.7	半紙		端裏書「内用答」	III-122-30-3
923	[書付](堀江大夫国家上下候義, 昼夜苦勞いたし被居候事)	状	1通	十月七日		(頼春水)	14.2×85.5	諸口紙			III-122-31
924	要用御内談之事(教諭之人おもとめニ付伯方事存出し今度内談仕候事)	状	1通	丁巳(寛政9年)八月十七日	(頼春水)		12.4×44.2	半紙		端裏書(頼春水筆)「丁巳八月十七日 築山へ出ス」, 校訂(墨・朱), III-114-2の下書, 虫損大	III-122-32
925	[書付](編集方御入用銀, 御勘定所お相渡り候事)	状	1通	十二月廿四日	森勘次郎	頼弥太郎様	11.7×29.0	色半紙		封上書「頼弥太郎様 森勘次郎」	III-123-2-2
926	[覚書](策問三ヶ条)	状	1通	江戸後期	(頼春水)		16.6×30.2	杉原紙		端裏書『策問』, 校訂(墨・貼紙に墨), 紙背墨書「此決如何候へとも内外上下相変候道理有之候哉承度候」	III-123-23
927	[書付](尾道天満屋平之助改名の事)	状	1通	江戸後期	貞右衛門	弥太郎様	14.2×15.4	諸口紙		別紙「神代巻一書目 兄取弟弓矢入山獵獸」	III-123-24
928	[覚書](黒瀬登内承合セ申談候案文)	状	1通	四月	頼弥太郎		16.7×60.6	杉原紙		端裏書「駒井忠藏江戸詰罷越候ニ付, 黒瀬登内承合セ申談候案文, 此外数々有之」	III-123-27
929	1) [伺書](本朝歴代治乱盛衰之書物著述仕見申度奉存候)	状	1通	十月	頼弥太郎		14.6×45.1	諸口紙		III-124-1-1~10まで貼継, 端裏書「一 書籍編集之事申上試一通 頼弥太郎」, 校訂(墨), 注記(付紙に墨), 裏打ちあり	III-124-1-1
929	2) 御内々申上試候覚(本朝歴代治乱盛衰之書籍編集仕試申度奉存候)	状	1通	二月十六日	頼弥太郎		13.2×33.8	楮紙		端裏書「二 正月十九日関外衛殿へ此儀内々申試候所, 尤之儀ニ同意納得申候, 仍之被申聞候ハ後決定ニ而申(欠)哉申出候ハハ支配頭衆へも申出候哉又右手元迄申出内々噂有之方角へ被及噂移り合承被申聞セ候様ニも可仕候哉, 何分此一決之所承届申度何分此存意可然候様被存候ニ而段々被申聞候事 二月十六日又々改書差出し」	III-124-1-2
929	3) 口上(関外衛殿江書物編集之儀申上候事)	状	1通	六月五日	頼弥太郎		13.6×11.0	諸口紙		端裏書「三 六月五日吉川江申出候覚」	III-124-1-3
929	4) 覚(書物請取書控)	状	1通	卯六月廿四日	頼弥太郎	御勘定所	14.2×20.3	諸口紙		端書「うつし」	III-124-1-4
929	5) 覚(御書物此後御蔵ニ入置, 御用之度ニ出シ入レ被仰遣被下候事)	状	1通	六月廿五日	頼弥太郎		14.1×11.7	諸口紙			III-124-1-5
929	6) 申上試候覚(今度書物編集御用ニ付御尋申上候事)	状	1通	巳九月十六日	頼弥太郎		14.6×59.9	諸口紙		端裏書貼紙「巳九月十六日関外衛殿御長屋江持参同廿六日夕同人御長屋ニ而面談付紙之趣被申聞」, 付紙6枚にて関外衛の返答あり	III-124-1-6
929	7) 口上之覚(編集之儀, 先ッハ諸書下しらべ仕度奉存候事)	状	1通	六月九日	頼弥太郎		14.4×17.7	諸口紙		端裏書「茂大夫殿へ差出し被受取有之書付下書」, 校訂(墨)	III-124-1-7
929	8) [覚書](御下々書物, 学談他出之節ニ付相尋候控)	状	1通	申十月廿四日	(頼春水)		14.6×16.3	諸口紙		端裏書(頼春水筆)『申十月廿四日茂大夫殿御長屋江参相尋候ひかへ』, 注記(朱)	III-124-1-8
929	9) 内々申上試(別紙之書物目錄拝借仕度申上候)	状	1通	六月十日	(頼春水)		14.0×15.5	諸口紙		校訂(墨)	III-124-1-9
929	10) 覚(御小人四人, 万一鍛冶御座候節ハ書物持退駆付候様被仰達被下候事)	状	1通	九月	頼弥太郎		13.9×14.4	諸口紙		校訂(墨)	III-124-1-10

文書・記録類

番号	名称	材質形状	員数	年代	作成者	宛所	法量	料紙	丁数	備考	管理番号
930	杞憂(若殿様講釈御闕座ニ付諫言申上る草稿)	状	1通	午閏十月 天明六年丙午	黒瀬登内		14.3×134.2	諸口紙		端裏書「杞憂 壹篇」, 同(頼春水筆)『黒瀬登内書』, 本文末に『天明六年丙午 黒瀬登内祖参書』との記載あり(頼春水筆)	Ⅲ-124-2
931	〔伺書〕(新御屋敷御仏殿此後唱御替之儀ニ付)	状	1通	(天明8年カ)	(頼春水)		14.6×13.0	諸口紙		端裏書(頼春水筆)「此書付築山迄出候所, 茂大夫殿より何角と申来何分三人連名にて申出候様ニとの事何角口折御座候事」, 校訂(墨), 後欠	Ⅲ-124-4
932	1)〔廻達〕(御家中武器取離シ候事ニ付)	状	1通	十月	(頼春水カ)		14.5×24.4	諸口紙		紙縫にてⅢ-124-5-1~2を一括, 端裏書(頼春水筆)「寛政之頃」, 本文末に「右は同廿三日奥詰席廻達」との記載あり	Ⅲ-124-5-1
932	2)〔廻達〕(葬送見送之儀相止可然と存候事)	状	1通	寛政八年丙辰七月四日	(頼春水カ)		14.4×23.9	諸口紙		端裏書(頼春水筆)「寛政八年丙辰七月四日廻達申来送葬見送止之事」	Ⅲ-124-5-2
933	口上之覚(丁祭之節, 聖位之饗具ニ付)	状	1通	正月廿五日	(頼春水)		14.0×11.4	諸口紙		端裏書(頼春水筆)「祭用」	Ⅲ-124-7
934	〔伺書〕(瀬川茂右衛門より出候太子君御入国ニ付申上る書付)	状	1通	江戸後期	瀬川茂右衛門		13.8×109.5	諸口紙		紙帯にてⅢ-124-8-1~4まで一括, 端裏書(頼春水筆)「瀬川茂右衛門より出候書付」	Ⅲ-124-8-1
935	〔覚書〕(寛永八年石高別藩士名一覧)	状	1通	江戸後期	(頼春水)		13.8×34.6	色諸口紙		別紙(13.8×7.5, 色諸口紙)あり	Ⅲ-124-8-2
936	〔覚書〕(藩士名一覧)	状	1通	江戸後期	(頼春水)		12.2×31.6	半紙		「頼弥太郎」「頼万四郎」の名を記載	Ⅲ-124-8-3
937	〔覚書〕(藩士名一覧)	状	1通	江戸後期	(頼春水)		14.5×27.2	諸口紙			Ⅲ-124-8-4
938	〔覚書〕(松舎竹舎命名由来)	状	1通	(天明6年カ)	(頼春水)		14.1×22.2	色諸口紙			Ⅲ-124-9
939	申出試候覚(学問所と修業堂統合につき意見書)	状	1通	寛政九年丁巳三月	金子源内, 頼弥太郎, 加藤三平, 植田周助, 頼万四郎		14.3×315.5	諸口紙		端裏貼紙(頼春水筆)「寛政九年丁巳四月清水氏へ連名にて差出し置候書付 此取計方入組候事有之 御用人仙石隼人殿方御直ニ被差出候様相聞候事 藤田新右衛門殿心配も有之御供詰上席神尾惣右衛門も承知」, 注記(付紙に墨), 「春水遺響 五」(『広島県史 近世資料編Ⅵ』No.12)所収	Ⅲ-124-11
940	国朝法帖之事	状	1通	八月十日燈下	春水	長左様	15.9×29.6	三桎紙			Ⅲ-125-1
941	〔書付〕(堀江典膳殿へ一役一人被申渡につき)	状	1通	享和元年八月	(頼春水)		12.5×46.5	半紙		端裏書(頼春水筆)『享和元年辛酉八月二十九日, 堀江典膳殿へ一役一人被申渡書付うつし』, 「来戌年方来ル寅年五ヶ年之間別而厳敷御儉約御格外之御作略被遊候思召付」との記載あり	Ⅲ-125-2-1
942	〔達書〕(諸役所方御家中江貸付銀返納方につき)	状	1通	享和三年七月			12.3×122.6	半紙		端裏付紙(頼春水筆)『御滞府御留守年也 享和三年癸亥七月廿四日被仰出席通写 公借返上御甘メ之事』(付紙裏にも朱字あり)	Ⅲ-125-2-2
943	〔書付〕(野史類纂書写用銀受取につき)	状	1通	十二月廿二日	築山嘉平	頼弥太郎様	14.1×27.9	色諸口紙		封上書「頼弥太郎様 築山嘉平」	Ⅲ-125-4
944	包紙	状	1通	文化改元甲子六月封	(頼春水)		25.8×40.2	楮紙		封上書「只今方廿五六月(欠)計り已前安永天明之際, 大坂居住之節諸買物受取等書付也自然此一包存候故留置, 諸物価等之見合にも可相成歟, 文化改元甲子六月封」, 反故紙使用, 反故紙「柴野彦助様中口河内 吉田外記」「打未済, 五岳二幅応挙芦雪島田口口大岡題廉品附」	Ⅲ-129-1
944	1)〔覚〕(極月分代銀領収)	状	1通	とら(天明2年)正月十八日		頼弥太郎様	16.3×15.0	杉原紙		紙縫にてⅢ-129-2-1~5まで一括	Ⅲ-129-2-1
944	2)〔覚〕(代銀領収)	状	1通	(天明元年)極月廿三日	永来市兵衛	頼弥太郎様	12.2×33.9	半紙			Ⅲ-129-2-2

文書・記録類

番号	名称	材質形状	員数	年代	作成者	宛所	法量	料紙	丁数	備考	管理番号
944	3) [覚] (代銀領収)	状	1通	(天明元年)十二月七日	大部屋吉助	頼弥太郎様	16.4×14.3	楮紙			Ⅲ-129-2-3
944	4) [覚] (十二月分代銀領収)	状	1通	(天明2年)	甚口	来弥太郎様	15.1×19.1	杉原紙			Ⅲ-129-2-4
944	5) 覚 (代銀領収)	状	1通	(天明元年)丑極月	□□や権兵衛	頼弥太郎様	17.9×28.9	楮紙			Ⅲ-129-2-5
945	覚 (代銀領収)	状	1通	霜月二日	三井勘六 代利兵衛	瀬弥太郎様	16.0×41.9	楮紙		黒文長方印「三井八郎右衛門」(店印)1顆	Ⅲ-129-3
946	[覚] (代銀領収)	状	1通	(天明元年)十二月廿八日			15.9×8.0	杉原紙			Ⅲ-129-4
947	覚(腰障子, 明り障子, 敷居・鴨居ほか代銀請求)	状	1通	(天明元年)丑極月五日	たま屋吉兵衛	頼弥太郎様	15.9×62.1	楮紙		校訂(墨), 注記(墨), 2枚に剥離, Ⅲ-129-7・8の請求書	Ⅲ-129-5
948	[覚] (諸入用品)	状	1通	(天明元年)	(頼春水)		16.2×15.6	楮紙			Ⅲ-129-6
949	注文(せうじ, ふすま, 両戸注文書)	状	1通	(天明元年)丑十一月十五日	頼弥太郎	天満や吉兵衛様	14.5×73.5	諸口紙		2枚に剥離, 「 <small>ル</small> 右之通早々御下し可被成候, 直段ハ江戸堀ニ而為渡し可申候, 丑十一月十五日頼弥太郎 天満や 吉兵衛様」との記載あり	Ⅲ-129-7
950	覚(敷居, 鴨居注文書)	状	1通	(天明元年)丑十一月十五日	頼弥太郎	天満や吉兵衛様	14.5×45.2	諸口紙		「 <small>ル</small> 右之通早々御下し可被成候, 直段ハ江戸堀ニ而為渡し可申候, 丑十一月十五日頼弥太郎 天満や 吉兵衛様」との記載あり	Ⅲ-129-8
951	覚(荷物受取書)	状	1通	(天明元年)十一月廿九日	□□船茂八	金蔵様	16.6×12.8	楮紙			Ⅲ-129-9
952	覚(舟ちん, 諸代銀領収)	状	1通	(天明元年)丑ノ十二月十七日	たま屋吉兵衛		24.5×21.1	半紙			Ⅲ-129-10
953	[覚] (天満屋算用違いニ付)	状	1通	(天明元年)十二月	(頼春水カ)		16.7×12.3	杉原紙		Ⅲ-129-10を修正したもの	Ⅲ-129-11
954	覚(駕人足代領収)	状	1通	(天明元年)十二月廿九日	中村		16.1×10.1	杉原紙		白文長方印1顆	Ⅲ-129-12
955	1) 覚(わり木代請求)	状	1通	(天明元年)丑七月朔日	あわや仁右衛門	頼弥太郎様	16.1×29.5	杉原紙		紙縫にてⅢ-129-13~1~18まで一括	Ⅲ-129-13-1
955	2) [覚] (代銀領収)	状	1通	(天明元年)丑七月初	竹原小倉屋舟, 金屋七郎右衛門	頼弥太郎殿	24.9×13.1	半紙			Ⅲ-129-13-2
955	3) 書覚(書物代領収)	状	1通	(天明元年)丑七月初	いつみや文助代惣右衛門		14.9×28.5	楮紙			Ⅲ-129-13-3
955	4) 覚(正月廿五日方七月四日迄飯料および諸入用勘定)	状	1通	(天明元年)正月廿五日方七月四日迄			15.0×34.4	楮紙		「此レ和泉屋文助江御渡可被下候」との記載あり	Ⅲ-129-13-4
955	5) 覚(八十二日分請求)	状	1通	(天明元年カ)			16.5×16.0	楮紙		「後達分」との記載あり	Ⅲ-129-13-5

文書・記録類

番号	名称	材質形状	員数	年代	作成者	宛所	法量	料紙	丁数	備考	管理番号
955	6) 覚(代銀領収)	状	1通	(天明元年)七月まへ	すま	頼弥太郎様	15.2×21.0	杉原紙			Ⅲ-129-13-6
955	7) 覚(代銀領収)	状	1通	(天明元年)六月廿三日	仲屋才治郎		16.5×9.6	杉原紙			Ⅲ-129-13-7
955	8) 覚(即刻料領収)	状	1通	(天明元年)七月前	前川清三郎	頼様	15.6×19.6	杉原紙			Ⅲ-129-13-8
955	9) [覚](筆, はん代領収)	状	1通	(天明元年)七月前	淡路屋庄兵衛	頼弥太郎様	14.3×18.5	楮紙(茶染)			Ⅲ-129-13-9
955	10) [覚](舟代領収)	状	1通	(天明元年)七月十二日	あみや左助	来弥太郎様	15.8×11.6	杉原紙			Ⅲ-129-13-10
955	11) [覚](代銀請求)	状	1通	(天明元年)七月まへ	か右衛門	頼弥太郎様	16.2×19.8	楮紙			Ⅲ-129-13-11
955	12) [覚](油一升代銀領収)	状	1通	(天明元年)七月まへ十四日	油屋仁右衛門	頼弥太郎様	16.4×12.8	楮紙			Ⅲ-129-13-12
955	13) [覚](魚代銀請求)	状	1通	(天明元年)七月まへ	□後屋与三郎		13.3×20.5	楮紙			Ⅲ-129-13-13
955	14) 覚(白米代領収)	状	1通	(天明元年)丑五月まへ	三田屋権兵衛	頼弥太郎様	16.2×36.2	楮紙			Ⅲ-129-13-14
955	15) 覚(口三升領収)	状	1通	(天明元年)七月まへ	藤七	頼弥太郎様	15.0×16.7	楮紙(漉返)			Ⅲ-129-13-15
955	16) [覚](油紙, 渋紙, 諸紙代領収)	状	1通	(天明元年)七月十四日	市兵衛	頼弥太郎様	12.3×34.5	半紙			Ⅲ-129-13-16
955	17) [覚](墨式対, 唐筆六本など代銀領収)	状	1通	(天明元年)七月前	高村兵藏	頼弥太郎様	15.5×16.8	杉原紙			Ⅲ-129-13-17
955	18) [覚](米代銀領収)	状	1通	(天明元年)丑七月まへ	大和屋吉助	頼弥太郎様	16.3×35.9	楮紙			Ⅲ-129-13-18
956	1) 書出し(炭老斗領収)	状	1通	(天明元年)カ	炭屋吉兵衛	大井孫五郎様	16.5×12.0	楮紙		紙縫にてⅢ-129-14~1~7まで一括	Ⅲ-129-14-1
956	2) [覚](代銀領収)	状	1通	(天明元年)六月廿五日, 七月前	つちや安兵衛	江戸堀かた弥太郎様	15.4×12.9	楮紙			Ⅲ-129-14-2
956	3) 覚(代銀領収)	状	1通	(天明元年)七月十一日	八百や佐郎兵衛		15.8×8.9	漉返紙			Ⅲ-129-14-3
956	4) [覚](明りせうし三枚代銀請求)	状	1通	(天明元年)六月廿九日, 丑七月まへ	多なみや久十郎	大工佐兵衛	16.0×8.1	楮紙			Ⅲ-129-14-4
956	5) [覚](畳三畳, 古畳, 手間賃領収)	状	1通	(天明元年)七月まへ	畳屋弥兵衛	頼弥太郎様	15.2×37.5	漉返紙(薄墨色)			Ⅲ-129-14-5
956	6) [覚](打釘代領収)	状	1通	(天明元年)七月まへ		来弥太郎様	15.5×24.4	楮紙			Ⅲ-129-14-6

文書・記録類

番号	名称	材質形状	員数	年代	作成者	宛所	法量	料紙	丁数	備考	管理番号
956	7) 覚(手間賃, 角瓦六枚代銀領収)	状	1通	(天明元年) 丑七月まへ	左官市右衛門	弥太郎様	17.8×17.3	楮紙		端裏書「丑七月前作事方」	Ⅲ-129-14-7
957	覚(銀四拾三匁壹分領収)	状	1通	(天明元年) 十二月廿八日	升屋仁右衛門	喜口	23.0×7.6	半紙			Ⅲ-129-15
958	覚(家計算用書)	状	1通	(天明元年) ヵ	(頼春水)		15.8×129.2	杉原紙			Ⅲ-129-16-1
959	覚(家計不足分, 上京前雑用)	状	1通	(天明元年) ヵ	(頼春水)		14.1×9.0	漉返紙(薄墨色)			Ⅲ-129-16-2
960	覚(上京前の雑費)	状	1通	(天明元年) ヵ	(頼春水)		14.1×11.6	漉返紙(薄墨色)			Ⅲ-129-16-3
961	覚(拵え代銀請求)	状	1通	十一月廿七日	丹波屋弥兵衛	頼弥太郎様	17.4×48.9	楮紙		黒文長方印「丹波屋印」1顆	Ⅲ-129-17
962	覚(銀七拾匁七分領収)	状	1通	(安永2年) ヵ ミ大晦日	丹波屋弥兵衛	頼弥太郎様	18.1×13.7	杉原紙			Ⅲ-129-18
963	[覚](長崎下り状, ちんわり代請求)	状	1通	(天明元年) 十二月前	べつかうや(鼈甲屋) 太郎 右衛門	頼弥太郎様	16.6×15.5	楮紙			Ⅲ-129-19
964	覚(銀八拾八匁領収)	状	1通	(安永2年) 巳 極月廿三日	升や仁右衛門	頼弥太郎様	15.3×13.1	楮紙			Ⅲ-129-20
965	覚(拵え代請求)	状	1通	極月前	丹波屋弥兵衛	頼弥太郎様	17.4×20.6	楮紙		黒文円印1顆	Ⅲ-129-21
966	覚(銀四十匁, 千齡様分領収)	状	1通	(天明2年) ヵ 正月十一日	平助	頼弥太郎様	15.0×14.4	楮紙			Ⅲ-129-22
967	覚(此手形二而為渡し可被下候)	状	1通	(天明元年) 丑三月九日	頼	ミのや太兵衛殿	15.7×10.5	楮紙		黒文印2顆, 割印2顆	Ⅲ-129-23-1
968	[覚](此飛脚へ銀子直ニ御渡し可被下候)	状	1通	(天明元年) 三月十一日	ミのや太兵衛	頼弥太様	16.3×23.7	楮紙		黒文円印1顆, 端裏書(頼春水筆)「道修町心齋橋南西角大坂屋七郎右衛門利八」	Ⅲ-129-23-2
969	覚(感舊茶代領収)	状	1通	(天明元年) 丑十二月廿日	菊屋惣兵衛	井筒屋庄平様	24.9×13.8	半紙			Ⅲ-129-24
970	覚(銀五拾匁領収)	状	1通	(安永2年) 巳 十二月廿日	菊屋惣兵衛	頼弥太郎様	29.2×9.5	竹紙			Ⅲ-129-25
971	[覚](六拾九文請求)	状	1通	正月廿四日	八百や又兵衛	来弥太郎様	16.2×27.5	楮紙		付属紙帯(24.0×1.7, 半紙・反故紙)	Ⅲ-129-26
972	覚(廿五匁領収)	状	1通	十一月二日	香川や清兵衛	頼弥太郎様	15.9×9.8	楮紙		黒文円印1顆	Ⅲ-129-27
973	[覚](勘定控え)	状	1通	江戸後期	(頼春水) ヵ		28.8×6.2	竹紙			Ⅲ-129-28
974	覚(銀式封領収)	状	1通	二月廿二日	国分舛庄兵衛	頼弥太郎様	24.8×15.4	半紙		黒文方印1顆	Ⅲ-129-29
975	[書簡](飛脚賃京都より其御地迄之所, 残廿八文御渡し可被下候)	状	1通	正月廿四日	久米屋善八	頼弥太郎様	15.5×39.4	杉原紙		Ⅲ-129-31の追啓	Ⅲ-129-30
976	[書簡](新年挨拶状)	状	1通	正月廿四日	久米屋善八	頼弥太郎様, 参人之御中	15.3×44.1	杉原紙			Ⅲ-129-31

文書・記録類

番号	名称	材質形状	員数	年代	作成者	宛所	法量	料紙	丁数	備考	管理番号
977	[覚](下女の給金などの控)	状	1通	十月廿日, 十二月九日, 十二月十八日	(頼春水か)		16.2×14.3	楮紙			Ⅲ-129-32
978	覚(銀子入壺封領収)	状	1通	十二月十九日	泉や弥右衛門	頼弥太郎様	25.0×16.5	半紙		黒文円印1顆	Ⅲ-129-33
979	覚(上水筆式本, 三本領収)	状	1通	十一月晦日改	かゝや武兵衛	来弥太郎様	15.1×14.1	楮紙			Ⅲ-129-34
980	覚(くすり代領収)	状	1通	(安永9年)子八月六日	頼弥太郎	増田屋加兵衛殿, 阿賀屋茂八殿	15.2×12.1	楮紙		黒文円印3顆	Ⅲ-129-35
981	覚(銀拾匁領収)	状	1通	(安永9年)十二月廿九日, 丑(天明元年)正月廿二日	土屋幸次	頼弥太郎様	24.1×17.6	半紙			Ⅲ-129-36
982	覚(空色紋付, 白上ヶ染代など請求)	状	1通	正月廿三日	布屋作兵衛	頼弥太郎様	16.3×28.4	楮紙			Ⅲ-129-37
983	覚(廿八日分飯代, 同油代, 墨代二付)	状	1通	十一月廿八日	竹田省吾		16.2×16.8	楮紙			Ⅲ-129-38
984	覚(七十五日飯料, 油, 筆代, 紙代二付省吾割合)	状	1通	十月廿七日	(竹田)省吾		17.1×19.9	楮紙			Ⅲ-129-39
985	包紙	状	1通	正月七日	京黒門塗師弥兵衛	吹田屋六兵衛様御内周蔵様	24.5×34.2	半紙		包紙「大坂新うつほ 吹田屋六兵衛様・御内周蔵様 京黒門塗師弥兵衛 ちんすみ急用無事」, 同・裏「正月七日出 自京都 ちんすみ」, 紙背墨書[]三金代 三拾九匁 吹六店	Ⅲ-129-40
986	[覚](書画譜校合なほし料など請求)	状	1通	十一月廿六日	高荘二郎	和泉屋文介様	14.8×31.9	竹紙		「右, 頼氏算用にて可然御取斗可被下候 高荘二郎」との記載あり	Ⅲ-129-41
987	覚(拵え代, 指引残り代など領収)	状	1通	(天明元年)丑九月前	丹波屋弥兵衛	頼弥太郎様	17.4×18.8	楮紙		黒文円印3顆	Ⅲ-129-42
988	書出し(小机一脚九匁請求)	状	1通	九月前	谷源兵衛	頼弥太郎様	15.3×10.5	楮紙			Ⅲ-129-43
989	覚(金三步領収)	状	1通	江戸後期			16.1×10.8	楮紙			Ⅲ-129-44
990	覚(此残百五拾六文相渡し申候)	状	1通	九月	山田屋千蔵	弥太郎様	15.1×25.5	楮紙			Ⅲ-129-45
991	包紙	状	1通	寅(天明2年)九月廿四日改	(頼春水)		23.6×14.0	諸口紙		包紙「寅九月廿四日改 在坂連年差引書付入」, 反故紙使用, 反故紙「丑年 頼弥太郎様 油之通(「大坂今橋筋西竹藤町油屋仁右衛門」の黒字印あり)」, 黒文円印2顆	Ⅲ-129-46
992	[覚](油料其外諸入用等勘定)	状	1通	江戸後期		(頼春水)	16.1×13.6	楮紙		包紙(23.7×33.3, 半紙)「□腰卅六□」, 裏書「銀三十六匁御座候や, 内十匁せうし代ふすま」	Ⅲ-129-47
993	[覚](巻物仕立代ほか請求)	状	1通	十月十日	舛や吉兵衛	頼弥太郎様	16.0×15.6	楮紙			Ⅲ-129-48
994	[覚](燈油・筆・紙代請求)	状	1通	江戸後期		(頼春水)	15.5×45.0	杉原紙			Ⅲ-129-49
995	口上(箱・紙包落手仕候事)	状	1通	八月十三日	頭屋庄右衛門	来弥太郎様御丈	16.8×20.6	楮紙			Ⅲ-129-50

文書・記録類

番号	名称	材質形状	員数	年代	作成者	宛所	法量	料紙	丁数	備考	管理番号
996	覚(木瓜・檳榔子ほか代銀請求)	状	1通	江戸後期	成屋	(頼春水)	15.8×18.7	楮紙			Ⅲ-129-51
997	覚(三勺領収)	状	1通	十一月	つの国屋源兵衛	(頼春水)	16.0×9.6	楮紙			Ⅲ-129-52
998	[書簡](為御謝義金子二百疋御恵投忝致拝受候事)	状	1通	七月十一日	松原積載	頼弥太郎様	16.2×25.2	楮紙			Ⅲ-129-53
999	包紙	状	1通	三月七日	ミのや太兵衛	頼弥太郎様	16.3×18.3/ 16.2×7.9	楮紙		黒文円印1顆, 封上書「大坂江戸堀壱丁めろじの奥 頼弥太郎様 □ 貴下」, 同・裏「ちん京払 三月七日 ミのや太兵衛」, 料紙2枚使用(貼継なし)	Ⅲ-129-54
1000	包紙	状	1通	九月五日至	福山青龍院	頼弥太郎様	24.1×16.9	半紙		封上書「大坂江戸堀北壱丁目 頼弥太郎様 福山青龍院 参人之御中」, 同・裏(頼春水筆か)「九月五日至 八月廿三日出」謹封 金百疋五匁入り	Ⅲ-129-55
1001	[覚](造作, 食費, 家財道具など算用控え)	状	1通	江戸後期	(頼春水)		16.4×45.0	奉書紙		頼弥太郎宛助松屋新吉・三郎太郎書簡の反故紙を使用	Ⅲ-129-56
1002	覚(富士山小幅など)	状	1通	(天明元年) 丑七月前	丹波屋弥兵衛, 代宇兵衛	頼弥太郎様	17.5×22.1	楮紙		黒文円印2顆	Ⅲ-129-57
1003	[覚](丑九月前勘定書)	状	1通	(天明元年) 丑九月前	(頼春水)		15.2×48.2	杉原紙		頼弥太郎宛書簡(九月三日付)の反故紙を使用, 「増山侯々貴君御染筆申請度(後略)」との記載あり	Ⅲ-129-58
1004	覚(柄巻代など拵え代丑八月分請求)	状	1通	(天明元年) 丑八月分	丹波屋弥兵衛	頼弥太郎様	17.5×54.1	楮紙			Ⅲ-129-59
1005	覚(銀八匁壱分五里鳥目五拾文領収)	状	1通	寅(天明2年) 正月十八日	塩屋伊兵衛	頼弥太郎様	23.4×17.2	半紙			Ⅲ-129-60
1006	書覚(板木代など領収)	状	1通	子(安永9年) 五月前	和泉屋文助, 代惣兵衛	頼弥太郎様	15.6×40.4	楮紙		黒文長方印「和泉屋印」1顆, 黒文割印1顆	Ⅲ-129-61
1007	覚(古梅園筆三本, 元ゆひ直など請求)	状	1通	三月		(頼春水)	16.2×30.4	杉原紙			Ⅲ-129-62
1008	覚(朱子文集壱箱, 百三拾五匁内金貳両領収)	状	1通	三月九日	菅田源兵衛	(鈴木俊民)	15.5×11.8	杉原紙			Ⅲ-129-63-1
1009	[添状](朱集書林方又々書付参候間, 差上候)	状	1通	(三月) 十一日	鈴木俊民	春水先生	15.8 × × 31.3	杉原紙		封上書「春水先生 鈴木俊民」, Ⅲ-129-63-1の添状	Ⅲ-129-63-2
1010	[書簡](朱集不足金壱部落手二付, ほか)	状	1通	三月十二日	鈴木俊民	頼先生	15.8×21.0	杉原紙		封上書「頼先生 鈴木俊民」	Ⅲ-129-64
1011	[書簡](朱集落手仕候, 壱巻書口へ虫入有之由, ほか)	状	1通	三月朔	鈴木俊民	頼先生	15.8×27.2	杉原紙		封上書「頼先生 鈴木俊民 奉答」	Ⅲ-129-65
1012	覚(餅米代銀, つきちん代銀など領収)	状	1通	正月晦日	塩屋伊兵衛	頼弥太郎様	15.6×17.5	楮紙			Ⅲ-129-66
1013	覚(薬口代請求)	状	1通	江戸後期	加川や清兵衛	頼弥太郎様	15.9×11.6	楮紙			Ⅲ-129-67
1014	覚(餅米代銀, つきちん代領収)	状	1通	三月二日	塩屋伊兵衛	頼弥太郎様	16.8×18.3	楮紙			Ⅲ-129-68
1015	[書簡](此二包急々納所米山寺へ御届させ可被下候)	状	1通	正月五日	ミのや太兵衛	頼弥太郎様	16.8×18.3	楮紙			Ⅲ-129-69

文書・記録類

番号	名称	材質形状	員数	年代	作成者	宛所	法量	料紙	丁数	備考	管理番号
1016	覚(式十九匁二分領収)	状	1通	五月十二日	三井又七, 代仁兵衛	頼弥太郎様	22.8×13.0	楮紙			Ⅲ-129-70
1017	[書簡](唐紙廿五匁遣被下無相違入手仕候事)	状	1通	五月十日	仁兵衛	弥太郎様	14.2×16.5	漉返紙(薄墨色)			Ⅲ-129-71
1018	[書簡](米山寺銀子之事)	状	1通	三月七日	みのや太兵衛	来弥太郎様	16.4×98.2	楮紙		端裏書(頼春水筆)「米山寺銀子之事 美濃屋太兵衛書状」	Ⅲ-129-72
1019	覚(大坂已来之溜り)	状	1通	戊正月(享和2年), 亥正月(享和3年)	室(宝カ)屋喜ぶ	頼弥太郎様	14.2×46.0	諸口紙			Ⅲ-134-4
1020	享和元辛酉之春 交代人名	状	1通	享和元辛酉之春			14.0×233.9	諸口紙		端裏書(頼春水筆)「享和元辛酉之春 交代人名」	Ⅲ-135-4
1021	[来午年江戸詰等人名]	状	1通	十二月六日			14.0×143.0	諸口紙			Ⅲ-135-5
1022	慶長十九年十一月但馬守長晟公大坂侍帖	横帳(袋部分下)	1冊	江戸後期	(頼春水)		14.3×45.7	諸口紙	3	首題「慶長十九年十一月但馬守長晟公大坂陣侍帖」, 黒文円印「惟完」1顆, 朱文長方印「頼」1顆, 右下部に付箋「頼弥太郎所持」, その上に付箋「頼餘一所持」貼付, 右下綴部分欠損	Ⅲ-139-2
1023	御直書写し(近習向之者共, 国元江戸ニても奉公向心ヲ付候事)	状	1通	享和元辛酉十月十五日		大小姓頭, 騎馬頭へ	14.6×35.7	諸口紙		端裏書「御直書写し 享和元辛酉十月十五日」, (頼春水筆)「右ハ十月十五日御礼登城之節写し拝見候事」	Ⅲ-139-3
1024	[覚書](歴代藩主列記)	状	1通	江戸後期	(頼春水)		24.2×33.9	半紙		校訂(墨)	Ⅲ-139-4-3
1025	[達書](御省略之義ニ付, 江戸詰之面々今一際御人減候事)	状	1通	亥十月十五日			14.5×83.1	諸口紙		端裏書「亥十月十五日度口之写」	Ⅲ-139-4-4
1026	1) 御直書写并添書, 斉賢公	状	1通	文化二年乙丑六月廻達		大小姓頭, 騎馬頭江	14.3×69.1	諸口紙		紙縫にてⅢ-139-5-1~3を一括, 端裏書「文化二年乙丑六月廻達御直書写并添書 斉賢公」	Ⅲ-139-5-1
1026	2) [達書](此度御改メ着服之定, 無利拾五ヶ年賦御貸銀ほか)	仮綴	1綴	(文化2年)			12.4×34.4	半紙	5		Ⅲ-139-5-2
1026	3) 着服之定 年頭	状	1通	文化二年乙丑			14.3×167.5	諸口紙		端裏書「月番 堀江典膳 文化二年乙丑五月廿四日御帰城, 六月十日被仰出一役一人呼出御城ニ而」	Ⅲ-139-5-3
1027	[覚書](恭昭院様御三回忌御法事之事)	状	1通	(文化12年)十一月三日			14.5×45.5	諸口紙		紙帯にてⅢ-139-6-1~3を一括	Ⅲ-139-6-1
1028	[達書](恭昭院様御位牌拝参之儀ニ付)	状	1通	(文化12年)十一月			14.4×38.6	諸口紙			Ⅲ-139-6-2
1029	[達書](恭昭院様御三回忌ニ付御香典, 御寺詰人数, 着服之事)	状	1通	(文化12年)十月廿五日, 十一月十一日			14.3×74.5	諸口紙			Ⅲ-139-6-3
1030	1) [書簡](真鳴一羽到来ニ付, 御見舞申上候)	状	1通	十二月廿八日当賀			14.2×29.3	諸口紙		Ⅲ-139-7-1~11まで貼継	Ⅲ-139-7-1
1030	2) [書簡](私妹病死仕候ニ付今晚之所ハ先ッ延引)	状	1通	四月廿七日			14.0×50.7	諸口紙			Ⅲ-139-7-2
1030	3) [書簡](御賢息様御入門ニ付結構之御看拝受仕候)	状	1通	(天明8年カ)五月晦日	(築山捧盈カ)	(頼春水カ)	14.0×52.0	諸口紙			Ⅲ-139-7-3

文書・記録類

番号	名称	材質形状	員数	年代	作成者	宛所	法量	料紙	丁数	備考	管理番号
1030	4)〔書簡〕(結構之両品拝受仕候)	状	1通	極月廿九日			14.1×36.3	諸口紙			Ⅲ-139-7-4
1030	5)〔書簡〕(昨日は頂戴物仕難有仕合奉存候)	状	1通	四月廿日			14.2×36.9	諸口紙			Ⅲ-139-7-5
1030	6)〔書簡〕(定之丞様御取立樽壺本頂戴仕難有仕合奉存候)	状	1通	四月十九日			14.4×28.6	諸口紙			Ⅲ-139-7-6
1030	7)〔書簡〕(此鮎十尾呈仕度候事)	状	1通	七月廿七日			14.0×49.1	諸口紙			Ⅲ-139-7-7
1030	8)〔書簡〕(御見本書認相済申候事)	状	1通	二月九日			13.9×58.3	諸口紙			Ⅲ-139-7-8
1030	9)〔書簡〕(御見本之義, 明九日昼頃迄ニ差出申候)	状	1通	二月八日			13.9×70.3	諸口紙			Ⅲ-139-7-9
1030	10)〔書簡〕(差遣申候御見本ニ付)	状	1通	二月十日			13.9×39.2	諸口紙			Ⅲ-139-7-10
1030	11)〔書簡〕(定之丞様御見本ニ目出度唐詩之類書認, 差出候様ニとの事)	一紙貼継	1巻	二月六日			13.9×45.5	諸口紙			Ⅲ-139-7-11
1031	1)〔覚〕(阿部六之丞, 佐助の家賃より出役・油賃等差引, 午三月分)	状	1通	(天明6年) 四月三日	(阿部六之丞)		14.4×22.8	諸口紙		紙継にてⅢ-143-2-1~11を一括	Ⅲ-143-2-1
1031	2)覚(午四月份)	状	1通	午(天明6年) 五月三日	(阿部) 六之丞		14.5×20.3	諸口紙			Ⅲ-143-2-2
1031	3)覚(午五月份)	状	1通	(天明6年) 六月三日	阿部六之丞		14.6×19.8	諸口紙			Ⅲ-143-2-3
1031	4)覚(午六月份)	状	1通	午(天明6年) 六月	(阿部六之丞)		14.4×18.7	諸口紙			Ⅲ-143-2-4
1031	5)覚(午七月份)	状	1通	午(天明6年) 七月	阿部六之丞		14.4×22.1	諸口紙			Ⅲ-143-2-5
1031	6)覚(午八~十月份)	状	1通	午(天明6年) 十月卅日	(阿部) 六之丞		14.1×22.5	諸口紙			Ⅲ-143-2-6
1031	7)覚(阿部六之丞, 佐介の家賃受取につき)	状	1通	(天明6年) 十月晦日頃			14.4×9.5	諸口紙			Ⅲ-143-2-7
1031	8)覚(閏十月份)	状	1通	(天明6年) 後十月卅日	(阿部) 六之丞		14.5×26.7	諸口紙			Ⅲ-143-2-8
1031	9)覚(十一月份)	状	1通	(天明6年) 十一月廿八日	(阿部) 六之丞		14.5×14.6	諸口紙			Ⅲ-143-2-9
1031	10)〔覚〕(ニヶ月分取かえにつき)	状	1通	(天明6年)	(阿部六之丞)		14.6×5.5	諸口紙			Ⅲ-143-2-10
1031	11)〔覚〕(午十二月份)	状	1通	午(天明6年) 十二月	(阿部六之丞)		14.6×11.9	諸口紙			Ⅲ-143-2-11
1032	1)未年米代銀	状	1通	未(天明7年) 四月朔日	林堅良	頼氏様	14.5×24.5	諸口紙		紙継にてⅢ-143-3-1~2を一括	Ⅲ-143-3-1

文書・記録類

番号	名称	材質形状	員数	年代	作成者	宛所	法量	料紙	丁数	備考	管理番号
1032	2) 覚(正月～三月分)	状	1 通	(天明7年) 三月廿八日	阿部六之丞		14.5×17.7	諸口紙		注記(付紙に墨), 付紙(14.7×5.3, 諸口紙)「此書付, 前之通此間阿部氏江相渡し申候, 去暮拜借物之事も鳴へくたけ当月未迄ニさし上候様ニ被申候 四月朔日 はやし氏」	III-143-3-2
1033	覚(未四～五月分)	状	1 通	未(天明7年) 六月八日	(阿部) 六之丞	頼様	14.5×21.1	諸口紙		訂正(墨)	III-143-4
1034	明キ俵之算用(巳八月～未正月)	状	1 通	未(天明7年) 二月廿二日	はやし氏	頼様	14.6×23.5	諸口紙			III-143-5
1035	未正月 〆 三月十二日迄受渡し算用書	状	1 通	未(天明7年) 三月十二日	林堅良	頼氏様	14.5×49.9	諸口紙		端裏書「未三月以後ハ此元直支配ニ相成候事」	III-143-6
1036	受渡し銀之部, 米代銀之部	状	1 通	未(天明7年) 四月朔日	林堅良		14.6×47.0	諸口紙		注記(付紙に朱・墨), 付紙(14.4×4.8, 諸口紙)「四匁四分毫り, 阿部方極月晦日夜納之物相添候儀者四百三十三匁三分式り之口ニ相成申候, 百目ト四匁四分毫り, 右両口も去年分え相口え候事ハ先達テ申上候様口覚へ申候」, 包紙(24.3×20.4, 半紙)あり, 包紙「午極月晦日迄算用書付 三通」, 同「未四月一日来ル」	III-143-7
1037	[米代銀之部]	状	1 通	未(天明7年) 四月朔日	林堅良		14.2×14.5	諸口紙		訂正(墨)。注記(付紙に朱・墨), 付紙(14.3×12.1, 諸口紙)「先達テ昨年算用一帖ニ十月分八十式匁五分替ヲ八十三匁五分替ト口口いたし候而書記し置申候, 此度之算用口右一帖ヲ写し候故, 積り立百四十三匁口口相成申候, 諸帖并彦兵衛方通面得と相しらへ候処, 十月分ハ八十式匁五分替ニ相違無之, それヲ以積り立見申候得者, 正月ニ申上候算用書宜キ所ニ届候故, 此度之算用書切り替改書さし上申候, 右之通ニ届候得者, 書申之渡し過ニ相成申候, 此六分ハ室屋江申遣候而彼方受取可申候」	III-143-8
1038	返納銀元利之目録(午七月～未三月)	状	1 通	未(天明7年) 四月朔日	林堅良		14.3×23.1	諸口紙			III-143-9
1039	受渡し銀之利積	状	1 通	未(天明7年) 四月朔日	林堅良		14.3×49.7	諸口紙		訂正(貼紙に墨)	III-143-10
1040	林方之米之算用書(巳八月十八日～午極月十八日)	状	1 通	未(天明7年) 正月			14.3×66.8	諸口紙			III-143-11
1041	銀受渡し之通心(扶持米代等指引物)	横帳	1 冊	巳(天明5年) 七月～未(天明7年) 正月	室屋喜右衛門	頼弥太郎様	14.4×46.0	諸口紙	5	黒文方印(割印)多数, 端書「巳午兩年此通ニ而用ひ」, 注記(付紙に墨)	III-143-12
1042	巳八月米銀之通	横帳	1 冊	巳(天明5年) 八月十八日～極月廿九日	林氏	頼氏	14.5×45.7	諸口紙	2	白文方印(割印)多数, 綴裏に黒文円印1顆, 訂正(墨)	III-143-13
1043	当用銀指引通心(未正月九日～十二月晦日, 頼万四郎様御分)	横帳	1 冊	申(天明8年) 正月	室屋吉之助	林堅良様	14.3×45.0	諸口紙	2	黒文長方印(割印)多数, 訂正(貼紙に墨)	III-143-14
1044	覚及び御扶持米之内米受取通	横帳	1 冊	(天明6年 〆) 六月廿九日, 二月十八日～極月十八日	大和屋喜兵衛	頼様御用	14.6×36.0, 14.6×45.7	諸口紙	4	黒文楕円印2顆, 訂正(墨), 「覚」(六月二十九日付, 大和屋喜兵衛より頼様御用宛)と「御扶持米之内米受取通」を一括	III-143-15

文書・記録類

番号	名称	材質形状	員数	年代	作成者	宛所	法量	料紙	丁数	備考	管理番号
1045	1)〔差紙〕(今村平次郎元屋敷拝領につき)	状	1通	(寛政元年)十二月十五日	植木求馬, 奥玄蕃, 山田図書	頼弥太郎殿	14.1×37.1	諸口紙		Ⅲ-146-1-1～3まで貼継, 封上書「頼弥太郎殿 植木求馬 奥玄蕃 山田図書」, 端裏書(頼春水筆)「屋敷拝領」, 端書「江戸での事」	Ⅲ-146-1-1
1045	2)〔御普請奉行触写〕	状	1通	(寛政2年)	(頼春水)		14.0×37.0	諸口紙		端裏書(頼春水筆)「屋敷之事」, 「寛政元酉八月八日, 御普請奉行中より触来ル」, 「同二戌年三月八日, 御普請奉行中より触来ル」の写し(屋敷絵図面の差出し及び受渡し屋敷の不具合につき)	Ⅲ-146-1-2
1045	3)〔達書〕(国泰寺裏杉之木小路地形上ケ取計せ申候につき)	状	1通	(寛政2年)三月十三日	御普請方	頼弥太郎殿	14.4×39.5	色諸口紙		封上書「頼弥太郎殿 御普請方」	Ⅲ-146-1-3
1046	〔達書〕(頼春水拝領屋敷の引渡し立会いにつき)	状	1通	(寛政2年)三月十三日	清水九右衛門, 森弥八郎	頼万四郎様	14.3×34.3	諸口紙		包紙(24.4×27.9, 半紙)にてⅢ-146-2-1～2を一括, 包紙(頼春水筆)「此屋敷受取之節, 所々平次郎張置有之, 但西山臺(代カ)蔵より平次郎受取節, 西山手跡之よし平次郎承之, 尤悉左様とも不相見, 新札も有之」, 封上書「頼万四郎様 清水九右衛門 森弥八郎」	Ⅲ-146-2-1
1047	覚(屋敷地西脇・北裏・東脇の仕切りにつき)	状	1通	(寛政2年)三月十四日	今村平次郎	御普請方	15.3×18.2	楮紙		端裏書(頼春水筆)『此書付屋敷受取之節, 御普請方受取』	Ⅲ-146-2-2
1048	覚(屋敷北之方へ碓部屋建替願)	状	1通	(寛政2年)六月廿七日	頼弥太郎		14.6×16.5	諸口紙		端裏貼紙「頼弥太郎」, 端裏付札(13.9×4.0, 色諸口紙)「頼弥太郎 申出之通可被仕候」, 包紙(24.5×17.0, 色半紙)「頼弥太郎殿 奥玄蕃 沢井正八郎 味木平八 山本屯」, 同(頼春水筆)「碓部屋土蔵裁許」, Ⅲ-146-3・4を同封カ	Ⅲ-146-3
1049	〔達書〕(屋敷北之方の物置土蔵建築許可)	状	1通	(寛政2年)八月十二日	奥玄蕃, 味木平八, 山本屯	頼弥太郎殿	14.0×34.9	色諸口紙		封上書「頼弥太郎殿 奥玄蕃 味木平八 山本屯」	Ⅲ-146-4
1050	土蔵解取願書控	状	1通	(寛政2年)	(頼春水)		14.6×47.1	諸口紙		端裏書「土蔵解取願書控」, 土蔵建築願及び解取願書の雛型	Ⅲ-146-5
1051	〔達書〕(西蔵願免許)	状	1通	文化八辛未年三月廿七日	仙石隼人, 石井内膳, 関蔵人	頼弥太郎殿	14.1×45.9	色諸口紙		封上書「頼弥太郎殿 仙石隼人 石井内膳 関蔵人」, 端裏書(頼春水筆)「文化八辛未年 西蔵願免許」	Ⅲ-146-6
1052	十四畳之間建統諸控	横帳	1冊	文化十二年乙亥七月至八月	(頼春水)		12.4×34.8	半紙	11	共紙表紙, 外題直書「十四畳之間建統諸控」, 表紙墨書「文化十二年乙亥七月十七日」, 注記(朱, 付紙に墨), 校訂(墨), 11丁目ウ「文化十二年乙亥七月至八月 十四畳立継年普請一件」	Ⅲ-147
1053	御建統諸控	横帳	1冊	亥(文化12年)七月	(頼春水)		12.3×34.2	色半紙, 半紙	9	共紙表紙, 外題直書「御建統諸控」, 表紙墨書「亥七月」, 校訂(墨, 貼紙に墨), 注記(朱), 色半紙は勤務表の反故紙使用	Ⅲ-148
1054	1)覚(作料受取につき)	状	1通	亥(文化12年)七月十四日	松田屋彦助	手島伊助様	14.6×22.6	諸口紙		紙帯にてⅢ-149-1～22まで一括, 紙帯「受取類」, Ⅲ-149-1～2まで貼継	Ⅲ-149-1
1054	2)覚(上杉丸太代銀受取につき)	状	1通	亥(文化12年)七月十四日	山本屋文蔵	松田屋彦助様	14.6×12.4	諸口紙		Ⅲ-149-3より糊離れカ	Ⅲ-149-2
1054	1)〔覚〕(材木代銀につき)	状	1通	亥(文化12年)七月廿一日	御材木場	頼弥太郎殿	12.0×28.3	色半紙		Ⅲ-149-3～22まで貼継, 黒文長方印「鐵符」2顆, 黒文方印「□」4顆, 黒文円印「材木場」1顆, 頭点(朱), 端裂ナ	Ⅲ-149-3
1054	2)覚(日雇代銀受取につき)	状	1通	(文化12年)	彦助		12.2×34.1	半紙			Ⅲ-149-4
1054	3)覚(材木代銀受取につき)	状	1通	亥(文化12年)七月	松田屋彦助	手島伊助様	14.6×54.2	諸口紙			Ⅲ-149-5
1054	4)覚(はいずミ代銀等受取につき)	状	1通	(文化12年)七月廿四日	井筒屋忠八郎		14.7×15.2	諸口紙		黒文円印「井忠」1顆	Ⅲ-149-6

文書・記録類

番号	名称	材質形状	員数	年代	作成者	宛所	法量	料紙	丁数	備考	管理番号
1054	5)覚(出銀・過銀につき)	状	1通	(文化12年)			12.0×10.0	色半紙			Ⅲ-149-7
1054	6)覚(材木代銀受取につき)	状	1通	亥(文化12年)七月廿五日	彦助		14.6×19.0	諸口紙			Ⅲ-149-8
1054	7)覚(日雇代銀受取につき)	状	1通	亥(文化12年)七月廿六日	彦助		14.5×24.2	諸口紙			Ⅲ-149-9
1054	8)覚(日雇代銀受取につき)	状	1通	亥(文化12年)八月三日	彦助		14.1×36.5	諸口紙			Ⅲ-149-10
1054	9)覚(作料等受取につき)	状	1通	亥(文化12年)八月	屋ね屋辰蔵	□井様御用	13.8×30.0	諸口紙			Ⅲ-149-11
1054	10)覚(日雇代銀受取につき)	状	1通	亥(文化12年)八月七日	彦助		14.5×26.1	諸口紙			Ⅲ-149-12
1054	11)覚(梁・桁等材木代銀受取につき)	状	1通	(文化12年)	八蔵		11.8×41.0	半紙			Ⅲ-149-13
1054	12)覚(ぬいनाव, 床框等代銀受取につき)	状	1通	亥(文化12年)八月七日	松田屋彦助	頼様	14.7×24.0	諸口紙			Ⅲ-149-14
1054	13)覚(から竹, なよ竹等代銀受取につき)	状	1通	亥(文化12年)八月廿二日	すや任蔵	頼様 彦助様 取次	14.6×42.1	諸口紙			Ⅲ-149-15
1054	14)覚(合釘代銀等受取につき)	状	1通	亥(文化12年)八月十一日	彦助		13.8×22.2	諸口紙			Ⅲ-149-16
1054	15)覚(日雇代銀受取につき)	状	1通	亥(文化12年)八月十二日	彦助		12.1×17.5	半紙			Ⅲ-149-17
1054	16)覚(釘代銀受取につき)	状	1通	亥(文化12年)八月十五日, 廿二日	彦助		14.6×18.5	諸口紙			Ⅲ-149-18
1054	17)覚(材木・釘代銀等受取につき)	状	1通	亥(文化12年)八月十八日, 廿二日	彦助		14.6×50.5	諸口紙			Ⅲ-149-19
1054	18)覚(新床作料, 合紙等代銀受取につき)	状	1通	亥(文化12年)八月十八日	さたや□助	手島伊助様	14.1×27.5	諸口紙			Ⅲ-149-20
1054	19)覚(腰障子, 明かり障子代銀受取につき)	状	1通	亥(文化12年)八月	中島屋伝六	手島伊助様	28.2×21.3	諸口紙			Ⅲ-149-21
1054	20)覚(御床かまち打廻り, 九尺下地布きせ, 壁花塗作料受取につき)	状	1通	亥(文化12年)八月廿二日	田村直蔵	手島伊助様	24.8×17.2	半紙			Ⅲ-149-22
1054	1)[覚](材木代銀につき)	状	1通	(文化12年)六月朔日	御材木場	伊中源之助殿	12.0×55.5	色半紙		紙縫・紙帯にてⅢ-149-23~31を一括, 紙帯「見合もの」「彦助へ戻もの」, 黒文長方印「鐵符」2顆, 黒文方印「□」2顆, 黒文円印「材木場」1顆, 頭点(朱)	Ⅲ-149-23

文書・記録類

番号	名称	材質形状	員数	年代	作成者	宛所	法量	料紙	丁数	備考	管理番号
1054	2)〔覚〕(材木代銀につき)	状	1通	(文化12年)五月九日	御材木場	吉田屋喜助	11.8×71.0	色半紙		黒文長方印「鐵符」2顆, 黒文方印「□」5顆, 黒文円印「材木場」1顆, 注記(付紙に墨), 頭点(朱)	Ⅲ-149-24
1054	3)〔覚〕(材木代銀につき)	状	1通	(文化12年)三月九日	御材木場	山田主計殿	12.0×50.0	色半紙		黒文長方印「鐵符」2顆, 黒文方印「□」2顆, 黒文円印「材木場」1顆, 頭点(朱)	Ⅲ-149-25
1054	4)〔覚〕(材木代銀につき)	状	1通	(文化12年)六月朔日	御材木場	増野や清兵衛	12.1×45.9	色半紙		黒文長方印「鐵符」2顆, 黒文方印「□」2顆, 黒文円印「材木場」1顆, 頭点(朱)	Ⅲ-149-26
1054	5)〔覚〕(材木代銀につき)	状	1通	(文化12年)五月十七日	御材木場	舛野や清兵衛	12.1×69.1	色半紙		黒文長方印「鐵符」2顆, 黒文方印「□」2顆, 黒文円印「材木場」1顆, 校訂(墨), 注記(付紙に墨), 頭点(朱)	Ⅲ-149-27
1054	6)〔覚〕(材木代銀につき)	状	1通	(文化12年)五月十七日	御材木場	植木替理殿	11.6×52.1	色半紙		黒文長方印「鐵符」2顆, 黒文方印「□」2顆, 黒文円印「材木場」1顆, 校訂(墨), 頭点(朱)	Ⅲ-149-28
1054	7)〔覚〕(材木代銀につき)	状	1通	(文化11年)十一月十七日	御材木場	塩坂庄兵衛殿	12.0×71.2	色半紙		黒文長方印「鐵符」2顆, 黒文方印「□」5顆, 黒文円印「材木場」1顆, 注記(付紙に墨), 頭点(朱)	Ⅲ-149-29
1054	8)〔覚〕(材木代銀につき)	状	1通	(文化12年)六月朔日	御材木場	西尾兵庫殿	12.1×35.5	色半紙		黒文長方印「鐵符」2顆, 黒文方印「□」2顆, 黒文円印「材木場」1顆, 校訂(墨), 頭点(朱)	Ⅲ-149-30
1054	9)〔覚〕(材木代銀につき)	状	1通	(文化12年)五月十七日	御材木場	ますのや清兵衛	11.5×24.7	色半紙		黒文長方印「鐵符」2顆, 黒文方印「□」2顆, 黒文円印「材木場」1顆, 頭点(朱)	Ⅲ-149-31
1055	覚(材木代銀等受取につき)	状	1通	戌(文化11年)八月廿六日	松田屋彦助	頼様御用 手島伊助様	14.5×65.8	諸口紙			Ⅲ-150-1
1056	仕様書覚(十四畳建継普請見積書)	状	1通	亥(文化12年)六月	松田屋彦助	頼様御用	24.9×34.3	半紙		黒文長円印3顆, 紙袋(半紙, 反故紙使用, 頼春水筆)「文化十二年乙亥七月方至八月 十四畳立継普請諸書ひかへ」, 反故紙「丁目」「元亮様 檜林内 水原文」]要入[]」]「到広島」	Ⅲ-150-2
1057	覚(十四畳建継普請見積書)	状	1通	(文化12年)			14.4×45.4	諸口紙		校訂(墨)	Ⅲ-150-3
1058	覚(十四畳建継普請小直しにつき大工作料)	折紙	1通	(文化12年)八月十九日方廿六日迄			12.3×34.7	半紙			Ⅲ-150-4
1059	外袋	状	1通	文化五年戊辰四月廿二日	(頼春水)		27.8×9.5	諸口紙		上書「文化五年戊辰四月廿二日, 娘ニ本進藤吉之助親迎相濟, 双方申合頭書初メ其外書類数々入」	Ⅲ-151-1-1
1060	包紙	状	1通	文化五年戊辰四月廿二日	(頼春水)		14.5×8.0	諸口紙		上書「文化五年戊辰四月廿二日, 娘おミ本進藤吉之助婚儀之節, 諸買調物代料渡シ書類共今日呉服物為替受取大坂寺川やへ類々さし引書右追而反故ニ可相成候へとも先々留置候事」	Ⅲ-151-1-2
1061	由緒書(進藤家)	状	1通	(文化5年4月)	(進藤家)		14.1×103.2	諸口紙		包紙(半紙・24.9×14.8)「由緒書 老通」	Ⅲ-151-2
1062	〔證文〕(銀子七百匁御受取之事)	状	1通	(文化5年)五月十一日	頼弥太郎	金山重左衛門殿	14.5×5.7	諸口紙		黒文円印1顆	Ⅲ-151-3
1063	覚(頼弥太郎様為替銀, 慥ニ落手仕候)	状	1通	(文化5年)六月	金山重左衛門	木本良助様, 沢山惣兵衛様	26.4×25.1	楮紙		黒文長方印「金山用場」3顆	Ⅲ-151-4
1064	〔證文〕(銀三百匁, 頼弥太郎方金山重左衛門へ渡ル)	状	1通	(文化5年)	頼弥太郎方	金山重左衛門へ渡ル	12.4×7.6	半紙		黒文円印1顆	Ⅲ-151-5
1065	覚(銀三百匁, 京都金山重左衛門へ御渡し可被下候)	状	1通	(文化5年)	頼弥太郎		12.3×17.1	半紙		黒文円印1顆, 黒文長方印1顆	Ⅲ-151-6

文書・記録類

番号	名称	材質形状	員数	年代	作成者	宛所	法量	料紙	丁数	備考	管理番号
1066	〔證文〕(京室町金山重左衛門方へ御渡し可被下候)	状	1通	(文化5年)	頼弥太郎		14.4×12.5	諸口紙		黒文円印1顆	Ⅲ-151-7
1067	覚(銀三百目, 頼弥太郎様方 遣二請取申候)	状	1通	辰(文化5年)十二月廿八日	金山重左衛門	木本良助様	26.1×19.0	楮紙		黒文長方印「金山用場」3顆	Ⅲ-151-8
1068	覚(呉服物惣調物等, 右之通 請取之候)	状	1通	(文化5年)六月十九日	寺川	頼様	11.8×53.4	半紙			Ⅲ-151-9
1069	覚(呉服詠え之事)	状	1通	(文化5年)三月廿一日	金山(重左衛門)		16.5×87.7	楮紙		端裏書「金山 三月廿一日出四月三日至 此分御書付を的当二用イ申候」, 端書「御屋敷方御届之分」, 付箋多数	Ⅲ-151-10
1070	婚儀双方申合帖	横帳	1冊	(文化5年)三月			14.6×46.4	諸口紙	7	共紙表紙, 外題直書「婚儀双方申合帖」, 付箋多数	Ⅲ-151-11
1071	覚(呉服算用書)	仮綴	1綴	辰(文化5年)六月	金山用場	頼御氏	24.5×17.0	半紙	3		Ⅲ-151-12
1072	諸道具御拵候覚, 御衣類要用品	仮綴	1綴	(文化5年)	(頼春水)		12.3×34.5	半紙	3		Ⅲ-151-13
1073	1)覚(内のし代ほか受取書)	状	1通	(文化5年)閏六月五日	なら屋長兵衛	御用	14.4×20.8	諸口紙		紙縫にてⅢ-151-14-1~27を一括	Ⅲ-151-14-1
1073	2)覚(練両めん日かさ, 箱釣燈代ほか受取書)	状	1通	(文化5年)四月十六日	永楽屋利兵衛(花押)	香川様へ御取次	14.4×26.2	諸口紙			Ⅲ-151-14-2
1073	3)覚(長刀代受取書)	状	1通	辰(文化5年)三月十九日	きよ歩屋理三郎	御用	12.3×13.8	半紙		黒文長方印1顆	Ⅲ-151-14-3
1073	4)覚(箆笥代ほか代銀につき)	状	1通	(文化5年)四月五日	さんきや新兵衛	来様御用	14.3×26.0	諸口紙		注記(墨), 「内, 百六拾目 四月十日ニ相渡, のこり百目, 四月晦日相渡」(頼春水筆)との書入れあり	Ⅲ-151-14-4
1073	5)覚(銀札式百五拾目受取書)	状	1通	(文化5年)四月十二日	清水	頼様	12.1×11.6	半紙			Ⅲ-151-14-5
1073	6)覚(御挟箱代ほか受取書)	状	1通	辰(文化5年)四月廿日, 五月四日	玉里屋作右衛門	御用	14.5×38.2	諸口紙			Ⅲ-151-14-6
1073	7)覚(御ふくさ, 御紋ぬい代受取書)	状	1通	辰(文化5年)五月	なら屋長兵衛	御用	14.2×16.1	諸口紙			Ⅲ-151-14-7
1073	8)覚(御かこ代, 御のし物代ほか受取書)	状	1通	(文化5年)五月朔日	弥助		12.5×13.5	半紙			Ⅲ-151-14-8
1073	9)覚(はこのふた, かき物はこ代ほか受取書)	状	1通	たつ(文化5年)の五月四日	檜物屋勘兵衛	頼様御用	14.5×46.1	諸口紙		注記(朱)	Ⅲ-151-14-9
1073	10)覚(杓子壺本, 折敷代ほか受取書)	状	1通	辰(文化5年)五月卅日	森屋保兵衛	頼様御用	14.0×40.8	諸口紙		分銅形黒文印2顆, 注記(墨), 「内壺久ハ間違ニ而引」(頼春水筆)との書入れあり	Ⅲ-151-14-10
1073	11)覚(たはこぼん箱入代受取書)	状	1通	辰(文化5年)四月二日	善や新蔵		14.1×13.2	諸口紙			Ⅲ-151-14-11
1073	12)覚(御ふくさ, 花地縹子ほか代銀につき)	状	1通	辰(文化5年)四月十四日	縄屋長蔵	御用	14.6×35.3	諸口紙		黒文長方印「芸州 広島一丁目 宇治御茶所 縄屋口(長カ)蔵」1顆	Ⅲ-151-14-12

文書・記録類

番号	名称	材質形状	員数	年代	作成者	宛所	法量	料紙	丁数	備考	管理番号
1073	13) 覚(はさんばこ代ほか受取書)	状	1通	(文化5年) 四月廿八日	中島屋藤吉		14.0×13.8	諸口紙			Ⅲ-151-14-13
1073	14) 覚(長刀研手間代ほか受取書)	状	1通	(文化5年) 五月朔日	竹屋弁蔵	岩佐直次様	14.4×17.0	諸口紙			Ⅲ-151-14-14
1073	15) 覚(御長刀柄塗り代ほか受取書)	状	1通	(文化5年) 四月廿八日	竹内権蔵	岩戸様御取次	14.1×38.1	諸口紙			Ⅲ-151-14-15
1073	16) 覚(蝶足膳, 湯桶ほか代銀につき)	状	1通	辰(文化5年) 四月晦日	備中や□□次	三谷様御用	14.5×39.3	諸口紙		黒文楕円印1顆, 注記(朱), 「○印引 引残り六十八匁式分五り」(頼春水筆)の書入れあり	Ⅲ-151-14-16
1073	17) 覚(ふた物, 本皿代ほか受取書)	状	1通	(文化5年) 三月廿八日	□さや甚七	来様分	14.5×43.2	諸口紙			Ⅲ-151-14-17
1073	18) 覚(代銀受取書)	状	1通	辰(文化5年) 四月廿日	樽屋丈助	頼様	14.4×11.1	諸口紙			Ⅲ-151-14-18
1073	19) 覚(御きせる, 御鏡入代ほか受取書)	状	1通	辰(文化5年) 四月廿二日	中村や嘉兵衛	頼様御用	14.2×24.8	諸口紙			Ⅲ-151-14-19
1073	20) 覚(尺二寸箱釣燈壺はり代ほか受取書)	状	1通	(文化5年) 四月朔日	山かた屋茂右衛門		14.5×13.1	諸口紙		黒文円印「広島□屋町 山県屋茂右衛門」1顆	Ⅲ-151-14-20
1073	21) 御屋敷買物	状	1通	(文化5年)			12.4×26.7	半紙			Ⅲ-151-14-21
1073	22) 覚(烟草ぼん, 針さし, 張箱ほか代銀につき)	状	1通	(文化5年)			12.3×34.1	半紙		「助十郎へ渡ス」との記載あり	Ⅲ-151-14-22
1073	23) 覚(表具代受取書)	状	1通	辰(文化5年) 五月	よろつ屋万蔵	頼様御用	24.6×20.5	半紙		注記(朱)	Ⅲ-151-14-23
1073	24) 覚(筭, 水引代ほか受取書)	状	1通	(文化5年) 四月十六日	あふぎや広□	御屋敷様	19.6×26.9	小半紙		黒文方印3顆	Ⅲ-151-14-24
1073	25) 覚(御懐刀鞘物代銀につき)	状	1通	(文化5年) 四月	□蔵	頼様御用	24.5×24.5	半紙			Ⅲ-151-14-25
1073	26) 覚(御とふ具持, 御ひつこし人足代受取書)	状	1通	(文化5年)			14.5×24.1	諸口紙			Ⅲ-151-14-26
1073	27) 覚(とうせい鏡たい代受取書)	状	1通	(文化5年) 五月三日	きよ歩や理三郎		14.5×13.8	諸口紙			Ⅲ-151-14-27
1074	紙札「人足積書」	状	1通	江戸後期			28.5×12.0	諸口紙		「人足積書 壱通」「積書 壱通」との記載あり	Ⅲ-152-1
1075	奉公人請状之事(奉公人新平)	状	1通	寛政十一年 未二月二日	天満町佐伯屋彦兵衛	頼 弥 太 郎 様御支配人中様	29.0×46.2	諸口紙(縦紙)		包紙(28.8×19.5, 諸口紙)「請状 新平」, 黒文円印3顆	Ⅲ-152-2
1076	奉公人請状之事(奉公人新平)	状	1通	寛政十二年 庚申正月	天満町佐伯屋彦兵衛	頼 弥 太 郎 様御支配人中様	28.9×46.3	諸口紙(縦紙)		黒文円印3顆	Ⅲ-152-3
1077	覚(奉公人新蔵, 御屋敷へ差上につき)	状	1通	享和元年 三月	広島屋吉右衛門	頼弥太郎様御内 御支配人中様	24.6×34.6	半紙		黒文円印「広島」1顆	Ⅲ-152-4
1078	奉公人請状之覚(奉公人谷本藤太)	状	1通	享和二年 戊二月	比治山山がたや常蔵	頼 弥 太 郎 様御支配人中様	28.8×46.1	諸口紙(縦紙)		包紙(24.3×15.4, 半紙)「壬戌二月 下男下女請状」にてⅢ-152-5-1~2を一括, 包紙(28.8×11.5, 諸口紙)「請状壱通 藤太」, 黒文円印2顆, 注記(付紙に墨)	Ⅲ-152-5-1

文書・記録類

番号	名称	材質形状	員数	年代	作成者	宛所	法量	料紙	丁数	備考	管理番号
1079	奉公人請状之覚(奉公人千代)	状	1通	享和二年戊 二月	西魚屋町名内 屋徳兵衛	頼弥太郎様 御支配人中様	28.8×31.1	諸口紙 (縦紙)		包紙(28.8×11.4, 諸口紙)「請状老通 千代」, 黒文円印1顆	Ⅲ-152-5-2
1080	女奉公人請状之覚(奉公人さ き)	状	1通	享和三年亥 閏正月	広島紙屋町倉 屋丈右衛門	頼弥太郎様 御支配人中様	29.1×34.4	諸口紙 (縦紙)		黒文円印3顆	Ⅲ-152-6
1081	奉公人請状之事(奉公人七助)	状	1通	享和三年癸 亥二月	新屋好兵衛	頼弥太郎様 御支配人中様	29.0×45.6	諸口紙 (縦紙)		包紙(28.8×13.5, 諸口紙)「請状老通 七助」, 黒文円印2顆	Ⅲ-152-7
1082	請状之覚(奉公人牛尾他人蔵)	状	1通	文化元年甲 子七月	広島五町め大 工屋左兵衛	頼弥太郎様 御支配人中様	28.8×46.0	諸口紙		包紙(28.7×20.7, 諸口紙)「受状老通 牛尾他人蔵」, 黒文円印3顆	Ⅲ-152-8
1083	辛丑三月払別払出し	横帳	1冊	辛丑(天明元 年)三月	(頼春水)		12.1×34.5	半紙	4		Ⅲ-153-1
1084	〔覚書〕(出銀覚, 両替覚, 人馬 宿小遣萬覚)	仮綴	1綴	江戸後期			6.2×19.5	雁皮紙	14	「右竹原千齡君へ相渡」「竹原千齡君の借用銀引」との記載あり	Ⅲ-153-2
1085	油之通(天明元年正月～十一 月)	横半帳	1冊	丑正月～十 一月十四日	大津屋嘉右衛 門	頼弥太郎様	14.5×23.0	諸口紙	10	共紙表紙, 外題直書「油之通」, 表紙墨書「丑正月吉日 大津屋嘉右衛門(印) 頼弥太郎様」, 黒文長方印1顆	Ⅲ-153-3
1086	醤油通(天明元年正月～十一 月)	横半帳	1冊	丑正月～十 一月晦日	ひらのや宗兵 衛	頼弥太郎様	14.2×22.6	諸口紙	6	共紙表紙, 外題直書「醤油通」, 表紙墨書「丑正月吉日 ひらのや宗兵衛(印) 頼弥太郎様」, 黒文円印3顆, 5丁目に翌年正月十八日付の受取書あり	Ⅲ-153-4
1087	金銀取渡通(安永九年十二月 ～天明元年十一月朔日)	横帳	1冊	安永九年子 十二月吉日 ～(天明元 年)十一月朔 日	嶋屋利兵衛	頼弥太郎殿	14.5×46.5	諸口紙	3	首題「金銀取渡通」, 黒文円印1顆, 黒文長方印4顆, 黒文割印5顆, 校訂(貼紙に墨)	Ⅲ-153-5
1088	〔覚書〕(天明元年九月支払受 取類)	仮綴	1綴	丑(天明元 年)九月	たるや吉兵衛 ほか	頼弥太郎様	23.7 × 68.0 (最大)	楮紙	18	黒文長方印1顆, 最終丁ウ「丑九月前」	Ⅲ-153-6
1089	〔覚書〕(天明元年三月支払受 取類)	仮綴	1綴	辛丑(天明元 年)三月前	前川清三郎ほ か	頼弥太郎様	22.8 × 39.6 (最大)	楮紙	24	朱文楕円印「前川清三郎」1顆, 黒文長方印1顆, 黒文方印4顆	Ⅲ-153-7
1090	〔覚書〕(安永九年三月～十二 月支払控)	仮綴	1綴	庚子(安永9 年)三月前～ 極月	(頼春水)		16.5 × 33.5 (最大)	杉原紙, 奉書紙, 半紙	5	校訂(墨), 書簡反故紙を一部使用	Ⅲ-153-8
1091	〔覚書〕(安永九年正月～十二 月支払受取類)	仮綴	1綴	(安永9年)正 月七日～子 十二月廿一 日	いつみや文助 ほか	頼弥太郎様	16.0 × 70.6 (最大)	楮紙	5	黒文円印1顆, 「いつみや文助」の受取書明細に大日本史献本(写本)関係の諸紙類・摺代金などの記載あり	Ⅲ-153-9
1092	〔覚書〕(天明元年九月, 十月 支払受取類)	仮綴	1綴	丑(天明元 年)九月廿一 日～十月晦 日	前川清三郎ほ か	頼弥太郎様	17.0 × 41.5 (最大)	楮紙	22	朱文長円印「前川清三郎」2顆, 黒文長方印1顆, 黒文円印1顆	Ⅲ-153-10
1093	〔覚書〕(天明元年五月支払受 取類)	仮綴	1綴	丑(天明元 年)五月廿八 日	いつみや文助 ほか	頼弥太郎様	17.0 × 53.6 (最大)	杉原紙, 半紙	16	黒文円印1顆	Ⅲ-153-11
1094	覚(差引書付, 卯ノとし分)	状	1通	辰(文化5年) 正月	室屋喜右衛門	(頼)弥太郎様	12.1×42.8	半紙		端裏書「卯ノとし分」, 校訂(貼紙に墨)	Ⅲ-391-1

文書・記録類

番号	名称	材質形状	員数	年代	作成者	宛所	法量	料紙	丁数	備考	管理番号
1095	覚(辰ノとし分, 万四郎様御分)	状	1通	巳(文化6年)之春	(室屋喜右衛門)	(頼春水)	14.1×39.1	諸口紙		端裏書「辰ノとし分」, 校訂(貼紙に墨), 注記(付紙に墨), 付紙(16.3×3.1, □)「此かけ紙ハ岩戸直次算しらへニ而出入三匁余室屋ヲ渡し不足ニ成候へ共, 無沙汰ニいたし參らせ候, 是御通ニそれぞれ違ひ積り之事申候」	III-391-2
1096	覚(御指引書付・巳ノとし分)	状	1通	午(文化7年)正月	室屋喜右衛門	(頼春水,) 万四郎様御分	14.0×56.4	諸口紙		端裏書「御指引書付 巳ノとし分」, 注記(付紙に墨)	III-391-3
1097	覚(午ノとし差引)	状	1通	未(文化8年)正月	室屋喜右衛門	(頼) 弥太郎様	14.1×38.5	諸口紙		端裏書「午ノとし差引 室屋」	III-391-4
1098	[覚](権次郎東行入用金の江戸持参につき)	状	1通	(文化8年)	京橋(頼杏坪)	本家(頼春水)	14.0×15.2	諸口紙			III-391-5
1099	覚(未年さし引書付)	状	1通	申正月	室屋喜右衛門	(頼) 弥太郎様	12.0×41.0	半紙		端裏書「未年さし引書付」, 校訂(朱), 注記(付紙に墨)	III-391-6
1100	[覚](申のとし差引)	状	1通	酉(文化10年)正月	(室屋喜右衛門)	(頼春水)	14.1×42.6	諸口紙		端裏書「申のとし差引」, 注記(付紙に墨, 糊離れ), 付紙(11.9×4.8, 半紙)「此内七百弍拾七匁五分八リ, 万四郎方へ入レ可被下候, のこり七貫七百匁七分, 右手形ニ被成可被下候」	III-391-7
1101	覚(癸酉のとし室屋さし引)	状	1通	戌(文化11年)正月	室屋喜右衛門	(頼) 春水様	14.1×34.4	諸口紙		端裏書「癸酉のとし室屋さし引」, 覚(二月, 室屋より頼様宛, 12.0×16.7, 半紙)を上から貼付	III-391-8
1102	覚(庚戌の秋祠堂入用につき)	状	1通	戌(寛政2年)八月六日	指物屋市郎右衛門	頼様御用	29.1×27.1	諸口紙		紙帯にてIII-392-1~2を一括, 紙帯「庚戌之秋 祠堂入用書付二紙」 「庚戌祠堂立直之節, 指物屋市郎右衛門仕出し書付」, 黒文円印3顆	III-392-1
1103	覚(庚戌の秋祠堂入用につき)	状	1通	戌(寛政2年)八月廿八日	指物や市郎右衛門	頼様御用	28.5×30.3	諸口紙		黒文円印3顆	III-392-2
	西研屋町町宅之件										III-154
1104	覚(支配銀四貫目借用につき)	状	1通	(天明2年)六月	(頼春水)	茶屋次郎右衛門	13.9×27.6	諸口紙			III-154-1
1105	覚(西研屋町居宅売渡証文写)	状	1通	天明 貳年 寅七月	富士屋喜兵衛 ／富倉屋宇八	頼弥太郎様 ／頼 弥 太 郎 様 御支配人御中様	16.4×37.1	杉原紙			III-154-2
1106	口上(西研屋町居宅買取代銀借用につき)	状	1通	寅(天明2年)七月	頼弥太郎	室屋喜右衛門様	14.5×34.1	諸口紙		端裏書「旧宅富士屋方へ四貫弍百匁ニ戻し」, 同「西研屋町旧宅富士屋喜兵衛 富倉屋宇八方買取候ニ付, 売渡し証文有之, 右二通ニ此手紙差添, 茶屋次郎右衛門方へ遣し置, 次郎右衛門方請書老通室屋喜右衛門へ渡し候分, 此方へ受取置候, 然ル所それぞれ差戻し無出入相済」, この上に貼紙「西研屋町町宅之件」, 注記(端裏貼紙に墨)	III-154-3
1107	[植田某書簡](頼氏借受の家につき)	状	1通	江戸後期	(植田先生)	(室屋喜右衛門)	14.4×30.2	諸口紙		端裏書「植田先生より喜右衛門へ来書」	III-154-4
1108	御返納銀年々積り書(卯年の暮より巳年の暮まで十五ヶ年賦)	状	1通	(天明2年)	(頼春水カ)		14.5×137.4	諸口紙			III-154-5
1109	[喜兵衛書簡](研屋町家賃受取につき)	状	1通	七月十一日	喜兵衛	(林) 堅良様	14.5×35.9	諸口紙		封上書「堅良様 内用 喜兵衛」, 端に頼春水宛林堅良書簡(十一日付, 14.7×14.2, 諸口紙)を貼付	III-154-6
1110	覚(支配銀返上皆済につき)	状	1通	戌(寛政2年)九月	茶屋次郎右衛門	室屋喜右衛門殿	14.7×36.4	諸口紙		端裏貼紙「返納銀覺書」, 注記(付紙に墨, 端裏貼紙に墨)	III-154-7
1111	年賦銀請取通(支配銀返上皆済につき)	横帳	1冊	寛政二年 戌九月五日	茶屋次郎右衛門	室屋喜右衛門殿	14.3×46.0	諸口紙	2	黒文方印5顆, 黒文楕円印9顆, 包紙(28.3×45.3, 諸口紙)あり, 包紙「年賦銀請取通」	III-154-8

文書・記録類

番号	名称	材質形状	員数	年代	作成者	宛所	法量	料紙	丁数	備考	管理番号
1112	[小片「戌ノ夏七十之内」]	状	1通	戌ノ夏			5.6×5.2	楮紙			Ⅲ-154-9
1113	1) 覚(小むぎ, わら, 手間賃請求)	状	1通	十一月十五日	久兵衛		12.3×16.9	半紙		紙縫にてⅢ-155-5-1~9を一括	Ⅲ-155-5-1
1113	2) 覚(手間賃受取)	状	1通	十一月廿二日	久兵衛		12.4×8.9	半紙			Ⅲ-155-5-2
1113	3) 覚(手間賃請求)	状	1通	十一月廿七日	久兵衛		12.3×10.1	半紙			Ⅲ-155-5-3
1113	4) 覚(釘代受取)	状	1通	十二月	久兵衛		12.4×21.1	半紙			Ⅲ-155-5-4
1113	5) 覚(竹代請取)	状	1通	十一月廿五日	大はらや忠助 久兵衛取次		12.3×25.5	半紙			Ⅲ-155-5-5
1113	6) 覚(手間賃請求)	状	1通	十一月廿二日	屋ねや□		12.3×14.3	半紙			Ⅲ-155-5-6
1113	7) 覚(御かこ供式人代受取, 残り請求)	状	1通	十一月廿七日	弥助		12.4×25.4	半紙			Ⅲ-155-5-7
1113	8) 覚(材木代受取)	状	1通	十二月四日	小松屋万次郎	御屋敷様御用	14.2×19.0	諸口紙			Ⅲ-155-5-8
1113	9) 覚(材木代受取)	状	1通	十一月十三日	小松屋万次郎	御屋敷様御用	14.5×53.2	諸口紙		黒文円印1顆, 端裏書「馬屋入用」	Ⅲ-155-5-9
1114	厩道具(あらい轡, 鼻革, 臥す衣, たらひ, 飼桶など荒増右之通二御座候)	状	1通	江戸後期			14.0×68.0	諸口紙			Ⅲ-155-6
1115	覚(馬屋入用控)	状	1通	江戸後期	(頼春水)		12.5×24.1	半紙			Ⅲ-155-7
1116	覚(釘代受取)	状	1通	二月卅日	久兵衛		14.3×18.8	諸口紙			Ⅲ-155-8
1117	覚(五勿割木二拾本代請取)	状	1通	亥二月廿九日	たはこや藤七	頼様御用 御支配人中様	14.6×13.0	諸口紙		黒文円印「広島平塚浜 たはこや藤七」1顆	Ⅲ-155-9
1118	覚(拾勿割木六拾本代請取)	状	1通	亥三月九日	たはこや藤七	頼様御用	14.4×11.1	諸口紙		黒文円印「広島平塚浜 たはこや藤七」1顆	Ⅲ-155-10
1119	覚(餅五升つきちん受取)	状	1通	三月二日	こふま屋源右衛門	頼様御屋敷御用	13.5×15.2	諸口紙		黒文円印1顆	Ⅲ-155-11
1120	覚(屋たら木, 船ちん, たちん受取)	状	1通	亥三月十二日	□せば甚蔵		14.5×15.6	諸口紙		端裏書「亥三月十二日」	Ⅲ-155-12
1121	覚(ぬりあふみ, くら, 吸物わん五人前等受取)	状	1通	亥の三月五日	ふしみや吉蔵	御屋敷様御用	14.5×32.9	諸口紙			Ⅲ-155-13
1122	覚(諸費勘定)	状	1通	亥二月	□□久二郎	頼様御用	12.6×21.1	諸口紙			Ⅲ-155-14
1123	覚(蛸代勘定)	状	1通	亥三月	はしや□□	来様御用	14.6×15.3	諸口紙			Ⅲ-155-15
1124	[覚](金一両式歩かへ勘定差引書)	状	1通	江戸後期			17.9×13.1	楮紙			Ⅲ-155-16
1125	覚(詩韻含莫代銀受取)	状	1通	戌十月廿日	今津屋辰三郎	頼先生様	16.5×19.3	楮紙		黒文円印「今辰」1顆, 端裏書(頼春水筆)「今津屋銀受取」, 注記(付紙に墨)	Ⅲ-155-17
1126	覚(銀百四拾目, 頼弥太郎様方槩請取申候)	状	1通	十二月三日	金山重左衛門	田中藤七様 (長田屋藤七)	16.5×23.6	楮紙		黒文長方印「金山用場」2顆	Ⅲ-155-18
1127	覚(二重黒塗墓, 三重赤塗同代金受取)	状	1通	十一月五日	廣嶋一屋	長田屋藤七様	17.7×18.4	楮紙		黒文円印1顆	Ⅲ-155-19

文書・記録類

番号	名称	材質形状	員数	年代	作成者	宛所	法量	料紙	丁数	備考	管理番号
1128	覚(大坂長田屋差引書付)	状	1通	戊十二月十八日	田中藤七	頼様	13.9×39.1	楮紙		黒文方印1顆, 端裏書(頼春水筆)「大坂長田屋差引書付 戊十二月十八日迄」	III-155-20
1129	覚(銀式百式拾九匁三分受取)	状	1通	戊十二月三日	鉄屋藤兵衛	長田屋藤七殿	27.2×20.4	楮紙		黒文円印3顆	III-155-21
1130	覚(極上唐紙五拾枚代銀受取)	状	1通	十二月十六日	箕屋弥兵衛	長田屋様	24.9×17.0	半紙			III-155-22
1131	覚(馬屋入用人数, 小麦わら代勘定)	状	1通	辰極月	□□中村半蔵	頼様	14.6×38.7	諸口紙			III-155-23
1132	覚(きぬ御扶持高, 小遣, 宿元へ御扶持高二付書付)	状	1通	二月十一日			12.5×43.5	半紙		付紙(12.2×5.2, 半紙)「此三口佐一郎様江伺ひ申候処, 可然之由御差図有之候事」	III-155-24
1133	[包紙](餘一義, 嫡子ニ相成候書付などの包紙)	状	1通	文化十二年乙亥四月六日	(頼春水)		20.2×25.6	小半紙		上書「奉書并被仰付御書付, 且御用人青木弥大夫殿取持書付共 文化十二年乙亥四月六日」	III-157-1-1
1134	1) [書付](景讓病死ニ付, 頼春水口上書への回答)	状	1通	(文化12年)四月五日	仙石隼人	青木弥大夫様	13.9×30.8	色諸口紙		封上書「青木弥大夫様 仙石隼人」	III-157-2-1
1134	2) 極御内々申上候覚(景讓病死ニ付, 孫餘一に家督を譲りたい事)	状	1通	(文化12年)二月六日	頼弥太郎		14.5×52.3	諸口紙		包紙(24.9×11.3, 半紙)「極御内々口上書老通 頼弥太郎」	III-157-2-2
1134	3) [下書](餘一儀次男養子ニ願出仕度候事)	状	1通	(文化12年)七月十五日	(頼杏坪)		13.9×44.0	諸口紙		端裏書「此分茶山へ出ス 七月十五日」, 校訂(墨, 貼紙に墨)	III-157-2-3
1134	4) [下書](頼餘一儀弥太郎養子ニ願出仕度, 親族之至情御内々申上候)	状	1通	(文化12年)	(頼杏坪)		12.5×99.3	半紙		端裏書「餘一事 三月十九日直一へ出ス」	III-157-2-4
1134	5) [達書](格別之思召を以餘一義弥太郎嫡子ニ可仕旨被仰付候)	状	1通	(文化12年4月6日)		頼弥太郎	15.2×70.7	杉原紙			III-157-2-5
1134	6) [下書](孫餘一義嫡子被仰付難有仕奉存候事)	状	1通	文化十二年乙亥四月六日	(頼春水)		13.7×30.8	色諸口紙		端裏書「為知文三ツ如此ニ而可然との事 文化十二年乙亥四月六日」	III-157-2-6
1134	7) [菅茶山書簡](令孫餘一殿御家督被仰付候由慶出度奉存候)	状	1通	(文化12年)八月廿四日	菅太中晋帥	頼弥太郎様	15.0×41.6	杉原紙			III-157-2-7
1135	[達書](跡目之御礼被為請候間, 来月朔日可有登城候)	状	1通	(文化12年)六月廿八日	沢井半外, 西川牧太	頼餘一殿	13.9×57.0	色諸口紙		封上書「頼餘一殿 沢井半外, 西川牧太」	III-157-3
1136	続書(頼餘一続柄)	状	1通	(文化12年)九月	頼餘一		14.0×78.0	諸口紙		端裏書「○要用」	III-157-4
1137	覚(買物直段控)	状	1通	文化九年申冬十二月廿九日	山	頼様	14.0×41.0	諸口紙		付紙(諸口紙, 頼杏坪筆)「文化九年申冬十二月 典物山崎やへ為持遣申候所, 別紙之通直段申越候(中略)廿九日」, 同・裏「万四郎」	III-166-13
1138	[達書](新受方ニ付書付)	状	1通	巳極月	御勘定所	進藤吉之助殿	14.0×44.8	色諸口紙		端裏書(頼春水筆)「新受方ニ付書付」, 「進藤吉之助殿分」	III-166-25-1
1139	[覚書](進藤吉之助の借金算用書)	状	1通	巳極月	(御勘定所)	進藤吉之助	12.1×19.0	色半紙			III-166-25-2

文書・記録類

番号	名称	材質形状	員数	年代	作成者	宛所	法量	料紙	丁数	備考	管理番号
1140	〔写〕(進藤吉之助借金に関する書付二通の写)	状	1通	(巳極月カ)	(頼春水)		12.5×80.7	半紙		端裏書(頼春水筆)『御勘定所仕向ニ成候申出書うつし』,『如元之節御勘定所方書付うつし』との記載あり,Ⅲ-166-25-1の写	Ⅲ-166-26
1141	〔覚書〕(進藤吉之助カ,受借・利足・返銀に関する書付)	状	1通	江戸後期			12.4×19.7	半紙			Ⅲ-166-27
1142	〔書付〕(万四郎へ尋合之両条ニ付,間重富の回答を御下ヶ候事)	状	1通	(寛政10年カ)二月十一日	山本屯	頼弥太郎様	12.1×29.6	色半紙		包紙(24.2×17.0,色半紙)にてⅢ-167-9とⅢ-322-30「間重富書簡」を一括,包紙「頼弥太郎様 山本屯 天文者間五郎兵衛考書付 □□□」	Ⅲ-167-9
1143	〔目録〕(服紗御単物,晒御肌召)	状	1通	江戸後期		頼弥太郎	16.5×23.5	奉書紙		端裏貼紙(色諸口紙)「頼弥太郎」	Ⅲ-167-10-1
1144	〔目録〕(紬嶋一反,右孝行奇特者行状書続御用出精相勤候ニ付)	状	1通	(文化7年)		頼弥太郎	15.7×22.3	杉原紙			Ⅲ-167-10-2
1145	覚(孝行奇特者書續御用出精相勤候ニ付,御褒美之事)	状	1通	文化七年庚午十二月廿二日			12.0×28.7	半紙		端裏書(頼春水筆)「文化七年庚午十二月」	Ⅲ-167-11
1146	〔達書〕(御用之儀候間,明六日可有登城候)	状	1通	四月五日	浅野縫殿,仙石隼人,石井内膳	頼弥太郎殿	14.0×38.1	色諸口紙		封上書「頼弥太郎殿 浅野縫殿 仙石隼人 石井内膳」	Ⅲ-242-11
1147	覚(一 刀代銀式拾枚)	状	1通	(文化5年)辰四月	進藤吉之助	頼弥太郎様	17.5×23.6	楮紙		紙帯にてⅢ-328-4-1~5,包紙(24.6×34.6,半紙)にてⅢ-328-4-1~3を一括	Ⅲ-328-4-1
1148	覚(金式拾両,就要用致借用候)	状	1通	文化五年戊辰九月	進藤吉之助	室屋善右衛門殿	29.4×22.7	諸口紙		黒文契印2顆	Ⅲ-328-4-2
1149	〔添書〕(此通相認メ申候,御考御差図奉希候)	状	1通	(文化五年戊辰九月)	(進藤吉之助)	(頼春水)	12.0×9.8	半紙		Ⅲ-328-4-2の添書カ	Ⅲ-328-4-3
1150	御尋之趣ニ寄夫々御答并愚存申上候(頼家・進藤家婚礼一件)	状	1通	(文化5年)	(媒酌人カ)	(頼春水)	14.3×64.8	諸口紙		別紙添書(14.3×22.2,諸口紙)あり	Ⅲ-328-4-4
1151	〔書簡〕(三品御恵投被成下忝幾久敷祝納可仕候事)	状	1通	(文化5年)四月廿八日	清水民司	頼弥太郎様	15.1×75.6	杉原紙		封上書「頼弥太郎様 清水民司 拝具」	Ⅲ-328-4-5
1152	〔覚書〕(寺尾弥祐申聞候付書付)	状	1通	文化六年己巳十一月	(頼春水)		14.1×15.8	諸口紙		端裏書(頼春水筆)「文化六年己巳十一月 寺尾弥祐申聞候付書付」	Ⅲ-336-9
1153	〔恭昭公(浅野重晟)墓銘下書〕(芸備両国守護従四位下左近衛権少将源朝臣之墓)	状	1通	江戸後期	(頼春水カ)		12.3×19.8	半紙		校訂(墨)	Ⅲ-336-21
1154	〔包紙〕(遺物御目鏡)	状	1通	江戸後期	田中惣兵衛	頼弥太郎様	28.4×45.7	諸口紙		封上書「頼弥太郎様 遺物 田中惣兵衛 御目鏡 一」	Ⅲ-349-5
1155	〔包紙〕(癸亥九月九日名称改正書付式通)	状	1通	癸亥九月九日(享和3年)	(梶山)六一,(手島)伊助		24.6×16.7	半紙		封上書「癸亥九月九日名称改正 書付式通 老通都具男事 六一 伊助」	Ⅲ-349-7
1156	覚(御江戸御道中の人足・駕籠代等につき)	状	1通	(享和2年)八月	紙屋町わたや長蔵	頼弥太郎様御内 手島伊助様	29.1×42.0	諸口紙(豎紙)		黒文円印3顆	Ⅵ-4-1
1157	御請合申上候賃金之事	状	1通	亥(享和3年)ノ四月	素波屋忠助	頼様御用	28.1×41.7	美濃紙		黒文方印1顆,端裏書(頼春水筆)「享和三年江戸方帰候節」	Ⅵ-4-2

文書・記録類

番号	名称	材質形状	員数	年代	作成者	宛所	法量	料紙	丁数	備考	管理番号
1158	御道中金請取御通	状	1通	享和三亥年 四月吉日	素ば屋忠助	頼様御内 曾 川幸次良様	14.0×10.2	美濃紙		黒文方印13顆	VI-4-3
1159	覚(貸銀支払いにつぎ)	状	1通	亥(享和3年) 七月	万年屋藤兵衛	雷弥太郎様	23.9×18.8	半紙		黒文円印3顆	VI-4-4
1160	口上之覚(熊吉, 学問修業のため私方へ引越につぎ)	状	1通	(享和元年) 八月廿一日 / 八月廿八日	頼弥太郎		14.1×34.8	諸口紙		端裏書「要用」, 「山陽脱藩始末」関係資料のうち, 「口上之覚」(八月廿一日付)はII-8-3-4の写し	III-168-1
1161	口上之覚(実弟千齡倅熊吉養子願)	状	1通	(享和3年)十月 八月日	頼弥太郎		14.5×23.9	諸口紙		「山陽脱藩始末」関係資料のうち, 端裏付紙(頼春水筆)「頼弥太郎」, 同付札(13.7×7.1, 色諸口紙)「頼弥太郎 此儀, 勝手次第願書可被差出候」, 同(頼春水筆)「享和三年辛亥のとし」	III-168-2
1162	[熊吉養子願許可書]	状	1通	(享和4年正月 15日)		頼弥太郎	16.9×23.6	杉原紙		「山陽脱藩始末」関係資料のうち	III-168-3
1163	[包紙]		1点	癸亥(享和3年)	手島伊助		24.3×16.9	半紙		封上書「奉申上 手島伊助」, 端裏書「檻生之事 癸亥極月出し被成候時之書付」, 「山陽脱藩始末」関係資料のうち, II-8-3-16の包紙	III-168-4
1164	1) [伺書](堺町紙屋之唐紙御取寄被遣候哉)	状	1通	九月十八日	頼弥太郎	山本屯様, 青 木弥大夫様	14.4×27.0	諸口紙		III-177-1-1~2を貼継, 封上書「山本屯様 青木弥大夫様 頼弥太郎」	III-177-1-1
1164	2) [書付](口上: 御差上状日付二付)	状	1通	十二月五日	頼弥太郎 / 木 村主膳, 三谷 十五郎	木村主膳様, 三谷十五郎様 / 頼弥太郎様	14.5×22.5	諸口紙		封上書「木村主膳様 三谷十五郎様 頼弥太郎 差向」, 封上書書入れ「下」「上」様(他に宛名に合点あり), 本紙に返答書入れ(三谷十五郎筆)	III-177-1-2
1165	[書付](来月丁祭日取之儀二付)	状	1通	正月十八日	頼弥太郎	加藤三平様, 梅園勝馬様	13.9×23.5	諸口紙		封上書「加藤三平様 梅園勝馬様 頼弥太郎」	III-177-2
1166	[口上之覚](四書語録 浅野佐次馬献備二付申上る控)	状	1通	(文化7年)十月	(頼春水)		12.5×22.2	半紙		端裏書「四書語録之事, 文化七年 庚午十月」	III-177-3
1167	[春水書簡控](和文之趣愚弟とも申值候事)	状	1通	(江戸後期) 六月五日	頼弥太郎惟完	池田直一様	12.4×14.8	半紙		前欠	III-177-6-10
1168	[草稿](儒教における忌日, 法事(祭)執行についで書試)	状	1通	江戸後期	(頼春水)		12.3×93.6	半紙		校訂(墨), 前欠	III-177-7
1169	[草稿](攷求立法の意, 変革の道理ニ当たること他, 書試)	状	1通	江戸後期	(頼春水)		12.4×30.8	半紙		校訂(墨)	III-177-8
1170	[草稿](政事における法ニ付書試)	状	1通	江戸後期	(頼春水)		12.4×99.9	半紙		校訂(墨), 墨抹	III-177-9
1171	[吾助子共咎之通達下書]	状	1通	江戸後期	(頼春水カ)		14.1×53.0	諸口紙		校訂(墨), 墨抹	III-177-10
1172	[供之者毎々 不作法を戒る通達写]	状	1通	(寛政7年)乙 卯九月十四日	(頼春水)		14.4×40.2	諸口紙		端裏書(頼春水筆)「乙卯九月十四日席通し」, 「御山狩之事ヲ此己後ハ御山獵と唱候様被仰付候事, 九月十四日席通し」	III-177-11
1173	[書試](千齡へ預ヶ候浜ニ付, 邪魔入り迷惑至極之事)	状	1通	(文化11年 カ)	(頼春水カ)		14.3×23.1	諸口紙		校訂(墨)	III-177-12
1174	[問合](竹原模相浜ニ付急ぎ伺い)	状	1通	(文化11年 カ)廿六日	(頼春水)		14.1×12.7	諸口紙		付札(11.7×7.8 色半紙)あり	III-177-13
1175	[書試](千齡預り浜ニ付, 模相有無と受渡し之事ニ付, 三国屋へ示談)	状	1通	(文化11年 カ)	(頼春水)		14.2×26.3	諸口紙		校訂(墨), 付紙(11.8×4.3, 色半紙)あり	III-177-14

文書・記録類

番号	名称	材質形状	員数	年代	作成者	宛所	法量	料紙	丁数	備考	管理番号
1176	口上之覚(石川台之進義絶申込二付, 伺書控)	状	1通	(享和元年)十月十四日	頼弥太郎		14.5×45.0	諸口紙		端裏書(頼春水筆)「石川台之進義絶申込二付, 書付 享和元年辛酉十月十四日ひかへ御年寄外衛殿へ出ス」	Ⅲ-177-17
1177	[口上書付紙控](此度助授を句読師と改申度候二付)	状	1通	(天明6年)正月	(頼春水)		12.3×23.4	半紙		端裏書(頼春水筆)「付紙 清水弁之助此義両様申出候通ニ宜被申談候」	Ⅲ-177-18
1178	[竹原大原浜之事, 模相浜先例之儀ニ付 書試]	状	1通	(文化11年)	(頼春水)		14.2×150.7	色諸口紙		端裏書「書試 竹原大原浜之事, 喜右衛門ハ半三郎外従兄故ニ殿付ケテ書試申候」, 校訂(墨, 貼紙に墨)	Ⅲ-177-19
1179	1) [奉書](御奥詰次席任命)	状	1通	(天明8年)七月十四日		頼弥太郎	16.6×23.4	奉書紙		Ⅲ-177-20-1~4まで貼継, 端裏書(頼春水筆)「奥詰次席被仰付 誓詞」七月十四日 九曜之間にて浅野縫殿殿被申渡御目付今村五八郎立合	Ⅲ-177-20-1
1179	2) [達書](御奥詰次席被仰付ニ付誓詞差出命令)	状	1通	(天明8年)七月十四日	植木求馬, 澤茂大夫, 奥玄蕃, 澤井正八郎	頼弥太郎殿(頼春水)	14.1×81.4	色諸口紙		封上書「頼弥太郎殿 植木求馬 澤茂大夫 奥玄蕃 澤井正八郎」	Ⅲ-177-20-2
1179	3) [達書](明五日誓詞前書神文持参, 判形可有之候)	状	1通	(天明8年)八月四日	植木求馬, 澤茂大夫, 奥玄蕃, 吉川禎蔵, 澤正八郎	頼弥太郎殿(頼春水)	13.8×38.5	色諸口紙		封上書「頼弥太郎殿 植木求馬 澤茂大夫 奥玄蕃 吉川禎蔵 澤井正八郎」	Ⅲ-177-20-3
1179	4) [誓詞神文控]	状	1通	天明八年戊申八月五日	頼弥太郎, 血書判		14.5×20.3/15.2×28.2	諸口紙		端裏書(頼春水筆)「ウツシ」, 神文部分は頼春水宛其浦三郎書簡包紙の反故紙を使用	Ⅲ-177-20-4
1180	[達書](丁祭正献官任命)	状	1通	江戸後期		(頼春水)	13.8×21.1	色諸口紙			Ⅲ-177-21
1181	[学問所稽古始議定控]	状	1通	寛政九年丁巳正月十一日	(頼春水)		14.2×26.2	諸口紙		端裏書(頼春水筆)「寛政九年丁巳正月十一日議定」	Ⅲ-177-22
1182	[書付](学問所書物訓点之事)	状	1通	十一月	梅園文平, 金子源内	(頼春水)	12.1×51.1	半紙		端裏書(頼春水筆)「学問所書物訓点之事 十一月」	Ⅲ-177-23
1183	[届出控](頼万四郎江戸へ被遣ニ付)	状	1通	(寛政9年)三月四日	頼弥太郎	教授方	14.0×23.4	諸口紙		封上書「教授方」	Ⅲ-177-24
1184	[校正仕候書物目録控]	状	1通	(天明8年)十一月七日	(頼春水)		14.5×23.7	諸口紙		端裏書(頼春水筆)「戊申十一月八日出勤之上, 村越十大夫殿へ直ニ差ス」	Ⅲ-177-25
1185	[郡役所より, 諸経費払出しの旧弊ニ付申上る書試]	状	1通	江戸後期	(頼春水)		13.9×47.0	諸口紙			Ⅲ-177-32
1186	[ごみ取と申者, 城下の堀, 溝の維持に有用と申上る書試]	状	1通	江戸後期	(頼春水)		11.7×65.2	色半紙		校訂(墨), 注記(朱)	Ⅲ-177-33
1187	学問所之事(教授方出勤之事ニ付書試)	状	1通	文化十二年乙亥十二月	(頼春水)		12.4×57.8	半紙		端裏書(頼春水筆)「学制書試 文化十二年 乙亥十二月 病牀ニ而書試ニ通之内」	Ⅲ-177-34-1
1188	[講釈之内, 近思録は至て大切之書ニ付書試]	状	1通	文化十二年乙亥十二月	(頼春水)		12.4×162.8	半紙		端裏書(頼春水筆)「△ニ通之内」	Ⅲ-177-34-2
1189	[御家中一統, 水道水はき悪敷ニ付愚案]	状	1通	文化二年乙丑のとし	(頼春水)		12.2×24.9	半紙		端裏書(頼春水筆)「文化ニ乙丑のとし 此前ニ一通長文有之」, 校訂(墨)	Ⅲ-177-35
1190	1) [書付](明日御機嫌伺の着服ニ付, 伺い)	状	1通	八月廿二日	頼弥太郎/御代勤中	御代勤中様/頼弥太郎様	12.5×18.2	半紙		Ⅲ-177-36-1~4まで貼継, 封上書「御代勤中様 頼弥太郎」, 封上書書入れ「下」「上」「様」, 返答書入れあり	Ⅲ-177-36-1

文書・記録類

番号	名称	材質形状	員数	年代	作成者	宛所	法量	料紙	丁数	備考	管理番号
1190	2) 口上(差上紙之日付御書入被成遣候様奉願候)	状	1通	十月廿五日	頼弥太郎	上坂新助様, 三谷十五朗様	12.2×13.4	半紙		封上書「上坂新助様 三谷十五朗様 頼弥太郎」, 返答書入れあり	Ⅲ-177-36-2
1190	3) [届出控](私儀今朝御寺話之処腹合患敷引取申度候)	状	1通	十一月十三日	頼弥太郎	御目付中様	14.4×14, 9	諸口紙		封上書「御目付中様 頼弥太郎」	Ⅲ-177-36-3
1190	4) 口上(今日於御城, 孫餘一嫡子ニ仕候事此段御知せ申上候控)	状	1通	(文化12年) 四月六日	頼弥太郎	薄田十郎右衛門様	14.4×21.8	諸口紙		封上書「薄田十郎右衛門様 頼弥太郎」	Ⅲ-177-36-4
1191	口上之覚(私倅久太郎義, 今日出立ニ付, 伺書控)	状	1通	(文化7年)	(頼春水)		14.5×12.6	諸口紙		墨抹	Ⅲ-177-37
1192	[伺書](餘一義, 此度弥太郎嫡子被仰付候ニ付御礼の口上)	状	1通	(文化12年)	頼弥太郎		14.2×31.8	諸口紙		草稿途中のもの	Ⅲ-177-38
1193	[書付](御書付しらべ之儀ニ付)	状	1通	六月廿三日	築山嘉平	頼弥太郎様, 頼万四郎様	13.8×55.5	色諸口紙		封上書「頼弥太郎様 頼万四郎様 築山嘉平」, 端裏書(頼春水筆)「返事済」	Ⅲ-177-40-1
1194	[江戸生花堂製筆一枝, 付, 侄一郎]	状	1通	江戸後期	寡伯父春水(聿庵代筆カ)	侄一郎(頼采真)	16.7×8.9	杉原紙		包紙(18.6×4.8, 三桤紙), 表書「佐一郎様 梅颯」	Ⅲ-180-15
1195	[覚書](句読師座次之事ほか)	状	1通	江戸後期	(頼春水)		13.9×13.5	諸口紙		前欠, 変色甚	Ⅲ-290-89
1196	[触書写](質素節儉ニ付, 漁獵乱舞など諸事戒め達)	状	1通	七月	年寄中		14.4×33.5/ 14.4×19.7	諸口紙		2枚に分かれ, 間に欠損部分あり, 変色甚	Ⅲ-293-5
1197	[書付](御下ケニ相成り候楽器之来由書付之義ニ付)	状	1通	二月十一日	築山嘉平	頼弥太郎様	14.2×30.5	色諸口紙		封上書「頼弥太郎様 築山嘉平」	Ⅲ-312-35
1198	[書付](此間御申聞候御書物, 御返上之事)	状	1通	七月廿九日	青木弥大夫	頼弥太郎様	11.4×23.7	色半紙		封上書「頼弥太郎様 青木弥大夫」	Ⅲ-312-36
1199	[書付](御言葉之儀, 并兼而被仰付御筆勞事承知仕候事)	状	1通	十月十三日	大谷犀次	頼弥太郎様	11.8×40.6	色半紙		封上書「頼弥太郎様 大谷犀次 御答」, 2枚に剥離	Ⅲ-312-37
1200	覚(牛革番具足一領代銀受取書)	状	1通	庚午(文化7年) 正月十二日	三原青木屋新四郎	頼弥太郎様 御内 石川兵藏様	26.0×17.8	楮紙		黒文円印「備後三原青木」1顆, 端裏書(頼春水筆)「三原青木屋新四郎取計 生牛革具足代之事」	Ⅲ-314-4
1201	着服之事御触	状	1通	江戸後期			14.3×35.8	諸口紙		端裏書(頼春水筆カ)「着服之事御触」, 「年頭着服, 御留守年者元日斗御在国之通り兼而被仰出候得共, 此已後年頭之着服者都而御留守年も文化二年被仰出候御在国年頭着服御定之通着用不苦候」との記載あり	Ⅲ-325-60
1202	[書付](御泉水御用の書面につき)	状	1通	十二月念八日			12.0×20.0	色半紙			Ⅲ-326-94
	藤井東珉書付									包紙(24.8×33.2, 半紙)にてⅢ-327-1~12まで一括, 包紙「藤井東珉カ預置書付」, 「藤井東珉カ預物田地売証文四通, 同小書付老通, 道具預切手老通, 右木地屋忠兵衛承置候事, 外二久太郎書老通」, 同・裏書「七月十六日四町目伊屋庄右衛門宅病床ニ而受取忠兵衛も其[]居合候事, 売証文も四通にてハ足り不申其餘ハ紛失との事」	Ⅲ-327
1203	永代ニ売渡申昌之事	状	1通	寛政六年 寅極月	売主与吉	買主 東珉殿(藤井東珉)	28.2×45.0	諸口紙		黒文印3顆, 端裏書「東民」	Ⅲ-327-1
1204	山林永代売渡証文之事	状	1通	寛政七年 卯十月四日	売主利吉	買主 東民(藤井東珉)	28.6×45.3	諸口紙		黒文印3顆	Ⅲ-327-2

文書・記録類

番号	名称	材質形状	員数	年代	作成者	宛所	法量	料紙	丁数	備考	管理番号
1205	永代売渡申田地之事	状	1通	寛政八年辰極月	売主庄助	買主東民殿(藤井東珉)	28.3×42.0	諸口紙		黒文印3顆	III-327-3
1206	永代売渡腰林之事	状	1通	寛政十年午極月	売主甚六	買主東民殿(藤井東珉)	28.4×44.6	諸口紙		黒文印3顆, 端裏書「甚六方東民ニ入」	III-327-4
1207	〔道具預手形〕	状	1通	申ノ六月日(寛政12年カ)	守口間村新右衛門	藤東民様(藤井東珉)	29.0×22.2	諸口紙		黒文印1顆	III-327-5
1208	かひ地覚(田地売買小書付)	折紙	1通	江戸後期	(藤井東珉)		14.5×40.0	諸口紙		紙縫綴のため開披不能	III-327-6
1209	覚(藤井東珉より預置書類之次第大略)	状	1通	文化壬申(9年)七月十八日	(頼春水)		12.4×49.7	半紙			III-327-7
1210	〔覚〕(小作料算用書付)	状	1通	文化五年辰三月改	給与頭万兵衛	(藤井)松年	14.2×22.4	諸口紙		端裏書「東民」	III-327-8
1211	覚(小作料算用書付)	状	1通	文化五年辰四月改	給与頭禎助	(藤井)松年	14.5×14.0	諸口紙		黒文印1顆	III-327-9
1212	〔書付〕(口上:松年へ相渡し申度書付預置度候事)	状	1通	(文化9年)七月五日	藤井東珉	頼権次郎様(景讓)	14.4×47.2	諸口紙		封上書「頼権次郎様 藤井東珉」	III-327-10
1213	〔書付〕(口上申上:御見舞い礼状)	状	1通	(文化9年)七月十二日	(藤井)東民	頼権次郎様(景讓)	14.7×26.6	諸口紙		封上書「頼権次郎様 四丁め東珉」	III-327-11
1214	〔書付〕(口上:御見舞い礼状)	状	1通	(文化9年7月)	(藤井)東民	頼権次郎様(景讓)	14.6×20.6	諸口紙			III-327-12
1215	〔書付〕(此油たん包ニ而受取置可被申候事)	状	1通	九月十六日	同人方(頼春水)	頼弥太郎方へ	11.7×15.2	色半紙		封上書(頼春水筆)「頼彌太郎方へ 同人方」	III-366-11
1216	〔書付〕(此者へ三ツ可被差越候)	状	1通	七日	同人方(頼春水)	弥太郎方へ	11.8×11.3	色半紙		封上書(頼春水筆)「弥太郎方へ同人方」	III-366-13
1217	〔書付〕(此人へたらい可被差越候)	状	1通	廿三日	同人方(頼春水)	弥太郎方へ	13.7×17.0	色諸口紙		裏打紙あり	III-366-14
1218	〔書付〕(竹本正純の詩, 此人へ被差越候事)	状	1通	九日	(頼春水)		11.8×24.0	色半紙		端裏書「用事 早々」	III-366-15
1219	〔書付〕(其節被仰聞候薄田屋へ米遣し申候儀ニ付)	状	1通	十月十四日	弥助(串田弥助)	弥太郎様	14.0×66.4	色諸口紙		端裏書(頼春水筆)「くし田〇 十四日出 十月廿四日日至」, 3枚に剥離	III-366-18
1220	1)〔書付〕(印を不残, 朱肉入と印矩を此者へ差越候事)	状	1通	江戸後期	同人方(頼春水)	弥太郎方へ	13.7×22.2	色諸口紙		III-367-4-1~5まで貼継, 封上書「弥太郎方へ 同人方 大急キ」, 端裏書「大成ふくさニ包ミうこかぬ様ニ可被致候」, 後欠	III-367-4-1
1220	2)〔書付〕(早々被帰候儀, 出来ニ付)	状	1通	廿四日	弥太郎	権次郎殿(頼景讓)	12.5×16.2	半紙		封上書「権次郎殿 弥太郎 無事 急キ」	III-367-4-2
1220	3)〔書付〕(来十六日之事, 并ニ勘次郎へ申談候事ニ付)	状	1通	十二日	弥太郎	権次郎殿(頼景讓)	11.9×16.2	色半紙		封上書「権次郎殿 弥太郎」	III-367-4-3
1220	4)〔書付控〕(学問所, 丁祭前斎ニ付)	状	1通	二月五日	頼弥太郎	石井内膳様	14.0×15.4	諸口紙		封上書「石井内膳様 頼弥太郎」	III-367-4-4
1220	5)〔書付控〕(伊達遠江守殿方私へ被下物之品ニ付)	状	1通	五月廿九日	頼弥太郎	木村八左衛門様, 田上武平次様	14.2×26.5	諸口紙		封上書「木村八左衛門 田上武平次様 頼弥太郎」	III-367-4-5

文書・記録類

番号	名称	材質形状	員数	年代	作成者	宛所	法量	料紙	丁数	備考	管理番号
1221	[願書下書] (飯岡直の逗留願)	状	1通	(寛政3年カ) 七月廿五日	(頼春水)		14.5×5.3	諸口紙			Ⅲ-368-12
1222	[書付] (戸坂村忠八娘きよ孝行につき, 褒美下賜の事)	状	1通		頼弥太郎	山下勘十郎様, 小笠原富口様	11.9×29.5	色半紙			Ⅲ-372-97
1223	覚(頼春風死去につき)	状	1通	(文政8年)九月十三日			14.0×21.1	諸口紙		九月十三日付の覚2通の写し	Ⅲ-246-2-5
1224	口上之覚(岡部八郎事, 句読師へ推挙申上候)	状	1通	七月	藤井修太郎		11.9×44.3	色半紙		付紙(色半紙)「教授方中 此通り御申談し之事」	Ⅲ-123-10-1
1225	口上之覚(別紙申出候趣, 一々同意に奉存候)	状	1通	七月	加藤三平, 金子徳之助, 梅園勝馬, 頼餘一, 植田精一郎, 加藤太郎三		14.1×30.5	色諸口紙			Ⅲ-123-10-2
1226	口上之覚(手島鷺一郎, 井上権太兩人を句読師へ推挙申上候)	状	1通	九月	藤井修太郎		11.5×45.6	色半紙			Ⅲ-123-11-1
1227	口上之覚(別紙申出之趣, 私共同意ニ奉存候)	状	1通	十月	金子徳之助, 梅園勝馬, 頼餘一, 坂井源三郎, 加藤太郎三		13.9×31.0	色諸口紙			Ⅲ-123-11-2
1228	口上之覚(私儀, 句読師御免被下候様奉存候)	状	1通	六月廿一日	二宮左太一		12.0×21.3	半紙			Ⅲ-123-12-1
1229	口上之覚(別紙申出之通, 私共も無余義奉存候)	状	1通	六月	加藤三平, 梅園勝馬, 頼餘一, 金子徳之助, 坂井孫三郎, 加藤太郎三		13.5×31.6	色諸口紙		紙背付札(色半紙)「教授方中 此通御申談可被成候」	Ⅲ-123-12-2
1230	口上之覚(幸丈右衛門事, 句読師本勤被仰付候様奉存候)	状	1通	二月	渡部孫平, 藤井修太郎, 中村兵太		11.8×40.2	色半紙			Ⅲ-123-13-1
1231	口上之覚(別紙申出候趣, 私共一々無余義同意ニ奉存候)	状	1通	二月	加藤三平, 梅園勝馬, 頼餘一, 金子徳之助, 坂井孫三郎, 加藤太郎三		14.0×34.0	色諸口紙			Ⅲ-123-13-2
1232	口上之覚(森雅十郎事, 句読師本勤被仰付度奉存候)	状	1通	三月	藤井修太郎		11.9×47.6	色半紙			Ⅲ-123-14-1

文書・記録類

番号	名称	材質形状	員数	年代	作成者	宛所	法量	料紙	丁数	備考	管理番号
1233	口上之覚(別紙申出之趣私共同意奉存候)	状	1通	三月	金子徳之助, 梅園勝馬, 頼餘一, 植田精一郎, 加藤太郎三		13.8×28.5	色諸口紙			Ⅲ-123-14-2
1234	[覚書](推挙のための口上書の覚)	一紙貼継	1巻	江戸後期	(頼聿庵)		14.0×771.5	諸口紙, 色諸口紙		校訂(墨), 反故紙使用	Ⅲ-123-17
1235	当御省略中諸略口申値題書	状	1通	江戸後期	(頼聿庵)		16.6×90.1	三桎紙		端裏書「書通」	Ⅲ-123-18
1236	[覚書](論語菅仲器小哉 経義)	状	1通	江戸後期	(頼聿庵カ)		12.4×34.4	楮紙		封上書「論語菅仲器小哉 経義 御帰城差向分学問中ヌケナル尋候事」, 包紙(17.0×12.0)	Ⅲ-123-22-2
1237	[伺書](伊助倅推挙ニ付)	状	1通	丑七月	頼餘一		14.5×36.8	諸口紙		校訂(墨), 前欠	Ⅲ-124-3
1238	覚(銀七百弍拾目借用証文)	状	1通	弘化四年未十月	頼餘一	植田小三郎殿	29.0×28.9	諸口紙		黒文円印2顆, (端裏)黒文方印2顆(墨抹), 端裏書「頼餘一」	Ⅲ-133-3
1239	書画目録	折紙	1通	江戸後期		聿庵様	14.5×43.0	諸口紙			Ⅲ-133-6
1240	[木坂文左衛門書簡](御返金被為遣候様偏奉歎願候につき)	状	1通	十二月九日	木坂文左衛門	頼様 御取次様	14.3×46.8	諸口紙			Ⅲ-133-8
1241	覚(四百五拾匁受取につき)	状	1通	午十二月廿三日	□□□豊太郎	頼様	12.5×15.0	半紙			Ⅲ-133-9
1242	[包紙](屋敷替被仰付候節差出書付)	状	1通	(文化14年)十一月十八日封置	頼餘一元協		24.0×33.0	半紙		封上書「文化十四年丁丑七月朔日, 屋敷替被仰付候節差出候書付歎書」[[]節, 大小姓頭沢井半外迄申込]「十一月十八日封置」「頼餘一元協」「本書ハ南大人[]上」「口入」「替」, Ⅲ-294-12「違書」と関連	Ⅲ-157-1-2
1243	[包紙](猿東町貞助偽筆に関する書付包紙)	状	1通	庚辰(文政3年)二月十一日	迂協(頼餘一)		24.0×16.3	半紙		封上書「猿東町 貞助偽筆候節諸(後欠) 庚辰二月十一日」 迂協	Ⅲ-157-1-3
1244	1)[達書](御用之儀候間東三郎同道可有登城候)	状	1通	(嘉永3年)三月五日	梶川角右衛門, 谷崎平司, 吉村孫三郎, 吉田儀右衛門, 杉田直馬	頼餘一殿	13.9×39.5	色諸口紙		封上書「頼餘一殿 梶川角右衛門, 谷崎平司, 吉村孫三郎, 吉田儀右衛門, 杉田直馬」	Ⅲ-157-6-1
1244	2)[達書](病氣ニ付名代東三郎同道可有登城候)	状	1通	(嘉永3年)三月五日	梶川角右衛門, 谷崎平司, 吉村孫三郎, 吉田儀右衛門, 杉田直馬		13.9×51.5	色諸口紙		封上書「頼餘一殿 梶川角右衛門, 谷崎平司, 吉村孫三郎, 吉田儀右衛門, 杉田直馬」	Ⅲ-157-6-2
1244	3)[達書](願之通隠居被仰付家督倅東三郎へ別紙之通被下之)	状	1通	(嘉永3年3月6日)		頼餘一	13.8×17.4	色諸口紙			Ⅲ-157-6-3
1244	4)[達書](隠居之御礼被為請候付可有登城候)	状	1通	(嘉永3年)三月七日	山田隼之助, 今中権六	頼餘一殿	13.9×37.5	色諸口紙		封上書「頼餘一殿 山田隼之助, 今中権六」	Ⅲ-157-6-4
1244	5)[達書](就病氣, 差上物御勝手方可有差出候)	状	1通	(嘉永3年)三月九日	山田隼之助, 今中権六	頼餘一殿	13.9×37.7	色諸口紙		封上書「頼餘一殿 山田隼之助, 今中権六」	Ⅲ-157-6-5

文書・記録類

番号	名称	材質形状	員数	年代	作成者	宛所	法量	料紙	丁数	備考	管理番号
1244	6)〔達書〕(隠居之御礼御勝手方被差上之遂披露候)	状	1通	(嘉永3年)三月九日	山田隼之助, 今中権六	頼餘一殿	13.9×31.3	色諸口紙		封上書「頼餘一殿 山田隼之助, 今中権六」	Ⅲ-157-6-6
1244	7)〔達書〕(明十日同氏東三郎同道登城可有之候)	状	1通	(嘉永3年)三月九日	梶川角右衛門, 谷崎平司, 吉村孫三郎, 吉田儀右衛門, 杉田直馬	頼餘一殿	14.0×39.0	色諸口紙		封上書「頼餘一殿 梶川角右衛門, 谷崎平司, 吉村孫三郎, 吉田儀右衛門, 杉田直馬」	Ⅲ-157-6-7
1244	8)〔達書〕(病気快方之節は学問所へ学事教導候様との御内慮ニ候)	状	1通	(嘉永4年カ)		東三郎父 頼餘一	13.9×39.7	色諸口紙			Ⅲ-157-6-8
1244	9)〔包紙〕(嘉永壬子十二月廿四日御奉書包紙)	状	1通	嘉永壬子(5年)十二月廿四日	児杲記(頼誠軒)		24.2×34.4	半紙		封上書(頼誠軒筆)「嘉永壬子十二月廿四日 結構之節 御奉書 児杲記」	Ⅲ-157-6-9
1244	10)〔達書〕(御用之儀候間明廿四日可有登城候)	状	1通	(嘉永5年)十二月廿三日	西川直記, 今中権六, 浅野久之助		14.0×41.8	色諸口紙		封上書「頼東三郎殿 西川直記, 今中権六, 浅野久之助」	Ⅲ-157-6-10
1244	11)〔達書〕(学問所教授方同様相勤候付格別を以被下之)	状	1通	(嘉永5年12月24日)		東三郎父 頼餘一	17.0×23.7	杉原紙			Ⅲ-157-6-11-1
1244	12)〔目録〕(五人扶持 東三郎父 頼餘一)	状	1通	(嘉永5年12月24日)		東三郎父 頼餘一	33.8×11.7	奉書紙			Ⅲ-157-6-11-2
1245	御内話申上試候覚(御場所諸生出席次第ニ致減少候義ニ付)	状	1通	七月	頼餘一		14.0×225.8	諸口紙		端裏書「草案」「頼餘一」	Ⅲ-157-7
1246	口上之覚(三千三儀従弟ニ御座候所叔父と相認メ奉恐入候)	状	1通	九月三日	頼		14.5×26.6	諸口紙			Ⅲ-157-8
1247	御内話口演(三千三儀, 江戸勤学入用銀為替ニ仕度候事)	状	1通	十一月朔日	頼餘一		14.5×77.9	諸口紙			Ⅲ-157-9
1248	口上之覚(芸藩へ日本外史献上の草稿)	状	1通	(天保3年頃)	頼聿庵		11.9×84.5	半紙		校訂(朱), Ⅲ-236-1の草稿	Ⅲ-167-1-1
1249	〔伺書〕(私母方祖父御園道英死去ニ付廿五日迄忌中之事)	状	1通	(天保4年)五月廿三日	(頼聿庵)		13.8×29.4	諸口紙		右端破損	Ⅲ-238
1250	〔書付〕(別紙老通ニ直ニ御書判可被下候事)	状	1通	極月十六日	野前他人弥	頼餘一様	14.6×22.1	色諸口紙		封上書「頼餘一様 野前他人弥 差向義」	Ⅲ-241-1
1251	〔書付〕(面上申入度義候間, 乍一両日之内御入来候様にと存候)	状	1通	十月四日	大橋主税	頼餘一様	14.0×22.1	色諸口紙		封上書「頼餘一様 大橋主税」	Ⅲ-241-2
1252	〔書付〕(仁平次へ之別封棧ニ落手仕候)	状	1通	五月十二日	諏訪民次郎	頼餘一様	14.5×18.8	諸口紙		封上書「頼餘一様 諏訪民次郎」	Ⅲ-241-3
1253	〔書付〕(御約束仕候議, 乍面倒口答ニ而否之儀御聞セ可被下候)	状	1通	四月廿七日	渡辺又三	頼餘一様	14.5×81.0	諸口紙		封上書「頼餘一様 渡辺又三 内用書不及御書答」	Ⅲ-241-4
1254	口上之覚(丁祭御儀式音楽被相用候ニ付書試)	状	1通	七月	教授方		13.9×22.1	色諸口紙			Ⅲ-241-6

文書・記録類

番号	名称	材質形状	員数	年代	作成者	宛所	法量	料紙	丁数	備考	管理番号
1255	〔書付〕(別封又五郎様御清書二付拝見可被成下候事)	状	1通	六月廿六日	堀十兵衛	頼餘一様	13.9×36.6	色諸口紙			Ⅲ-241-7
1256	〔達書〕(又二郎儀、尚又五ヶ年逗留之旨願之通被仰出候事)	状	1通	十二月廿日	竹腰孫十郎、武田每登、安井平兵衛、藤田新五郎、満田九郎左衛門、竹腰隼人	頼餘一殿	13.8×73.2	色諸口紙		封上書「頼餘一殿 竹腰孫十郎 武田每登 安井平兵衛 藤田新五郎 満田九郎左衛門 竹腰隼人」	Ⅲ-241-8
1257	〔達書〕(加藤遠江守様御家中学事修行ニ付滞留事、願之通可被仕候)	状	1通	四月廿四日	藤田新五郎、満田九郎左衛門、竹腰隼人、木村一学	頼餘一殿	13.7×77.1	色諸口紙		封上書「頼餘一殿 藤田新五郎 満田九郎左衛門 竹腰隼人 木村一学」	Ⅲ-241-9
1258	〔書付〕(御書調物明日御屋形江御持参被可下候)	状	1通	五月十一日	諏訪民次郎	頼餘一様	14.0×48.5	色諸口紙		封上書「頼餘一様 諏訪民次郎」、途中に色半紙包紙「御封印返戻」を貼付のうえ別紙(14.2×4.9、諸口紙)同封、黒文口印2顆	Ⅲ-241-10
1259	〔書付〕(御清書二枚相廻し申し候事)	状	1通	八月廿六日	静次郎	餘一老賢	14.2×83.3	色諸口紙		封上書「餘一老賢 静次郎」	Ⅲ-241-11
1260	〔達書〕(明十四日御清書御定日候得共、明後日御出勤可被成候事)	状	1通	三月十三日	村井清太	頼餘一様	12.0×33.0	色半紙		封上書「頼餘一様 村井清太」、欠損甚	Ⅲ-241-12
1261	〔書付〕(三月分草稿四通御添削被成下候様奉願候)	状	1通	四月朔日	学事方	頼先生	13.8×24.1	色諸口紙		紙帯にてⅢ-241-13-1～4を一括、紙帯「五通」、封上書「頼先生 学事方」	Ⅲ-241-13-1
1262	〔書付〕(当月草稿別紙五通差出候間宜御添削奉願候)	状	1通	三月廿九日	学事方	聿庵先生 梧下	13.3×25.1	漉返紙		封上書「聿庵先生 梧下 学事方」	Ⅲ-241-13-2
1263	〔書付〕(別紙草稿宜御添削被下候様奉願候)	状	1通	四月廿四日	加藤熊之助	頼餘一様	13.6×21.8	漉返紙		封上書「頼餘一様 加藤熊之助」	Ⅲ-241-13-3
1264	〔書付〕(詩稿延引ニ付度々御用人衆辺より噂有之、心痛ニ御座候)	状	1通	五月四日	酒井権八郎	頼餘一様	12.2×43.8	色半紙		封上書「頼餘一様 酒井権八郎」	Ⅲ-241-13-4
1265	〔書付〕(四ッ四歩時ニ御座候事、御心得御内々得貴意候)	状	1通	極月三日	林文五郎	頼餘一様	11.7×19.9	色半紙		封上書「頼餘一様 林文五郎 大急キ」「四ッ四歩時出」	Ⅲ-241-14
1266	〔達書〕(今晚暮頃より御出勤可被下候)	状	1通	(天保6年カ) 閏七月廿日	武井松斎、生田清三郎	頼餘一様	11.8×35.6	色半紙		封上書「頼餘一様 武井松斎 生田清三郎 差向」	Ⅲ-241-15
1267	〔達書〕(平野萬介事、只今迄之通り学事稽古仕様被仰付候事)	状	1通	二月廿一日	満田九郎左衛門	頼餘一殿	14.2×47.5	色諸口紙		封上書「頼餘一殿 満田九郎左衛門」	Ⅲ-241-16
1268	〔達書〕(二葉山御社江御献備被遊候御石燈籠文字、書調被仰付候)	状	1通	十月廿七日	竹腰隼人	頼餘一殿	13.8×38.7	色諸口紙		包紙(24.7×17.4、色半紙)「頼餘一殿 竹腰隼人」	Ⅲ-241-17
1269	〔書付〕(御清書二枚相廻申候事、大字御手本三枚御取計之事)	状	1通	八月十一日	静次郎	餘一様	14.0×113.4	色諸口紙		封上書「餘一様 静次郎 平安」	Ⅲ-241-18

文書・記録類

番号	名称	材質形状	員数	年代	作成者	宛所	法量	料紙	丁数	備考	管理番号
1270	[達書](相達御用之義候間, 今夕新五郎宅へ可被相越候)	状	1通	三月廿五日	西川牧太, 竹腰孫十郎, 安井平兵衛, 藤田新五郎, 満田九郎左衛門	頼餘一殿	14.1×46.1	色諸口紙		封上書「頼餘一殿 西川牧太 竹腰孫十郎 安井平兵衛 藤田新五郎 満田九郎左衛門」	III-241-19
1271	[書付](先達御差出候石摺御下々被遊候ニ付)	状	1通	十二月晦日		(頼餘一カ)	12.0×12.5	色半紙			III-241-20
1272	口上之覚(従弟三千三義, 大坂儒者方にて学事修行延引之事)	状	1通	江戸後期	(頼事庵)		12.0×26.2	色半紙		校訂(墨, 付紙に墨)	III-241-21
1273	[達書](御宝塔御文字御書調遣ニ致落手候)	状	1通	六月廿日	遠藤仁平次	頼餘一様	14.1×55.2	色諸口紙		包紙(24.7×34.4, 色半紙)「頼餘一様 遠藤仁平次」	III-241-22
1274	[達書](御自分儀, 御奥詰次第席被仰付候ニ付)	状	1通	(天保3年)正月十六日	堀田外記, 平田三大夫	頼餘一殿	14.0×50.0	色諸口紙		封上書「頼餘一殿 堀田外記 平田三大夫」	III-241-23
1275	[達書](御用之儀候間, 今夕平兵衛宅江可被相越候)	状	1通	正月十七日	安井平兵衛, 藤田新五郎, 満田九郎左衛門, 二川清記, 梶川角右衛門	頼餘一殿	14.1×41.0	色諸口紙		封上書「頼餘一殿 安井平兵衛 藤田新五郎 満田九郎左衛門 二川清記 梶川角右衛門」	III-241-24
1276	[書付](御書調物御様子御聞せ可被下候)	状	1通	五月十一日	諏訪民次郎	頼餘一様	13.9×47.1	色諸口紙		封上書「頼餘一様 諏訪民次郎」	III-241-25
1277	[達書](池内豊祐義, 只今迄之通学問稽古仕候事)	状	1通	三月十八日	安井平兵衛	頼餘一様	14.1×34.6	色諸口紙		封上書「頼餘一様 安井平兵衛」, 破損甚	III-241-26
1278	[書付](明朔日, 月決御目見御座候哉)	状	1通	正月卅日	満田又太郎, 松野文四郎	頼餘一様	11.9×29.6	色半紙		封上書「頼餘一様 満田又太郎 松野文四郎」	III-241-27
1279	[達書](日比定之丞事, 唯今迄之通学問稽古仕候事)	状	1通	九月廿八日	藤田新五郎	頼餘一様	14.0×37.4	色諸口紙		封上書「頼餘一様 藤田新五郎」	III-241-28
1280	[達書](又五郎様御手本用唐紙拾五枚御落手可被下候)	状	1通	九月八日	小堀主馬, 渋江舎人	頼餘一様	14.2×26.0	色諸口紙		封上書「頼餘一様 小堀主馬 渋江舎人」	III-241-29
1281	[書付](詩稿為持上候様書記方へ申通候事)	状	1通	五月四日	植田賢三郎	頼餘一様	13.5×24.0	色諸口紙		封上書「頼餘一様 植田賢三郎」	III-241-30
1282	覚(袖留願出案文)	状	1通	江戸後期	(頼事庵)		12.1×25.1	色半紙		端裏書「案文」	III-241-31
1283	[達書](申談儀候間, 御城江可被出候事)	状	1通	二月五日	満田九郎左衛門	頼餘一様	14.2×22.5	諸口紙		封上書「頼餘一様 満田九郎左衛門」	III-241-32
1284	[書付](別封書状殊外差急キ申候事)	状	1通	七月廿三日	頼餘一	山本市郎様	13.9×42.9	色諸口紙		封上書「山本市郎様 頼餘一 御差向」	III-241-33
1285	[書付](明十二日不時講尺御廻りニ御座候事)	状	1通	十月十一日	加藤太郎三, 坂井百太郎, 植田賢三郎	[]様	13.7×45.2	色諸口紙		封上書「(欠)様 加藤太郎三 坂井百太郎 植田賢三郎」, 宛所を切取り	III-241-34
1286	[書付](教授席・句読師書記方席共住居替ニ付, 普請取掛候事)	状	1通	六月廿一日	金子徳之助, 植田一郎	[]様	13.9×31.4	色諸口紙		封上書「(欠)様 金子徳之助 植田一郎」, 宛所を切取り	III-241-35

文書・記録類

番号	名称	材質形状	員数	年代	作成者	宛所	法量	料紙	丁数	備考	管理番号
1287	〔書付〕(九ノ間への御案内紙面之事ニ付)	状	1通	六月十八日	出衛, 伊織	餘一様	13.8×37.2	色諸口紙		封上書「餘一様 出衛 伊織」	III-241-36
1288	〔書付〕(御書面之趣致承知候)	状	1通	六月廿六日	浅野久之助, 安井勇之丞	頼餘一様	11.9×23.7	色半紙		封上書「頼餘一様 浅野久之助 安井勇之丞 差向義」	III-241-37
1289	〔達書〕(明廿七日講釈御聴被遊候旨被仰出候)	状	1通	六月廿六日		(頼事庵)	12.0×22.9	色半紙		差出・宛所の記載なし	III-241-38
1290	〔書付〕(御面談致度義御座候間, 御出勤可被成候)	状	1通	十月廿二日	浅野久之助	頼餘一様	11.9×22.3	色半紙		封上書「頼餘一様 浅野久之助 差向義」	III-241-39
1291	〔達書〕(辻勘三郎義, 唯今迄之通り学問稽古仕候事)	状	1通	十二月十八日	西川牧太	頼餘一殿	14.1×50.0	色諸口紙		封上書「頼餘一殿 西川牧太」	III-241-40
1292	〔書付〕(折本二帖此者江御渡可被成候)	状	1通	七月十一日	村上彦馬	頼餘一様	11.8×33.2	色半紙		封上書「頼餘一様 村上彦馬 差向儀」, 虫損大	III-241-41
1293	〔書付〕(御手本墨壺挺為指上御受取可被下候)	状	1通	六月廿九日	清太	餘一様	11.9×32.3	色半紙		封上書「餘一様 清太」	III-241-42
1294	〔書付〕(房之進様御入門之儀取紛延引, 御無礼仕候頃)	状	1通	二月十六日	頼餘一	大駄陽次郎様	13.9×55.6	色諸口紙		封上書「大駄陽次郎様 頼餘一 要用貴答」	III-241-43
1295	〔書付〕(右之書物, 右京様御覽被成度思召候事)	状	1通	正月十八日	観興寺貢	頼餘一様	11.7×31.8	色半紙		封上書「頼餘一様 観興寺貢」	III-241-44
1296	〔達書〕(別紙之通り為持相達候)	状	1通	十二月三日	青野保太郎	頼餘一様	13.8×20.8	色諸口紙		包紙(24.7×17.1, 色半紙)「頼餘一様 青野保太郎」	III-241-45
1297	〔書付〕(御場所差間ニ付諸稽古相止申候事)	状	1通	正月十九日	浅野十介, 竹本伝左衛門	[]様	13.4×21.8	諸口紙		封上書「(欠)様 浅野十口 竹本伝左衛門」, 宛所を切取り, 小片(9.6×1.1, 色半紙)「すぎの木小路」	III-241-46
1298	〔書付〕(別紙御廻し申候)	状	1通	三月十六日			11.9×15.0	色半紙		差出・宛所の記載なし	III-241-47
1299	〔書付〕(明後日取組来ル十日申談可申候事)	状	1通	八月五日	岡田直之助	頼餘一様	11.8×44.5	色半紙		封上書「頼餘一様 岡田直之助 差向義」	III-241-48
1300	〔書付〕(御獲之小鳥七羽定之丞様御内々被下候事)	状	1通	十一月廿三日	村彦馬	頼餘一様	11.9×32.4	色半紙		封上書「頼餘一様 村彦馬 差向義」	III-241-49
1301	〔書付〕(地震ニ付学問所損所御普請出来之事)	状	1通	十一月十日	青野保太郎	[]様	12.1×31.6	色半紙		封上書「(欠)様 青野保太郎」, 宛所を切取り	III-241-50
1302	〔達書〕(御用之儀候間, 隼人宅江可被相越候事)	状	1通	四月十五日	藤田新五郎, 満田九郎左衛門, 竹腰隼人, 木村一学	頼餘一殿	14.0×47.6	色諸口紙		封上書「頼餘一殿 藤田新五郎 満田九郎左衛門 竹腰隼人 木村一学」	III-241-51
1303	御内談示演之覚(右京様御出棺之節, 献備物等仕度事)	状	1通	(天保7年)	(頼事庵)		13.9×22.8	色諸口紙		端裏書「差向義」	III-241-52
1304	〔書付〕(明八日御供揃ニ而学問所江被成御座候事)	状	1通	二月七日	水野市允	[]様	12.2×30.0	色半紙		封上書「(欠)様 水野市允」, 付箋「国泰寺うしろ」, 宛所を切取り	III-241-53
1305	〔達書〕(明廿七日御供揃ニ而学問所江被成御座候事)	状	1通	二月廿六日	水野市允	[]様	13.5×31.4	色諸口紙		封上書「(欠)様 水野市允」, 宛所を切取り	III-241-54
1306	〔達書〕(御清書御済被成候ハ、直ニ御用人衆へ御出し被遣候事)	状	1通	十二月廿一日	高橋嘸一, 井関徳之進, 岡和介	[]様	13.5×23.7	色諸口紙		封上書「(欠)様 高橋嘸一 井関徳之進 岡和介」, 宛所を切取り	III-241-55